

科目名	インターンシップⅠ[短大]
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 2単位・実習
担当者	和田 早代、小林 純、森 順子、石田 麻英子

■講義の目的および概要

現在大学で用意しているインターンシップ先や経済同友会紹介先、北海道商工会議所・札幌商工会議所等からの紹介先を中心に参加するインターンシップです。社会で活躍できる人材となるための準備として、実際の職業の現場を知ることが重要です。また現場では普段の学習とは異なる知識・スキルが求められることがほとんどです。単なる「お仕事体験、見学」ではなく、卒業後に続く就業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助として参加してください。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
「事前指導」「派遣」「事後研修」の3つに分けられます。特に学内で行う授業では、ワークシートへの記入とディスカッションを中心に、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。

【課題に対するフィードバックの方法】
ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

■授業計画

- 【事前指導】
- ①ガイダンス
 - ②心構え、インターンシップで意識が変わる（学生発表）
 - ③派遣企業エントリー、教員との相談タイム
 - ④企業研究
 - ⑤派遣先選考、面接
 - ⑥プロフィールシートの書き方、通勤時のビジネスカジュアル
 - ⑦社会人基礎力、コンプライアンス
 - ⑧日誌の書き方、誓約書と承諾書の書き方、お礼状の書き方
 - ⑨職場での振る舞い（対面とオンライン版）、スーツの身だしなみチェック
- ※派遣まで担当教員との個別指導
- 【派遣】
8日間以上
※コロナの影響で派遣日数が6・7日間の場合、自主学習として実地調査に行く必要があります。
- 【事後研修】
- ・事後個別指導（お礼状、報告書作成）
 - ・総合報告会（ディスカッション・インターンシップで得たものを考える・まとめ）（注意事項）
- 派遣期間は8日間以上ですが、受入先により異なる場合があります。
○事後研修は次期インターンシップ授業の初回日に行います。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

- 【到達目標】
- ① 派遣を通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力とは何かを理解し、向上させることができる。
 - ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。
 - ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。
- 【卒業認定・学位授与の方針との関連】
学位授与方針「自立して行動できる姿勢、課題を発見し解決する能力を身につける」に関連する。

■成績評価基準と方法

報告会の参加、企業からの研修参加証明書を総合的に評価し認定します。研修継続に不都合が生じた場合や、本人の都合による途中離脱は「不可」となることがあります。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
授業時に適宜資料を配布します。実習前に「研修日誌」を配布します。

【参考文献】
キャリア、ビジネス系科目のテキストなども参考になります。

■授業外学習

【具体的な内容】

ビジネス文書、オフィス実務Ⅰ、キャリア形成、日本語基礎表現法などで扱う内容で、インターンシップ授業、研修で役立つ知識スキルが多くあります。各授業を常に復習し、実地で運用できるようにしておきましょう。
また、日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、派遣前にも予習復習をしておきましょう。多くの書籍が市販されています。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業は、大学との合同授業になります。全体・担当者別など研修形態や授業日程は変わりますので、掲示などに注意してください。交通費・食事等の支給は原則ありません（自己負担となります）。

参加しようと考えている学生はインターンシップ事前指導を受講してください。

科目名	インターンシップⅡ[短大]
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 1単位・実習
担当者	和田 早代、小林 純、森 順子、石田 麻英子

■講義の目的および概要

現在大学で用意しているインターンシップ先や経済同友会紹介先、北海道商工会議所・札幌商工会議所等からの紹介先を中心に参加するインターンシップです。社会で活躍できる人材となるための準備として、実際の職業の現場を知ることが重要です。また現場では普段の学習とは異なる知識・スキルが求められることがほとんどです。単なる「お仕事体験、見学」ではなく、卒業後に続く就業人生において必要なことを見つけ、自分を高め、自らのキャリアを形成する一助として参加してください。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
「事前指導」「派遣」「事後研修」の3つに分けられます。特に学内で行う授業では、ワークシートへの記入とディスカッションを中心に、社会で必要となる知識・能力について考察していきます。

【課題に対するフィードバックの方法】
ワークシートや日誌にコメントを入れて返却します。

■授業計画

- 【事前指導】
- ①ガイダンス、インターンシップとは
 - ②意向調査、心構え、意識
 - ③エントリー
 - ④企業研究
 - ⑤派遣先選考
 - ⑥プロフィールシート
 - ⑦社会人基礎力、コンプライアンス
 - ⑧職場での振る舞い、お礼状の書き方
- ⑨～⑬インターンシップ研修
- 【事後研修】
- ⑭ 事後個別指導（お礼状、報告書作成）
 - ⑮ 総合報告会（ディスカッション・インターンシップで得たものを考える・まとめ）
- （注意事項）
- 派遣期間は原則2週間ですが、受入先により異なる場合があります。
 - 事後研修は次期インターンシップ授業の初回日に行います。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

- 【到達目標】
- ① 派遣を通じて、社会人として必要な責任感やビジネスマナー、社会人基礎力とは何かを理解し、向上させることができる。
 - ② 実際の就業の現場を知り、就業の意味・目的を考察できる。
 - ③ 自身に足りない力や強みを自覚し、各自のキャリアパスをより明確にできる。
- 【卒業認定・学位授与の方針との関連】
学位授与方針「自立して行動できる姿勢、課題を発見し解決する能力を身につける」に関連する。

■成績評価基準と方法

報告会の参加、企業からの研修参加証明書を総合的に評価し認定します。研修継続に不都合が生じた場合や、本人の都合による途中離脱は「不可」となることがあります。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
大学から配布される「テキスト」、「研修日誌」を利用します。

【参考文献】
キャリア、ビジネス系科目のテキストなども参考になります。

■授業外学習

【具体的な内容】

ビジネス文書、オフィス実務Ⅰ、キャリア形成、日本語基礎表現法などで扱う内容で、インターンシップ授業、研修で役立つ知識スキルが多くあります。各授業を常に復習し、実地で運用できるようにしておきましょう。1時間程度の予習復習が必要です。

また、日常で、社会人としての基本的マナーを身につける努力をしてください。授業のみならず、派遣前にも予習復習をしておきましょう。多くの書籍が市販されています。日常生活での先生方とのやり取りも、練習の機会です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業は、一部大学との合同授業になります。全体・担当者別など研修形態や授業日程は変わりますので、掲示などに注意してください。交通費・食事等の支給は原則ありません（自己負担となります）。

参加しようと考えている学生はインターンシップ事前指導を受講してください。

科 目 名	基本演習[総キャリア]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 1単位・演習
担 当 者	和久田 紗恵子、小林 純、石田 麻英子

■講義の目的および概要

家庭生活や社会生活に関わる課題の中から、これまで学んだことをもとに、問題点を発見し分析する能力を育成する。課題設定、テーマに即した資料収集、レジュメ、レポート、プレゼンテーションなど、学びの技法等の1年春学期科目で学んだことを活用し、学びをより深めながら、2年間の学びの中心となる方向性を確立する。2年次で行う学科の学びの集大成としての課題解決演習に向けて、知識のベースを作り、強みとして発揮できる能力を鍛え、活動に備える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は小人数による演習形式と、全員で受ける講義形式を適宜組み合わせで行う。ディスカッション、グループワーク、意見発表の機会があるので、毎回の授業では主体的に意欲的に取り組むことが求められる

【課題に対するフィードバックの方法】

提出課題は担当教員から添削とアドバイスをを行う。課題に取り組んでいる途中でも、チェックを求めることができる。

■授業計画

- ① 学びの技法振り返り ラーニング・ポートフォリオを使って
- ② 書評を書く 論理的に書いて、伝える (1)
- ③ 書評を書く 論理的に書いて、伝える (2)
- ④ 書評を書く 論理的に書いて、伝える (3)
- ⑤ 【グループワーク】役割分担とは
- ⑥ 【グループワーク】集団で一つのゴールを目指すということ
- ⑦ 【グループワーク】リーダーになるということ／連絡・情報共有
- ⑧ 【グループワーク】ピア評価、相互チェック機能、助けあい
- ⑨ 【グループワーク】PDCAサイクルを学ぶ
- ⑩ グループワークのまとめ／ラーニング・ポートフォリオの中間チェック
- ⑪ 調査とレポート (1)
- ⑫ 調査とレポート (2)
- ⑬ 調査とレポート (3)
- ⑭ 学科発表会
- ⑮ 1年の総まとめと次年度に向けて

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

春学期「学びの技法」などで学んだことを実践的に生かし、短期大学での個人の学びの方向性を決定付けるテーマを設定でき、それについて広く知識を得、深く考察し、まとめて発表できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

提出物 30%
グループワーク・アクティビティ 30%
レポート 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

キャリアパスノート、学びの技法ファイル以外のテキストは原則使用しない。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回授業の資料をまとめ復習すること。次回用に課せられた予習課題をクリアしておくこと。
日常的にニュースをチェックする習慣を身につけ、家庭生活や社会生活に関する興味関心を広げること。
図書館資料の読解のみならず、館内の利用と、P Cによる資料検索に慣れておくこと。
完成度の高いレポート作成にむけて日々関連資料を収集し、ファイリングしておくこと。
効果的な発表とまとめのためのP Cの基礎スキル、図表の処理スキルをつけておくこと。

【必要な時間】

前後合わせて1時間以上はかかります。

■その他

コンピュータリテラシー、プレゼンテーション基礎・応用、日本語基礎・応用表現法、キャリア形成、現代生活論、キャリア基礎演習、社会保障などと強い関連がある。特にスキルに関連する内容の授業は、プリント、テキスト、ワークシートを参考に、基本演習ではそれを使い自力で作業ができるようにしておくこと。

科目名	健康とスポーツⅠ[総カリ]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	金 誠

■講義の目的および概要

健康とスポーツⅠは、多くのスポーツ種目を経験する中で、スポーツの様々な楽しみ方を知るといった『基本型』として捉えられるものである。15回異なる種目・ゲームを展開し、スポーツを広く学ぶ事を重視する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前期は屋外スポーツ、後期は室内スポーツを中心に授業を展開する。健康作りのための知識や種目の実践に必要な基礎技能および、その背景にある知識を体験的に学習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業後にグループでディスカッションを行い、それぞれの考察を踏まえて振り返りを行う

■授業計画

- ①授業ガイダンス
- ②体力測定（スポーツテスト）
- ③体づくりを主としたスポーツⅠ
- ④体づくりを主としたスポーツⅡ
- ⑤個人技能を主としたスポーツⅠ
- ⑥個人技能を主としたスポーツⅡ
- ⑦個人技能を主としたスポーツⅢ
- ⑧個人技能を主としたスポーツⅣ
- ⑨集団戦術を主としたスポーツⅠ
- ⑩集団戦術を主としたスポーツⅡ
- ⑪集団戦術を主としたスポーツⅢ
- ⑫集団戦術を主としたスポーツⅣ
- ⑬集団戦術を主としたスポーツⅤ
- ⑭体力測定（スポーツテスト）
- ⑮まとめ（課題レポート提出）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①スポーツの楽しさを知り、健康の重要性を理解する。
- ②健康や環境問題に関心を持ち、それに対する日常的実践を習慣化できるようになる。
- ③課外活動への参加意欲を高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

生活創造に必要な基礎知識、技能
自らの社会生活のあり方を設計
課題を発見し解決する能力

■成績評価基準と方法

- ①スポーツ（実施種目）の理解度と取り組み（マナー）（40%）
- ②種目に特化した基礎的な技能の到達度（20%）
- ③種目に特化した戦術・ルール理解度（20%）
- ④課題レポート（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じて配布する。

【参考文献】

必要に応じて配布する。テキスト】

■授業外学習

【具体的な内容】

運動や健康、様々なスポーツに興味を持ち、普段から体を動かすことを心がけておくこと。

【必要な時間】

できれば週に3回1時間程度の運動が望ましい

■その他

種目については履修人数及び天候等により変更する場合がある。

科 目 名	健康とスポーツⅡ[総カリ]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	金 誠

■講義の目的および概要

スポーツをととして身体を動かす楽しさを知る。また、高齢化が進む現代社会における、様々な健康阻害要因について理解し、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解する。さらに、各スポーツの技能・戦術・審判法についても学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】第一・第二体育館、アリーナ、トレーニングルーム等で実技演習を行う。

■課題に対するフィードバックの方法

授業後にグループディスカッションを行い、それぞれの考察を振り返る講義方法】

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②トレーニング講習
- ③体力づくりを主とした種目（種目の特徴と基礎技能）
- ④体力づくりを主とした種目（種目のルールと基礎技能）
- ⑤体力づくりを主とした種目（応用技能と審判法）
- ⑥個人技能を主とした種目（種目の特徴と基礎技能）
- ⑦個人技能を主とした種目（種目のルールと基礎技能）
- ⑧個人技能を主とした種目（応用技能と審判法）
- ⑨個人技能を主とした種目（応用技能とゲーム）
- ⑩集団技能を主とした種目（種目の特徴と基礎技能）
- ⑪集団技能を主とした種目（種目のルールと基礎技能）
- ⑫集団技能を主とした種目（応用技能と審判法）
- ⑬集団技能を主とした種目（応用技能とゲーム）
- ⑭スポーツ傷害と予防
- ⑮授業のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①身体を動かす楽しみを知り、健康の重要性を理解できるようになる。
- ②健康や環境問題に関心を持ち、自らの健康の維持・増進を図れるようになる。
- ③各スポーツの技能・戦術・審判法などについて理解できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

生活創造に必要な基礎知識、技能
自らの社会生活のあり方を設計
課題を発見し解決する能力

■成績評価基準と方法

- ①スポーツ（実施種目）の理解度と取り組み（マナー）（40%）
- ②種目に特化した基礎的な技能の到達度（20%）
- ③種目に特化した戦術・ルールの理解度（20%）
- ④課題レポート（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜資料を配布する

【参考文献】

適宜資料を配布する

■授業外学習

【具体的な内容】

運動や健康、様々なスポーツに興味を持ち、普段から体を動かすことを心がけておくこと。

【必要な時間】

週に3回、1時間程度の運動を行っておく具体的な内容】

■その他

幼稚園教諭免許、保育士資格ともに必修

科 目 名	国際フィールドワーク
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担 当 者	石田 麻英子

■講義の目的および概要

学習してきた英語を実際に使って、海外の文化や社会について、体験を通して学ぶ研修です。普段の日本の生活環境から離れて、様々なことに挑戦し、視野を広げ精神を鍛えます。外側から日本を見直し、自分たちの今生きている社会や生活環境について客観的に考えてみましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

事前研修として、10回程度の演習・オリエンテーションを、グループワークやディスカッションを通して行い、事後研修として最低2回程度の演習授業があり、成果発表のプレゼンテーションをします。研修中にも適宜英語の学習を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題には、フィードバックとアドバイスを記載し返却。

■授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 @グループワーク 日本人と海外
- 3 @グループワーク 研修先について学ぶ①
- 4 研修先について学ぶ②
- 5 @グループワーク目標を設定する①
- 6 @グループワーク目標を設定する②
- 7 研修先について学ぶ③
- 8 旅行の手続き、研修概要と注意
- 9 @グループワーク しおりの作成
- 10 @ロールプレイ 研修に必要な英語の復習
- 11-12 研修（英語の通じる海外で、1週間程度の海外研修）
- 13 @グループワーク 振り返り研修
- 14 @グループワーク 成果報告に向けた準備
- 15 成果報告

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

実際の生活の中で英語を運用するコミュニケーション能力を伸ばし、異文化を積極的に受け入れ、関わろうとする姿勢を身につけ、自分で立てた目標を達成する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
- DP2 コミュニケーション能力
- DP3 課題を発見し、解決する力
- DP4 多様性のと協働する力
- DP5 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- 事前学習の提出物 20%
- 事前、事後研修の課題 20%
- 研修中の課題 20%
- 研修レポート 20%
- 成果報告 20%

■テキスト・参考文献

テキストは特に使用しません。
参考文献は授業中に指示しますが、図書館、インターネット等を利用して情報を集めてもらうことがあります。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回授業の資料をまとめ復習すること。次回用に課せられた予習課題をクリアしておくこと。

【必要な時間】

1時間程度はかかります。

■その他

渡航先で困らないように、Basic Conversation, Conversationを受講するか受講者と同等の英語力はつけておいて下さい。英語に慣れておくことが望ましいです。
パスポートは夏休み、早いうちに必ず取得しておきましょう。持っている方は有効期限の確認をしてください。
ワクチンは最低2回、できれば3回の摂取が必要です。
渡航先状況により、行き先が変わります。9月の説明会をお待ちください

2022 (令和4) 年4月1日

科目名	情報処理
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純

■講義の目的および概要

代表的な表計算ソフトであるMicrosoft Excelを使い、ビジネス社会で求められる帳票作成、表計算の技能を習得することを目的としています。

また同時にコンピュータに関する知識を学ぶことで、ビジネスにおいてITを活用する実践的な知識と技術を養います。

目標として、日商PC検定（データ活用）の受験体制を整えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業の冒頭で課題と解説を提示し、学生自身が演習する形式で進めていきます。また、知識分野に関するトピックも随時説明していきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業で作成された課題は、学習管理システムを通じて返却します。また全体的な回答を、授業冒頭で説明します。

■授業計画

進度により、内容を変更することがあります。

- ①ガイダンス／Excelの復習
- ②Excelでの計算（オートフィル・計算式）
- ③Excelでの表作成（並べ替え・表示形式）
- ④絶対参照
- ⑤ピボットテーブル
- ⑥よく使用する関数（1）
- ⑦よく使用する関数（2）
- ⑧グラフの作成
- ⑨実技練習（1）
- ⑩実技練習（2）
- ⑪知識科目の概要と問題演習（1）
- ⑫知識科目の概要と問題演習（2）
- ⑬知識科目の概要と問題演習（3）
- ⑭模擬試験にチャレンジ
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 情報処理に関する基礎的な事柄を理解し、活用する知識と態度を身につける。
- ② コンピュータ関連検定に対応できる、基礎的な知識と技術を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

毎回の課題提出（完成度） 80%

小テスト・試験 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

いちばんやさしい日商PC検定データ活用3級 ズバリ合格BOOK
[Excel 2013/2016/2019 対応]
八田仁/細田美奈[著] 技術評論社

【参考文献】

この分野については多くの参考になる書籍があります。それらも活用することで効果的に理解を進めることができます。

■授業外学習

【具体的な内容】

課題は常に次回の授業までに完成させておくことが重要です。
そのためには、授業以外の空き時間を利用しましょう。

【必要な時間】

授業で出された課題の作成に1時間程度の課外学習が必要となります。

■その他

日商PC検定（データ活用）3級に対応しています。
（受験にあたっては受験料5140円負担が必要、本学実施を検討）

科 目 名	北海道論[総キャリア]
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担 当 者	森 順子

■講義の目的および概要

本講義では、北海道の自然や歴史、産業を中心に、人口動態や経済事情に関する基本的な数値統計のデータなども学び、北海道の現状を理解することを目的としています。

さらに、北海道の主要な都市を取り上げ、地場産業やまちの活性化の取り組みのほか、それぞれの地域が抱える課題などについても理解を深めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・配布するプリントを中心とした講義形式
- ・グループディスカッションやミニワーク形式
- ・プレゼンテーションでの発表

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜提示・配布します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②北海道の基本統計
- ③北海道の自然
- ④北海道の歴史・文化
- ⑤北海道の観光
- ⑥北海道の食・スポーツ
- ⑦北海道の都市Ⅰ（旭川）
- ⑧北海道の都市Ⅱ（函館）
- ⑨北海道の都市Ⅲ（北見）
- ⑩北海道の都市Ⅳ（釧路）
- ⑪北海道の都市Ⅴ（帯広）
- ⑫グループワークⅠ（ディスカッション）
- ⑬グループワークⅡ（調査内容のまとめ）
- ⑭グループワークⅢ（プレゼンテーション）
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・北海道についての基本的統計や基礎知識を身につけ、北海道内の地域に対する関心を持ち、地域貢献の意識を高める
- ・北海道の魅力や課題を発見・把握し、調べた内容をまとめて発信できる能力を身につける

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ①毎時の出席率 30%
- ②プレゼンテーション 20%
- ③定期試験 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料などを提示・配布します。

【参考文献等】

- ・地図帳
- ・北海道庁総合政策部計画局統計課企画情報係 第128回（令和3年）北海道統計書
<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/920hsy/21.html>

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で扱う内容に関して、日ごろのニュースから知識を得ておき、地図帳などと照らし合わせてその土地への理解を深めておいてください。
学んだことをノートなどにまとめ、授業後は関連する内容などを整理してください。

【必要な時間】

予習・復習、それぞれ2時間程度が目安となります。

■その他

科 目 名	マーケティング[総カリ]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	石川 智寛

■講義の目的および概要

マーケティングの基礎的な考え方や理論の枠組みを理解し、それらの知識を活用できるようになることを目的とします。そのためには、企業と顧客の関係やマーケティング意志決定に関して、これまでの消費者目線だけではなく、企業側の立場に立って学びを深めていきます。マーケティングに関する基本的な用語、仕組みや活用方法については実例をもとに実践的に修得します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で行いますが、課題の取り組みや小テストなどで学習の理解を深めます。また、授業内では、リテールマーケティング（販売士検定3級）の過去問題演習のほか、適宜、グループワークやディスカッションを行って、調査内容の発表やレポート提出も行う予定です。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて適宜資料を配付します。

■授業計画

以下のような授業の流れを計画していますが、進度の関係により、内容・順序を変更することがあります。

- ①ガイダンス～マーケティングとは？
- ②マーケティングの実際とコンセプト
- ③4 P 分析と S W O T 分析
- ④市場セグメントと顧客ターゲット
- ⑤ヒット商品研究
- ⑥プライシング戦略
- ⑦プロモーション戦略
- ⑧ロケーション・マーケティング
- ⑨ブランディングの機能
- ⑩コミュニケーション戦略
- ⑪コミュニケーション戦略演習
- ⑫デジタル・マーケティング
- ⑬マーケティング調査研究Ⅰ（グループブランディング）
- ⑭マーケティング調査研究Ⅱ（調査研究）
- ⑮調査研究発表会・振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①マーケティングの発展および役割を理解し、実際の事例を理論的に説明・分析できるようにする。
- ②顧客の視点に立ったマーケティング的発想、提案ができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

以下の点数をもとに総合評価を行います。

- ①授業内課題 40点
- ②レポート 30点
- ③発表会 30点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

使用しません。

【参考文献】

『1からのマーケティング』 石井 淳蔵 他（編著） 碩学舎
『全史×成功事例で読む マーケティング大全』 酒井 光雄 株式会社かんき出版
『売る力が身につく最強マーケティング図鑑』 草地 真 株式会社パル出版

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：次回の講義内容の指示に沿って、資料を読んで学習テーマや課題を明確にすることが大切です。

事後学習：講義で学んだ内容（インプットした力）をもとに、毎時間の課題に取り組み、学習内容の理解の定着と広がりを持つことが大切です。

【必要な時間】

事前学習、事後学習をあわせて1～2時間程度が目安となります。

■その他

科目名	食生活論
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

日本人の食生活は、多種多様な食品を利用する機会が増大しているが、不適切な食物摂取に起因する疾病や栄養上の課題も多く、食品の安全性への不安も高まっています。本講義では人間生活の基礎である食について学ぶとともに、日本の食生活の現状と問題点を理解し、健康的な食生活のあり方について考察します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

提示したスライドを中心に講義形式で行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストの解答、提出された課題等については授業内で解説します。

■授業計画

【授業計画】

- ①オリエンテーション
- ②食生活と健康
- ③日本料理Ⅰ
- ④日本料理Ⅱ
- ⑤世界の食生活Ⅰ
- ⑥世界の食生活Ⅱ
- ⑦菜食主義者の食生活
- ⑧食生活と食品～国産・食品ロス～
- ⑨旬と食料自給率
- ⑩食品表示
- ⑪遺伝子組み換え食品・ゲノム食品
- ⑫オーガニック・JASマーク
- ⑬食品添加物
- ⑭食中毒・嫌い箸
- ⑮まとめ 期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

食品、栄養、健康に関する基礎的な知識を習得すること、日本の食生活の現状と動向、問題点が適切に把握できるようになること、食生活の意義と望ましいあり方について考察できるようになることを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「広い視野と望ましい社会人としての教養」「自ら社会生活のあり方を設計できる能力」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

期末試験・小テスト：50%

提出物：50%

■テキスト・参考文献

【参考文献】

授業内で適宜紹介します。

食生活アドバイザー検定を受験する学生は「食生活アドバイザー検定」のテキスト購入を推奨します。

■授業外学習

【具体的な内容】

今回の授業内容について、キーワードを提示するので、調べてノートにまとめてきてください。毎回の授業の冒頭で、前回の授業内容にて小テストを行います。必ず前回の授業を振り返り、分からない箇所は調べてきてください。

【必要な時間】

予習復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	オフィス実務Ⅰ
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

■講義の目的および概要

ビジネスの場で求められるコミュニケーション力やマナーを身につけることを目的に、オフィスに必要な対応能力を実践的に学びます。特に、敬語等の言語による表現に加え、他人に与える印象など非言語表現についても多面的に考えてみます。好感獲得力と仕事の処理能力を意識下に、正確性と迅速性を意識しながら、実際に起こるオフィスでの現実課題を教材に、どのような仕事についても生かせる職務遂行能力を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義と演習を交互に行ないます。挨拶から始まり、敬語の使い方、来客対応の仕方、電話対応など、オフィスルームを活用しながら、学生参加型の演習を展開します。秘書の実務経験のある教員が、ロールプレイング中にアドバイスをいたします。小テストは毎回採点し、満点で次のステップに進みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、笑顔で変わるVHS
- ②敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語）
- ③第一印象とノンバーバルコミュニケーション
- ④改まった場面やビジネスシーンにおける敬語
- ⑤敬語確認テスト
- ⑥来客対応1（受付から見送りまで）
- ⑦来客対応2（席次、名刺交換）
- ⑧来客対応3（対応演習）
- ⑨来客対応実技試験
- ⑩電話対応1（受け方・伝言メモ）
- ⑪電話対応2（かけ方・携帯電話）
- ⑫電話対応演習
- ⑬電話対応実技試験
- ⑭自立した女性をめざして
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①尊敬語、謙譲語、丁寧語の敬語表現ができる。
- ②来客対応、電話対応、訪問のマナーを理解し、表現できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための社会人基礎力を身に付けている学生にが浮きを授与する」に基づき、就業に必要な基本的知識と技能を修得し、社会人としての教養の獲得や社会生活のあり方を設計し、多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身に付けます。

■成績評価基準と方法

筆記試験 30%
 実技試験 40%
 敬語総合テスト 20%
 提出物 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「成功する仕事の基本とビジネスマナー」 寿郎社

【参考文献】

「秘書ビジネス実務」 全国大学実務教育協会

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、敬語を暗記してノートにまとめてきてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科 目 名	オフィス実務Ⅱ
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	和田 早代

■講義の目的および概要

ビジネスの場で求められるコミュニケーション力やマナーを身につけることを目的に、オフィスに必要な対応能力を実践的に学びます。特に、敬語等の言語による表現に加え、他人に与える印象など非言語表現についても多面的に考えてみます。好感獲得力と仕事の処理能力を意識下に、正確性と迅速性を意識しながら、実際に起こるオフィスでの現実課題を教材に、どのような仕事についても生かせる職務遂行能力を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義と演習を交互に行ないます。挨拶から始まり、敬語の使い方、来客対応の仕方、電話応対など、オフィスルームを活用しながら、学生参加型の演習を展開します。秘書の実務経験のある教員が、ロールプレイング中にアドバイスをいたします。小テストは毎回採点し、満点で次のステップに進みます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、サービス接遇検定準1級とは、英語の来客対応
- ②茶菓接待演習（入れ方）
- ③茶菓接待演習（出し方）
- ④茶菓接待実技試験
- ⑤エゴグラム
- ⑥サービス接遇検定準1級基本言動
- ⑦ // 接客応答
- ⑧ // 接客対応
- ⑨サービス接遇検定準1級実技試験
- ⑩ビジネス文書
- ⑪就職活動に伴う文書のマナー
- ⑫コミュニケーションのための自己理解・表現
- ⑬仕事の基本（報連相）
- ⑭慶弔のマナー
- ⑮試験と解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①相手に感じが良いという態度や言葉遣いができる。
- ②会社の即戦力となれるよう、仕事の基本が理解できる。
- ③サービス接遇検定準1級の資格を取得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための社会人基礎力を身に付けている学生にが浮きを授与する」に基づき、就業に必要な基本的知識と技能を修得し、社会人としての教養の獲得や社会生活のあり方を設計し、多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身に付けます。

■成績評価基準と方法

筆記試験 30%
実技試験 50%
電話応対総合テスト 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「成功する仕事の基本とビジネスマナー」寿郎社（春学期と同じテキスト）

【参考文献】

「サービス接遇検定受験ガイド準1級」
「秘書ビジネス実務」全国大学実務教育協会

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、電話応対の言葉遣いを暗記してノートにまとめてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

科 目 名	エアラインサービス演習
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担 当 者	中里 のぞみ

■講義の目的および概要

本講義の目的はエアラインにおけるサービスについて学び、広義におけるホスピタリティマインドとスキルを修得する。変化の激しい社会において、将来、社会人として様々な現場において、ホスピタリティを具現化できるようになることを目指す。事例検討・グループワーク・ディスカッションなどを通して協働のためのコミュニケーション・協調性についても体験的に学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

資料やパワーポイント・DVDを活用しての講義の他、グループワークやディスカッション・プレゼンテーションなどを通して、エアラインの時代的サービスの変化・求められるホスピタリティ・顧客満足などについて、より具体的に学んでいく。エアラインでの実務経験のある教員が、実際の具体事例も盛り込むことで、より現場について理解を深められるように講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループワーク・プレゼンテーション・ディスカッションについては随時、授業内でフィードバック。レポートなどの提出物についても、精査後にフィードバックする。

■授業計画

- ①エアラインサービスに携わる職種と業務内容
- ②エアラインサービスの時代的变化
- ③顧客満足について
- ④グランドスタッフの実務
- ⑤グランドスタッフの対応事例検討
- ⑥キャビンアテンダントの実務
- ⑦キャビンアテンダントの対応事例検討
- ⑧グループワーク1「サービス比較」
- ⑨グループワーク2「エアラインサービスと顧客満足」
- ⑩プレゼンテーション
- ⑪エアラインにけるホスピタリティと顧客満足
- ⑫クレーム対応・イレギュラリティ対応とその応用
- ⑬エアラインに求められる人材（特別講義）
- ⑭エバー航空とインバウンド・アウトバウンド（特別講義）
- ⑮サービスの付加価値とこれまでの総括

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

エアラインサービスについて学ぶことで、現代社会に求められるホスピタリティへの理解を深化させ、職業人として顧客満足を提供できる人材となる。お客様対応や組織内の業務遂行において重要なコミュニケーションについて学び、傾聴力・発信力を発揮できるようになる。様々な場面でのお客様への対応の判断・実行力を習得する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するという学位授与方針に基づき、自立的かつ自律的に考え、表現でき、行動できうる職業人として必要な能力を修得する。

■成績評価基準と方法

レポート：空港見学・特別講義の後のレポート合計3回分10%ずつ、15回の授業が終了した後の最終レポート40%
グループディスカッション・プレゼンテーション30%

■テキスト・参考文献

【具体的な内容】事前学習として航空業界やサービス業界に関連する新聞記事、ニュースなどは意識して読むようにすること。事後学習として配布したレジュメは読み返すようにしてください。レポート提出は回数がありますので、自分の言葉で表現することを心がけて下さい。提出期限は厳守すること。

【必要な時間】事前・事後学習には各授業前後にそれぞれ2時間程度費やすようにしてください。

■授業外学習

【具体的な内容】事前学習として航空業界やサービス業界に関連する新聞記事、ニュースなどは意識して読むようにすること。事後学習として配布したレジュメは読み返すようにしてください。レポート提出は何度かありますので、自分の言葉で表現することを心がけて下さい。提出期限は厳守すること。

【必要な時間】事前・事後学習には各授業前後にそれぞれ2時間程度費やすようにしてください。

■その他

空港見学が可能であれば実施しますが、コロナの状況も踏まえて決定します。
また、見学に行く場合の引率は石田先生が担当します。

科 目 名	キャリア演習[1年]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	小林 純、森 順子

■講義の目的および概要

本演習の目的は、自分を知る、企業を知る、社会を知る、そして、将来を考え行動するための力を身に付けることにあります。現在の自分を知り、今後自分が進むべき方向性を考えます。
同時に、働き手としての視点から、企業内容を深く調べることで、より深く企業を理解するため、新聞記事などから社会現象を理解し、社会の一員として、自分はどのように働き、社会や地域に対して貢献していくべきかをじっくりと考察します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

就職活動や就業時に必要となる能力を、さまざまな形式で演習します。
演習内容の説明の後で、グループに分かれて、学生同士で相互チェックしながら複数回演習を繰り返します。

【課題に対するフィードバックの方法】

演習後、教員からのフィードバックとともに、学生間でのフィードバックを行う予定です。

■授業計画

授業は概ね以下のとおり実施します。

- ① ガイダンス
- ② 【グループワーク】 ワークライフバランスを考える (1)
- ③ 【グループワーク】 ワークライフバランスを考える (2)
- ④ 女性のライフイベントと職業
- ⑤ 会社・組織の仕組み
- ⑥ 就業形態別の働き方と待遇
- ⑦ 【グループワーク】 面接の目的と対策 (個人面接)
- ⑧ 【グループワーク】 面接の目的と対策 (グループ面接)
- ⑨ 【グループワーク】 面接の目的と対策 (グループディスカッション)
- ⑩ 【ディスカッション】 対人コミュニケーション 職場環境編
- ⑪ 【ディスカッション】 対人コミュニケーション 時事問題編
- ⑫ 【ディベート】 (1) ディベートとは？
- ⑬ 【ディベート】 (2) 基礎編
- ⑭ 【ディベート】 (3) 応用編
- ⑮ 振り返り、まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 就業への知識をもとに、自分自身が考えるワークライフバランスを想定できるようになる。
- ② 面接やディスカッションなどで、好印象を与える態度・対応を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

期末レポート 30%
提出物 40%
アクティビティの成果 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃から社会動向を理解するため、新聞やニュースなどにはアンテナを張ること。

【必要な時間】

授業外での事前・事後学習時間として、およそ1時間程度の学習が求められます。

科目名	学びの技法[総キャリア]
開講期・単位	1年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	小林 純、石田 麻英子

■講義の目的および概要

短大で主体的に学ぶための基本的技能の習得を目指す。高校までとの学びの違いを理解し、2年間の学びに必要なスタディスキルの習得をめざす。授業の受け方、スケジュール管理、レポート・課題に取り組む上での情報収集、意見交換に役立つ基礎的スキルなど、主体的に課題に取り組み、効果的に成果をアウトプットするための技法を学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は小人数グループによる演習形式と、全員で受ける講義形式を適宜併用する。意見交換や発表の機会があるので、主体的に意欲的に取り組むことが求められる。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出課題は、担当教員から授業内、メールなどを通して個別にチェックとアドバイスがある。作成中の課題に対しては、途中の段階でもチェックを受けることができる。

■授業計画

おおむね、以下の内容によって授業を進めるが、都合により内容が前後、または統合されることがある。

- ① オリエンテーション（学科での学び）
- ② 学長講話（札幌国際大学短期大学部のあらし）
- ③ 【グループワーク】「学科の学びの特徴を知ろう」
- ④ ラーニング・ポートフォリオの記入
- ⑤ 調べたいことを洗い出そう
- ⑥ 【実習】図書館ガイダンスとアクティビティ
- ⑦ 【実習】調べたことをまとめよう、伝えよう
- ⑧ 学習と成果（ラーニング・ポートフォリオの中間チェック）
- ⑨ ディスカッションの進め方、質問とインタビュー
- ⑩ 【実習】ディスカッション、質問とインタビュー
- ⑪ データを読み、比較してみよう
- ⑫ アンケートを作ってみよう、集計してみよう
- ⑬ 課題を考えてみよう（1）
- ⑭ 課題を考えてみよう（2）
- ⑮ 授業のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① ものごとを分析するための基礎的技法を習得する。
- ② 大学生として必要な基礎的スタディスキルを身につける。
- ③ 本学の学生としての誇りをもち、個々の能力や個性を活かして、主体的に学ぶ学生生活を送れるようになる。
- ④ わかりやすくまとめられるようになる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

各種提出物（ワークシート他） 50%
最終課題（関連する提出物含め） 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『学びの技法：ファイル』 『Study Guide』

【参考文献】

『入学前課題』

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業の資料をまとめ復習すること。次回までに課せられた予習課題をクリアしておくこと。

日常的にニュースをチェックする習慣を身につけ、家庭生活や社会生活に関する関心を広げること。大学生としての自覚をもち、「学生」としてふさわしい行動を実践する姿勢を常にもつこと。資料収集を自身で行ってもらう機会も多くあるので、資料の読解だけでなく、図書館の利用やPCの利用に慣れておくこと。

【必要な時間】

1～2時間を目安としてください。

■その他

【関連受講科目】

伝わりやすい日本語、正しい漢字、表記：日本語基礎表現法

情報機器の扱い：コンピュータリテラシー

発信、発表の技術：プレゼンテーション基礎

視野の拡大、ニュースの理解：現代生活論、世界の中の日本

図表の処理、数字の理解、メディアリテラシー：ベーシックスキルズ

科目名	日本語基礎表現法
開講期・単位	1年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	東谷 一彦

■講義の目的および概要

大学での全ての学び、活動の基本であり、社会に出る上で最も重要な力である「日本語能力」を高める授業。語彙をつけ、読み、聞きとり、理解する読解能力、わかりやすく伝える基礎的知識技術を身につけ、総合的に高めることを目的としている。社会人にふさわしい日本語を正しく読み、書き、話し、聞けるように漢字や句読法について学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
講義、演習形式を併用して行います。

【課題に対するフィードバックの方法】
提出課題に対しては授業で総合的なフィードバックを行う。漢字、語彙、文法の小テストの解答・解説は授業で行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション・「日本語基礎表現法」の授業について
- ②漢字・表記について (1)
- ③漢字・表記について (2)
- ④語彙・言葉の意味について (1)
- ⑤語彙・言葉の意味について (2)
- ⑥語彙・言葉の意味について (3)
- ⑦語彙・言葉の意味について (4)
- ⑧文法について (1)
- ⑨文法について (2)
- ⑩文法について (3)
- ⑪文法について (4)
- ⑫敬語について (1)
- ⑬敬語について (2)
- ⑭敬語について (3)
- ⑮まとめ・テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
様々な表現を理解しそれに対して自らの意見や感想をわかりやすく述べられる。漢字、語彙を豊かにし、表現に生かせる。日本語検定3級程度を目指す。場面、目的に沿った表現を選べるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) 課題を発見し、解決する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

提出物（ワークシートなど）60%
小テスト10%
期末テスト30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『スキルアップ日本語力 大学生のための日本語練習帳』（東京書籍）

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
小テストは必ず事前学習し、できなかったところは復習すること。
テキストの予習や復習も毎回行うこと。

【必要な時間】
予習・復習ともに1時間程度。

科 目 名	日本語応用表現法
開講期・単位	1年 秋学期・必修 1単位・演習
担 当 者	東谷 一彦

■講義の目的および概要

春学期で修得した、短期大学での諸学習に必要なコミュニケーションにかかせない日本語の基礎能力を、「深く考える力」「文字で表現する力」に発展させていきます。正しく理解し、わかりやすく表現する活動を繰り返し行い、社会人にふさわしい言葉づかいで、論理的に書く、話すことができるように学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
演習科目ですが、適宜、講義と演習を併用して行います。

【課題に対するフィードバックの方法】
課題に対しては授業で総合的なフィードバックを行うとともに、個別にフィードバックも行います。

■授業計画

- ①「日本語応用表現法」の授業について、及び「日本語基礎表現法」の復習
- ②「書評」とは？
- ③「書評」について（１）
- ④「書評」について（２）
- ⑤「書評」について（３）
- ⑥「書評」の提出
- ⑦正しい文章表現について
- ⑧様々な文章について（１）
- ⑨様々な文章について（２）
- ⑩様々な文章について（３）
- ⑪模擬試験準備（１）
- ⑫模擬試験準備（２）
- ⑬日本語検定3級公式模擬試験を利用した試験
- ⑭課題作文
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
大学生にふさわしい言葉で、論理的でわかりやすい文章を書けるようになる。課題を解決に導くための考え方を学び、それを適切に表現できるようになる。
日本語検定3級程度の語彙、言語運用能力、読解能力をつける

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

課題小テスト 30%
提出物（ワークシートなど） 30%
書評課題、テスト 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『スキルアップ日本語力 大学生のための日本語練習帳』（東京書籍）

【参考文献】
日本語検定公式3級過去問題集

■授業外学習

【具体的な内容】
予習・復習や課題を提出するため、授業外学習が必要です。

【必要な時間】
予習・復習ともに1時間程度。

■その他

期末に日本語検定3級公式模擬試験の受験料1900円がかかります。

科 目 名	キャリア形成[総カリ]
開講期・単位	1年 春学期・必修 1単位・演習
担 当 者	森 順子

■講義の目的および概要

変化する生活環境やビジネス社会を捉えながら、生き方・働き方が多様な現代社会の中で生きていくために、学生生活2年間でどのような学修をしておくべきかを考え学習計画を立てます。そして、社会で活躍する方から実際に働くことについて学び、働くことについて深く考えてみます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・プリントやテキストを利用した講義形式
- ・グループワークによるディスカッション形式
- ・調査内容を発表するプレゼンテーション形式

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜提示・配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス（なぜ働くのか？）
- ②キャリア形成の第一歩
- ③学生生活に必要な社会人基礎力
- ④仕事の種類とさまざまな働き方
- ⑤自立して生きるためのお金について
- ⑥社会で活躍できる人材になるための学生生活の過ごし方
- ⑦女性ならではのキャリアデザイン
- ⑧女性とキャリアセッションⅠ（短大卒業生の働き方～接客業編～）
- ⑨女性とキャリアセッションⅡ（短大卒業生の働き方～事務職編～）
- ⑩グループディスカッション（体験談をもとにキャリアを考える）
- ⑪学生生活と就職活動の準備
- ⑫働く人のインタビュー調査方法Ⅰ（説明と準備）
- ⑬働く人のインタビュー調査方法Ⅱ（実施報告）
- ⑭調査結果と分析（グループワーク）
- ⑮レポート・まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①自己の能力課題を把握し、改善のための計画を立てて実行できる
- ②キャリアを考え、自己の学生生活の送り方を計画・実行できる
- ③先輩や働く人たちの話から、自己の視野を広げることができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
- (DP4)多様性の理解と協働する力
- (DP5)能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①出席率 30%
- ②提出物 30%
- ③プレゼンテーション 20%
- ④レポート 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・「学就BOOK」日経HR編集部編著 日経HR

【参考文献】

- ・「なぜ僕らは働くのか」池上彰監修 Gakken

■授業外学習

【具体的な内容】

「仕事」「働くこと」「生活」等のキーワードを中心に、新聞やニュースに日ごろから降れるようにしてください。また、学んだことはノートなどにまとめておき、ミニテストなどに備えてください。

【必要な時間】

予習・復習に必要な時間は1～2時間です。

■その他

科目名	キャリア基礎演習[総カリ]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代、森 順子、石川 智寛

■講義の目的および概要

「キャリア形成」で立案した学修と学生生活の計画が実行されているかを確認しながら授業を進めます。「働く」ことについて、個人の視点と企業や社会の視点の双方から理解し、キャリアプランを設計します。そのため、社会の動向と産業・職業・労働について幅広く理解し、働く意義を踏まえながら就活への準備を整えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

職種研究や自己分析などとおして、将来就きたい職業を見つけて就職するための準備を講義と演習で行ないます。授業は、企業で総務の実務経験のある教員らが担当し、キャリア支援センター職員や人事担当者より、個別にアドバイスいたします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、参考資料などを適宜指示・配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、職務適性テスト検査
- ②求人票の見方/履歴書の構成（魅せ方・書き方）
- ③自己分析
- ④業界研究
- ⑤職務適性テスト検査結果＆解説
- ⑥職種研究
- ⑦履歴書・ESの書き方
- ⑧履歴書・エントリーシートの作成と添削
- ⑨面接の基本・集団面接対策
- ⑩着こなしと身だしなみ教室
- ⑪WEB選考対策・SPI対策
- ⑫内定者報告会（2年生）
- ⑬ガールズキャリアコレクション（OG）
- ⑭学内業界セミナー
- ⑮ビジネス・コミュニケーション試験（定期試験期間中）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①社会の出来事に潜む問題点を見つけることができる。
- ②他者の考えを受け入れ、自分の考えを伝えることができる。
- ③社会に出る準備課題をこなすことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識技能を修得した学生」に基づき、社会におけるビジネス実務を取り巻く環境等の変化に対応する能力の獲得を通じて、社会人として自立できる能力を身に付ける。

■成績評価基準と方法

授業内提出物 70%
実技試験 25%
口頭発表 5%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回教材シートを配布します。

【参考文献】

キャリアハンドブック
女子学生のためのキャリアデザイン

■授業外学習

【具体的な内容】

- 社会を知るため、新聞、ニュースには毎日触れアンテナを張ること。
- 宿題として出されたものは必ず取り組んで来ること。

【必要な時間】

課題の完成、疑問点の整理などのため、授業前後に、1～2時間の時間外学習が必要です。

■その他

科 目 名	住生活論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	早川 陽子

■講義の目的および概要

生活とは何か、ということを構造的に考察し、生活の原点である住まいを歴史、家族、住環境、インテリアとのかかわりから学習します。また北海道の住宅の特徴も学びます。

みなさんが近い将来、快適で豊かな住まいを創ってゆくために、また賢い消費者として必要な知識を修学します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

一般の講義の形で配布するプリントに記入しながら授業を進めます。

写真・図や実例などを用いて、具体的に説明してゆきます。

演習は2題あり、1題は「自分の育った家」を考察します。

もう1題は「私らしい住まいの設計」を暮らし方の視点から設計します。

授業内に1回テストを実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

「私の育った家」自分にとって家とは家族とは何かを確認し課題2へつなげます。
「私らしい住まいの設計」は近い将来の職業、暮らし方を想像し間取りを作成します。それまでの講義内容との関係を認識します。

■授業計画

- ①住生活とは何か…住生活と居・食・住の関係
- ②住生活と住空間…家とは、家族とは、ライフステージ、ライフスタイル
- ③【演習1】私の育った家（1）課題の説明、実技
- ④【演習1】私の育った家（2）実技、提出
- ⑤住まいと住まい方のルーツ…原始～現代
- ⑥住まいはどのように建てるのか…材料、構造
- ⑦北海道のすまいづくり…歴史と暮らし方（DVD）
【授業内試験】
- ⑧授業内試験回答、ユニバーサルデザイン
- ⑨住環境と私たちの生活（1）…健康的な住環境のために
- ⑩住環境と私たちの生活（2）…インテリアデザインと室礼、歳時記
- ⑪住まいを選ぶ…3つのすまい（レポート）、一戸建てとマンション、
- ⑫【演習2】私らしい住まいの設計（1）課題の説明、実技（ゾーニング）
- ⑬【演習2】私らしい住まいの設計（2）実技（間取り）
- ⑭【演習2】私らしい住まいの設計（3）実技（インテリア）
- ⑮【演習2】私らしい住まいの設計（4）発表、提出

各自用意するもの：鉛筆、消しゴム、色鉛筆、定規

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

人間にとって住まいの大切さを理解し、自分の住まいや暮らす地域に関心を持つことで将来の暮らし方を想像出来るようになります。

講義で習得した知識をもって「私らしい住まい」を設計します。

演習は講師とコミュニケーションを取りながら進め完成させます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- ①生活創造に必要な基礎的知識 ⑤広い視野 ⑥社会人としての教養を身につけます。

■成績評価基準と方法

授業期間内試験（1回）	30%
演習（1）（実技2回）	30%
演習（2）（実技4回）	40%
演習は提出物で評価します。	

■テキスト・参考文献

【テキスト】プリントを使います。

【参考文献】図説テキスト 住居学（岸本幸臣編・彰国社）
北海道の住宅事情と北方型住宅（北海道立北方建築総合研究所）
子どもをはぐくむ住まいづくり（北海道建築士会）

■授業外学習

【具体的な内容】

講義の後に作成したプリントの内容を復習してください。

予習は次回の講義プリントに目を通しておく事。

【必要な時間】

予習・復習はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

受講生へのメッセージ

近い将来、あなたはどのような職業についていますか。

その時の暮らしの場として住まいはどうあってほしいでしょうか。

将来の生活に夢を持って授業に取り組んでください。

科 目 名	消費生活論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

多くの商品やサービスを消費する今日、様々な消費者問題や商品問題も発生しており、私たちは確かな知識をもち、自立した消費行動を行う必要があります。本講義では消費生活の変容とその背景に理解を深め、今日の消費生活の現状と諸問題、消費生活における商品やサービスに関連する事項について学習します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義形式で行うが、一部グループワーク、ディスカッション等を取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された小レポート、課題等については授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②流通の変化と機能
- ③小売りの種類とシステムの変化
- ④ミールソリューション 食の外部化 マーチャンダイジング 陳列の方法や種類
- ⑤消費生活と環境 消費生活の保護
- ⑥暮らしと経済 (&円高と円安 所得と税金)
- ⑦食と生活を結ぶ法律 (&世界の中の日本の経済)
- ⑧消費と環境問題 SDGs・ごみの分別
- ⑨環境の保護
- ⑩まとめ
- ⑪消費生活と防災
- ⑫消費生活と表示
- ⑬消費生活と安全
- ⑭まとめ
- ⑮発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

現代の消費生活の特質と問題点について理解を深め、自立的な消費生活の実現に向け、関連知識を習得することを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「広い視野と望ましい社会人としての教養」「自ら社会生活のあり方を設計できる能力」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

期末発表：50%

提出物（小レポート等）：50%

■テキスト・参考文献

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業内容の理解度を高めるためにノートにまとめ、毎回復習してください。授業内容に関連した個人テーマを設定し、発表を行うので、日頃から新聞記事やニュースなどに注目し、関連資料を収集し整理しておきましょう。

【必要な時間】

予習復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	生活と銀行
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	亀井 英則

■講義の目的および概要

私たちに深く関わる「金融」について平易に解説し、また、受講生にも考えて頂くことで、金融（銀行）についての興味と金融基礎力を身に付ける事を目的として授業展開します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には講義形式で行いますが、毎回「振り返りシート」を記入し、講義内容を振り返り理解を深めます。また、グループワークを取り入れて能動的な学修を目指します。金融機関幹部の講話も予定しています。

本講義は、銀行に17年間、北海道財務局（財政・金融行政機関）に19年間勤務し、現在は北海道信用組合協会の専務理事に就任している実務家教員が、難解な金融につき身近で実践的な講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

適宜提出して頂く課題については、コメントを付して各自の元へ返すとともに授業内で特徴的なポイントについて解説します。

■授業計画

- ①ガイダンス（銀行とは、金融とは）
- ②金融商品の概要
- ③お金を借りる
- ④代表的な金融機関と役割
- ⑤企業と銀行
- ⑥保険について考える
- ⑦外部講師講話（地域金融とは）
- ⑧投資信託の仕組みと種類
- ⑨金融基礎力とは
- ⑩ローンについて学ぶ（グループワーク）
- ⑪多重債務について考える
- ⑫資産形成について考える
- ⑬お金と経済
- ⑭金融犯罪、特殊詐欺について
- ⑮総まとめ、授業内定期試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

銀行（金融）の基本的な役割、仕組みを理解し金融基礎力を修得することを到達目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

授業内提出物（振り返りシート）20%

中間課題30%

定期試験50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回、プリントを配布します。

【参考文献】

お金の基本 丸田 潔著 新星出版社 （改訂版2017年）

■授業外学習

【具体的な内容】

金融に関する新聞記事等の資料を適宜配布しますので、それに沿って専門用語等事前に予習して下さい。配布後の授業の冒頭で指名して理解度をチェックします。

【必要な時間】

予習、復習の時間はそれぞれ2時間以内を目途とします。

■その他

本受講者のうち希望者は北央信用組合の1日インターンシップを優先的に受けられます。

2022 (令和4) 年4月1日

科目名	医療事務
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・演習
担当者	薄井 智也

■講義の目的および概要

●いずれの物事にも「理由」が存在する。

それぞれの仕組みが「なぜ、そうなっているのか？」理由と背景、根拠を理解し、自らの経験や体験シーンなどをリンクさせつつ想像力を働かせながら、関心を持ち、知識と技術をバランス良く習得しようとする意欲と姿勢から始まる。

●講義の目的

基礎編では病院のしくみや医療保険制度について理解することをねらいとする。また、実務編・カルテ問題集では医科診療報酬点数の計算や算定について、診療行為それぞれの特性を掴むとともに、外来分の裏点整理と診療報酬明細書の記載要領について理解することをねらいとする。

裏点整理＝診療報酬明細書作成前段階の点数整理を示す。

診療報酬明細書＝月ごとに診療行為や点数がまとめられたもの。レセプトと言う。

記載要領＝レセプト記載に際するルールを示す。

●講義の概要

・医療事務基礎編

第1章) 病院のしくみ 第2章) 医療保険 第3章) 公費負担医療制度

・医療事務実務編、カルテ問題集

診察料の計算と算定（初診料・再診料・外来管理加算等）、医学管理料の計算と算定、投薬料の計算と算定、注射料の計算と算定、処置料の計算と算定、手術・麻酔料の計算と算定、検査料の計算と算定、画像診断料の計算と算定。カルテ問題集により、カルテ上の表記と診療報酬明細書への記入について特性を掴む。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

●講義の方法

テキストにより講義を進行し、適宜、振り返りと授業内課題実践を行う。主体的な振り返りに繋がるよう努め、理解の充実と記憶の定着を図る。

●フィードバックの方法

授業内において前回ポイントの振り返りを行い、理解の充実と記憶の定着を図る。

■授業計画

- ①受講意思確認等、シラバス説明、検定、授業の進め方、課題取り組み、講師紹介等
- ①医療事務基礎編－第1章) 病院のしくみ
- ②医療事務基礎編－第2章) 医療保険
- ③医療事務基礎編－第3章) 公費負担医療制度、医療事務実務編とカルテ問題集確認
- ④医療事務実務編－初診料の計算と算定・点数表との照合
- ⑤医療事務実務編－再診料、外来管理加算の計算と算定・点数表との照合
- ⑥医療事務実務編－医学管理料の計算と算定・点数表との照合
- ⑦医療事務実務編－投薬料の計算と算定・点数表との照合
- ⑧医療事務実務編－注射料の計算と算定・点数表との照合
- ⑨医療事務実務編－処置料の計算と算定・点数表との照合
- ⑩医療事務実務編－手術、麻酔料の計算と算定・点数表との照合
- ⑪医療事務実務編－検査料の計算と算定・点数表との照合
- ⑫医療事務実務編－画像診断料の計算と算定・点数表との照合
- ⑬カルテ問題集－頭書き（氏名や健康保険）、傷病名、カルテ2号紙の理解
- ⑭カルテ問題集－外来分の裏点整理と診療報酬明細書記載要領の理解
- ⑮定期試験に向けた振り返り（これまでのコロナ禍の歩みから、コロナ感染状況によっては授業内テストに変更する場合があります）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

●到達目標

基礎編では医療機関の仕組みや医療保険制度の仕組みについて理解する。実務編・カルテ問題集では医科診療報酬点数の計算と算定について、診療行為それぞれの特性を掴み、外来分の裏点整理と診療報酬明細書の記載要領を理解する。カルテの情報（診療記録や疾病、医療用語）を読み取り、診療行為それぞれの特性を理解した上で診療報酬点数の計算と算定ができ、外来分の裏点整理と診療報酬明細書（レセプト）の作成習得を到達目標とし、全国医療技能検定協議会医療事務検定の100%受験とともに70%以上の合格率を目指す。

●卒業認定・学位授与の方針との関連

自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するに基づき、医療機関で活躍できる実務能力の獲得を通じ、社会人・組織人として活躍できる人材を養成する。

■成績評価基準と方法

定期試験により60%を決定し、授業内課題40%による。
(これまでのコロナ禍の歩みから、コロナ感染状況によっては授業内テストに変更する場合があります)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
全国医療技能検定協議会出版)
医療事務基礎編、医療事務実務編、カルテ問題集

【参考文献】
なし

■授業外学習

理由と背景、根拠を知って理解し、そのシーンなど想像力を働かせながら習得しようとする姿勢とともに、興味と関心をもって授業後の振り返り、授業前の予習を行います。繰り返し行うことで理解の充実や記憶の整頓、正しい記憶の定着に繋がります。不明点は授業内でも積極的に発言し理解に努めてください。そうすることで周囲や全体への理解に繋がり、相乗効果が期待されます。大変だとは思いますが時間目安は復習予習にそれぞれ1時間がよろしいと思います。

■その他

授業内での振り返りを取り入れ、理解の促進と授業の活性化を図るため、随時指名して発言を求めます。ぜひ授業後の振り返りを行った上で授業にご参加ください。また、授業計画①時点より、電卓を使用し始めますのでご用意をお願いします。テキストは授業の際に必ずご持参ください。なお、索引速度の観点を含め、テキスト医療事務実務編には必ずインデックスの貼付をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

科目名	秘書演習
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	和田 早代

■講義の目的および概要

秘書業務で起こる事例をもとに、働くための基本的な知識を身につけます。特に、上司・社内・社外、先輩など人との良好な人間関係を築くためのコミュニケーションについて学びます。また、組織で働くための基本的知識として、会社と組織、企業活動と法律、税などを始め、働く場で飛び交う用語についても学び、広く一般知識を身につけて行きます。この授業は、その知識の確認として秘書検定取得に挑戦します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

秘書検定3級の資格取得を目指す科目です。毎回テキストを活用して、秘書の実務経験のある教員が、さまざまな事例を紹介しながら、職場環境に対応するための基本をマスターします。また、毎回過去問題の宿題がありますので、必ず解いてきてください。繰り返し問題を解くことで実力を付けて合格を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、秘書検定の受験方法
- ②第1章 秘書の資質
- ③第2章 職務知識
- ④第3章 一般知識
- ⑤第4章 マナー・接遇・話し方
- ⑥電話応対
- ⑦交際業務
- ⑧第5章 技能・会議
- ⑩秘書室訪問
- ⑪文書・取り扱い
- ⑫ファイリング・日程管理・オフィス管理
- ⑬復習
- ⑭模擬試験
- ⑮筆記試験と解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①上司とのペアワーク、秘書の技能について理解し説明できる。
- ②社会人としての言葉遣いを理解し説明できる。
- ③会社や組織、接遇、交際業務の基本を理解し説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための社会人基礎力を身に付けている学生にが浮きを授与する」に基づき、就業に必要な基本的知識と技能を修得し、社会人としての教養の獲得や社会生活のあり方を設計し、多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身に付けます。

■成績評価基準と方法

模擬試験30%
筆記試験40%
その他提出物30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「秘書検定3級パーフェクトマスター」実務技能検定協会編 早稲田教育出版
秘書検定3級の受験料は2800円

【参考文献】

「秘書検定集中講義3級、2級」実務技能検定協会編 早稲田教育出版

■授業外学習

【具体的な内容】

今回の授業範囲について、専門用語の意味などをノートにまとめてきてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

秘書検定3級の試験は、本学を会場に2月に実施する予定です。

科 目 名	医療事務特別演習
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	薄井 智也

■講義の目的および概要

●いずれの物事にも理由が存在する。

それぞれの仕組みが「なぜ、そうなっているのか？」理由と背景、根拠を理解し、自らの経験や体験シーンなどをリンクさせつつ想像力を働かせながら、関心を持ち、知識と技術をバランス良く習得しようとする意欲と姿勢から始まる。

●講義の目的

受付（接遇、健康保険の確認・情報登録など）～診療行為発生～会計（接遇、診療費計算や精算など）～診療報酬請求事務（レセプト）に至るまでの過程を想像しながら、カルテの情報（診療記録や疾病、医療用語）を元に、診療ストーリーを読み取る能力とともに外来分の裏点整理と診療報酬明細書（レセプト）作成の習得をねらいとする。

裏点整理＝診療報酬明細書作成前段階の点数整理を示す。

診療報酬明細書＝月ごとに診療行為や点数がまとめられたもの。レセプトと言う。

●講義の概要

・カルテ問題集、医療事務検定問題集

全国医療技能検定協議会「医療事務検定2級の検定受験を踏まえ、外来分の裏点整理と診療報酬明細書の作成をより多く、徹底して集中的に行う。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

●講義の方法

テキストにより講義を進行し、適宜、振り返りと授業内課題実践を行う。

主体的な振り返りに繋がるよう努め、理解の充実と記憶の定着を図る。

●フィードバックの方法

授業内において前回ポイントの振り返りを行い、理解の充実と記憶の定着を図る。

■授業計画

- ①カルテ問題集・医療事務検定問題集
- ②カルテ問題集・医療事務検定問題集
- ③カルテ問題集・医療事務検定問題集
- ④カルテ問題集・医療事務検定問題集
- ⑤カルテ問題集・医療事務検定問題集
- ⑥カルテ問題集・医療事務検定問題集
- ⑦医療事務検定問題集
- ⑧医療事務検定問題集
- ⑨医療事務検定問題集
- ⑩医療事務検定問題集
- ⑪医療事務検定問題集
- ⑫医療事務検定問題集
- ⑬医療事務検定問題集
- ⑭医療事務検定問題集
- ⑮授業内テストならび解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

●到達目標

カルテの情報（診療記録や疾病、医療用語）を読み取り、診療行為それぞれの特性を理解した上で診療報酬点数の計算と算定ができ、外来分の裏点整理と診療報酬明細書（レセプト）の作成習得を到達目標とし、全国医療技能検定協議会医療事務検定の100%受験とともに70%以上の合格率を目指す。

●卒業認定・学位授与の方針との関連

自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するに基づき、医療機関で活躍できる実務能力の獲得を通じ、社会人・組織人として活躍できる人材を養成する。

■成績評価基準と方法

テストにより60%を決定し、授業内課題40%による。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

全国医療技能検定協議会出版)

医療事務基礎編、医療事務実務編、カルテ問題集、医療事務検定問題集

【参考文献】

なし

■授業外学習

理由と背景、根拠を知って理解し、そのシーンなど想像力を働かせながら習得しようとする姿勢とともに、興味と関心をもって授業後の振り返り、授業前の予習を行います。繰り返し行うことで理解の充実や記憶の整頓、正しい記憶の定着に繋がります。不明点は授業内でも積極的に発言し理解に努めてください。そうすることで周囲や全体への理解に繋がり、相乗効果が期待されます。大変だと思いますが時間目安は復習予習にそれぞれ1時間がよろしいと思います。

■その他

授業内での振り返りを取り入れ、理解の促進と授業の活性化を図るため、随時指名して発言を求めます。ぜひ授業後の振り返りを行った上で授業にご参加ください。また、テキストと電卓は授業の際に必ずご持参ください。なお、索引速度の観点を含め、テキスト医療事務実務編には必ずインデックスの貼付をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

科 目 名	韓国語(初級)
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	趙 恵真

■講義の目的および概要

本講義は韓国語の文字である「ハングル」の仕組みを理解し、基本的な日常会話につながるために行います。なお、韓国語を学びながら、韓国における社会・文化を分かり、国際社会をより深く理解する姿勢を身につけることをめざします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストに従って進めていきます。新しい文型の説明をした後、練習問題を中心にし、理解を深めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

メールまたはmanabaを通してフィードバックをする予定です。

■授業計画

- ①韓国、韓国語についての概略
- ②第1課 母音①・初声(鼻音・流音)
- ③第1課 母音②・終声(パッチム)①
- ④第2課 母音③
- ⑤第2課 母音のまとめ・初声(平音)
- ⑥第2課 連音化
- ⑦第3課 初声(激音)
- ⑧第3課 初声(濃音)
- ⑨第3課 終声(パッチム)②
- ⑩ハングルのまとめ
- ⑪第4課 助詞「は」
- ⑫第4課 ムニダ体「です・ですか」
- ⑬第5課 助詞「が」・ヘヨ体「です・ですか」
- ⑭第5課 「ではありません」
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

韓国語への関心を持ったうえで、簡単な挨拶や自己紹介に応用できます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP2 コミュニケーション能力
DP4 多様性の理解と協働する力
DP6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 期末テスト：50%
小テスト：20%
口頭発表：20%
授業への参加度：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

三訂版・韓国語の世界へ(入門編)、李潤玉他、朝日出版社

【参考文献】

なし

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業中に、韓国語の発音について随時指名して発言を求めするので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。

科目名	韓国語(中級)
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	趙 恵真

■講義の目的および概要

本講義は、韓国語の基礎文法を利用し、日常会話に応用するために行います。なお、日本と韓国の言語を関連付けて比較しながら、日韓両言語の理解を深めて、幅広い教養として身につけることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストに従って進めていきます。新しい文型の説明をした後、練習問題を中心にして、理解を深めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

メールまたはmanabaを通してフィードバックをする予定です。

■授業計画

- ①ハングルの読み書き/自己紹介
- ②韓国語 I までの復習
- ③第6課 漢数詞・「に」「います・いません」
- ④ヨ体の作り方
- ⑤過去形の作り方
- ⑥第7課 「を」「も」
- ⑦第8課 「で」「に」
- ⑧第9課 「で」「から～まで」
- ⑨第9課 固有数詞
- ⑩第10課 「しに」「から～まで」
- ⑪第11課 不規則活用
- ⑫第11課 否定表現
- ⑬第12課 敬語
- ⑭第12課 「つもりです」「したいです」
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

韓国語の基礎文法を理解し、日常会話に応用できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP2 コミュニケーション能力
 DP4 多様性の理解と協働する力
 DP6 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- 期末テスト：50%
 小テスト：20%
 授業への参加度：10%
 口頭発表：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

三訂版・韓国語の世界へ(入門編)、李潤玉、朝日出版社

【参考文献】

なし

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について、新しい単語の意味などを予習してください。また、前回の授業内容を振り返り単語や文型を復習してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業中に、韓国語の発音について随時指名して発言を求めるので、しっかりと予習・復習した上で授業に参加してください。

科 目 名	コンピューターリテラシー
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	小林 純

■講義の目的および概要

短期大学での学習や、社会で必要となる基礎的なコンピュータの操作や知識を学ぶことを目的としています。
レポート提出などで必要となる文書作成やグラフの作成、また発表に必要なプレゼンテーションを学習します。
コンピュータの操作に自信がない人や、自分で文章を作ったことがないという人は、必ず受講して、他科目の授業に備えてください。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
テキストを中心とした演習形式で進めます。教員からの説明ののち、課題に取り組み、成果を評価していきます。
单元ごとに基礎的な知識を問うテストを取り入れていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】
提出物のチェックを行い、個別に評価を行ってフィードバックします。

■授業計画

授業は、以下に示す順序で実施します。

- ① ガイダンス、本学の情報環境に関する説明と設定
- ② Windows基本操作、環境設定
- ③ ファイル操作、タイピング練習
- ④ Wordの基礎
- ⑤ Wordでの文書作成（チラシを作る）
- ⑥ Wordでの文書作成（レポートを作る）
- ⑦ Excelの基礎
- ⑧ Excelでの表作成
- ⑨ Excelでの表計算・関数
- ⑩ Excelでのグラフ作成
- ⑪ PowerPointの基礎、スライド作成
- ⑫ PowerPointでの表現効果
- ⑬ 情報セキュリティについて
- ⑭ 情報モラルについて
- ⑮ まとめ

レベル別に課題等を与えることもあります。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
① コンピュータを利用して基本的なファイル操作、文書作成（レポート程度）ができるようになる。
② 情報社会で必要となる情報セキュリティや情報モラルなどの基礎的な知識を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

以下の点数を総合的に判断し、評価を行います。
課題の提出（完成度） 60%
確認テストの達成度 20%
タイピングテスト 20%

■テキスト・参考文献

以下の点数を総合的に判断し、評価を行います。
課題の提出（完成度） 60%
確認テストの達成度 20%
タイピングテスト 20%

■授業外学習

【具体的な内容】

タイピングや確認テストは学外からも受験が可能です。授業前後、授業の空き時間や自宅での学習時間に進めてください

【必要な時間】

課題（宿題）の作成で1時間程度の学習が目安です。

■その他

受講者は必ずテキストを購入し、2回目からの授業には必ず持参するようにしてください。

テキストには、ユーザー名、パスワード（1年間有効）が付いており、毎講使用します。テキストやパスワードの貸借は絶対にしないでください。

科 目 名	現代生活論
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担 当 者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

私たちの生活は個人的営みでありながら、社会環境や時代の影響を強く受け、今日では複雑化しさまざまな課題に直面することも多くあります。本講義では現代生活の特徴について理解を深めるため、仕事、経済、文化、情報化社会および生活習慣など、生活を様々な視点からみつめ、その移り変わりや生活課題について考察することを目的とします。また女性の視点からみる現代生活の課題や今後について再考することを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は提示、配布したプリントを中心に講義形式で行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された小レポート、課題等については授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②現代生活の特徴について
- ③総合生活キャリア学科と現代生活
- ④現代生活の課題
- ⑤現代生活の問題点
- ⑥生活の質（QOL）
- ⑦ワークライフバランス
- ⑧自己実現
- ⑨現代生活と情報社会
- ⑩現代生活と文化
- ⑪家族と家庭
- ⑫家事労働
- ⑬食生活
- ⑭健康管理
- ⑮期末レポート試験課題作成に向けた振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

現代生活の特質と問題点について理解を深めること、生活者として主体的に生きるための基礎的知識を身に付け、個人や家庭にどのような生活課題があるかについて考察することを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「広い視野と社会人としての教養」「自らの社会生活のあり方を設計できる能力」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

授業内提出物	40%
期末課題	60%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを提示、配布します。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業内容、プリントを整理し理解度を確認しましょう。

【必要な時間】

それぞれ1時間程度の時間を要することを目安とします。

■その他

科目名	国内フィールドワーク
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	遊佐 順和

■講義の目的および概要

本演習は、道外を訪れ他地域を理解し、地域間の比較をとおして北海道を理解し視野を広げることが目的としています。訪問地の沖縄は、琉球王朝の歴史を受け継ぎ、世界遺産に登録される史跡、独自の伝統的工芸品や食文化などを有します。現地での歴史認識、伝統的工芸品の制作体験や健康長寿をもたらす独自の食文化などを体験し、社会に対する視野を広げます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

訪問地の沖縄では、北海道とは対照的な気候風土のもと、古くから独自の生活や文化が形成されています。事前学習では、沖縄の歴史、生活文化、自然および健康長寿をもたらす食文化などに注目し、参加者で役割分担を行い、リサーチ、レジュメ作成、プレゼンテーションなどの事前調査を繰り返します。これらの作業を通して、北海道との相違点の比較や共通項を理解した上で、現地での研修を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で補足解説を行い、参加者同士によるディスカッションも実施することで訪問地に対する理解を深めるとともに、情報共有と協調性を高めます。

■授業計画

研修は、概ね以下のとおり実施します。

- ① ガイダンス（研修日程や趣旨に関する説明）
- ② 研修先に関する予備調査1(歴史文化)
- ③ 研修先に関する予備調査2(伝統工芸)
- ④ 研修先に関する予備調査3(食と健康)
- ⑤ 研修先に関する予備調査4(産業理解)
- ⑥ 研修先に関する予備調査5(自然資源)
- ⑦ 研修先に関する予備調査6(戦争理解)
- ⑧ フィールドワーク：1日目
- ⑨ フィールドワーク：2日目
- ⑩ フィールドワーク：3日目
- ⑪ フィールドワーク：4日目
- ⑫ フィールドワーク：5日目
- ⑬ フィールドワークの振り返り
- ⑭ フィールドワークの取り纏め
- ⑮ 成果報告

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 地域を比較し、独自の歴史や文化を理解することができる。
- ② 広い視野で地域や社会を見つめることができるようになる。
- ③ 情報を収集、整理し、発表資料を作成することができる。
- ④ プレゼンテーションにより、第三者に情報を伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- | | |
|-------------|-----|
| ① 事前課題の提出 | 25% |
| ② 現地での研修取組み | 25% |
| ③ 成果報告 | 20% |
| ④ 研修レポート | 30% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料等を配布します。

【参考文献】

日本の食生活全集47「聞き書 沖縄の食事」（農文協）

■授業外学習

【具体的な内容】

沖縄の生活、歴史、文化を理解できるように、新聞や雑誌掲載される記事、書籍およびテレビ番組などをとおして、日頃から関心を持つこと。

【必要な時間】

事前学習の予備調査では、予習・復習に2時間程度必要になります。

■その他

- ① 実施時期は、2023年1月上旬（4泊5日を予定）。
- ② 参加人数は、10名程度。
- ③ 実習費等は、概ね10万円（航空券代、宿泊費等含む）。
- ④ 詳細は別途指示するので、掲示などに注意すること。

※他の授業科目も含め、無断欠席が多いなど、研修参加に不適切な行動や態度が見られる学生は参加を認めないことがあります。

科 目 名	ファッションビジネス
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	畑 育実

■講義の目的および概要

ファッションビジネスは衣食住に深く関わりがあることを知り、ファッションを学ぶ事で就職対策に大きな利点となる専門知識、専門技術を習得し情報発信側として、ブランド立案、コーディネート方法などを実践を通して理解し、消費者行動とファッション生活の側面の理解を深める

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストとプリント、パワーポイントを使い、専門知識・技法を習得しブランド立案、コーディネート方法などを実践する

【課題に対するフィードバックの方法】

授業後の質疑応答の時間、マナバを活用した小テスト(アンケート)を使い、フィードバックを実施

■授業計画

- ①ガイダンス～授業目的と今後の内容、自己紹介。ファッション業界について
- ②TP0、美点凝視、世界5大コレクション
- ③世界5大コレクションのコレクションDVD視聴と解説、次週の準備について
- ④ファッションコーディネートの方法と提案(骨格、視覚効果について)
- ⑤TP0、トレンド感性、体型カバーのコーディネートテクニックについて
- ⑥条件別ファッションコーディネート提案
- ⑦ファッションビジネスに求められる情報収集と企画立案
- ⑧SDG s の開発
- ⑨企業課題オリジナルブランド企画立案コンテスト
- ⑩オリジナルブランド企画立案
- ⑪オリジナルブランド企画立案
- ⑫オリジナルブランド企画立案
- ⑬オリジナルブランド企画立案
- ⑭授業内試験 コンテスト発表
- ⑮コンテスト結果発表とフィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ファッションビジネスは世界の様々な職種と役割及び機能を理解し、説明することが出来る。又コーディネート技法の習得によりセルフセルフプロデュース力を高め、グループワークでは自主性、積極性、分析力、発信力が我々のファッション生活の一部になることを実践を通して理解し、説得力のある提案が出来るようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

広義のファッション産業の一部である衣生活を実践を通してファッションビジネスに関わり事で広い視野と社会生活のあり方の設計が出来る。

■成績評価基準と方法

授業内試験60%(14週目実技40%、15週目振り返り20%)
小テスト20%(振り返りアンケート)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

2022 (令和4) 年4月1日

【必要な時間】

■その他

JWCスタイリングサポーター資格試験を任意で実施

科 目 名	カラーデザイン
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担 当 者	恩村 比呂子

■講義の目的および概要

文部科学省後援 色彩検定UC級合格をめざします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半10回はUC級公式テキストを使用し講義形式で資格取得をめざします。
後半5回は色彩理論に基づいた配色イメージ演習を行い色彩感覚の向上をめざします。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回講義後にresponを利用して講義内容の振り返りを行い提出してもらいます。
課題については授業内で解説します。

■授業計画

- ①ガイダンス/色彩検定UC級について/色のユニバーサルデザインとは
- ②色のはたらき
- ③色が見えるしくみ①「色とは何か」
- ④色が見えるしくみ②「色覚説」
- ⑤色の表し方
- ⑥色覚のタイプ
- ⑦高齢者の見え方
- ⑧色のユニバーサルデザインの進め方①
- ⑨色のユニバーサルデザインの進め方②
- ⑩色彩検定UC級 過去問題
- ⑪色の心理効果（課題提出①）
- ⑫配色イメージ（課題提出②）
- ⑬ファッションと色彩（コラージュ作品提出①）
- ⑭アンダートーンとパーソナルカラー（コラージュ作品提出②）
- ⑮作品発表と講評

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

色彩検定UC級の知識を修得し検定合格をめざします。
色彩理論を理解し色覚弱者へ配慮したカラーデザインを行うことができるようになります。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1「専門知識・技能を活用する力」
DP4「多様性の理解と協働する力」

■成績評価基準と方法

検定試験への取り組み：20%
課題提出：30%
作品提出：30%
講義の振り返りrespon提出：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「文部科学省後援 色彩検定公式テキストUC級」 2310円（税込み）

【参考文献】

「色彩検定UC級 過去問題集」「色彩検定公式テキスト3級編」

■授業外学習

【具体的な内容】

検定対策用のプリントはmanabaを通じて配布しますが、それ以外に各自ノートを用意しテキストの内容をまとめることを勧めます。授業後の復習をしっかりと行い検定に向けて知識を定着させてください。

【必要な時間】

予習復習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

2022年度夏期色彩検定は6月26日に実施します。UC級検定料は6000円（税込み）です。
。履修予定の学生は検定料の準備も必要です。
後半で行うコラージュ作品制作では雑誌、はさみ、のりが必要です。

科 目 名	ブライダル実務
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	石田 麻英子、石井 愛彩

■講義の目的および概要

ブライダルにまつわる基本的な知識を学修する。
 婚約・結婚・挙式・披露宴／祝賀会等のしきたりやプロセス、意義、
 また、結婚式にまつわる衣装やマナーについて学ぶ。
 ブライダル業界の研究やその業界の職種を目指す学生には基礎知識となる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教員からの配布資料とプロジェクターを用い講義形式で進めます。
 実際の結婚式等の映像資料も用います。
 フィールドワークとして実際の式場(某ホテル内チャペル)を使用し
 「模擬チャペル挙式」を行います。
 なお、新郎新婦役として学生モデルを募集します。
 ウェディングプランナーおよび衣装コーディネーターとして実務経験のある教員が実
 例を豊富にあげ講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題や試験については授業内またはmanabaを通じて、
 随時解説や資料配布等をします。

■授業計画

- ①ガイダンス～ウェディングプランナーとは～
- ②ブライダル業界の現状と傾向
- ③「六輝」「結納」とは
- ④挙式の種類とそいろいろ
- ⑤DVD放映 中間小テスト①
- ⑥「披露宴」と「祝賀会」～違いと考え方～
- ⑦結婚式にまつわる「衣装」のいろいろ
- ⑧結婚式の「料理」と「飲物」
- ⑨「引出物」「熨斗」「水引」とは
- ⑩DVD放映 中間小テスト②
- ⑪結婚式の演出とその意義
- ⑫ゲストとしての心構えとマナー
- ⑬⑭フィールドワーク～模擬チャペル挙式の実施～
- ⑮総まとめ 期末テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ブライダルに関するしきたり等の基礎知識および社会人としてウェディングシーンに
 立会う際のマナーの理解と習得。ブライダルについて興味・関心の向上。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】
 (DP5)【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

中間テスト①② 30%
 期末テスト 70%

■テキスト・参考文献

【テキスト】【参考文献】→不要

適宜教員より資料を配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

SNSやニュース等でブライダルにまつわる話題に興味・関心を持つ。

■その他

フィールドワーク(模擬チャペル挙式参列)は2022年12月下旬の土日祝日を予定してい
 ます。

科 目 名	ビジネス文書
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	和田 早代

■講義の目的および概要

ビジネスの場ではメール、報告書や依頼状など、様々な文書が存在します。さらに、情報発信の多くはWeb上で行われ、ホームページやフェイスブックなどは重要な情報ツールとして活用されています。これらを利用する際には、情報発信に相応しい言葉や表現の使い分けが必要になります。本授業では、話し言葉では使用しない慣用表現など、ビジネス文書特有の文書を理解するため、文書作成の基本と応用を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は演習方式で、パソコンを使用した文書作成、また手書きでの文書作成を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題、宿題を個別に評価し、返却することでフィードバックとします。また、全体的な解答傾向についても説明を行います。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②ファイル管理、Web文書管理
- ③社会人としてのメールの書き方
- ④社内文書の書き方 (1)
- ⑤ " (2)
- ⑥社外文書の書き方 (1)
- ⑦ " (2)
- ⑧ " (3)
- ⑨中間まとめ
- ⑩はがき、封筒の書き方、通信の知識
- ⑪お礼状、送付状の書き方
- ⑫総合実践 (1)
- ⑬ " (2)
- ⑭ " (3)
- ⑮ビジネス文書技能検定3級試験、ふりかえり

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①ビジネス文書に必要な表記、表現ができる。
- ②ビジネス文書（社内・社外文書）を作成できる。
- ③ファイル、データ管理ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得」、「広い視野と社会人としての教養を持つ」ことに関連しています。

■成績評価基準と方法

ビジネス文書による提出物 50%
 ビジネス文書技能検定3級試験 30%
 慣用表現テスト 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、プリントを配布します。

【参考文献】

ビジネス文書技能検定公式テキスト

■授業外学習

【具体的な内容】

授業では、普段の会話で使用することがあまりない表現が多く出てきます。分からない用語は必ず事前に学習、また復習（宿題）を行ってください。

【必要な時間】

事前事後の学習時間は、およそ1-2時間程度です。

■その他

科 目 名	オフィス総論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	森 順子

■講義の目的および概要

ビジネスの現場に必要なことは何か、広義のオフィス場面を想定して、顧客に対する心構えや言葉遣い、上司や顧客とのコミュニケーションなどの理解を深めます。企業のサービスの事例やテーマに沿ったグループワークを通し、企業の顧客満足経営とホスピタリティ、対人心理や応対の技術を学び、おもてなしの心と接客スキルを向上します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・配布するプリントやテキストを中心とした講義形式
- ・グループディスカッションやミニワーク形式

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜提示・配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②企業と社会（企業の役割と社会的責任）
- ③CS(顧客満足)の重要性和ホスピタリティ
- ④業務の基本（企業・経営・財務）
- ⑤接客の心構え
- ⑥社会常識と基本用語
- ⑦来客応対
- ⑧オフィスで求められるスキルⅠ
- ⑨オフィスで求められるスキルⅡ
- ⑩シチュエーション別の対応
- ⑪対人関係のスキル（上司やお客とのコミュニケーション）
- ⑫よりよいおもてなしを提供するために
- ⑬問題解決ワークⅠ
- ⑭問題解決ワークⅡ
- ⑮まとめと試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・ビジネスの現場での常識や適切なコミュニケーション、オフィスに必要なスキルなど、将来社会人として働く際に即戦力として役立つ必要な能力を身につけます。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
- (DP3)課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ①出席率 30%
- ②小テストや提出物 30%
- ③レポート 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、参考資料やプリントを提示・配布します。

【参考文献】

- ・「この1冊で決める！！秘書検定合格教本準1・2級」新星出版社
- ・「ゼロから教えて接客・接客」かんき出版

■授業外学習

【具体的な内容】

ビジネスマナーやコミュニケーションなどの本を読み込んでおくことを推奨します。授業後は学んだ用語や重要事項などをノートに整理し、小テストに備えてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1～2時間が目安です。

■その他

オフィスコースの必須科目です。

科目名	世界の中の日本
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	森 順子

■講義の目的および概要

本講義の目的は、日本についての理解を深め、世界の諸国家との比較の中で、我が国の特徴や特異性を理解することです。

地図帳やデータを活用し、グローバルな視点を増やして我が国を見つめることで、日本の良さや課題を知る機会をつくれます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的にはテキストや配布資料を用いた講義形式で実施しますが、内容によってディスカッションも行います。毎回講義のリフレクション（振り返り）シートを記入し、理解度を確認します。必要に応じてテーマに合わせた課題レポートを作成、提出します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題レポートについては、講義で開設し、フィードバックします。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②世界の中の日本の位置（領土）
- ③世界の中の日本の自然
- ④世界の中の日本の人口（高齢化・出産育児）
- ⑤世界の中の日本の文化1（習慣・宗教）
- ⑥世界の中の日本の文化2（世界遺産・スポーツ）
- ⑦世界の中の日本の農業・食
- ⑧世界の中の日本の産業・資源
- ⑨世界の中の日本の経済
- ⑩世界の中の日本の教育事情
- ⑪世界の中の日本の情報（通信・ネットリテラシー）
- ⑫世界の中の日本の環境問題
- ⑬世界の中の日本の歴史
- ⑭世界の中の日本の課題
- ⑮まとめ・授業内期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①世界や諸地域と比較しながら、日本の特徴や特異性を理解することができる。
- ②地図や統計資料などから日本を分析することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ①毎時の出席率 30%
- ②毎時のリフレクション（振り返り）シート 30%
- ③授業内期末試験（レジュメ持ち込み可） 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・毎時のレジュメ、各テーマのレポート配布
- ・「なるほど知図帳世界2022 ニュースがわかる世界地図」昭文社

【参考文献】

- ・地図帳や各種旅行記など

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習では、授業内容に応じたテキストの読み込みを行ってください。
事後学習では、毎時の授業内容を復習し、配布したレジュメをまとめておいてください。なお、試験ではレジュメを持ち込むことができます。
日ごろからニュースを見て、世界や日本の動向をチェックしておくとう理解が深まります。

【必要な時間】

個人の取り組みペースによりますが、資料の整理などに1～2時間程度の時間が目安となります。

■その他

講義内でディスカッションをする機会があるので、自分の意見を伝えられるようにすることを期待します（正解不正解はありません）。また、他者の意見をしっかり聴くことで視野が広がります。

欠席すると課題レポートの提出ができなくなり、評価にも影響するので注意してください。

科 目 名	ボランティア
開講期・単位	1年 通年・選択 2単位・講義
担 当 者	和久田 紗恵子、石田 麻英子

■講義の目的および概要

社会的弱者、障がい者、被災者などボランティア活動を必要としている人々が沢山います。また、北海道を訪れ、滞在する外国人の方々も、異なる言語文化圏で手助けを必要としています。オリンピックなどのボランティアのように、レベル、色々なボランティア活動や慈善事業に取り組んでいます。本講義では、こうした取り組みの実態を様々なケーススタディから学び、理解を深めることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回配布するレジュメや資料、パワーポイント等を用いて、様々な事例を基に学習しながら、ディスカッションやグループワークに取り組みます。また、実際に活動に参加してみ、ボランティアの課題や将来について考察します。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題は、教員がすべて読み、メールで、又は中間報告の際にフィードバックを行う。

■授業計画

- ① オリエンテーション 私たちとボランティア：ディスカッション
- ② ボランティアとは
- ③ @グループワーク 活動に向けての準備
- ④ @アクティビティ ボランティア活動に参加してみよう
- ⑤ @アクティビティ ボランティア活動に参加してみよう
- ⑥ @アクティビティ ボランティア活動に参加してみよう
- ⑦ @アクティビティ ボランティア活動に参加してみよう
- ⑧ 中間報告と問題共有
- ⑨ ボランティアの現状
- ⑩ @アクティビティ ボランティア活動に参加してみよう)
- ⑪ @アクティビティ ボランティア活動に参加してみよう
- ⑫ @アクティビティ ボランティア活動に参加してみよう
- ⑬ @グループワーク報告と問題共有
- ⑭ ボランティアとこれからの社会
- ⑮ @グループワークまとめとフィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ボランティアの様々な事例を通じて現状や課題を理解し、その内容をまとめ、自身の意見も含めて分かり易く説明することができる。ボランティアをテーマに、共同作業する能力やコミュニケーション能力を身につけ、グループワークに積極的に取り組むことができる。生涯にわたってボランティア活動に参加するための基礎知識を得る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
 DP2 コミュニケーション能力
 DP3 課題を発見し、解決する力
 DP6 社会に貢献する力

■成績評価基準と方法

個人レポートブック 15×3=45%
 ディスカッション、グループワーク、授業ワークシート 30%
 期末レポート 25%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

記録をつけるためのワークブックとプリントを配布します。

【参考文献】

新聞インターネットの最新情報、ボラナビ、広報さっぽろ、きよっちニュース

■授業外学習

【具体的な内容】

予習・復習としては、授業内容に関連する文献資料を自分で調べて報告する準備作業と、講義内容を振り返りまとめる作業に取り組んでもらいます。

【必要な時間】

調査に1時間、振り返りに1時間程度かかります。

■その他

ボランティアに興味があり、人のためになる活動や社会貢献に意欲的な学生の受講を期待します。授業などで紹介する団体からのボランティア活動情報の他、学内外でのイベントボランティアも活動の一つと認めます。（学内のものだけでは認められません）
コロナウイルスの状況によっては授業内容を変更します。

科目名	社会保障
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	大野 慶

■講義の目的および概要

社会保障の概念、理念、対象、機能、歴史的展開、制度の概要・基本構造に関する基本的な知識を学修していく。またこれを通じて社会保障の課題についても考察していく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義方法は以下のとおりである。

1) 講義形式を基本とする。ただし必要に応じて視聴覚教材を用いることもある。

2) レジюмеとその他資料を配布する。

3) リアクションペーパーの提出を求める。提出されたリアクションペーパーに対しては必要に応じて応答する。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたリアクションペーパーについては、毎回の講義前半に応答・共有する時間を設ける。

■授業計画

① 社会保障の概念・機能・理念

社会保障制度審議会「社会保障制度に関する勧告」（1950年）などをもとに社会保障の概念・機能・理念を確認する。

② 社会保障の成立と展開

イギリス救貧法を起点として社会福祉・社会保障の成立と展開を確認する。

③ 社会保障の財政

近年の社会福祉・社会保障財政を確認する。

④ 社会保障制度の基本構造（1）－社会保険

社会保障制度の基本構造をなす社会保険とはどのような仕組みなのかを確認する。

⑤ 社会保障制度の基本構造（2）－社会手当・公的扶助・社会福祉

社会保険制度の基本構造をなす社会手当・公的扶助・社会福祉とはどのような仕組みなのかを確認する。

⑥ まとめとテスト（1）

⑦ 医療保険

日本における医療保険の制度的仕組みや現状などを確認する。

⑧ 介護保険

日本における介護保険の制度的仕組みや現状などを確認する。

⑨ 年金保険

日本における年金保険の制度的仕組みや現状などを確認する。

⑩ 労働保険

日本における労働保険の制度的仕組みや現状などを確認する。

⑪ まとめとテスト（2）

⑫ 社会手当

児童手当や児童扶養手当など社会手当の制度的仕組みや現状などを確認する。

⑬ 公的扶助

生活保護・障害扶助・児童扶養手当など公的扶助を確認する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。

1) 社会保障の概念、理念、対象、機能。歴史的展開について説明できる。

2) 社会保障制度の基本的な構造、概要、課題について説明できる。

3) 自らの日常生活とも関連させながら社会保障の諸制度の課題について考察できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

以上は、総合生活キャリア学科の卒業認定・学位授与の方針のうち（DP1）【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力）（自立した職業人に必要な教養と実務能力を有し、社会で活用することができる）および、（DP4）【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性・関心）（広い視野や他者への理解により、多様な人々と協働することができる）と関連している。

■成績評価基準と方法

成績評価基準と方法は以下のとおりである。

- 1) テスト (70%)
- 2) リアクションペーパー (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

原則使用しない。講義方法2) のとおりレジюмеと関係資料を配布して講義を行う。

【参考文献】

適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習では「社会福祉」「社会保障（論）」「社会政策」と冠したテキストを購入するとよい。適宜紹介する参考文献も併せて読みたい。また、常日頃からニュース・新聞報道に目を通されるとよい。事後学習では配布されたレジюмеやその他資料を見直ししながらノートを作成するとよい。

【必要な時間】

事前事後学習はそれぞれ2時間程度を目安とする。

■その他

その他注意してほしいことは以下のとおり。

- 1) 十分に事前事後学習をしておくこと。
- 2) 授業態度としては常に「問い」をもって臨むこと。
- 3) 他受講生の権利保護の観点から私語は慎むこと。

科 目 名	プレゼンテーション基礎
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	小林 純、石田 麻英子

■講義の目的および概要

人前で自らの意見を述べ、相手に伝える・説得する…プレゼンテーションは、現代社会では必要不可欠なスキルといえます。ビジネスの場だけでなく、授業内や日常生活においても、相手に「伝える」場面は多々あるものです。本科目では、人前で発表するという慣れのため、数回に渡りプレゼンテーションを実演します。また、他科目の授業でも技術が応用できるよう、意識して授業を進めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
理論的な講義解説と、演習（プレゼンテーション）を組み合わせ、プレゼンテーションに必要なスキルを身につけていきます。

特に、この授業ではコンピュータを使わずに発表することを目的として、人前で話すことに慣れもらい、また資料を効果的に用いて表現することを学びます。

【課題に対するフィードバックの方法】
学生相互によるパフォーマンス評価、また授業内で全員に共通する要素をフィードバックするとともに、個別に添削、及びコメント評価を行います。

■授業計画

以下のような流れで授業を展開する予定ですが、
進度により内容を調整することもあります。

- ① ガイダンス：プレゼンテーションとは何か
- ② 【実習Ⅰ】：自己紹介プレゼンテーション
- ③ 発想の仕方：KJ法やブレインストーミング
- ④ 実習Ⅱ：短時間スピーチによるプレゼンテーション
- ⑤ 実習Ⅱ：非言語コミュニケーションと「聞き方」
- ⑥ 【実習Ⅱ】：プレゼンテーションの実施
- ⑦ 振り返り：スピーチの振り返りと、口頭表現で伝える技術
- ⑧ 視覚資料：なぜプレゼンテーションには視覚資料が有効なのか
- ⑨ 構成：より効果的なプレゼンテーションを行うには
- ⑩ 表現の仕方：数字、色、図表…
- ⑪ 実習Ⅲ：フリップ、原稿の作成（1）
- ⑫ 実習Ⅲ：フリップ、原稿の作成（2）
- ⑬ 【実習Ⅲ】：フリップを使用したプレゼンテーション（収録）
- ⑭ 振り返り：視覚資料と原稿のマッチング、話し方
- ⑮ まとめ：ここまで学んだことを振り返ってみよう

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

- 【到達目標】
- ① プレゼンテーションを理解し、必要な技術を身につける。
 - ② ストーリーを論理的に組み立て、相手を説得するための資料を作成できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

発表の様子・技術 40%
発表内容 40%（視覚資料・原稿など）
授業内における提出物 20%

以上の成績評価基準をベースとして、各演習・発表毎に配点します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2019」
編：実教出版企画開発部 実教出版

※ その他、適宜プリント等を配布します

【参考文献】

■授業外学習

プレゼンテーション実習に関する準備活動（資料の作成・練習）に、少なくとも2時間程度の準備が必要となると考えられます。特にプレゼンテーションの完成度は、リハーサル・練習の回数によって大きく変化します。授業時間内では時間を取ることが難しいので、発表前に個々で準備をしてください。
また、プレゼンテーション後の提出物の作成などでは、1時間程度が目安となります。

■その他

毎回の授業の資料をまとめ復習し、次の回に役立ててください。次回の授業までに課せられた、または自ら設定した課題を予習として達成しておくようにしてください。多く出版されている、プレゼンテーションに関する書籍は、授業の理解を助けます。

科 目 名	プレゼンテーション応用
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	小林 純、石田 麻英子

■講義の目的および概要

春学期に学んだプレゼンテーションに関する技術・知識を活用し、また基本的な理論を学ぶことで発表のクオリティを高める、「よりよい実践的プレゼンテーション」を重視して、コミュニケーション力をアップすることを目指します。発表時の振る舞いや、環境・TP0に合わせたプレゼンテーションの実施、そして発表の場をプロデュースすることを目的に授業を進めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

春学期と同様に、講義説明＋演習（プレゼンテーション）の組合せです。秋学期では、コンピュータによるスライドショーソフトウェアを利用して資料を作成することや、グループワークを中心に進めます。また、プレゼンテーションだけでなく、発表会の運営なども考えていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

学生相互によるパフォーマンス評価、また授業内で全員に共通する要素をフィードバックするとともに、個別に添削、及びコメント評価を行います。一部の演習では、学外審査員にご協力をお願いする予定です。

■授業計画

以下のような流れで授業を展開する予定ですが、進度により内容・順序を変更することもあります。

- ① ガイダンス：視覚資料の振り返り（視覚資料をメインとしたプレゼンテーション）
- ② 【グループワーク】：ポスタープレゼンテーションの計画と準備
- ③ 【グループワーク】：ポスタープレゼンテーションの製作
- ④ 【実習Ⅰ】：ポスタープレゼンテーション
- ⑤ 実習Ⅰ：振り返り／実習Ⅱ：動画作品を作成する
- ⑥ 実習Ⅱ：企画・ストーリーの構成
- ⑦ 実習Ⅱ：動画の作成と編集
- ⑧ 【実習Ⅱ】：魅力ある動画作品を作成してみよう／視聴しよう
- ⑨ 実習Ⅲ：チームプレゼンテーションの概要とチーム分け
- ⑩ 【グループワーク】：説得力のある構成を考える
- ⑪ 【グループワーク】：魅力あるスライドの作成と編集（１）
- ⑫ 【グループワーク】：魅力あるスライドの作成と編集（２）
- ⑬ 【グループワーク】：チームプレゼンテーションのリハーサルと見直し
- ⑭ 【実習Ⅲ】：チームプレゼンテーションと発表会の準備・実施
- ⑮ まとめ：もう一度、プレゼンテーションとは何かを考える

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① プレゼンテーションによる表現、伝達の効果、目的を学び、実践に活かすことができる。
- ② プレゼンテーションの効果的な発表場面を選択し、また自ら創造することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

発表の様子・技術 40%
発表内容 40%（視覚資料・原稿など）
授業内における提出物 20%

以上の成績評価基準をベースとして、各演習・発表毎に配点します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「30時間でマスター プレゼンテーション＋PowerPoint2019」
編：実教出版企画開発部 実教出版

※ その他、適宜プリント等を配布します。

■授業外学習

【具体的な内容・必要な時間】

プレゼンテーション実習に関する準備活動（資料の作成・練習）に、少なくとも2時間程度の準備が必要となると考えられます。特にプレゼンテーションの完成度は、リハーサル・練習の回数によって大きく変化します。授業時間内では時間を取ることが難しいので、発表前に個々で準備をしてください。

また、プレゼンテーション後の提出物の作成などでは、1時間程度が目安となります。

その他 毎回の授業の資料をまとめ復習し、次の回に役立ててください。次回の授業までに課せられた、または自ら設定した課題を予習として達成しておくようにしてください。

■その他

多く出版されている、プレゼンテーションに関する書籍は、授業の理解を助けます。また、授業以外の時間での作業が必要になります。コンピュータ操作に慣れていない人は特にスライドの作成に時間が必要になるでしょう。

科目名	Basic English
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	廣山 メアリー、石田 麻英子

■講義の目的および概要

今まで学習してきたであろう「試験・入試」を目的とした学びではなく、「実際に使う、何とか通じる」を目指して、今までと異なる方向性から英語をやり直すための授業です。使う目的で文法を見直し、ゲームやアクティビティを通して実際にどんどん使うことで、定着を図ります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

説明、解説の時間も取りますが、基本的にはどんどん声を出し、使ってもらい活動、アクティビティがメインになります。単語は授業で発音練習します。

【課題に対するフィードバックの方法】

アクティビティワークや課題は、個別にチェックフィードバックを行う。

■授業計画

- ① @アクティビティ Let's get started!! 英語授業の紹介、英語が広げる世界
- ② @アクティビティ とにかく声を出してみよう!
- ③ @アクティビティ 音と意味をリンクさせる
- ④ @アクティビティ 海外旅行に行こう&会話アクト準備開始
- ⑤ @アクティビティ 海外旅行に行こう会話アクト
- ⑥ @アクティビティ 架空の人物のプロフィール
- ⑦ @アクティビティ 架空の人物のプロフィール ゲームアクト
- ⑧ @アクティビティ パーティに参加してみよう
- ⑨ @グループワーク 英語ゲームを作ってみよう
- ⑩ @グループワーク 英語ゲームを作ってみよう
- ⑪ @アクティビティ 単語帳を作ってみよう
- ⑫ @アクティビティ 単語帳を作ってみよう
- ⑬ 期末実演試験準備、発音チェック
- ⑭ 期末実演試験
- ⑮ @アクティビティ まとめと最終Activity

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・基礎的な英文法、特に語順に慣れ、適切な場面で発話できる
- ・ポイントを押さえた正しい発音で、英語を声に出すことに抵抗感をなくす
- ・日常生活における身近な様々な表現を、英語でどういふのかを知り、できる限り覚えて運用できる。
- ・海外に興味を持ち、英語を学んで外に出かけたいというモチベーションを持てる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
 DP2 コミュニケーション能力
 DP5 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

Comment mail, mini quiz Reading Commentとミニクイズ50%

Final Exam 期末実演試験 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

ワークシートを配布、manabaを利用します。

【参考文献】

辞書を使用することもあります。今までに持っているものや、電子辞書、Weblioなどのインターネット辞書でも可能です。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で学んだ単語をできる限り覚えてきてもらう（ゲームやアクティビティのために必要になります）こと、多読テキストを読んで記録をつけること。
Mary Schoolの公式ページから、単語の動画を使って練習しておく方法でも学習できます。

【必要な時間】

最低でも1時間以上の準備学習が必要になります。

■その他

最も英語が苦手だった人にぜひ履修してもらいたいレベル★の科目です。
声に出し、発音練習なども行います。
薄い本を授業外でたくさん読んで、読書記録をつけます。

科 目 名	ベーシックスキルズ
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	小林 純、石川 智寛

■講義の目的および概要

これから大学で学ぶ、また社会人として社会生活を進めて行くにあたって、必要となる知識・技能を学びます。

Section1 ライフデザイン

大学生生活および社会生活（就業後）、ひとり立ちのために必要な経済上の基礎知識を身につける。具体的には「生活に必要なお金の考え方と収支管理」「基本的な金融資産の特徴」「資産形成と資産運用の考え方とリスク管理」などに注目し、人生のライフデザインのための基本的な知識・技術を学びます。

Section2 論理的思考とレポート

大学では「レポート」を書く機会が増えます。その際に必要になるのが、論理的な思考と、文章の構成です。レポート執筆に必要な「作法」を考えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で、説明→課題の実施→解答・振り返りを繰り返します。
課題によってはグループで考える形式や、ディスカッションを用いることもあります。

【課題に対するフィードバックの方法】

個別に返却すると同時に、授業の冒頭において全体への説明を行います。

■授業計画

この授業は、授業の前半・後半でSectionが入れ替わります。

① ガイダンス

Section1 ライフデザイン

- ② ライフデザインとお金
- ③ ライフプランの要素とプランニング
- ④ お金の知恵 その1（収入と支出）
- ⑤ お金の知恵 その2（貯蓄と運用）
- ⑥ リスクとセーフティネット その1（リスクへの備え）
- ⑦ リスクとセーフティネット その2（リスクとの向き合い方）
- ⑧ まとめ・テスト

Section2 論理的思考とレポート

- ⑨ レポートとは何か？／レポートの構造
- ⑩ 論理的に考える
- ⑪ テーマはどう作る？
- ⑫ テーマからの論理的展
- ⑬ 剽窃の問題点／引用の仕方
- ⑭ レポート作成に向けた準備
- ⑮ まとめ・テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 社会生活に必要なお金の知識を得ることで、金銭感覚を身に付ける。
- ② 論理的思考力、文章での説明力を身に付ける。
- ③ 剽窃の問題点を理解し、オリジナリティの重要性を知る。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

この授業は定期試験を行いません。その代わりに、単元ごとの小テストや、毎回の課題提出で成績を評価します。

各Sectionにて50%

Sectionごとに15%をまとめて充て、提出物等に35%を配分します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「大学生のための人生とお金の知恵」金融広報中央委員会

「これであなたもひとり立ち」金融広報中央委員会

「生活夢プラン」金融広報中央委員会

「18歳までに学ぶ契約の知恵」金融広報中央委員会

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

大学でのリサーチリテラシーや初年次教育に関わる書籍は、授業の理解を助けます。図書館や書店にもありますので、各自で探してみましょう。

【必要な時間】

宿題や課題の完成のために1時間程度の学習が目安となります。

■その他

科 目 名	コンピュータ統計
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	小林 純

■講義の目的および概要

社会に出た後、グラフや表を読み取る力、作成する力は必須となります。そのもととなる数字に着目して、統計資料の読み方や活用方法を通して、北海道の姿を統計資料から概観します。
私たちが生活する北海道のリアルな数字を読みこなし、社会に貢献するための基礎的な知識を得ることを目的とします。

データサイエンスの入口となる科目です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
教員からの講義・説明の後、課題にしたがって作業を行います。
個人で作業するだけでなく、数人のチームによるグループワークをしてもらうこともあります。

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の完成度等について、個別に評価・コメントを行います。
また、全体的講評を授業の冒頭に行い、フィードバックとします。

■授業計画

以下のような授業の流れを予定しています。
進度により、内容・順序を変更することがあります。

- ① ガイダンス：統計とはなにか
- ② 実際に統計資料を読んでみる
- ③ 基礎的な統計量を知る①ー平均・中央値・最頻値
- ④ 基礎的な統計量を知る②ー度数分布とヒストグラム
- ⑤ Excelで統計資料を操作するー統計に関する関数①
- ⑥ 基礎的な統計量を知る③ー標準偏差と変動係数
- ⑦ Excelで統計資料を操作するー統計に関する関数②
- ⑧ 基礎的な統計量を知る④ー相関係数
- ⑨ 分析ことはじめーパレートの法則とABC分析
- ⑩ アンケート調査に必要なこと
- ⑪ アンケート調査票、分析表をつくる
- ⑫ Excelを使ったアンケート分析①ークロス集計
- ⑬ Excelを使ったアンケート分析②ー相関
- ⑭ 演習問題ー統計資料から北海道の現状を考えよう
- ⑮ まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

- 【到達目標】
- ① Excelを使用した表やグラフを作成することができる。
 - ② 一般に公開されている統計資料を読み、事象を説明することができる。
 - ③ 統計資料をもとに、北海道・日本を比較して、現状を知ることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

以下の配点で総合評価を行います。

課題の提出・内容・宿題 70%
小テスト・まとめ課題 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
教科書は指定せず、プリントを配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

コンピュータを使用して統計の操作を行うので、ブラウザの利用や表計算ソフトはある程度使える状態にしておいてください。
毎回の課題をきちんとこなして提出することが重要です。未提出の課題は採点されませんので、授業後に必ず提出しましょう。

【必要な時間】

授業の復習や宿題の作成のために1時間程度の学習が目安となります。

■その他

科目名	Basic Conversation
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	ウィリアム アロン クラウス

■講義の目的および概要

全て英語で行われる授業で、英会話力、スキルのさらなる向上を目指す。新たな語いや表現を獲得し、ロールプレイを通じて構文を練習し、日常生活、ディスカッションなどに必要なスキルを、アクティビティを通して身につける。

This class will be held in English and will focus on developing the students' conversational skills. During classes, students will learn new vocabulary and will use the new words in role plays, short descriptions of daily routine and other conversational activities.

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ロールプレイやスピーチを録音し、ペアやグループでのディスカッションを通しコミュニケーションをとることで、語い、文法を身につけ、1スピーキング、2リーディング、3リスニングのアクティビティを行う。意欲的に参加することが求められる。

Method: This course will require students to actively communicate with each other during group discussions and pair dialogues. They will also perform role plays of common daily events. In each lesson there will be specific vocabulary to learn and practice through 1) speaking 2) reading 3) listening activities. Students are expected to actively participate in all aspects of the class.

【課題に対するフィードバックの方法】

教員は授業中の課題、また追加課題に対して、全て口頭やメールで十分なフィードバックを行う。

Feedback: The instructor will provide constant (general and specific) feedback during lessons and all aspects of the developing activities.

■授業計画

- 1.Introduction-Orientation
- 2.Unit 1: How's It Going? ?- Introduce Yourself
- 3.Unit 1: How's It Going? -- Introduce Others/Things in an Office
- 4.Unit 2: Who Are They? ?- Identify Family Members
- 5.Unit 2: Who Are They? ?Talk About Friends and Family
- 6.Unit 3: What A Beautiful Home! ? Describe Your Home
- 7.Unit 3: What A Beautiful Home! ? Describe Your Neighborhood
- 8.Practicing Vocabulary and Expressions
- 9.Vocabulary Test
- 10.Unit 4: Where Are You Now? ? Ask About an Event
- 11.Unit 4: Where Are You Now? ? Make Plans with Someone
- 12.Unit 5: Do I Need An Umbrella? ? Ask About Prices
- 13.Unit 5: Do I Need An Umbrella? ? Talk About the Weather
- 14.Practicing Vocabulary and Expressions
- 15.Review and Final Test

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】 Course objectives

- 1) Learning new vocabulary and using it during daily conversational activities.
 - 2) Developing the skill to formulate/express ideas and feelings in English.
- 1.新しい語いを学び、日常会話で使えるようにする
 - 2.意見や考えを英語で表現するスキルを向上させる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)知識・技能を活用する力
(DP2) コミュニケーション能力
(DP5)能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

Final Exam: 40% 期末40% Mid-Term Test: 20% 中間20%
Class Participation (discussions, role-plays, etc): 20%
授業内実演 (ディスカッション、ロールプレイなど) 20%
Homework: 20% 課題宿題20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】 textbook
Start Up (Pearson) 入手方法は授業中に指示します

■授業外学習

【具体的な内容】 What to do: Students should do the readings and exercises about the material given in class. Review vocabulary learned and use it to prepare for conversations and activities in class.
テキストを読み、授業で指示、配布された練習を行うこと。語いを復習し、授業での会話やアクティビティで使えるようにしておくこと

【必要な時間】 Approximate time:1-2 hours per week 約1-2時間

■その他

It is important that students learn the vocabulary given in every class and prepare to use it during class activities
毎時間覚える語いを学習し、授業で使える準備をすることが大事です。

科目名	Conversation
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	エレナ フォルトゥナート

■講義の目的および概要

全て英語で行われる授業で、英会話力、スキルのさらなる向上を目指す。新たな語いや表現を獲得し、ロールプレイを通じて構文を練習し、日常生活、ディスカッションなどに必要なスキルを、アクティビティを通して身につける。

This class will be held entirely in English and will focus on enhancing and expanding the student's conversational skills and abilities. During the classes, students will learn new vocabulary and expressions, use the new structures in role plays, descriptions of daily routines, discussions and other conversational activities.

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ロールプレイやスピーチを録音し、ペアやグループでのディスカッションを通しコミュニケーションをとることで、語い、文法を身につけ、1スピーキング、2リーディング、3リスニングのアクティビティを行う。意欲的に参加することが求められる。

This course requires that students actively communicate among each other during pair and group discussions. They will also be required to perform role plays and record speeches. In each lesson there will be specific structures (vocabulary and grammar) to learn and practice through 1) speaking, 2) reading, 3) listening activities. Students are expected to actively participate in all aspects of the class.

【課題に対するフィードバックの方法】

教員は授業中の課題、また追加課題に対して、全て口頭やメールで十分なフィードバックを行う。

The instructor will provide constant (general and specific) feedback during the lessons for all aspects of the developed activities by e-mails and in the lessons.

■授業計画

- ① Orientation
- ② Unit 5: Food and Drink 1 - Likes and Dislikes
- ③ Unit 5: Food and Drink 2 - Ordering at the restaurant
- ④ Unit 6: The Future 1 - Future Tense
- ⑤ Unit 6: The Future 2 - Agreeing and Disagreeing
- ⑥ Unit 7: Travel 1 - Locations
- ⑦ Unit 7: Travel 2 - Directions
- ⑧ Interview and Vocabulary test
- ⑨ Unit 8: Entertainment 1 - Giving Information
- ⑩ Unit 8: Entertainment 2 - Free Time Fun
- ⑪ Unit 9: Staying Healthy 1 - Health Routines
- ⑫ Unit 9: Staying Healthy 2 - Instructions
- ⑬ Unit 10: People I Know 1 - Describing People
- ⑭ Unit 10: People I Know 2 - Describing personalities
- ⑮ Review and Final Exam

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 新しい語いを学び、日常会話で使えるようにする
2. 意見や考えを英語で表現するスキルを向上させる
3. ディスカッションや、意見表明のための英語スキルを向上させる
 - 1) learning new vocabulary and using it during daily conversational activities
 - 2) developing the skill to formulate/express ideas and feelings in English
 - 3) developing the skills to discuss and express own opinions in English

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

Final exam: 40%
Midterm test: 20%
Class participation (discussions, role plays, descriptions): 20%
Homework and weekly short quizzes: 20%
期末 40%
中間 20%
授業内の実演（ディスカッション、ロールプレイ、表現演習）20%
課題とミニテスト 20%

2022 (令和4) 年4月1日

■テキスト・参考文献

【テキスト】
Start Up

【参考文献】
Pearson Education Inc., 2021.

■授業外学習

【具体的な内容】
Practice readings concerning the material given in the class. Prepare for discussions by researching topics and reviewing the structures learned
毎時間、次の関連する授業資料を読み、トピックについて調べ、ディスカッションの準備をする。授業後は学んだ文構造を復習する

【必要な時間】
1-2 hours/week
それぞれ1?2時間/週 ずつ

■その他

Students should prepare well before coming to the class. They should research the topics for the discussions and prepare for them.
授業前には準備を行ってこること。特にトピックについてのリサーチは重要である。

科目名	Food & English
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	廣山 メアリー、石田 麻英子

■講義の目的および概要

私たちにとって最も身近な素材、「食」を通じて、英語の表現を学び、運用能力を高める授業です。日常生活で使うもの、感じることに関する表現を覚え、使えるようにします。北海道観光に来る旅行客にとっても海外旅行に出かける時も、食は最も大きな魅力の一つです。簡単な英語で、食に関するやり取りができるように学びましょう。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式を挟みつつ演習形式メインで行います。五感を通じて覚え、使ってみることで表現を定着させていく活動が多いでしょう。英語でレシピを書いたり読んだりもします。（実演もします）英語を声に出すことが多い授業です。実食、実演も行います。

【課題に対するフィードバックの方法】
基本的にアクティビティメインで行います。

■授業計画

- ① オリエンテーション World Food
- ② レシピ1のための単語学習
- ③ レシピ1 デモンストレーション
- ④ レシピ2のための単語練習
- ⑤ レシピ2 デモンストレーション
- ⑥ 単語の復習と使える表現
- ⑦ レシピ3のための単語学習
- ⑧ レシピ3デモンストレーション
- ⑨ レシピ4のための単語学習
- ⑩ レシピ4でモンストレーション
- ⑪ 単語の復習と使える表現
- ⑫ My Favorite Food 準備
- ⑬ My Favorite Food 準備
- ⑭ My Favorite Food 発表
- ⑮ Food & Communication まとめトフィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

英語で簡単な料理のレシピ紹介ができる。
味や食感、食べ物に関する英語表現をできるだけたくさん覚えて使えるようにする。
英語で書かれたレシピを読み、料理ができるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

Cooking Book 30%
小テスト20%
デモンストレーション、プレゼンテーション50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特にありませんが、メモ用の用紙とCooking Bookをお配りします。最終的に自分用のマニュアルとして機能させるため保存しておくべき授業資料はすべて、メモ帳に転記して保存することをお勧めします。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業の資料をまとめて復習すること。次回用に課せられた予習課題をクリアしておくこと。単語や表現を覚えることは、皆さん自身にしかできません。日常から目にするもの、感覚することを、英語で思い出せるようにしましょう。また、これを何とのか知りたい、という項目を探し出しておくことも、立派な授業外学習です

【必要な時間】

。1時間以上の時間が必要になります

■その他

文法は中学レベルのものしか使いませんが、内容でいうと★★の科目になりますので、★の科目で補強してから受講するのが望ましいです。

2022 (令和4) 年4月1日

科 目 名	業界知識
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担 当 者	和田 早代、小林 純

■講義の目的および概要

本講義では、将来の就業に備えて社会には様々な業界、会社があることを理解し、その役割、規模別・運営形態別の仕組みや特徴を学びます。その上で、情報収集の仕方、志望する業界・会社で求められているスキルについてもわかりやすく解説し、社会人になるために準備すべき企業の知識を理解できるようにします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

会社の仕組みを理解するとともに、業界別に会社研究を行ないます。また、会社説明会へも参加して、自分に合った業界や職種を絞り込んでいきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、フィードバックについても授業内で直接行います。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 札幌国際大学を取り巻く業界とは
- ③ 会社のしくみ
- ④ 職種研究
- ⑤ 業界・会社研究（サービス・アパレル）
- ⑥ 業界・会社研究（食品・製造）
- ⑦ 人事担当者の講話（1）
- ⑧ 業界・会社研究（医療・建設）
- ⑨ 業界・会社研究（小売・卸売）
- ⑩ 業界・会社研究（運輸）
- ⑪ 人事担当者の講話（2）
- ⑫ 業界・会社研究（観光）
- ⑬ 業界・会社研究（金融・保険）
- ⑭ 業界・会社研究（化粧品）
- ⑮ 試験とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 業界分析のための情報を収集し、その情報をまとめることができる。
- ② 自ら調べ、まとめたものをわかりやすく伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)
(DP4)
(DP5)

■成績評価基準と方法

期末レポート 40%
授業内提出物 30%
講話の感想 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

ガイドブックなど適宜関連資料は配布します。

【参考文献】『北海道の業界地図』北海道新聞社
就職ウォーカー、北海道就職ハンドブック

■授業外学習

【具体的な内容】

授業時に取り上げた業界については、復習として新聞、インターネットなどで情報を得ておいてください。また、授業で指示した課題については、提出締切後の授業開始時に発表内容の準備が整っているようにしておいてください。

【必要な時間】

課題の回答、次回授業の準備などで1-2時間の学習時間が目安となります。

■その他

科目名	簿記入門
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	石川 智寛

■講義の目的および概要

本授業では、秋学期の簿記演習と連動して、日本商工会議所が実施する「日商簿記検定3級」取得レベルの簿記会計に関する知識を習得することを目標とします。受講後、検定試験の過去問題等を解くことで検定試験の合格を目指します。企業実務において、業界や職種を問わず役に立つ簿記や会計に関する基本的な知識を身につけるとともに、資格の取得により企業経理や会計はもとより実社会で活躍するための実力をつけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業はテキストを用いて講義形式で複式簿記の原理と基礎知識を学び（インプット）、問題演習（アウトプット）により、学習内容の理解度と知識の定着を図ります。扱う範囲は、小規模な株式会社の活動で、経理事務職の基本的な知識と技術を身に付け、将来の就職活動にも生かします。また、知識の理解度と定着度を確認するために、適宜小テスト等を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて適宜資料を配付します。

■授業計画

授業は、概ね以下のとおりに実施します。

- ①オリエンテーション 簿記の目的、財政状態、経営成績
- ②簿記一巡 その1 取引、勘定の記入法則、仕訳、勘定口座への記入方法
- ③簿記一巡 その2 仕訳帳、総勘定元帳、補助簿、試算表
商品売買Ⅰ（商品売買の記帳法、掛取引など）※オンデマンド学修方法体験
- ④商品売買Ⅱ（仕入諸掛、前払金・前受金、商品有高帳）
- ⑤現金および預金（現金、普通預金、当座預金、各種出納帳）
- ⑥手形、有形固定資産、その他の債権・債務
- ⑦株式の発行、利益計算と剰余金、消費税、その他の税金、その他の収益と費用
- ⑧伝票会計
- ⑨全経簿記検定3級 仕訳対策 その1
- ⑩全経簿記検定3級 仕訳対策 その2
- ⑪全経簿記検定3級 精算表対策 その1
- ⑫全経簿記検定3級 精算表対策 その2
- ⑬全経簿記検定3級 補助簿対策
- ⑭全経簿記検定3級 計算問題対策
- ⑮授業内考査、振り返り、授業評価

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①簿記の意義や役割を理解し、適正な会計処理を行うための基本的な知識と技術を習得する。
- ②複式簿記の特徴である「貸借平均の原理」に基づいて、さまざまな取引を記帳できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

（DP1）専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- ① 定期試験 60%
- ② 提出物・検定取得状況 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『合格作戦シリーズ 日商簿記3級商業簿記（教科書・問題集・解答集）』資格の大原 簿記講座 大原出版株式会社

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：次回授業で行う内容を毎回指示しますので、必ず授業の受講前にmanabaにアップされている解説を視聴し、当該範囲の予習と問題演習を行うこと。
事後学習：テキスト及び授業で配布された資料等をよく読み返し、必ず復習を行って学習事項の定着を図ること。

【必要な時間】

事前学習、事後学習にそれぞれ1～2時間を目安とします。

■その他

(参考) 全国経理教育協会 簿記検定3級 受験料2,000円

※1 希望により、検定受験を授業内考査に換えることができる。(授業ガイダンスで説明)

※2 この講座の履修にあたって、簿記入門<1>は初めて簿記を学ぶ学生を対象とします。また、簿記入門<1>を履修した学生は、令和4年7月10日(日)実施の全国経理学校協会主催簿記検定3級試験受験を目指しますので、別途、取得講習会にも参加すること。

※3 簿記入門<2>は、高校時代に簿記検定(全商・全経)をすでに取得している学生を対象とした講義内容とします。

科目名	簿記演習
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	石川 智寛

■講義の目的および概要

本授業では、「日商簿記検定3級」検定取得に向けて、検定試験の対策問題を解いて実力養成を図ります。問題演習を行う中で、要点解説や問題の考え方を理解し、日商簿記検定3級（ネット試験）合格のための実力をつけることを目的としています。資格取得を目指した学修をとおして、株式会社会計に関する基本的な知識を習得し、実社会で役立つ会計処理能力を身につけることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は、購入した問題集および配布資料に基づき、日商簿記検定3級（ネット試験）レベルの問題の解き方の解説を行う演習形式にて実施します。問題演習の繰り返しにより、習得した知識の理解と定着を確認しながら授業を展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、必要に応じて適宜資料を配付します。

■授業計画

授業は、概ね以下のとおり実施します。

- ① オリエンテーション：授業概要の説明、出題傾向の分析、簿記の記帳手順の確認
- ② 仕訳総合演習 その1
- ③ 仕訳総合演習 その2
- ④ 各種帳簿の記帳演習：仕入帳・売上帳、商品有高帳、売掛金・買掛金元帳
- ⑤ 伝票の起票と集計、簿記用語のまとめ
- ⑥ 決算整理事項の確認
（未処理事項の整理、売上原価、貸倒、減価償却、収益・費用の加減処理）
- ⑦ 精算表の作成演習 その1
- ⑧ 精算表の作成演習 その2
- ⑨ 決算整理後試算表の作成演習と英米式決算法
- ⑩ 貸借対照表と損益計算書の作成演習 その1
- ⑪ 貸借対照表と損益計算書の作成演習 その2
- ⑫ 総合問題演習 その1
- ⑬ 総合問題演習 その2
- ⑭ ネット試験対策演習
- ⑮ 授業内考査、解答と振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 小規模な株式会社の企業活動や会計実務を踏まえて、会計処理で必要となる基礎知識と記帳技術を習得する。
- ② 日商簿記検定（ネット試験）3級レベルに必要な知識、計算等を理解できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- （DP1）専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- ① 定期試験 60%
- ② 提出物・検定取得状況 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『日商簿記3級 だれでも解ける過去問題集』桑原 知之 著（ネットスクール出版）

【参考文献】

適宜、関連資料を配付します。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：資料の事前配布がある場合には、しっかりと目を通し、内容を理解した上で、授業に臨んでください。

事後学習：授業で学んだ内容を反復練習して、考え方や仕組みをしっかりと理解し、知識の定着を図ってください。

【必要な時間】

■その他

（参考） 日本商工会議所 簿記検定3級（ネット試験方式） 受験料2,850円（税込）と申込手数料550円（税込）を併せて、3,400円がかかります。

2022 (令和4) 年4月1日

※1 希望により、検定受験を授業内考査に換えることができる。（授業ガイダンスで説明）

※2 講義内容のレベルは、簿記入門<1>と簿記演習<1>（簿記初心者対象）、簿記入門<2>と簿記演習<2>（簿記検定取得者）が連携しています。

※3 履修者は、日商簿記検定3級のネット受験を目指します。（日商簿記検定3級以上を取得している者は除く）。

科 目 名	食品と栄養
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

私たちは食物を摂取することにより、生命・健康を維持し、活力を生み出し、嗜好を充足させています。本講義では、健康的な食生活の実現に向けて、栄養素の働きと特徴を正しく理解し、各種食品の特性や食の嗜好性など、食品と栄養に関する基礎的な知識の習得を目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は提示したスライドを中心に講義形式で行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

小テストの解答、提出された小レポート、課題等については授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②肥満とダイエット
- ③3大栄養素
- ④5大栄養素・理想の食事
- ⑤食生活と病気
- ⑥運動と休養
- ⑦おいしさを感じる条件（味覚・嗅覚・食欲）
- ⑧スローフード・フードマイレージ
- ⑨食品の加工・化学変化・保存
- ⑩まとめ 中間試験
- ⑪食品群
- ⑫食べ物の比較
- ⑬食品の栄養学的特徴
- ⑭食の嗜好性
- ⑮まとめ 期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

健康に留意した食生活を実現するための基本知識として食品と栄養に関する知識を習得すること、健康の保持増進に必要な栄養素の働きについて理解することを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「広い視野と望ましい社会人としての教養」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

中間試験・期末試験：60%

小テスト：20%

提出物（小レポート等）：20%

■テキスト・参考文献

【参考文献】

授業内で適宜紹介します。

食生活アドバイザー検定を受験する学生は「食生活アドバイザー検定」のテキスト購入を推奨します。

■授業外学習

【具体的な内容】

今回の授業内容について、キーワードを提示するので、調べてノートにまとめてきてください。毎回の授業の冒頭で、前回の授業内容について小テストを行います。必ず前回の授業を振り返り、分からない箇所は調べてきてください。

【必要な時間】

予習復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科目名	英語検定Ⅰ
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	石田 麻英子

■講義の目的および概要

実用英語技能検定などの資格取得を目指す。同時に、英語の語彙、文法、会話表現、リーディング、リスニング、英作文などの総合的な運用能力の伸長を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

中学～高校までの英語で学習した内容を実際の検定試験で問われる形式の中で、文法、リーディング、リスニング、英作文を総合的に演習形式で学ぶ。適宜、目指す級の過去問などでの演習も行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

単語課題は授業外で個別練習したものを小テストで確認する。作文課題はフィードバックを記入して返却する。Outlookメール、manabaを利用する

■授業計画

- ①オリエンテーション 英語の検定とレベル
- ②単語の学習について
- ③基礎文法の振り返り1と作文
- ④基礎文法の振り返り2と作文
- ⑤基礎文法の振り返り3と作文
- ⑥リスニングの力をつけよう1
- ⑦リスニングの力をつけよう2
- ⑧リスニングの力をつけよう3
- ⑨ディクテーション1
- ⑩ディクテーション2
- ⑪ディクテーション3
- ⑫読む聞くと、話す1
- ⑬読む聞くと、話す2
- ⑭授業内最終試験
- ⑮まとめとフィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

現在の実力、取得級よりも一つ上位級を取得する力を身に付ける（英検）
＊希望者はTOEIC Bridge 150点を目指す

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

期末テスト 40%、小テスト30%、
提出物（単語記録、作文練習など）30%
（希望により、第1回実用英語技能検定を中間期末テストに換えることができる場合がある。詳細は授業中に説明）

■テキスト・参考文献

期末テスト 40%、小テスト30%、
提出物（単語記録、作文練習など）30%
（希望により、第1回実用英語技能検定を中間期末テストに換えることができる場合がある。詳細は授業中に説明）

■授業外学習

【具体的な内容】

学習分の定着を図るための、1時間程度の復習を授業後に、次回授業を理解するため、あらかじめ問題を解いておくなどの予習。manabaを使います

【必要な時間】

1時間程度行ってもらいます

■その他

標準的なレベルは英検3級以上2級まで、TOEIC Bridgeです。

科 目 名	英語検定Ⅱ
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	石田 麻英子、竹内 康二

■講義の目的および概要

実用英語技能検定の資格取得を目指しながら、英語の語彙、文法、会話表現、リーディング、リスニングなどの総合的な運用能力の伸長を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

現在取得している英検の級により、レベル別にクラスを分けて行う。語彙、文法、作文、リーディング、リスニングを総合的に演習形式で学ぶ。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出課題は教員から個別にフィードバックとアドバイスをを行う。
単語の課題は毎回チェックがある

■授業計画

1. オリエンテーション レベルチェック、目標の確認
2. 必須英単語熟語① リスニング①
3. 必須英単語熟語② 長文読解① リスニング②
4. 必須英単語熟語③ 長文読解② リスニング③
5. 必須文法① 長文穴埋め① リスニング④
6. 中間試験
7. 必須英単語熟語④ 長文穴埋め② リスニング⑤
8. 必須英単語熟語⑤ 長文穴埋め③ リスニング⑥
9. 必須英単語熟語⑥ 作文 リスニング⑦
10. 必須英単語熟語⑦ 長文読解③ リスニング⑧
11. 必須英単語熟語⑧ 長文読解④ リスニング⑨
12. 必須英単語熟語⑨ 長文読解⑤ リスニング⑩
13. 文法総復習と直前対策
14. 期末試験
15. まとめとフィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

英検の現在の取得級よりも一つ上位級を取得すること。
未受験の場合は、プレイメントテストをします。
英検2級取得後はTOEIC Bridge、TOEICの学習に移行します（目標150点/450点）

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

定期テスト 40%、中間テスト20%、
提出物・小テスト30%
（希望により、実用英語技能検定またはTOEIC Bridge、TOEICを中間テスト、期末テストに換えることができる場合がある。）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業の資料をまとめ復習すること。次回ように課せられた予習課題をクリアしておくこと。定期的にまとめて試験問題に取り組み、課題を整理して学習することが必要です。「単語は自己責任！」覚えることは自分にしかできません。リスニングのトレーニングなども含めて授業外学習が必要です。Weblio語彙力診断テストを授業前に指定された回数こなし、間違えた単語について復習してください。

【必要な時間】

最低でも1時間程度はかかります。

■その他

「単語は自己責任！」覚えることは自分にしかできません。リスニングのトレーニングなども含めて授業外学習が必要です。Weblio語彙力診断テストを授業前に指定された回数こなし、間違えた単語について復習してください。

クラス分けは、英検準2級までクラス、2級以上TOEICクラスの2クラスです

科 目 名	色彩演習
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	恩村 比呂子

■講義の目的および概要

文部科学省後援 色彩検定3級合格をめざします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

前半7回は色彩検定3級テキストを使用し、講義形式で資格取得をめざします。
後半8回は色彩理論に基づいた配色イメージ演習を行い色彩感覚の向上をめざします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説を行います。
毎回講義後にresponを利用して講義内容の振り返りを行い提出してもらいます。

■授業計画

- ①ガイダンス/色彩検定3級について/色のはたらき
- ②光と色
- ③色の表示（課題提出①）
- ④色彩心理
- ⑤色彩調和「色相配色」（課題提出②）
- ⑥色彩調和「トーン配色」（課題提出③）
- ⑦ファッションとインテリア
- ⑧色彩検定解説/彩色演習
- ⑨イメージ配色演習①（課題提出④）
- ⑩イメージ配色演習②（課題提出⑤）
- ⑪イメージコラージュ①
- ⑫イメージコラージュ②
- ⑬イメージコラージュ③
- ⑭イメージ表現（作品提出）
- ⑮作品発表と講評

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

色彩検定3級の知識を修得し検定合格をめざします。
配色の基本を理解し、意図するイメージ表現が的確にできるようにします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1「専門知識・技能を活用する力」

■成績評価基準と方法

検定への取り組み：20%
課題提出：40%
作品提出：20%
講義の振り返りrespon提出：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「文部科学省後援 色彩検定公式テキスト3級編」2420円（税込み）
「新配色カード199 a」935円（税込み）

【参考文献】

「色彩検定過去問題集」

■授業外学習

【具体的な内容】

検定対策用のプリントはmanabaを通じて配布しますが、それ以外に各自ノートを用意しテキストの内容をまとめることを勧めます。授業後の復習をしっかりと行い検定に向けて知識を定着させてください。

【必要な時間】

予習復習はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

2022年度冬期色彩検定は11月13日に実施します。3級検定料は7000円（税込み）です。
。履修予定の学生は検定料の準備も必要です。
後半で行うイメージコラージュでは雑誌2～3冊を使いますので用意しておいてください。

科 目 名	メディカル秘書実務
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	時野 香里

■講義の目的および概要

診察を控え不安な患者様に対して、安心して診察や治療を行えるようにサポートするための知識を身につける。病院などの医療機関組織の仕組みやそこで働く人たちの業務、医療に関する専門用語についてを学ぶ。患者様に寄り添うスキルとして接客対応、電話応対などのマナー、それに加え簡単な手話や英会話を学習する。また一般業務として院内や院外に向けての文書作成、様々な疾病、臨床検査項目、医療に関する法律、保険制度や薬の知識、などを学ぶ。保険制度や薬の知識にからめて調剤報酬についても触れる。これらにより医療秘書に必要な事柄を理解し専門的な知識を得ることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

配布プリントとスライドを用いた講義形式で授業を行う。患者様に寄り添うためのスキルを学ぶ際には実際に接客などを行なってもらう参加型の授業を行う予定である。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の単元毎に復習問題を行う。講義内で解答解説を行うので採点を行い間違い箇所をチェックし、学習の定着を目指す。

■授業計画

- ①オリエンテーションと日本の医学の歩み 貢献した人物
- ②医療機関とは
- ③病院で働く人 コメディカル、チーム医療とは
- ④医療秘書として必要な接遇対応① 病院、調剤薬局の受付
- ⑤医療秘書として必要な接遇対応② 電話接遇
- ⑥医療現場の専門用語、患者心理
- ⑦疾病学 日本人の死因について
- ⑧医療秘書として必要な接遇対応③ 手話①
- ⑨医療秘書として必要な接遇対応③ 手話②
- ⑩疾病学 生活習慣病
- ⑪医療秘書として必要な接遇対応④ 英語で応対
- ⑫医薬品の知識、薬学の歴史
- ⑬医療秘書としての実務演習 インバスケ
- ⑭治験業務CRCとは
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

医療秘書の立場から医療機関の仕組み、業務、接遇、疾病や薬、関係法規をなどの幅広い知識を学習し理解すること。それらの知識を生かし、患者様に対して、不安を取り除き安心して診察や治療を行えるようにサポートする技術を身につけることを目標とする。また実務演習を行うことでいくつかの指示に対して最優先事項を判断し現場で生かせる力を身につけることを目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」と言うポリシーに基づきこの講義を通して医療機関のしくみや疾患、医療秘書として必要な接遇応対についての正しい知識を得る。このことは、生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得を可能とする。
この結果、医療機関において実務だけではなく患者様に寄り添うことのできる能力をもつ職業人を養成する。

■成績評価基準と方法

課題提出物等60%

講義内小テスト・実務演習など40%

■テキスト・参考文献

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

その日の講義で習ったことはその日のうちに整理し復習を行うことで知識の定着につながる。提出課題は必ず取り組みこと

【必要な時間】

最低1時間は行なう。

■その他

科 目 名	調剤コンピュータ演習
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	時野 香里

■講義の目的および概要

医療機関から発行される処方箋を読み取り、処方箋から調剤報酬（調剤料）を正しく算定する方法を理解すること、さらに、保険者に調剤にかかった費用を請求するための調剤録、レセプトの作成の知識と技術を修得することを目的とする。同時に各種保険や医薬品、医療に関する法律についても幅広く学習し、専門家として医療機関などで活躍できるスキルを身につける。また、本講義で得た知識を生かして調剤事務管理士の資格を取得する検定を受験することができる。調剤事務管理士の有資格者は、全国の保険調剤薬局で高く評価され、就職の際に、大きなPRポイントとなる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

講義方法】

テキストやスライドを用いた講義形式で行う。基本的に一斉形式で行いますが、実技的な課題では各自で取り組む時間を設け能動的な学習方法を行う。講義は保険制度や医薬品などの基礎知識の習得分野とテキストと処方箋問題集を用いた調剤録、調剤報酬レセプト作成といった実技的な分野の2つで構成されている。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の単元毎に課題を提示する。講義内で課題の解説、質問対応を行う。課題を通して学習の到達度の確認と定着を図る。

■授業計画

- ①医療保険の概要 保険診療の仕組み
- ②処方せん、医療マナー
- ③医薬品販売について
- ④薬剤料
- ⑤薬剤料と確認試験
- ⑥調剤料
- ⑦調剤料と確認試験
- ⑧調剤基本料
- ⑨調剤料加算
- ⑩調剤料加算と確認試験
- ⑪薬学管理料
- ⑫薬学管理料と確認試験
- ⑬レセプト作成
- ⑭レセプト作成
- ⑮検定対策模試

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

調剤報酬制度とは何かを理解すること、具体的には処方箋の見方を理解し調剤報酬算定ができるようになること、各種保険や医療に関する法律知識を理解できるようになることを目標とする。また、これらの知識を生かして 調剤事務管理士の資格取得検定を受験し合格を目指すようになることが最終目標である。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」と言うポリシーに基づきこの講義を通して調剤報酬制度の正しい知識を得る。このことは、生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得を可能とする。この結果、調剤薬局等での活躍に必要なスキルの獲得を通じ、社会において必要とされる高い実務能力を持つ職業人を養成する。

■成績評価基準と方法

単元ごとの確認試験60%
小テスト、課題提出物等40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
調剤報酬請求事務
プリントを配布

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

復習を欠かさず行うこと。毎回、出された課題に取り組むこと。また授業で行った以外の箇所に関しても必要と思う箇所は積極的に自習する。何度も繰り返し学習することで、正しい調剤録とレセプト作成の力が定着する。

【必要な時間】

復習・課題に最低でも1時間行うことが学力の定着及び向上に繋がる。

■その他

科 目 名	カレントトピックス
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	山田 英寿

■講義の目的および概要

私たちは日々ニュースに囲まれて生活しています。ニュースや出来事はすべて私たちの日常生活に関連しています。マスクを外せない生活も、スマホの料金値下げも理由があって、私たちの生活に変化を与えています。本講義では、ニュースや出来事の間接関係を理解し、自分なりの考えや意見を表現できることを目指します。また事実を理解するための多様な情報の入手方法を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テレビや新聞、オンラインでのニュースの収集方法を比較し、それぞれのメディアの特性を調べます。
また事前にニュースをチェックし、授業で発表、意見交換をします。さらに新聞記事やTVの録画を視聴し、ディスカッションを行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

事前のレポート提出や授業内での発表と、それに対する他者の意見を聞くことで、多様性を理解します。レポートに対する補足もmanabaや授業内で提示します。

■授業計画

- ①学習の進め方、事前準備などのレクチャーとアンケート。
- ②アンテナをはろう（テレビ、新聞、週刊誌、ネットでチェック）
- ③メディアリテラシー（ネットやテレビでのニュース実例）フェイクニュース
- ④メディアリテラシー（ネットニュースの長所短所、テレビのBPO）
- ⑤メディアの特質（週刊誌、テレビ、新聞、ネットの伝達スピードと変化）
- ⑥テレビニュース放送まで（UHBの場合）写真と動画で説明
- ⑦ロシアのウクライナ侵攻（現状まとめ、国連とりくみ）
- ⑧ロシアのウクライナ侵攻（各国の対応、東西直接対決は回避されたか）
- ⑨新型コロナウイルス3年（現状と今後、経済への影響）
- ⑩地球温暖化（台風、豪雨被害、地球温暖化との関連）防ぐには
- ⑪原油価格上昇と脱化石燃料
- ⑫プラスチックごみ削減（おとし7月からのレジ袋有料化）先進国では
- ⑬デジタル化で社会はどう変わるのか（5Gの恩恵は）
- ⑭尖閣諸島、台湾、香港は中国の内政化（内容、今後）
- ⑮発表～カレントトピックスまとめ

大きなニュースがあった場合、それを取り上げ、予定を変更します。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

新聞やテレビの政治・経済の記事やニュースに興味をもち、説明できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針「教養に関する広い知識を身につけ、人格を磨き、文化の向上に寄与する」ため、世の中の出来事と日常生活の関連性を考える習慣を身につける。

- （DP1）専門知識・技能を活用する力
- （DP3）課題を発見し、解決する力
- （DP6）社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内で小テスト、意見発表（30%）
授業内での発表、レポート提出（40%）
respon記入提出（30%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし。
その都度、パワーポイント、OHPやテレビ番組の録画BDを使用します。

【参考文献】

特になし。

■授業外学習

【具体的な内容】

日ごろからテレビのニュース番組やSNSでのニュースをチェック。
新聞などに目を通し、世の中の動きに関心を持つ。
次の授業までに、気になるニュースをまとめ、自分なりの意見を考えてくる。

【必要な時間】

毎回の授業に対し、1時間程の授業外学習が必要となる。

■その他

普段から、ニュースを見聞きする習慣をつけましょう。

科目名	ビジネス実務
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	石川 智寛

■講義の目的および概要

ビジネスの世界では、日常的に数字を扱う場面が数多くあり、自社や自分自身が所属する部署の現状を把握するために会計数値をはじめとした数字の意味を理解することが大切です。この授業ではビジネス現場で求められる製品やサービスの収益と原価（コスト）の計算方法、各種差異の分析に関する基本的な考え方を修得します。製品やサービスの原価には、「コントロール（統制）」と「マネジメント（経営管理）」といった側面があり、ビジネスを遂行していく上で、コスト意識（コストカットとコストダウン）を持つ、常に費用対効果を考えて、工夫・改善しようとする意識を育てます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義形式での内容解説を行い、その後、受講者に計算や作表・分析をしてもらう演習形式により実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、必要に応じて適宜資料を配付します。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 原価計算の基礎：製造原価の分類と計算
- ③ 利益の計画と統制：変動費と固定費、CVP分析、損益分岐点
- ④ 目標売上高を達成するための売上高、予算実績差異分析
- ⑤ 製造原価の分類と集計（1）
（原価計算の基本的な流れ、材料費・労務費・経費の分類と集計）
- ⑥ 製造原価の分類と集計（2）
（製造直接費と製造間接費、完成品原価と月末仕掛品原価の計算）
- ⑦ 損益計算書の作成：売上総利益・営業利益の計算、損益計算書の作り方
- ⑧ 原価計算初級の仕訳：仕訳の基本、勘定科目
- ⑨ 原価計算初級検定の問題演習（1）
- ⑩ 原価計算初級検定の問題演習（2）
- ⑪ 原価計算初級検定の問題演習（3）
- ⑫ 単純総合原価計算（1）：1種類の製品を連続して大量生産する企業の計算方法
- ⑬ 単純総合原価計算（2）：平均法と先入先出法
- ⑭ 標準原価計算と原価管理：標準原価計算と実際原価計算
- ⑮ 授業内考査：解答確認とフィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 製造業における製品の原価計算に関する基本用語や原価と利益の関係を分析・理解し、業務活動に利活用するための基本的な知識とスキルを身につける。
- ② 製品の製造方法に見合った製造原価の計算方法と原価管理の意味を理解し、基本的な差異の分析ができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ① 定期試験 60%
- ② 提出物・検定取得状況 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『スッキリわかる日商原価計算初級』 滝澤 みなみ 著（TAC出版）

【参考文献】

『合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記』 TAC株式会社（TAC出版）

『原価管理 事例でわかるコストマネジメントのツボ!』 堀内 智彦 著（秀和システム）

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：次回の講義内容についての指示に沿って予習を行い、課題を明確にすることが大切です。

事後学習：講義で学んだ内容をしっかりと問題演習して、理解と定着を図ることが大切です。

【必要な時間】

予習・復習の時間は1時間を目安とします。

■その他

(参考) 日本商工会議所 原価計算初級 検定 受験料2,200円
※ 希望により、検定受験を授業内考査に換えることができる。
(授業ガイダンスで説明)

科 目 名	ビジネス実務総論[総キャリア]
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・講義
担 当 者	遊佐 順和

■講義の目的および概要

本講義の目的は、ヒトとつながりモノを活かして価値をつけてコトを起こすビジネスに必要な大切なことを理解し、組織や個人による社会の動きを理解することです。就職により社会人になると、多くのヒト・モノ・コトと関わることになります。社会の動きを理解することにより、より実践的なビジネス実務能力の必要性を考えていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業方法は配布するプリントに基づき講義形式で行います。問題意識および参加意欲を高めるため、適宜、授業内課題および提出物を課します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料などを適宜提示・指示します。

■授業計画

授業は概ね以下のとおり実施します。

- ①ガイダンス～ビジネスとは何か？
- ②ビジネスと社会の関わり（１）企業の責任と意義
- ③ビジネスと社会の関わり（２）企業の目的と貢献
- ④会社の仕組み（１）公企業と私企業
- ⑤会社の仕組み（２）企業の分類
- ⑥会社の仕組み（３）会社内の組織構造
- ⑦ビジネスと会計（企業会計とＩＲ）
- ⑧ビジネスと法律（労働に関わる保険・税）
- ⑨ホワイト企業
- ⑩働き方の改革
- ⑪現代社会におけるビジネス環境（１）情報とマーケティング
- ⑫現代社会におけるビジネス環境（２）人口減少社会
- ⑬グループワークⅠ（ディスカッション）
- ⑭グループワークⅡ（プレゼンテーション）
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①企業組織や企業の状況および、業務の流れや進捗を理解することができる。
- ②ビジネス実務を取り巻く社会・経済的環境の変化を理解することができる。
- ③企業の仕組みや業務の進め方について第三者に説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- | | |
|---------|-----|
| ①定期試験 | 50% |
| ②授業内提出物 | 30% |
| ③レポート | 20% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントや資料を提示、配布します。

【参考文献】

「ビジネス実務総論－企業と働き方－」水原道子 編著 樹村房
「ビジネス実務総論 付加価値創造のための基礎実務論 改訂版」
全国大学実務教育協会 紀伊國屋書店

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で扱われる内容に関し、参考文献をはじめとする書籍や新聞記事およびニュースなどに積極的に触れ予備知識をつけ、問題意識を持って臨むこと。授業後は、講義の復習を欠かさずに行い内容理解に努め、さらに深く調べ、その内容もまとめておくこと。

【必要な時間】

予習・復習に1～2時間程度の時間が必要です。

■その他

科目名	情報処理演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	小林 純

■講義の目的および概要

オフィスソフトウェアであるMicrosoft Officeのうち、文書作成（Word）、表計算（Excel）を使用して、ビジネスにおけるさまざまなコンピュータの利活用の手法を身につけることを目的としています。
また日商PC検定にチャレンジできる程度のスキルを身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で進めます。

毎回の課題の説明を行った後、実際に課題の作成を行います。
その後で、解答を学生間で確認して、完成できるようにします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の完成度等について、個別に評価・コメントを行います。
また、全体的講評を授業の冒頭に行い、フィードバックとします

■授業計画

進度により、内容・順序を変更する場合があります。

- ①ガイダンス・入力練習
- ②プロジェクト体制図を作る
- ③ビジネス文書を作成する
- ④ポスターの作成
- ⑤Wordによる表の作成
- ⑥差し込み印刷と宛名印刷
- ⑦中間まとめ
- ⑧Excelでの表作成とグラフ作成
- ⑨Excelでの計算と関数の使用（1）
- ⑩Excelでの表示形式とクロス表の作成
- ⑪表からの分析
- ⑫VLOOKUP関数を用いたマスタ表の使用
- ⑬Excelの集計機能
- ⑭総合実践—WordとExcelを用いた作業の実践
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① オフィスソフトを使い、文書作成・データの活用ができる知識と技術を身につける。
- ② 場面に応じた文書作成のスキルや、データからの推察力を身につける。
- ③ PC検定（実技）に対応できる知識と技術を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

課題の提出と完成度 80%

まとめ問題 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

よくわかるMicrosoft Word 2019&Microsoft Excel 2019スキルアップ問題集
ビジネス実践編
FOM出版

■授業外学習

【具体的な内容】

課題は常に次回の授業までに完成させておくことが重要です。
そのためには、授業以外の空き時間を利用しましょう。

【必要な時間】

宿題の完成のためには、1時間程度の学習時間が目安となります。

■その他

コンピュータリテラシー、情報処理などの情報系科目の履修をしていることが望ましいです。
文字入力などの基礎的技能はできていることを前提に授業を進めます。

2022 (令和4) 年4月1日

科 目 名	サービスの心理学
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担 当 者	中里 のぞみ

■講義の目的および概要

サービスの付加価値を追求し、顧客満足を提供し続けることは企業にとって大きなテーマであり、組織で働く上で、言語化されない顧客のニーズ・ウォンツを把握し、サービスの実践をすることは職業人として求められる能力である。
本講義では、サービスとは何か、顧客心理とは何かを学び、顧客とのよりよいコミュニケーション、並びに職場内でのコミュニケーション、クレーム対応など、具体的でかつ、現場で有益となるサービス創出のための実践的な学習と体験をし、将来に活用できることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式でサービスの基本的な知識を学ぶとともに、顧客心理を深く学ぶための実践的ワークも実施する。また、自分自身のコミュニケーションのパターンを把握できるようなワークシートを活用する。さらに、学んだことを共有化し、自分達で考察を深めるためのグループワークも実施。テーマによるグループディスカッションとプレゼンテーションにより、学んだことを職業人としても有益に活用できるようにアウトプットしていく。
エアラインでの実務経験と産業カウンセラーとしての現場経験から、より具体的にサービスの心理学の知識を理解できるよう実践的に授業展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーションについては随時、授業内でフィードバック。レポートなどの課題については精査後にフィードバックする。

■授業計画

- ① サービスとは何か
- ② サービスとホスピタリティ
- ③ ホスピタリティと共感的理解
- ④ サービスのマインドとスキル
- ⑤ サービスとコミュニケーション（顧客のニーズやウォンツの察知）
- ⑥ サービスの品質管理
- ⑦ 顧客心理とその事例検討
- ⑧ お客様の心理状態に基づいたクレーム対応
- ⑨ 顧客満足と社員満足
- ⑩ ロイヤルカスタマー獲得のマインド
- ⑪ ロイヤルカスタマー獲得のスキル
- ⑫ 顧客満足に繋げる具体的方策
- ⑬ 具体的方策の提案
- ⑭ サービスプロフィットチェーン
- ⑮ 総括とテスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

サービスについての知識を深め、顧客心理を理解できるようになる。
様々な状況において、より適切なサービス提供に必要な現場での判断力・コミュニケーション能力が発揮できるようになる。
顧客のみならず、組織内の人間関係構築に有益となる他者への察知力を高め、他者への配慮ができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成するという学位授与方針に基づき、変化の激しい社会において多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身に付ける。自分自身のコミュニケーションのパターンを理解した上で、他者とのよりよい関係構築ができるようになり、自立した職業人に求められる基礎力を修得する。

■成績評価基準と方法

対面授業の場合はグループディスカッション・プレゼンテーション 30 %
テスト 70 %
オンライン授業となった場合は提出物 50 % テスト 50 %

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「ホスピタリティとホスピタリティマネジメント」
中里のぞみ・紺野猷邦著 株式会社パレード

【参考文献】
「コミュニケーション学」末田清子・福田浩子 株式会社松柏社
「対話でみがくことばの力」宇都宮裕章 カニヤ出版
「人間尊重の心理学」カール・ロジャーズ 創元社
「ワークショップ心理学」藤本忠明・栗田喜勝・瀬島美保子
橋本尚子・東正訓 カニヤ出版

■授業外学習

【具体的な内容】

配布レジュメには各自でメモを取り、授業後には見直して振り返りを行うこと。小レポートでは、その授業で学んだことや気づきを自分の言葉でまとめるようにしてください。グループディスカッションの際は事前学習として必要な情報などを収集しておくようにしましょう。

【必要な時間】

事前・事後学習には各講義前後に2時間程度費やすようにしてください。

■その他

提出物の期限は厳守です。
またマナバのお知らせやメールはしっかり内容を理解すること。

科 目 名	現代生活と経済
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	小林 純

■講義の目的および概要

現代の生活では、さまざまな経済活動が関わっています。日常生活には関連がないような経済指標も、実際には生活に大きく関わるものが多いです。経済のしくみが理解できれば、政府の政策や市場の動きが見えてきます。社会人として知っておくべき経済の基礎知識を、かみ砕いて解説していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

原則として講義形式で行いますが、受講者からの発表やディスカッションも取り入れて進めます。毎回提出物などで、講義内容の振り返りを行います。また次回講義の準備となる宿題も出す予定です。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出物については、個別にコメントを加えて返却します。また、解答の傾向について、授業内で全体にフィードバックを行います。

■授業計画

およそ以下のような展開を計画しています。
1回ごとに区切るのではなく、複数回にまたがって行われる内容もあります、

- ① 経済とは (1) 消費と生産・資本
- ② 経済とは (2) 貨幣と所得
- ③ ミクロ経済学 (1) 消費者と生産者の行動原理
- ④ ミクロ経済学 (2) 価格の決定
- ⑤ ミクロ経済学 (3) 外部経済と外部不経済
- ⑥ ミクロ経済学 (4) 公共財と独占
- ⑦ マクロ経済学 (1) 国の豊かさ
- ⑧ マクロ経済学 (2) GDPと三面等価の原理
- ⑨ マクロ経済学 (3) 物価と経済
- ⑩ マクロ経済学 (4) 為替レート
- ⑪ 経済政策 (1) 政府の役割
- ⑫ 経済政策 (2) 財政政策
- ⑬ 経済政策 (3) 租税政策と日本の債務
- ⑭ 経済政策 (4) 日本銀行の役割
- ⑮ まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 報道や経済情報などの内容を理解し、経済が生活にどのような影響を与えているかを考えられる。
- ② 経済分野の幅広い情報に興味・関心を持つ。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

定期試験を実施します。また以下の配分で総合的に成績評価を行います。

- 定期試験 50%
- 小テスト 30%
- 提出物 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

新聞やニュースを見て、経済の知識を得ることはもちろん、市販の経済入門書などを読んで、経済用語などの知識を得ておくことで、理解の助けとしてください。興味を持ったことは、授業後に積極的に調べておきましょう。

【必要な時間】

宿題等を含めて、予習、復習にそれぞれ1時間程度の学習が目安となります。

科 目 名	キャリア演習[2年]
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	森 順子、遊佐 順和

■講義の目的および概要

本演習の目的は、将来を考え、行動するための力を身に付けます。社会や企業を調べ、自分を知り、今後自分が進むべき方向性を考えます。そして、1年次に学習したことを基盤に、自分の興味のある業界や企業への就業実現に備えます。
また、働き手の視点から企業を深く調べ社会現象を理解し、社会の一員として自分はどうのように働き、社会や地域に対して貢献していくべきかをじっくりと考察します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

就活と並行してタイムリーな情報提供や就活対策を行ないます。授業内容として、筆記試験対策やスピーチ、グループディスカッション、プレゼンテーションなど能動的な学修を行います。授業は、企業で採用、新人教育研修などの実務経験のある教員が担当し、個別に就活に関するアドバイスなども実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜指示・配布します。

■授業計画

授業は概ね以下のとおり実施します。

- ①ガイダンス
- ②自分を伝える
- ③多様性を知る
- ④キャリアデザインを考える(ディスカッション)
- ⑤キャリアデザインを考える(プレゼンテーション)
- ⑥キャリアを考えるグループワーク (1) 仕事
- ⑦キャリアを考えるグループワーク (2) お金
- ⑧キャリアを考えるグループワーク (3) 人間関係
- ⑨仕事と私生活の考え方
- ⑩働く人のルール
- ⑪就業形態別の働き方と待遇
- ⑫就業継続と転職
- ⑬コミュニケーション能力を養う
- ⑭コミュニケーション能力を試す
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①広い視野と社会人としての教養を持つことができるようになる。
- ②自らの職業生活・社会生活のあり方を設計できるようになる。
- ③社会動向に関心を持ち、その内容を客観的に捉えることができるようになる。
- ④自分の考えを論理的に話すことができる力を身に付ける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- | | |
|-----------------|-----|
| ①授業内に実施するワークシート | 30% |
| ②提出物 | 30% |
| ③期末レポート | 40% |

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、レジュメや資料を配布します。

【参考文献】

必要に応じて、授業内に指示します。

■授業外学習

【具体的な内容】

日頃から企業動向を理解するため、アンテナを張り新聞やニュースなどをこまめにチェックすること。

【必要な時間】

課題の回答、次回授業の準備などで1-2時間の学習時間が目安となります。

科目名	TOEIC
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	石田 麻英子、竹内 康二

■講義の目的および概要

英語のコミュニケーション能力を測定するTOEIC Listening & Reading 試験を目指して、ビジネスに場面おける「話す、聞く、読む、書く」英語の4技能の運用能力を伸長することを目的とする科目です。問題の内容や形式に習熟することのみではなく、その場面にふさわしい語彙・文法・表現などを多様な演習活動により総合的に学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

リスニング問題では、場面に応じた特徴的な表現のパターンを確認しながら、会話表現や説明文をペアワークやグループワークを活用して練習します。また、リーディング問題では、リーディング文の目的を明確にし、その目的に沿って必要な情報を把握することを主たる活動とします。語彙・表現はその場面や目的と結びつけて学習します。

【課題に対するフィードバックの方法】

TOEICの実践問題を課題として、授業後の学習時間も確保しながら問題演習を行い、課題の確認を次の授業で行い、復習をします。また、授業の最初には前回の授業の振り返り演習を行います。

■授業計画

- ①オリエンテーション TOEIC試験の構成とストラテジー
- ②1stクール Listening Part1&2 Reading Part5 / Topic: Food & Restaurant
- ③Listening Part2&3 Reading Part 5&6 / Topic: Entertainment
- ④Listening Part3&4 Reading Part6 / Topic: Travel
- ⑤Listening Part4 Reading Part7 / Topic: Advertisement
- ⑥2nd クール Listening Part1&2 Reading Part5 / Topic: Purchasing
- ⑦Listening Part2&3 Reading Part 5&6 / Topic: Office Work(1)
- ⑧Review: Mid-term Test
- ⑨Listening Part3&4 Reading Part6 / Topic:Office Work(2)
- ⑩Listening Part4 Reading Part7 / Topic: Employment
- ⑪3rd クール Listening Part1&2 Reading Part5 / Topic: Business Affairs(1)
- ⑫Listening Part2&3 Reading Part 5&6 / Topic: Business Affairs(2)
- ⑬Listening Part3&4 Reading Part6 / Topic: Business Affairs(3)
- ⑭Listening Part4 Reading Part7 / Topic: Lectures & Presentations
- ⑮Review: Final Exam

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

TOEIC Listening & Reading 試験において、450～500点のスコアを取得するのに十分な総合的な英語コミュニケーション能力を持ち、問題解決のためのスキルを発揮できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (D01) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

授業内期末テスト50%
中間テスト30%
課題・レポート20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

公式TOEIC Listening&ReadingトレーニングListening編、Reading編等
(上級クラスのみ)

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業後にTOEICの実践問題を課題とします。解答と解説は次回の授業の初めに行います。また、授業の最初に前回の授業の復習を行いますので、トピックごとに語彙や表現をノートにまとめておく必要があります。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

スコアをあげることを目標とするのではなく、英語のコミュニケーション能力全体を高めるよう、幅広く楽しく学習することが大切です。

クラス分けは英検準2レベル、2級以上レベルの2クラスです

科 目 名	衣生活論
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担 当 者	長尾 順子

■講義の目的および概要

衣生活に関する課題は複雑であり、その問題は多岐にわたっています。本講義の目的は、多角的な視点から「装い」を捉え、人が快適な衣生活を送るために何が必要であるのかを、総合的に考えられる力を養うことを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

第9回までは衣生活に関する基礎的な内容について、第10回以降は主に歴史・文化史の視点から衣服について学びます。

主に講義形式で行いますが、簡単なミニ実習を行う場合があります。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の課題については、講義内に口頭で解説し、必要に応じて資料を配布します。授業へやレポートへの質問は、次の講義で資料を用いて口頭で回答します。

■授業計画

- ① ガイダンス、衣服に求められる役割とは
- ②衣服素材（1）天然繊維
- ③衣服素材（2）化学繊維
- ④衣服素材（3）糸
- ⑤衣服素材（4）布
- ⑥あなたの衣服いくらで作れるの？
- ⑦ファストファッションについて
- ⑧衣服管理（1）衣料品の表示
- ⑨衣服管理（2）界面活性剤の作用
- ⑩衣のルーツ
- ⑪洋服のルーツ（1）西洋服について
- ⑫洋服のルーツ（2）映像資料にみる時代衣装
- ⑬和服のルーツ
- ⑭ルーツから現代へ
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- 1 衣生活に関する基本的な知識を身に付けることができる。
- 2 衣生活を多面的に捉えることができる。
- 3 衣生活をめぐる諸問題に対して多角的に捉えることができ、自らの衣生活を見直すことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

本科目は、総合生活キャリア学科の卒業認定・学位授与の方針DP1、DP3に相当する科目である。

日常生活または社会生活を営む上に必要な衣服のに関する基礎的な知識の習得を目指す。さらに衣服というひとつの事象に対して多方面から視点を注ぐことで、物事を多角的に捉える力を身につける。

■成績評価基準と方法

レポート：40%
毎回の提出物（振り返りシート）：30%
授業内課題：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを提示・配布します。

【参考文献】

テーマに沿って、講義の中で随時紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業で取り扱う内容に関して、専門用語を調べたり、ミニ実験で使う簡易道具の制作をしていただきます。授業後は必ず復習を行い、授業で得た知識を自らの衣生活に反映させてその内容をふりかえりシートに反映させてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1-2時間を目安とします。

■その他

科目名	健康・医学
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	時野 香里

■講義の目的および概要

人々の健康は個々が暮らしている環境から大きな影響を受けている。それは社会、自然、職場、学習などの状況が考えられる。本講義ではストレスの多い現代において健康を維持するために重要な要素である栄養、運動、休養等について日常生活に即した身近な話題を取り上げ、健康の維持増進に必要な基礎知識の習得を目標とする。また、花粉症や生活習慣病などについても学ぶ。講義後半では学生が興味を持った疾患についてその原因・治療法・予防法などについてまとめ発表する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
教室内での講義形式とし、パワーポイントやプリントを用いて資料を視覚的に提示する。適宜出された課題についてのディスカッションを行う。
講義後半、学生が興味を持った疾患についてその原因・治療法・予防法などについてまとめ発表する。

【課題に対するフィードバックの方法】
試験・実験後にはレポートを課す。次回の講義時にレポートに記載された質問、課題等に関してディスカッションを行う。

■授業計画

- ① オリエンテーション 授業の説明
- ② ビタミンについて
- ③ ビタミンに関する定量試験
- ④ カフェインについて
- ⑤ カフェインの集中力に与える影響の実験
- ⑥ 入浴・睡眠について
- ⑦ 入浴効果をあげる実験・ストレッチを覚えよう
- ⑧ タンパク質の変性
- ⑨ 保健機能食品・サプリメント
- ⑩ 身近な疾患 花粉症・アレルギー アルコールパッチテスト
- ⑪ 身近な疾患 インフルエンザ・コロナ
- ⑫ 身近な疾患 ワクチンについて
- ⑬ 最終課題① 興味を持った疾患についての調べ
- ⑭ 最終課題② 興味を持った疾患についての調べ
- ⑮ 最終課題発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
健康の維持・増進のために必要な栄養・運動・保養の重要性について理解できる。
日常生活における病気における予防の方策について理解できる。
身近な疾患について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」と言うポリシーに基づきこの講義を通して栄養・運動・保養・疾患についての正しい知識を得る。このことは、生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得を可能とする。

■成績評価基準と方法

講義内レポート 40%
ディスカッション力 20%
最終課題発表 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
適宜、資料を配布する。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

次回講義の該当内容の参考資料等を自ら調べ読んで予習しておくこと。
各回の授業に対し授業後の復習を行うこと。

【必要な時間】

1時間程度。

■その他

薬剤師による実務経験に基づいた講義も含まれる。

科 目 名	調理実習 (応用)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・実習
担 当 者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

多種多様な目的に応じた調理知識と技術を習得することは、人間生活を豊かにし心身ともに健全な食生活をおくる上で大きな意義を持ちます。本科目では健康で自律的な食生活の実現に向けて、調理に関する基本知識と技術を習得すること、応用可能な調理手法について実習を通して実践的に学ぶことを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業はプリントを中心に講義と実習形式で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②衛生管理とレシピ考案
- ③調理の知識Ⅰ
- ④調理実習Ⅰ
- ⑤調理の知識Ⅱ
- ⑥調理実習Ⅱ
- ⑦調理の知識Ⅲ
- ⑧調理実習Ⅲ
- ⑨調理の知識Ⅳ
- ⑩調理実習Ⅳ
- ⑪調理実習Ⅴ
- ⑫調理の知識Ⅴ
- ⑬調理実習Ⅵ 行事食
- ⑭調理実習Ⅶ
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

各種食品を用いて、目的に応じた料理構成や調理手法を学び、食卓の演出等が的確に行える知識と技術について習得することを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「生活創造に必要な技能」「北海道に貢献できる能力」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

実習記録ノート 50%

小レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

実習記録ノート作成にむけて、毎回の授業内容と留意点を正確に記録し、適切に分りやすくまとめてください。また、小レポートを作成するため関連資料を収集しまとめてください。

【必要な時間】

それぞれ2時間程度が目安です。

■その他

施設設備、安全確保の観点から履修人数は12名を上限とする。

科 目 名	情報特別演習
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	小林 純

■講義の目的および概要

IT社会で活躍する人材に求められる、IT技術の基礎的な知識を問う「ITパスポート試験」の問題を中心に演習を行い、ITパスポート試験の受験準備を行うことを目的とします。

基本的にパソコンを使用する授業ではありません。コンピュータ操作能力を伸ばすための授業ではありません。IT、コンピュータに関わる社会・企業の知識や、ITの基礎的知識を得るための授業です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

分野に関する知識・トピックを説明し、そのあと演習問題にチャレンジします。コンピュータを利用した試験受験を模すために、manabaを利用します。

【課題に対するフィードバックの方法】

問題の回答については、その場で答えが出ます。成績状況や、間違いやすい問題などのフィードバックを教員から行います。

■授業計画

- ① ガイダンス
- ② 基礎理論／アルゴリズム
- ③ システム／ハードウェア
- ④ ソフトウェア
- ⑤ データベース
- ⑥ ネットワーク
- ⑦ セキュリティ
- ⑧ 企業活動
- ⑨ 法務
- ⑩ 経営戦略マネジメント
- ⑪ 技術戦略マネジメント
- ⑫ システム戦略
- ⑬ システム開発
- ⑭ プロジェクトマネジメント
- ⑮ まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① 社会で用いられているIT技術や、関連業務で必要となる知識を身につける。
- ② ITパスポート試験を受験するために必要な基礎的知識を身につけ、自主的な学習につなげることができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

小テスト・課題 70%
まとめ（模擬試験） 30%

ITパスポート試験を受験、さらに合格した場合は成績評価を考慮します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

みんなが欲しかった!ITパスポートの教科書&問題集 2022年度版
T A C 出版情報処理試験研究会【編著】 TAC出版

【参考文献】

この分野の出版物は他にも数多くあります。関心がある人はぜひ参考にしてください。

■授業外学習

【具体的な内容】

試験範囲が広範囲に及ぶため、授業のみで全範囲をカバーすることは不可能です。
そのため、一部範囲については自主的な学習が求められます。

【必要な時間】

およそ授業に対して1時間の学習が目安となるでしょう。

■その他

ITパスポート試験受験は学外の試験会場にて受験することになります。

科 目 名	ブライダル演習
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	石田 麻英子、石井 愛彩

■講義の目的および概要

ウェディングプランナーとして結婚式をプランニング・プロデュースする為に必要な知識・技能を学修し、実際に結婚式を創り上げることを実習・体感する。

ブライダルに関する知識や興味を深め、それにまつわる発想力とプレゼンテーション能力およびその発想をかたちにする行動力の向上を目指す。
またグループワークにおいての発信力やコミュニケーション能力の向上も目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教員からの配布資料とプロジェクターを用い講義形式にて基礎知識を学修後、フィールドワークとなる「模擬ウェディングパーティ」実施へ向けグループワークを進めます。各グループごとに、パーティのコンセプト決めプレゼンテーションやパーティ実施に向けた準備作業を行います。
なお、フィールドワークの「模擬ウェディングパーティ」は新郎新婦役として学生モデルをたて、実際のパーティ会場(某ホテル)を使用し会場セッティングから行い、婚礼料理を楽しみながら本格的なパーティを実習・体感できます。
ウェディングプランナーとして実務経験のある教員が知識と経験を活かし実例をあげながらプランニングの指導を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題や実習内容については授業内またはmanabaを通じて、随時指示します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②プランニングの基本
- ③演出やコーディネートの考え方
- ④チーム結成とプレゼンテーション準備①
- ⑤チームごとにプレゼンテーション準備②
- ⑥プレゼンテーション
- ⑦プレゼンテーションの結果発表とその後の作業分担
- ⑧～⑪チームごとに制作作業やプランニング
- ⑫～⑭フィールドワーク「模擬ウェディングパーティ」の施行
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

プランニングの基本知識を習得し履修生全員が協力し合い一つのテーマに沿ったウェディングシーンを創りあげること为目标とし、それを達成する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
(DP2) 【コミュニケーション能力】
(DP3) 【課題を発見し、解決する力】
(DP4) 【多様性の理解と協働する力】
(DP5) 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

各授業の課題への取組や発言状況 70%
期末レポート提出 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】 【参考文献】 → 不要

■授業外学習

【具体的な内容】

SNSやテレビ、雑誌等々からウェディングシーンに触れイメージを膨らませ、参考になりそうな材料を集めておく。

【必要な時間】

平均して事前事後で1時間程度

■その他

フィールドワーク(模擬ウェディングパーティ)の実施は2022年7月下旬の土日祝日を
予定しています。
またパーティ実施の際、飲食代金として一人¥5,500程度の自己負担金がありま
す。

2022 (令和4) 年4月1日

科目名	哲学[総カリ]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	石飛 貞典

■講義の目的および概要

哲学というと現実とかけ離れた、実用性に欠ける学問、というイメージがあるのではないのでしょうか。たしかにそういう側面もありますが、哲学的な思考には、実は実生活に役立つものがたくさんあります。物事の真の姿を探究する態度、物事を多角的に眺める複眼的思考、正しい思考の筋道や議論の仕方など、哲学の方法を具体例を通じて学ぶことで、幅広い教養はもちろん、自立して行動できる姿勢や、課題を発見しそれを解決する能力を身につけていただくことをめざします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行いますが、各回のテーマに沿った具体例について、ディスカッションや講義内での課題への取り組みを通じて、内容理解を深めていきます。また、事前に予習課題を提示しますので、事前学習としてこれに取り組んで頂くことで、講義の内容により深く興味を持って頂けるようにします。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題は翌週、総括して紹介し、解説します。希望者には個別のコメントも行います。

■授業計画

- ①哲学入門：哲学するためのセブンルール
- ②哲学のお稽古（１）：「わたし」とは誰か？
- ③哲学のお稽古（２）：「穴」は存在するか？
- ④まとめと第１回小テスト
- ⑤「心」を哲学する（１） ロボットは心を持てるか？
- ⑥「心」を哲学する（２） 他人の心は見通せる？
- ⑦「心」を哲学する（３） 「虹は七色」は当たり前？
- ⑧まとめと第２回小テスト
- ⑨「行為」を哲学する（１） 「行為」とは何か？
- ⑩「行為」を哲学する（２） 「善い行い」とは何か？
- ⑪「行為」を哲学する（３） 「正義の味方」はよい人か？
- ⑫まとめと第３回小テスト
- ⑬「命」を哲学する（１） 人の命は地球より重い？
- ⑭「命」を哲学する（２） 人間らしさとは何か？（尊厳死をめぐる）
- ⑮振り返りと期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①哲学的思考の特色や、基本的な哲学用語の意味を説明できる。
- ②自分の頭で考え、自分の意見を理路整然と展開できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

定期試験：60%
授業期間内に実施する小テスト（3回）：30%
課題提出：10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回プリントを配布します。プリントは事前にmanabaにもアップロードします。

【参考文献】

必要に応じて、授業の中で紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回、次週の講義内容に関わる予習課題を出しますので、次回までにしっかり考えておくこと。それを前提として、ディスカッションなどを行います。講義を受けた後は、事前に考えていたことが適切であったかどうか、もう一度、深く考えておくこと。

【必要な時間】

予習、復習とも2時間を目安とします。

科 目 名	キャリア特別講義
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	森 順子

■講義の目的および概要

少子高齢化やグローバル化、多様な働き方など、日々私たちを取り巻く環境は変化しています。終身雇用や年功序列の廃止、会社の業績悪化による廃業などで、就職後も転職や失業など、予期しなかった状況に直面する可能性もあります。長年社会人として働くために必要な社会の仕組みや困難を乗り越える発想力・考え方などを学び、自分らしく働くため、これからの職業人生のデザインを考えます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・講義形式とグループディスカッションやミニワーク形式
- ・特別講師による講演

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜提示・配布します。

■授業計画

- ①変化の激しい時代のキャリア形成
- ②働き方の多様性
- ③働く人の権利や組織のあり方（就業規則・福利厚生・コンプライアンス）
- ④社会で求められる人材とは
- ⑤「企業で働く際に必要なこと」（企業で求められている人材とは）
- ⑥キャリアを考える（世代別キャリア観の違い・ワークライフバランス）
- ⑦グローバル人材とダイバーシティ（日本と海外の事例比較）
- ⑧問題発見・解決の視点
- ⑨問題解決実践
- ⑩「目標の叶え方」（仕事を通して自己実現するために）
- ⑪メンタルヘルスとハラスメント
- ⑫レジリエンス（ストレスと向き合い回復力を身に付ける）
- ⑬相手も自分もプラスになるコミュニケーション
- ⑭満足のいくキャリアを創るために
- ⑮最終まとめとレポート作成

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・組織で働くために必要な情報や仕組みを理解する
- ・社会で働く際に必要な能力を身に付ける
- ・自分らしい働き方を考えるきっかけをつかみ、社会に出る前に自分の職業生活をデザインできる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎時の出席率 20%
- ②毎時の提出物 30%
- ③レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、プリントや参考資料を提示・配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・日ごろからニュースや起きていることなど動向をチェックしておく
- ・事後学習では、新しく知った単語や学んだことなどをまとめておく

【必要な時間】

資料の整理などに1～2時間程度の時間が必要となります。

■その他

実践キャリア実務士の必修科目で、キャリア教育の仕上科目です。

科 目 名	職場のコミュニケーション
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	和田 早代

■講義の目的および概要

サービススタッフとしての、サービス接遇の考え方、行動の仕方、話し方の技術を学び、接遇者としてのマナーを発揮できるようになる。また、サービス接遇検定2級の資格をめざし、1年秋学期「オフィス実務Ⅱ」で準1級ロールプレイング合格の者は、この2級合格により、2級・準1級の資格が取得できる。受験の順序は逆でも構わない。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

秘書の実務経験のある教員が、職場内外におけるコミュニケーションについて事例を紹介しながら講義します。サービス接遇検定2級のテキストを使用し、資格取得を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

検定の課題は、毎回採点します。課題については、授業内で解説するとともに、学内共有フォルダを通じて資料を配布します。

■授業計画

- ①ガイダンス、サービス接遇検定の説明
- ②過去問の解説
- ③2級検定講座1（サービススタッフの資質）（1）
- ④ " (2)
- ⑤検定講座2（専門知識）（1）
- ⑥ " (2)
- ⑦検定講座3（一般知識）（1）
- ⑧ " (2)
- ⑨検定講座4（対人技能）（1）
- ⑩ " (2)
- ⑪検定講座5（実技技能）（1）
- ⑫ " (2)
- ⑬総復習
- ⑭サービス接遇検定模擬試験、接遇用語テスト
- ⑮サービス接遇解答速報・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

職場環境に対応して即戦力となるために、対人心理を理解し、自らがホスピタリティを発揮して、相手や状況に合わせて対応ができること。また、サービス接遇検定2級を取得すること。さらに準1級の取得も目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための社会人基礎力を身に付けている学生にが浮きを授与する」に基づき、就業に必要な基本的知識と技能を修得し、社会人としての教養の獲得や社会生活のあり方を設計し、多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身に付けます。

■成績評価基準と方法

サービス接遇検定問題集の解答提出60%
接遇用語集の提出20%
その他提出物20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

実務技能検定協会「サービス接遇検定公式テキスト2級」1200円

【参考文献】

実務技能検定協会「サービス接遇検定実問題集」

■授業外学習

【具体的な内容】

今回の授業範囲について、専門用語の意味などをノートにまとめてきてください。また、毎回の授業内容の復習問題を冒頭で出題します。必ず前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

サービス接遇検定2級は、本学を会場に6月に実施予定です。
サービス接遇検定2級の受験料は3900円

科目名	課題解決演習Ⅰ
開講期・単位	2年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	和田 早代、和久田 紗恵子、石田 麻英子、石川 智寛

■講義の目的および概要

学科の学びの集大成として、今までに学んだことを生かすための授業です。与えられたテーマの下で課題を見つけ、それを解決するために、自分たちの力でできることを探し、提案、実行します。課題解決演習Ⅰでは、まずプロジェクト学習の基本と手法を押さえ、この授業がどのような効果を意図しているのか、どのような力を育成しようとしているのかを踏まえたうえで、チームを組み他者との協働により実施します。課題解決Ⅰ終了時においては、ゴールを決め、計画書を作成し、ある程度実施を進め、報告できることが、最低限の目標になります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークが中心 情報収集、ディスカッションをする
活動状況を、教員や他チームにわかりやすいように報告する発表を行う

【課題に対するフィードバックの方法】

担当教員を上司に見立て、チームの活動＝仕事についての報告・連絡・相談をし、成果を認めてもらう形式となる。

■授業計画

- ①オリエンテーション、今年度のプロジェクトについて
- ②プロジェクトの進め方、有効な機能とその使用について
- ③提出物、様式、予算執行方法、活動時間の計時ルール、成績評価の基準などを確認
- ④@ディスカッションプロジェクト開始（プロジェクトごとの実施）目的の共有
- ⑤@グループワークプロジェクトの運営上使える知識スキル
- ⑥ハウレンソウとチームワーク、効果検証の方法
- ⑦@グループワーク プロジェクト活動
- ⑧@グループワーク プロジェクト活動
- ⑨@グループワーク プロジェクト活動
- ⑩@グループワーク プロジェクト活動
- ⑪@グループワーク プロジェクト活動
- ⑫@グループワーク プロジェクト活動
- ⑬@グループワーク 中間報告に向けたまとめ
- ⑭中間報告とフィードバック
- ⑮@グループワーク、ディスカッション ピア評価と秋学期に向けて

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

チームでの自分の役割を意識し貢献できる
プロジェクトの進め方と効果検証の方法について理解する
テーマに対する理解を深め実現可能な解決策を立てる
スケジューリング、タスクマネジメント、報連相などの基本的な仕事の技術を活用できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力
DP3 課題を発見し、解決する力
DP4 多様性と協働する力
DP5 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

個人提出物 （アクション記録、個人レポート他） 50%
グループ提出物 （中間報告、提出物、ピア評価他） 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは設定しません。配布物や重要書類を格納するためのファイルなど個人で用意してください。配布資料、アクションシートなどはA4 2つ穴あきの状態でお渡しします。

【参考文献】

「課題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手法」鈴木敏恵著
教育出版

■授業外学習

毎回の授業前には授業時間以外でプロジェクトの情報を収集したり、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、その完成作業を授業外でもってもらうことになります。

【必要な時間】

事前事後、最低でも1時間以上の時間がかかります。

■その他

社会は目まぐるしく変化しています。変化に対応できる準備はできていますか？その準備がこの授業です。プロジェクト活動は苦勞しただけ力がつくものです。苦勞、失敗をたくさん経験してください。

科目名	課題解決演習Ⅱ
開講期・単位	2年 秋学期・必修 1単位・演習
担当者	和田 早代、和久田 紗恵子、石田 麻英子、石川 智寛

■講義の目的および概要

課題解決演習Ⅰから継続して活動を行い、最終成果の発表に向けて活動します。企画を再構築したり、効果検証を行い、完全なものにするための工夫を継続します。チームでの活動をととして、協働する意味、役割を認識し、最後までやり遂げる大切さを学びます。活動をととして、今後、社会生活において起こり得る様々な問題に対応できる力を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワーク、ディスカッション、発表を行う。
フィールドワークを行い記録を残す
まとめと成果物の作成を通じた取り組みへの反省を発表する

【課題に対するフィードバックの方法】

担当教員によるチェックとフィードバックは、授業内で適宜行う。

■授業計画

概ね、以下のように進めます。

1. @グループワーク 課題解決演習Ⅰでの内容、スケジュールの再確認
2. @グループワーク 個人スケジュールを勘案した実行計画の整理
3. @アクティビティ プロジェクト活動
4. @アクティビティプロジェクト活動
5. @アクティビティプロジェクト活動
6. @アクティビティプロジェクトの実行・運営
7. @アクティビティプロジェクトの実行・運営
8. @アクティビティプロジェクトの実行・運営
9. @アクティビティプロジェクトの実行・運営
10. 効果検証
11. 効果検証
12. @グループワーク成果発表に向けた準備
13. @グループワーク成果発表に向けてのポスター完成
14. 成果発表
15. 全体振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① チームでの自分の役割を意識し、他者への配慮を忘れず組織的に動くことができる
- ② 課題を最後までチームで遂行するための技術と力を身につける
- ③ 進捗状況を明確にし、期日までに予定された仕事を完遂することができる
- ④ プランの適切な効果検証を行い、改善に向けた提案ができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力
DP3 課題を発見し、解決する力
DP4 多様性と協働する力
DP5 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

個人提出物 (アクション記録、最終レポートなど) 50%
グループ提出物 (最終ポスター、発表、ピア評価、成果物など) 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは設定しません。配布物や重要書類を格納するためのファイルなど個人で用意してください。
配布資料、アクションシートなどはA4・2穴あきの状態でお渡しします。

【参考文献】

「課題解決力と論理的思考力が身につくプロジェクト学習の基本と手法」鈴木敏恵著
教育出版

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業前に、授業時間以外でプロジェクトの情報収集や、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、授業外にその完成作業をしてもらうことになります。

【必要な時間】

授業時間では間に合いませんので、前後に最低でも1時間以上の準備時間は必要です。

■その他

また、長期休暇中に継続してプロジェクトを進めておくことで、後で時間に追われず、満足いく成果を上げることができるでしょう。

科目名	北海道のフードビジネス
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	遊佐 順和

■講義の目的および概要

食のライフスタイルは多様化し、専門性や快適性が追求される中、フードビジネスの世界は年々専門性や高度化を増し、競争が激化している。本講義の目的は、フードビジネスの意義・歴史・環境変化などを学び、海山の恵みや豊かな大地で育まれる北海道食材に関する基本知識を学習し、フードビジネスに対する理解を深めることです。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は配布するプリントを中心に講義形式で行うが、学習内容への理解を深め問題意識を高めるために、演習形式でグループワークやディスカッションも取り入れて実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜提示・配布します。

■授業計画

授業は、概ね以下のとおりに実施します。

- ①オリエンテーション：授業の概要説明
- ②フードビジネスの意義
- ③フードビジネスの歴史Ⅰ（消費者の食ニーズ）
- ④フードビジネスの歴史Ⅱ（外食ビジネスの成立と特徴）
- ⑤食卓におけるプロトコール
- ⑥北海道が育む和食文化
- ⑦北海道産の魅力ある加工食品
- ⑧食やジビエによる地域振興の取組み
- ⑨異業種からのフードビジネス参入
- ⑩農業生産者による6次産業化の取組み
- ⑪フードビジネスに特化する宿泊産業
- ⑫食品衛生とマネジメント
- ⑬グループワークⅠ（ディスカッション）
- ⑭グループワークⅡ（プレゼンテーション）
- ⑮振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①北海道の食材や加工品に対して、基本的な内容を理解できるようになる。
- ②多様化する消費者の食に関するニーズやウォンツを理解できるようになる。
- ③専門化、高度化するフードビジネスの現状を理解することができるようになる。
- ④今後の課題や可能性を考察し、自分の考えを第三者に伝えることができるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP6) 社会に貢献する力

■成績評価基準と方法

- ①定期試験 50%
- ②授業内課題 20%
- ③授業内プレゼンテーション 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料を提示・配布します。

【参考文献】

必要に応じて適宜配布します。

■授業外学習

【具体的な内容】

＜予習＞ 授業で取り扱う内容に関し、毎回事前に新聞やニュース番組などを利用して、自ら積極的に触れておくこと。

＜復習＞ 各回の授業で取り扱った内容に関し、講義内容をしっかりと復習するとともに、図書館の関連書籍やインターネットなどを活用して深く調べ、それぞれの内容をまとめておくこと。

【必要な時間】

予習・復習にそれぞれ1時間必要になります。

■その他

科 目 名	レシピ研究と実践
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

様々な料理レシピ情報が簡単に手に入る現代社会の中で、レシピについて正しく理解し、実践できる力は健康的な食生活を形成するうえでとても大切です。本科目では調理実習を通して、食材が調理を経て料理になるまでの手順を理解しながら、テーマに沿ったレシピを考え、オリジナルレシピを作成します。調理実習を行いながら、より良いレシピ作成のためにレシピを活用する人の立場になり考え研究するとともに、レシピ通りに調理する実践力をはぐくむ科目です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義と実習形式で展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題等については授業内で解説する。

■授業計画

- ①レシピの成り立ちについて
- ②レシピのテーマについて
- ③メニュー考案
- ④レシピ案作成
-
- ⑤試作準備・食材の調達
- ⑥試作
- ⑦試作
- ⑧レシピ案修正・栄養価計算・価格計算
-
- ⑨試食会準備
- ⑩試食会準備・レシピ用写真撮影
- ⑪試食会と評価
- ⑫レシピ修正
-
- ⑬レシピ仕上げ・完成
- ⑭レシピ完成
- ⑮印刷・製本

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

食材が料理になるまでの手順を理解することができる。レシピを活用し、正しく料理できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「生活創造に必要な技能」「北海道に貢献できる能力」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

レポート：40%
 レシピ：40%
 発表：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト・参考文献】

レシピや食材、調味料に関する書籍等。

■授業外学習

【具体的な内容】

レシピ研究の過程をまとめ、復習してきてください。予習のテーマは授業内で提示します。日頃から、「こんなレシピがあったら良いな」とレシピに興味を持ち、料理を見て調理過程を想像して生活してみましょう。

【必要な時間】

それぞれ1時間程度が目安です。

■その他

調理実習（基本）を受講していることが望ましいです。

科 目 名	オフィス演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	和田 早代

■講義の目的および概要

一人の社会人として、ビジネス全般についての知識やビジネスマナーを身に付けることを目的としています。ビジネス現場全般についての理解と、人と情報のネットワークを良く知り、一人のビジネスワーカーとして活躍するための知識と技能を学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

理論に対する実務的アプローチを、一人の秘書の事例を中心にストーリーを構成し、それをもとに学習します。秘書の実務経験のある教員が、事例を豊富に提供しながら理論と実務で進めていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

評価基準となる課題については、その評価を個別に示します。
学生からの質問については、授業の始めに全体へ向けて答えます。

■授業計画

- ①ガイダンス、秘書の役割と仕事
- ②スケジュールリング
- ③メディカル秘書の役割
- ④基本業務と人間関係
- ⑤感じの良い人になる（非言語と言語）
- ⑥基本的なコミュニケーション力を考える
- ⑦チームワークを養う
- ⑧中間まとめ
- ⑨応対演習
- ⑩出張のコーディネート
- ⑪会議のコーディネート
- ⑫慶弔・贈答のコーディネート
- ⑬文書業務・情報管理
- ⑭オフィス業務実践演習
- ⑮試験と解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①上司とのコミュニケーションを実践できる。
- ②人と情報のコーディネートができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立して生きていくための社会人基礎力を身に付けている学生にが浮きを授与する」に基づき、就業に必要な基本的知識と技能を修得し、社会人としての教養の獲得や社会生活のあり方を設計し、多様な人々と協働するためのコミュニケーション能力を身に付けます。

■成績評価基準と方法

レポート50%
オフィス業務実践演習20%
その他提出物30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

プリントを配布します。

【参考文献】

「新しい時代の秘書ビジネス実務」全国大学実務教育協会、紀伊國屋書店
「新しい時代の秘書ビジネス論」〃〃

■授業外学習

【具体的な内容】

学科での学びを保証するためビジネススキル等の目標バーを越えることを目的としています。目標をクリアするために、事前事後で1時間以上の授業外学習が必要です。テストをクリアするまで何度も挑戦します。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

科 目 名	調理実習(基本)
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・実習
担 当 者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

多種多様な目的に応じた調理知識と技術を習得することは、人間生活を豊かにし心身ともに健全な食生活をおくる上で大きな意義を持ちます。本科目では健康で自律的な食生活の実現に向けて、調理に関する基本知識と技術を習得することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業はプリントを中心に講義と実習形式で展開します。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション アレルギー調査・演習
- ②調理の基本知識Ⅰ
- ③調理の基本知識Ⅱ
- ④調理手法の基礎知識Ⅰ
- ⑤調理手法の基礎知識Ⅱ
- ⑥調理実習Ⅰ
- ⑦献立作成の基礎知識
- ⑧献立作成演習
- ⑨調理実習Ⅱ
- ⑩振り返り・栄養価計算
- ⑪献立作成演習
- ⑫調理実習Ⅲ
- ⑬振り返り・栄養価計算
- ⑭献立作成演習
- ⑮調理実習Ⅳ・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

調理時に大切な衛生管理を理解すること。調理器具の種類や取り扱い方について理解すること。料理構成や調理手法を学び、献立作成ができるようになることを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「生活創造に必要な技能」「北海道に貢献できる能力」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

実習記録ノート 50%

小レポート 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

■授業外学習

【具体的な内容】

実習記録ノート作成にむけて、毎回の授業内容と留意点を正確に記録し、適切に分りやすくまとめてください。また、小レポートを作成するため関連資料を収集しまとめてください。

【必要な時間】

それぞれ2時間程度が目安です。

■その他

施設設備、安全確保の観点から履修人数は12名を上限とする。

科 目 名	生活文化
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	和久田 紗恵子

■講義の目的および概要

私たちの生活環境、社会環境はめまぐるしく変化しているが、長い歴史の中で培われてきた日本の伝統的な生活文化について知識を深めることはとても大切です。本科目では、社会生活を送る上で必要な生活文化に関する基礎知識と歴史的由来について学習し、自らが文化の作り手、担い手であることを意識できるようになります。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義形式と演習形式を適宜組み合わせで行います。課題に基づいたグループワーク、ディスカッション等も取り入れます。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたレポートや課題については授業内で解説します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②日本の食文化～和菓子～講義・演習
- ③日本の食文化～和菓子～発表
- ④生活と仕事～ライフワークとライスワーク～
- ⑤日本の衣文化～着物～
- ⑥日本の衣文化～私の衣生活～
- ⑦日本の住文化
- ⑧日本の食文化～どこから来て、どこへ行くのか～
- ⑨日本の食文化～和食～
- ⑩日本の食文化～語り継ぎたい、家の味～
- ⑪日本の文化～行事と花～
- ⑫振り返り
- ⑬ポスター作成
- ⑭ポスター作成
- ⑮発表とまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

より豊かな生活を送るために日本の生活文化に関する基本的な知識と特徴を理解すること、日常生活の中にある「生活文化」を知り、その在り方について、考察することを目標とする。生活文化について学び、今後の自分たちが新たな生活文化を作っていくという意識をもって生活できるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

学位授与の方針である「生活創造に必要な基礎的知識」「生活創造に必要な技能」「広い視野と望ましい社会人としての教養」を育成する科目である。

■成績評価基準と方法

提出物：50%

ポスター発表：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献】

日本の伝統文化、年中行事に関する書籍等

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業内容をまとめ、復習をしてください。予習のテーマは授業内で提示します。日頃から、自分の送りたい生活、日常の中の「文化」を意識して生活してみましょう。また、異文化生活の授業の学びを振り返っておくと良いでしょう。

【必要な時間】

1時間程度

■その他

科 目 名	異文化生活
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担 当 者	石田 麻英子

■講義の目的および概要

、本講義では映画、ドラマなども参考に、行事、食文化など海外の生活文化を通して日本と異なることに関して理解を深めながら、文化を理解することを目指す。異文化について学び、視野を広げることのほかに、伝統として守られている価値観に気づくことを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

主に講義スタイルだが演習形式も取り入れる。
導入やまとめとしてグループワークを行う。
学生は毎回の授業に関して短いコメントを書く。

【課題に対するフィードバックの方法】毎回の授業中は学生がコメントを書き、数回は教員がチェック・評価してから学生に戻す。

■授業計画

- ① オリエンテーション
- ② 生活の中の異文化
- ③ 「残す」ということ「残る」ということ
- ④ 映画の中に見る異文化
- ⑤ 映画の中に見る異文化
- ⑥ 世界の祝祭
- ⑦ 世界の祝祭
- ⑧ 中間レポート
- ⑨ 世界の食文化
- ⑩ 世界の食文化
- ⑪ 世界の食文化
- ⑫ 異文化の需要と衝突
- ⑬ 世界の中の日本文化
- ⑭ 世界の中の日本文化
- ⑮ まとめとフィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①異文化の芸術や自然に対する考え方を学ぶ
- ②過去と現在を結ぶ文化的要素に気づく
- ③考える力とコミュニケーションスキルを伸ばす

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

DP1 専門知識・技能を活用する力
DP4 多様性と協働する力

■成績評価基準と方法

毎回のサマリー(コメントシート)	30%
中間レポート	30%
期末テストフィードバック	40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

教員による資料・プリントの配布

【参考文献】信憑性の高い資料を読むこと。データならソースをはっきりわけて、他と比較できるもの。ニュースや教育番組の観賞。雑誌やガイドブックの一部を使うことができる。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で配布された資料、また教員にチェックされた自分のコメントやレポートを再び読み、必ず復習を行うこと。授業で使われる予定の内容について、参考文献・新聞やニュースなどで積極的に予習を行い、分析や総合的な考え方を養うこと。各回の授業で紹介されたトピックスについてさらに深く調べ、ワークショップなどに生かし、ノートでまとめること

【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

毎回授業前に前回の授業の復習をし、授業内で積極的に質問やコメントを述べること。授業後は、配布された資料を読み、授業での「ここは大事」だけではなく、自分が興味を持ったことに関してさらに調べる。

科目名	女性と人生
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	石田 麻英子

■講義の目的および概要

女性という立場を選んで生きるうえで、ライフイベントなどにより、人生は大きく揺れ、その都度、迷い、選択することが発生します。自身の人生において、短大生活2年間が持つ意味を考え、様々な生き方について学び、現実の社会について知り、既成概念にとらわれず、自分で考え選択することについて考察します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で授業を進めますが、質問を向けたりして双方向授業になります。また、課題についてグループを作りディスカッションをしてより掘り下げて考察をします。

【課題に対するフィードバックの方法】

評価基準となる課題については、その評価を個別に示します。
学生からの質問については、授業の始めに全体へ向けて答えます。

■授業計画

1. 女性とは。
2. 幸せを考える 日本社会と女性（ディスカッション）
3. 歴史、文化と女性：自己肯定、美
4. 現実社会に照らしたディスカッションと意見形成
5. 現実社会に照らしたディスカッションと意見形成
6. 発表
7. ヒロインたちに学ぶ生き方
8. ヒロインたちに学ぶ生き方
9. 発表
10. 私たちの今までとこれから ディスカッションと準備
11. 私たちの今までとこれから ディスカッションと準備
12. 私たちの今までとこれから 発表：幼児教育保育学科とのコラボ授業
13. 家庭、子育てと、私たちの生き方：幼児教育保育学科とのコラボ授業
14. 予期せぬシナリオ、それでも前を向いて生きるために
15. レポート課題の共有、まとめ、振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①女性として生きることについて自分の意見を確立する。
- ②仕事と生活のバランスのとり方について自分なりのポリシーを確立する。
- ③経済的自立と精神の自立の関係を理解できる。
- ④自分の人生を振り返り、未来に向けて自信をつける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
DP3 課題を発見し、解決する力
DP4 多様性と協働する力

■成績評価基準と方法

提出物（課題シート、毎回の提出シート）・・・40%
レポート・・・40%
アクティビティ（ワークシートで判断）20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回、資料を配布します。

【参考文献】

授業内で適宜紹介します

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・毎回、前回の授業内容の復習、確認をします。提出物で指摘されたところの訂正をします。
- ・次週の課題が出ますので、必ず取り組んでくることが求められます。
- ・授業の課題のために、授業外で映画を見たり、本を読んだりしていただくことがあります。

【必要な時間】

事前・事後学習の時間は2時間を目安とします。

■その他

科目名	現代生活と福祉
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担当者	鈴木 道代

■講義の目的および概要

本講義の目的は

- ①現代生活における社会福祉の役割を理解する
- ②それを必要とする生活とはどのような状況であるのかを理解する
- ③社会福祉の考え方、様々な社会福祉法制の仕組み、サービス体系について理解する以上を通して、受講生の生活における社会福祉の考え方、その必要性等について受講生自身の考えを持つことを目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・講義形式(パワーポイントスライド)で展開(撮影禁止)
- ・DVD視聴
- ・学生に意見を求めディスカッション形式(可能な範囲で)

【課題に対するフィードバックの方法】

講義開始時に、事前・事後学習課題、リアクションペーパーに対するコメントをし学生と意見を共有する。

■授業計画

- ①オリエンテーション、社会福祉とは何か
- ②社会福祉の対象と利用形態
- ③社会福祉の仕組みと生活
- ④社会福祉の援助方法1～社会福祉の専門職と視点
- ⑤社会福祉の援助方法2～社会福祉で活用する技術
- ⑥現代社会の変化
- ⑦第1回から第6回のまとめ・中間テスト
- ⑧児童家庭福祉1～児童福祉の理念、児童虐待の現状と児童養護施設
- ⑨児童家庭福祉2～ひとり親家庭の現状、特別養子縁組
- ⑩障害児・障害者福祉～障害、ノーマライゼーション、合理的配慮
- ⑪低所得者福祉1～貧困概念、貧困の連鎖、子どもの貧困
- ⑫低所得者福祉2～生活困窮者自立支援制度、生活保護制度
- ⑬高齢者福祉1～高齢者をめぐる家族問題、介護保険制度
- ⑭高齢者福祉2～高齢者の身体的・精神的特性
- ⑮第8回から第14回のまとめ・授業内期末試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①社会福祉に関する知識を理解し、説明することができる。
- ②社会福祉を必要とする対象者の生活状況を理解し、説明することができる。
- ③現代生活における社会福祉の必要性について説明することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

- ①事前・事後学習の内容(リアクションも含む)、提出状況、授業への取り組み方(20%)
※授業への取組方：授業内私語で注意された場合、氏名を確認の上マイナス1点とする。
※大学側の許容する特段の事情がない学生が、パワーポイントスライドを撮影した場合、氏名を確認の上マイナス10点
- ②中間テスト(30%)
- ③授業内期末テスト(50%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
特になし。ノート代わりのプリント配布（各自で保存すること）。

【参考文献】
山縣文治ら編（2013）『社会福祉用語辞典第9版』ミネルヴァ書房。
鈴木幸雄編（2012）『現代の社会福祉』中央法規。
鶴 幸一郎、藤田 孝典、石川 久展ほか（2019）『福祉は誰のためにーソーシャルワークの未来図』へるす出版。

■授業外学習

【具体的な内容】
・事前学習（予習）：毎週提示するキーワードを調べ、理解する。
・事後学習（復習）：事前学習で調べたキーワードの内容と講義内の内容、日常的に見聞する社会福祉の事象を関連づけられることが望ましい。

【必要な時間】
・事前学習・事後学習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・講義内で意見を求められた場合には積極的に答えてください。
- ・携帯電話の使用を禁じます。
- ・私語等授業妨害とみなす行為をした学生には退出してもらいます。
- ・大学側の許容する特段の事情がない学生によるパワーポイントスライドの撮影は禁じます。
- ・講義の展開上、席の移動を求められた場合には、速やかに行動してください。
- ・出欠確認はresponで行います。
- ・事前・事後学習の提出はmanabaとなります。

科目名	Office English
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	竹内 康二

■講義の目的および概要

実際の職場で発揮できる英語運用力を高めることを目的とします。具体的には、同僚との打ち合わせ、顧客への応対や電話での応答、またスケジュール管理など、職場での様々な場面を想定して、円滑なコミュニケーションができるように、英語の表現を身に付けます。そのため、ペアワークやグループワークなどに積極的に参加しようとする意欲が大切です。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に演習形式で行います。授業毎に職場の場面を設定し、その場面に適した会話表現の演習をしていきます。Procedureは①会話表現・語彙演習②リスニング③ペアワーク・グループワーク④リーディング⑤ライティング⑥まとめとなります。教科書の表現をただ暗記するのではなく、場面に即して表現の範囲を広げていくことが大切です。

【課題に対するフィードバックの方法】

manabaによって毎授業毎小テストを課し、その注意点は次の授業で振り返ります。また、中間テスト、期末テストでは口頭で英語表現を発表し、互いにその成果を確認します。

■授業計画

- ①オリエンテーション 学習方法と内容 Unit1 Introduction
- ②Unit2 Telephone Calls
- ③Unit3 Making an Inquiry
- ④Unit4 Making an Appointment
- ⑤Unit5 Receiving a Visitor
- ⑥Unit6 Invitations
- ⑦Unit7 Presentations 1
- ⑧Review & Mid-term Test Oral Test: Telephone Calls/Schedule Management
- ⑨Unit 8 Presentations 2
- ⑩Unit 9 Presentations 3
- ⑪Review: Presentations
- ⑫Unit10 Online Meetings
- ⑬Unit11 Negotiations
- ⑭Unit12 Placing an Order
- ⑮Final Review & Final Exam Oral Test: Presentation

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】職場で英語による基本的なコミュニケーションを運用できる。グローバルな時代に適応した、顧客への対応、電話の受け答え、メールのやりとりなどの基本的な会話表現を適切に使用できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内期末試験50%、中間試験30%、小テスト20%。なお、期末、中間試験には会話実技を含む。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

Tae Kudo, Successful Office English. Cengage Learning. ISBN:978-86312-343-4

【参考文献】

公式TOEIC L&Rトレーニング リスニング編・リーディング編など

■授業外学習

【具体的な内容】

毎時間、授業終了後にmanaba により小テストを行います。授業中にポイントとなる英語表現や語彙を場面ごとにまとめておきましょう。また毎授業の冒頭に前回の授業で学んだ会話表現を確認し、練習をしますので、しっかりノートにまとめておくことが必要です。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

授業中にペアワークやグループワークを行いますので、学習の効果が上がるように積極的に主体的な学習活動に参加しましょう。

科目名	Customer Service English
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	エレナ フォルトゥナート、石田 麻英子

■講義の目的および概要

国際化する社会において、外国人のお客様にとっさに対応できるように、必要な英語を学び、準備をするための科目です。基本的な表現を身につけ、場面や状況に応じて応用できるように、実際に練習を重ね、「職場に一人は欲しい英語を使えるスタッフ」として自信をもって積極的に接客できる人材を目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式を挟みつつ、演習形式をメインで行います。場面を想定し、自分たちで必要な表現を集め、実際に実演してみるロールプレイ（グループ）を重ね、指導を受けながら自分専用の表現集を完成させてもらいます。自分で作った試験問題で自分をテストしてもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

ロールプレイ後に個別にコメントアドバイスを行う

■授業計画

- 1 オリエンテーション 外国人のお客様
- 2 @ロールプレイ 基本的な表現 来店からお見送りまで
- 3 @ロールプレイ 場面の想定 想定されるお問い合わせ洗い出し
- 4 @ロールプレイ パターンの設定と流れの確認
- 5 基本ストーリーの作成と原稿の完成
- 6 実演とフィードバック
- 7 あらかじめ準備しておくこと メニュー、説明書、看板
- 8 あらかじめ準備しておくこと 販促POP チラシ
- 9 @アクティビティ 場面別 POPや説明書き、メニュー等の作成
- 10 私の職場で使う表現
- 11 ツールの作成と単語帳の完成
- 12 テスト問題を作ってみよう ストーリーの設定
- 13 @ロールプレイ あったら便利、自分専用マニュアル完成に向けて
- 14 実演試験と筆記試験
- 15 フィードバックとマニュアルの完成

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

職場に外国人の方が来た時にうろたえず対応できる準備をする。
自分が仕事をするフィールドにおいてよく使われる表現を確認し、すぐに使えるように準備をしておく。自分専用のマニュアルを作る

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP1 専門知識・技能を活用する力
DP2 コミュニケーション能力
DP5 能動的に学び続ける力
DP6 社会に貢献する力

■成績評価基準と方法

フィードバックフォーム 30%
積み上げ式期末課題（自分マニュアル）40%
実演 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に使用しません。

【参考文献】

関連書籍は複数市販されています。参考資料のURLは授業内で指示いたします。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業の資料をまとめ復習すること。次回用に課せられた予習課題をクリアしておくこと。

【必要な時間】

予習復習合わせて、最低でも1時間はかかります

■その他

何より、英語を「声に出す事」に慣れていてください。メモを見ながらでも、熱心に伝えることが重要です。

この科目は★★～★★★★レベルです。★、★★の科目を事前または同時に受講し、準備をしておきましょう。

科目名	Travel English
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	エレナ フォルトゥナート

■講義の目的および概要

街歩きを通して英語を話すことに慣れる。
 インバウンドの観光客を案内するうえで必要な技能を上達させる。
 異文化への理解を深め、コミュニケーション方法を学ぶ。
 To practice speaking English through some field trips.
 To improve the skills necessary to guide inbound tourists.
 To deepen the purpose and outline of cross-cultural lectures and learn communication methods.

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】Method
 演習のための準備学習を通して実用的な観光英会話や実践力を身につける。ワークシートやグループワークなどのアクティビティを通して外国人向けツアープランの作成をしながら文化を学ぶ。
 Learn practical tourism English conversation and practical skills. Through activities such as worksheets and group work, learns how to make plans for foreigners to learn the towns and cities.

【課題に対するフィードバックの方法】
 学生はミニプレゼンテーションの準備のため、講義内容や課題を復習する。講師がそれぞれの課題についてフィードバックを行う
 Students review lecture content and assignments to prepare for a mini-presentation. Teachers give feedback on their assignments.

■授業計画

1. Orientation, Introductions
2. Basic Questions about Travel Plans
3. Thinking about Travel Destination
4. Research about a spot and planning field trip1
5. Script Writing Check
6. Mini Presentation Practice
7. Field Trip1 Guiding Practice
8. Research about a spot and planning field trip2
9. Script Writing Check 10. Script Writing Check
10. Mini Presentation Practice
11. Field Trip2 Guiding Practice
12. Research about a spot and planning field trip3
13. Script Writing Check
14. Mini Presentation Practice
15. Field Trip 3 Guiding Practice

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
 日常生活や将来の仕事に使えるよう英語の知識と能力を身につけ、継続的にスピーキング練習やテーマに沿ったアクティビティを通して英語の基礎力を高める。
 Acquire English knowledge and abilities so that you can use them in your daily life and future work, and continuously improve your basic English skills through speaking practice and thematic activities.

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
 (DP1)知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP5)能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

課題:20%
 リサーチ:20%
 スクリプト: 30%
 町の案内: 30%

Assignment 20%
 Research 20%
 Script 30%
 Guide practice 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に無し

No text book. Materials will be provided by the teacher

【参考文献】

特に無し

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回授業の始めに前回の授業の復習として質問をしますので、1時間の復習をして授業を受けてください。宿題とミニプレゼンテーションの練習も含め、復習を1時間程度行ってください。

At the beginning of each lesson, we will review the question as a review of the previous lesson, so please review and study for 1 hour before the lesson. Please do the review for about 1 hour, including homework and mini-presentation lessons.

【必要な時間】

Please do the review for about 1 hours, including homework and mini-presentation lessons.

■その他

予習をすることで学習効果が上がりますので、しっかり予習をすることをお勧めします。

It is recommended that you prepare well, as the learning effect will increase by preparing for it.

科 目 名	ビジネスマネジメント
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担 当 者	河田 真清

■講義の目的および概要

- ・中小企業診断士として、数多くの企業の経営課題解決に当たった実務経験のある教員による実践的な授業です。企業支援の事例や経験を授業に反映させながら進めます。
- ・経営資源（人、物、金、情報）やリスクを管理し経営効率を最大化するビジネスマネジメントに必要な具体的基礎理論（経営学）や手法について身近な事例により皆さんと一緒に考えていきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・講義方式を展開しますが、適宜皆さんに質問し、色々な意見を聞きながら一方的にならない様に留意します。
- ・毎回、講義の最後に課題を出しますので取り組んでもらいます。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・提出して頂いた課題により講義の理解度をチェックし、次の講義に反映させていただきます。課題は次回の講義で、講師から総評させていただきます。

■授業計画

- ①ビジネスマネジメントとは～ガイダンス～
- ②企業の機能と組織について
- ③いろいろな企業形態、株式会社とは何か
- ④経営を数字から見てみよう（１）経営数字の基礎
- ⑤経営を数字から見てみよう（２）資金を集めるには
- ⑥企業の中で人の管理（１）人事労務管理とは
- ⑦企業の中で人の管理（２）人から組織へ
- ⑧ものづくりの基本（１）生産管理とは
- ⑨ものづくりの基本（２）仕事のカイゼン
- ⑩売れる仕組みをつくろう（１）マーケティングの基本
- ⑪売れる仕組みをつくろう（２）マーケティング戦略のいろいろ
- ⑫経営者の役割（１）経営戦略を考える
- ⑬経営者の役割（２）経営戦略から経営計画へ
- ⑭企業の社会的責任と環境経営について
- ⑮まとめ、最終課題策定

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ビジネスマネジメントとは何かを自分の言葉で語れ、他の教員や企業関係者とも共通の言葉で会話ができるようになることを目標とします。
- ・自分の身近なアルバイトや部活、ゼミ活動の中で「ビジネスマネジメント」の手法で体系的に組織を見て、課題解決に使えるようにすることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- ・社会に出たとき、会社に入ったとき、創業するときなど、多様な場で自立した職業人として活躍できる実務能力を身につけるために「ビジネスマネジメント」の専門知識や考えを修得します。

■成績評価基準と方法

毎回授業時の課題提出 20%
 中間課題 30%
 授業内定期試験50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

事前にプリントを配布します。

【参考文献】

周佐喜和 他『経営学Ⅰ 企業の本質』（実教出版）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・毎回の授業の冒頭で、前回の授業内容につき指名して質問しますので、必ず前回の授業内容を復習しておいて下さい。
- ・日常生活の中でも最近の企業の動き、情報をニュースや新聞、ネット等から授業に関係する言葉や情報などを調べる習慣をつけるよう心掛けてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

科 目 名	医薬・販売
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担 当 者	時野 香里

■講義の目的および概要

平均寿命が長くなり生活習慣病などが問題となってきた現代、日々をいかに健康に生きるかが問われ「自分自身の健康に責任を持ち軽度の身体の不調は自分で手当てしていこう」と言うセルフメディケーションの意識が高まっている。このような時代の中で注目されるのが登録販売者である。登録販売者はドラッグストアやコンビニエンスストアなどで薬剤師が不在でも一般用医薬品（第2類・3類）の販売ができる専門家のことである。本講義では一般医薬品の成分や薬効、人体の仕組み、医薬品に関する法律などを学ぶことによりセルフメディケーションの理解を深める。また、薬の副作用が起きた場合の専門家としての義務、国からの保障などの仕組みについても学ぶ。これらの知識は登録販売者資格試験の試験範囲を網羅するものとなっている。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

スライドを用いた講義形式で行う。教科書のほか、要点をまとめたプリントを配布するので講義を聞きながらプリントを埋めていくことで授業内容の定着を図る。スマートフォン教材や実際の医薬品を用いる場合、現職薬剤師として実務経験のある教員が、実際に接客するような形で能動的な学習も行う予定である。単元ごとのまとめとして確認チェック問題を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

学習した内容の過去問題を課題とする。次回の授業までに解答、自己採点したものを提出してもらい、次回講義内で疑問点について解説を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の単元毎に課題が提示され、次の授業で課題の正答が示します。自己採点をし全体解説を聞き必要に応じてテキストチェックを行います。課題は全単元において行われ学びの定着を図ります。

■授業計画

- ①オリエンテーション・医薬品に共通する特性と基本的な知識①
- ②医薬品に共通する特性と基本的な知識②
- ③医薬品に共通する特性と基本的な知識③とここまでの確認テスト
- ④人体の構造と働き①
- ⑤人体の構造と働き②
- ⑥人体の構造と働き③
- ⑦人体の構造と働き④とここまでの確認テスト
- ⑧医薬品の適正使用安全対策①
- ⑨医薬品の適正使用安全対策②
- ⑩医薬品の適正使用安全対策③
- ⑪医薬品の適正使用安全対策④とここまでの確認テスト
- ⑫主な医薬品とその作用①
- ⑬主な医薬品とその作用②
- ⑭薬事関係法規、制度①
- ⑮薬事関係法規、制度②とここまでの確認テスト

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

①セルフメディケーションについて説明できる、登録販売者資格試験にも対応できる知識(医薬品に共通する特性と基本的な知識、人体の構造と働き、医薬品の適正使用安全対策、一般用医薬品の成分や薬効、薬事関連法規)の知識を見につけることができる。②希望者は登録販売者試験を受験し合格を目指すようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身につけ多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」というポリシーに基づきこの講義を通して病気や薬についての正しい知識を得る。このことは、生活創造と就業に必要な基礎的知識、技能およびそれを基にした専門知識、技能を修得を可能とする。この結果、登録販売者を目指し病院薬局やドラッグストアなどの医療の現場で活躍できる人材を養成する。

■成績評価基準と方法

講義内模擬テスト60%
確認小テスト20%
課題提出物等20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
登録販売者試験テキスト&要点整理(薬事日報社)改
【参考文献】
厚生労働省(登録販売者試験問題作成に関する手引き)

■授業外学習

【具体的な内容】
事前学習は分野によっては初めて聞く用語など多いと思うので事前にわからない単語などを調べておくことが望ましい。
事後学習は暗記することが多いので出された課題に取り組み、必要に応じて医薬品成分単語帳やまとめを作るようにする。時間の許す限り予習復習を行うことが望ましい。
【必要な時間】
個人差があるが予習・復習合わせて1時間は必要と考える。

■その他

科目名	登録販売者演習
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	時野 香里

■講義の目的および概要

平均寿命の延伸により高齢化が進む現代日本。しかし、日々をいかに健康で過ごすかという健康寿命の延伸こそが目指すべき課題である。そのためには「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てしていこう」というセルフメディケーションへの取り組みが重要となっている。この担い手として注目されてきたのが登録販売者である。登録販売者は病気やくすりについての正しい知識を持ち、一般医薬品（第2類・3類）を薬剤師が不在でも販売ができる専門家のことである。登録販売者の資格は各都道府県で実施されている試験を受験し、合格することで取得することができる。

本講義では医薬・販売の講義で学習した知識を生かして登録販売者の資格取得試験受験対策を行うことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
スライドを用いた講義形式で行う。医薬・販売の講義と同様に穴埋めプリントも使用する。前年度の各都道府県の登録販売者資格試験過去問題を模擬試験形式で行い学習の到達度を確認する。講義内で解答解説を行う。模擬試験を通して試験合格に向けて実践的な取り組みを行っていく。

【課題に対するフィードバックの方法】
各都道府県の登録販売者資格試験過去問題で誤答した箇所を次回の講義までに解き直し、提出する。授業内に疑問点について解説を行う。

■授業計画

- ①薬事関係法規・制度①
- ②主な医薬品とその作用①
- ③登録販売者過去試験問題①（模試形式）
- ④薬事関係法規・制度②
- ⑤主な医薬品とその作用②
- ⑥薬事関係法規・制度③
- ⑦主な医薬品とその作用③
- ⑧主な医薬品とその作用④
- ⑨登録販売者過去試験問題②（模試形式）
- ⑩主な医薬品とその作用⑤
- ⑪主な医薬品とその作用⑥
- ⑫主な医薬品とその作用⑦
- ⑬登録販売者過去試験問題③（模試形式）
- ⑭登録販売者過去試験問題④（模試形式）
- ⑮登録販売者過去試験問題⑤（模試形式）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
登録販売者資格試験にも対応できる知識（一般用医薬品の成分や薬効、人体の仕組み、医薬品に関する法律等）を生かして登録販売者資格試験で合格点を目指すようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
「自立した職業人を養成するため、現代生活を主体的に創造する知識と技術を身に付けるとともに、自ら課題を見つけ解決する、多様な場で活躍できる実務能力を持った人材を育成する」というポリシーに基づきこの講義を通して病気やくすりについての正しい知識を得ることで登録販売者を目指し、合格し、病院、薬局やドラッグストアなどの医療の現場で活躍できる人材を養成する。

■成績評価基準と方法

成績評価基準と方法
講義内模擬テスト 5回 60%
課題提出物など40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
講義内で提示
【参考文献】
厚生労働省 「登録販売者 試験問題作成に関する手引き」

■授業外学習

【具体的な内容】

過去問で間違えた箇所は解き直しを行い二度と間違わないように整理し、必要に応じてノートにまとめる。暗記を必要とすることが多いので予習復習はできる限り時間を見つけて取り組むようにする。

【必要な時間】

試験合格を目指す講座である。毎日少しの時間でもいいので合格に向けて学習時間を確保すること。

授業の理解、模擬テストに向けては1から2時間程度の学習時間は必要。

■その他

科目名	基本演習[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	山内 太郎、林 二士、森岡 毅、神林 裕子、野崎 剛毅

■講義の目的および概要

講義やグループワークを通して大学生生活を送るために必要な知識について学ぶとともに、自己の能力や個性を発揮するための方法や、主体的、能動的な学びの態度を身につけていくことを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

内容に応じて、講義形式や演習形式（グループワーク、プレゼンテーション）で授業を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説し、他者からの意見や考えを聞いたり、成果を全体で共有したりすることを通して学びを深めます。

■授業計画

- ①ガイダンス、大学の建学の礎（学長講話）
- ②学内施設の活用を考えよう
- ③安全な学生生活のために（インターネット・SNS・勧誘について）
- ④充実した学生生活のために（アルバイト、労働法を知ろう）
- ⑤地域とのかかわりについて（1）企画の構想・立案
- ⑥地域とのかかわりについて（2）企画内容の発表
- ⑦グループワーク（1）「テーマ」に基づく情報の集約と整理
- ⑧グループワーク（1）「テーマ」に基づく発表と意見交換
- ⑨主体的、能動的な学びについて（1）企画の実施
- ⑩主体的、能動的な学びについて（2）企画の振り返り
- ⑪表現について考える（ミュージカル鑑賞）
- ⑫表現について考える（ミュージカル鑑賞）
- ⑬安全な学生生活のために（危機対応、AEDなど）
- ⑭試験に向けて、スケジュール管理
- ⑮まとめのレポート、履修カルテ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

大学生生活に必要な基本的な知識を身につける。グループワークを通して、考え方の異なる人とも意見を交換し調整しながら進めることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

毎時間の取り組み（振り返りシート）：30%
グループワーク等の課題・提出物：50%
まとめレポート：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

事前に配布される資料を熟読し、次回の授業範囲のポイントについて予習し、ノートにまとめてください。グループワーク実施時の課題となります。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とします。

■その他

科 目 名	教育原理[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担 当 者	平野 良明

■講義の目的および概要

教育の本質や意義について思想や歴史に学び、特に幼児期の教育についての本質的な理解を深める。
時代の流れの中で豊かな青年期への育ちを支える幼児期の教育について、新教育要領解説を通して、理解を深めながら実践的な理解を図る。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを主たる教材とし、講義中心に授業を進める。適宜文献や新聞などから資料を用意、配布し講義内容の理解を助ける。
パワーポイントで講義内容を解説したり、映像資料も活用する。
コロナ感染の状況次第で遠隔授業になる場合もある。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内容の理解を計るために折々にリアクションペーパーや小テストを活用し不明な点に応えながら進める。

■授業計画

- ①オリエンテーション 自己実現・可能性・根っこ育て
- ②教育とは何か プラトン ルソー
- ③教育とは何か ルソー、コメニウス
- ④「教室のビッグマリオン」や「ルサンチマン」
- ⑤大切な原則
- ⑥生涯学習の中の幼児教育－1
- ⑦生涯学習の中の幼児教育－2
- ⑧幼稚園・保育所・認定子ども園
- ⑨幼稚園・保育所・認定子ども園の違いや共通する保育の本質
- ⑩教育課程－1 幼稚園教育要領
- ⑪教育課程－2 意義と編成
- ⑫子どもにとっての遊びの意義
- ⑬環境理解と環境構成
- ⑭教育と評価
- ⑮これからの幼児教育

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

教育の本質を理解しそれに伴って、乳幼児期からの教育の意義と役割について理解を深め、理解した内容を自分の言葉で語り、書き表すことができるようになることを目指す。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- リアクションペーパー (20%)
小テスト1回 (20%)
定期試験 (50%)
最終回にノート提出 (10%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- 『幼児教育の原理』（同文書院）
『幼稚園教育要領解説』（他の教科で購入していればそれを使用）

【参考文献】適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業後には教科書や配布資料の関連内容を読み込み、ノート整理をしながら学習内容の理解を深める。解らないことは図書館等で調べたり教員に質問すること。
幼稚園・保育園・施設・子育て支援等ボランティア体験で感じ考えたことを理論と重ねながら学びを進める。

【必要な時間】教科書や配布資料等での予習と授業後のノート整理にそれぞれ2時間以上。

■その他

対面授業を前提に実施するが、コロナの状況によっては遠隔も併用となる。
これらの状況によって授業計画の一部が変更になることもある。

科 目 名	造形表現
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	藤本 和彦

■講義の目的および概要

課題制作の経験、学生相互の作品画材や技法の使い方などから、幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された造形表現の学習内容への理解を深め、子どもにとっての「表現」を考える。また課題作品を制作した経験から作品の活用方法を考えることで、実践的な保育に繋げていく授業である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】提示された課題内容について学生が自己のイメージを元にアイデアを考え、提出期限を元に各自で制作計画を立てる演習形式で行う。教員が資料・参考作品を基に課題の説明をし、学生は互いの作品を提示し鑑賞する。また、完成した作品を使った実践法を試みることで保育について考える。授業後に振り返りの資料になる物として、作品と資料を綴じたファイルを作成する他、授業冒頭に当番制による学生相互の「折り紙実践（プレゼンテーション方式）」を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】課題作品の展示や作品を使った実践などを通して、学生が互いの感想を語り合う。各課題提出時に作品の制作について振り返り、配布されたプリントに授業での取り組み状況、目標、質問などについて記入して提出し、教員がアドバイスなどを記入して、返却する。

■授業計画

- ①オリエンテーション(授業のスケジュール)／保育での作品活用自己紹介グッズ(構想)
- ②保育での作品活用自己紹介グッズ(アイデア)／折り紙(乗り物1)
- ③保育での作品活用自己紹介グッズ(下描き)／折り紙(乗り物2)
- ④保育での作品活用自己紹介グッズ(制作1)／折り紙(服飾1)
- ⑤保育での作品活用自己紹介グッズ(制作2・作品発表)／折り紙(服飾2)
- ⑥子どもに贈るポップアップカード(練習作品)／折り紙(食べ物1)
- ⑦子どもに贈るポップアップカード(アイデア)／折り紙(食べ物2)
- ⑧子どもに贈るポップアップカード(準備)／折り紙(食べ物3)
- ⑨子どもに贈るポップアップカード(制作1)／折り紙(道具1)
- ⑩子どもに贈るポップアップカード(制作2)／折り紙(道具2)
- ⑪壁面環境構成ステンドグラス(切り絵1)／折り紙(季節1)
- ⑫壁面環境構成ステンドグラス(下描き)／折り紙(キャラクター1)
- ⑬壁面環境構成ステンドグラス(制作1)／折り紙(キャラクター2)
- ⑭壁面環境構成ステンドグラス(制作2)
- ⑮課題作品提出、授業まとめ、履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・自身の制作経験から、子どもの表現について考えられる。
- ・子どもの造形表現に必要な知識と技術を習得し、実践的な活用法を考えた作品を制作することができる。
- ・学生が相互に作品鑑賞をすることで、それぞれの着目点や表現方法には多種多様であることを感じとり、理解することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
(DP5)能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・完成作品の提出、作品内容・作品数・期限など条件の達成度：80%
- ・各課題提出時の振り返りシート（小レポート）の提出：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】特になし

【参考文献】

- ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」
- ・厚生労働省「保育所保育指針解説書」
- その他、授業時にプリント、資料を配布し参考作品を提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】・制作に必要な資料や図案などの準備、配布される材料以外に使用したい材料等の準備、用意をする。

・課題内容から、アイデアを独自に拡げておく。また作っていく中で、よりイメージに近づける工夫を意識し、授業後、アイデア・制作の吟味・修正を膨らませ、実行すること。

【必要な時間】 事前事後合わせて1時間を目安とする。

■その他

- ・時々の状況で、授業計画に変更が生じる事があります。
- ・春学期「子どもの図画工作」で購入した教材を使用します。
- ・挨拶を交わしましょう。

科 目 名	日本国憲法[幼教1年]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 2単位・講義
担 当 者	姫嶋 瑞穂

■講義の目的および概要

すでに中学・高校で「日本国憲法」を学習しているため、「日本国憲法」については簡単なイメージをもっていると思うが、大学で学ぶ「憲法」は社会科の延長ではない。憲法の条文などを『覚える』のではなく、さまざまな憲法上の問題に対して「何が問題なのか?」「解決するためにどう対処すべきなのか?」を『考える』ことが重要になる。講義では、できる限り身近な具体的事例から憲法の本質に迫るように配慮し、保育者を目指している学生のみでなく、就職して教育・保育の現場に立った後にも役立つよう日本国憲法の基本的知識と考え方について学ぶことに重点をおく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
配布したレジュメに沿って、憲法の基本的知識とそれに関連する具体的な憲法問題について講義形式で解説する。さらに、講義に関連した小課題を提出してもらう。

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の返却は行わないが、講義内で解説講評する。最終試験については、単位確定日以降、希望する学生には、採点結果を開示説明する。

■授業計画

- ①保育者と日本国憲法
- ②日本国憲法の成立と特徴
- ③基本的人権とは何か
- ④子どもの人権と教育を受ける権利
- ⑤個人の尊重と幸福追求権 Part1
- ⑥個人の尊重と幸福追求権 Part2
- ⑦法の下での平等
- ⑧思想・良心の自由
- ⑨自由に学び表現する権利
- ⑩罪と罰の果てー死刑制度ー
- ⑪社会権
- ⑫裁判員制度
- ⑬平和主義が危ない!
- ⑭憲法の変身ー改憲の可能性ー
- ⑮まとめと筆記試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

- 【到達目標】
- ①日本国憲法の人権規定の意義とそれぞれの規定が抱える問題点について理解すること。
 - ②基本的知識の習得を目指すだけでなく、国家や社会のあり方について関心をもち、自分の考えを表現できるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

講義内に提出してもらう複数回の課題で45%、日本国憲法の基本的知識を問う論述形式の最終試験で55%の評価を行う。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
教科書は使用せずに毎回レジュメを配布する

【参考文献】
『新時代の法学・憲法』 建帛社

■授業外学習

【具体的な内容】
予習の必要はないが、講義ノートを活用し、ポイントを整理してまとめておくこと。わからないことや疑問に思ったことは、次回の講義に質問して確認すること。

【必要な時間】
事前・事後それぞれ2時間を目安とする。

■その他

身近な憲法問題に関心を持つためにも、新聞に目を通す習慣を身につけてもらいたい。

科 目 名	保育原理[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担 当 者	野崎 剛毅

■講義の目的および概要

保育についての基礎的な知識について学ぶ。保育の理念や意義を制度や歴史を踏まえて理解する。また現代社会における保育者の役割についても広く学んでいく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式でおこなう。レジュメにそって学習を進め、必要に応じて資料や視覚的教材も使用する。

【課題に対するフィードバックの方法】

学生からの質問には適宜講義内で回答するので、積極的な質問を期待する。提出した課題については、返却後解説を加える。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②保育の意義と理念 保育とはなにか
- ③保育制度と法令① 保育制度の概略
- ④保育制度と法令② 保育にまつわる法令
- ⑤保育制度と法令③ 子どもの権利
- ⑥保育の思想と歴史の変遷① コメニウス、ペスタロッチ、ルソー、オーエン
- ⑦保育の思想と歴史の変遷② フレーベル、モンテッソーリ、エレン・ケイ
- ⑧保育の思想と歴史の変遷③ 東京女子師範学校附属幼稚園と守孤扶独幼稚児保護会
- ⑨保育の思想と歴史の変遷④ 倉橋惣三、戦争と保育
- ⑩保育所保育指針の概要
- ⑪諸外国の保育システム①スウェーデンを例に
- ⑫諸外国の保育システム②ニュージーランドを例に
- ⑬保育の現状と課題①待機児童等概観
- ⑭保育の現状と課題②保育士不足等概観
- ⑮まとめ、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育者の仕事を理解し、保育者になりたいという意識を定着させる。また、保育についての基本的な知識を理解する。特に保育士試験に例年出題されるような基本的な事項について理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
 (DP3)【課題を発見し、解決する力】
 (DP4)【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

日々の確認テスト30%
 定期テスト50%
 コメントシート20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

中坪史典他編集『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』ミネルヴァ書房
 大豆生田啓友他編『最新保育資料集2022』ミネルヴァ書房
 『保育所保育指針解説』

以上のテキストは本講義で使用するほか、常に携帯し他の講義や日々の学修でも活用することを期待する。

【参考文献】

講義内で適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業をおこなう前に、必ずテキストの指定箇所を読んでおくこと。
 不明な点、理解が難しい点は必ず質問し、疑問を解消すること。
 質問は授業中、授業外のほか、コメントシートやメール等でも随時受け付ける。

【必要な時間】

事前、事後それぞれ2時間程度の学習を必要とする。

■その他

科 目 名	保育内容(健康)
開講期・単位	1年 秋学期・必修 1単位・演習
担 当 者	林 二士

■講義の目的および概要

幼稚園指導要領や保育所保育指針の領域「健康」における、乳幼児期の健康の考え方や、ねらいと内容について学ぶとともに、幼児の健康づくりに関わる、心身の発達、生活習慣、安全な生活、運動の発達について学ぶ。また「健康」にかかわる具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践する力を身に付けることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・専門事項については講義形式、その他は演習、グループワーク、指導実践を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

■授業計画

1. ガイダンス
2. 健康とは・健康の概念・WHOの健康の定義・ヘルスプロモーションの理解
3. 子どもの健康・保育内容〈領域〉健康のねらいと内容
4. 子どものからだの発達・身体の発育と発達・運動の発達
5. 子どものこころの発達・心の発達・情緒の発達
6. 子どものこころの発達・社会性の発達・自己肯定感
7. 子どもの生活習慣・生活習慣の援助や保育者の役割
8. 子どもの遊びと運動・幼児期の運動の意義やあり方
9. 運動遊びの指導法・指導技術①・運動遊びの展開・環境構成
10. 運動遊びの指導法・指導技術②・運動遊びの体験
11. 運動遊びの指導案の作成
12. 運動遊びの指導実践と評価①
13. 運動遊びの指導実践と評価②
14. 安全教育と安全への配慮
15. まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・領域「健康」のねらい及び内容について理解する。
- ・幼児の健康づくりに関わる専門事項について、理解し説明できる。
- ・幼児の健康づくりに関わる具体的な指導場面を想定し、保育を構想し実践できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ・小テスト・筆記試験 (40%)
- ・模擬保育 (30%)
- ・レポート課題・提出物 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康

【参考文献】

- ・ACPガイドブック (日本スポーツ協会)
- ・幼児期運動指針実践ガイドブック (文部科学省)

■授業外学習

【事前学習】 (2時間)

- ・次回の授業内容を確認し、専門事項であればテキストを参考に自分の考えや疑問をまとめ、指導実践であれば指導のアイデアを考えておく。

【事後学習】 (2時間)

- ・講義や演習後はテキストや配布資料を振り返り小テストに備える。
- ・指導実践後は、自他の指導内容を振り返り考察する。

■その他

日ごろから「子ども（幼児）の健康」に関する出来事や情報に関心を持ち、それについて自分は「どう思うか」「どう考えるか」など意見を持つ習慣をつけましょう。

科 目 名	保育内容(人間関係)[幼教]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 1単位・演習
担 当 者	小川 久恵、高橋 由美子

■講義の目的および概要

本講義では、乳幼児の保育・教育において育みたい資質・能力を理解し、「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等に示された当該領域の及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構成する方法を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式とグループワークを織り交ぜながら行う。
グループワークは課題について自分たちで考え、計画を立て、ロールプレイを行い、アクティブラーニングの方法で進める。
本講義は、保育所所長・幼稚園教諭の実務経験のある教員が保育内容の知識や保育を構想する知識・技術を活かして、保育内容全体を構造的に理解し具体的な保育の場면을想定して構想する方法を理解できる講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説する。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指す。

■授業計画

- ①オリエンテーション、幼児教育の目的と領域人間関係
- ②幼児教育の基本と保育者の役割
- ③領域人間関係と他領域の関係
- ④乳幼児期の発達を踏まえた人間関係
- ⑤子どもと保育者の関わり
- ⑥保育内容の指導法 ①遊びの中の人との関わり
- ⑦保育内容の指導法 ②生活を通して育つ人との関わり
- ⑧保育内容の指導法 ③個と集団の育ち
- ⑨人との関わりを見る視点
- ⑩指導案の構成と指導案作成のポイント
- ⑪遊びを豊かにする教材の活用法、指導案の作成
- ⑫指導案についてのグループワーク（模擬保育準備）
- ⑬領域人間関係を育む保育（模擬保育）
- ⑭保育の評価と改善（模擬保育の振り返り）
- ⑮幼児教育の現代的課題と領域人間関係、履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示された乳幼児教育・保育の基本を踏まえ、領域のねらい及び内容を理解する。
2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場면을想定して保育を構成する方法を身に付ける

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
(DP2)コミュニケーション能力
(DP3)課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

小レポート（10％） 指導案（20％）
模擬保育・ワークシート（30％） まとめのテスト（40％）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

事例で学ぶ保育内容「領域 人間関係」 萌文書林
無藤 隆：監修 岩立 京子：編者代表

【参考文献】

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・ 次回の授業範囲を事前学習すること。
- ・ 指導案等については、授業で学習したことをもとに、各自が完成させて提出すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とする。

■その他

- ・ グループワークには保育のイメージを構築しながら、積極的に参加すること。
- ・ 欠席した場合は、授業のプリント等を速やかに取りに来ること

科目名	保育臨床
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	深浦 尚子

■講義の目的および概要

保育の場で起きる様々な出来事、子どもの問題行動、保育者との絆、保護者との関係などの事例を、心理臨床的な観点等を応用して読み解きます。その中で、子どもと大人の精神保健（メンタルヘルス）の側面、心の拠り所としての保育者の援助的役割について考察し、臨床的なセンスと保護者への対応について学びます

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習方式で行います。事例や実際の認定こども園での観察から検討します。グループワーク、ディスカッションなどを通して理解を深めます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は、授業中に行い、コメントを付けて返却します。

■授業計画

- ①子どもと大人の精神保健（メンタルヘルス）の基礎知識（1）
- ②精神保健の基礎知識（2） 保育の現場で気になる子
- ③園生活の治療的意味とカウンセリングマインド 保育者の援助的役割
- ④子育ての歪みを受けとめる（1） 母子分離不安、過剰な期待と抑圧
- ⑤子育ての歪みを受けとめる（2） 子育ての悩みと拒否感、子どものいざこざと親のSOS
- ⑥子どもの関係の歪みを読みとる（1） いじめが発生する集団の状況
- ⑦歪みを読みとる（2） いじめの構造、保育者がこうしていたら
- ⑧歪みを読みとる（3） 登園拒否の発生するクラス
- ⑨言葉につまづく集団状況、選択性緘黙
- ⑩発達診断と発達援助（1）
- ⑪発達診断と発達援助（2）
- ⑫発達の問題をもつ子どもと家庭の支援
- ⑬幼稚園での観察一気になる子の観察
- ⑭幼稚園での観察一保育の実際
- ⑮まとめのレポートと解説

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

事例を読み解く中で、保育実践の中のカウンセリングマインド、保育者の援助的役割、臨床的なセンスへの理解を深め、現場で遭遇する問題、保護者との関係に対応する力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

まとめのレポート50%、振り返りシート50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

「子ども理解とカウンセリングマインド」保育臨床の視点から 編 青木久子 萌文書林

■授業外学習

新聞などで、幼児に関する記事を探して読む。授業後は、レジメを復習し理解を深める

【必要な時間】

予習・復習、それぞれ2時間くらいです。

■その他

授業中に、課題の内容について随時指名して発言を求めますのでしっかりと学習した上で授業に参加してください。

科 目 名	乳児保育Ⅰ [幼教]
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担 当 者	荒井 ひとみ

■講義の目的および概要

本講義は、乳児期（0・1・2歳児）の基本的な発達段階や育ちの特性について学ぶと共に、子どもを取り巻く様々な状況から乳児保育の意義や役割を理解し、子どもや保護者を支えるための保育者の役割や保育の在り方などについて学びます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行いますが、必要に応じて課題に取り組んだり、グループワークを取り入れたりします。映像（写真・動画）や保育事例などを活用し、乳児期の発達の理解を深められるように進めます。

講義後は、小レポートや小テストなどで学びの振り返りを行っていきます。

本講義は、保育所等の実務経験のある教員が乳児保育に携わった経験を活かし、保育者としての専門的な視点から乳児保育の理解が深められるようにします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。小レポート内の質問や疑問についても個別回答や必要に応じて全体への解説を行います。

■授業計画

- ①ガイダンス 乳児保育とは
- ②乳児保育の意義と役割
- ③乳児保育の現状と課題
- ④保育所における乳児保育
- ⑤乳児保育の保育内容
- ⑥0歳児の発達と保育①
- ⑦0歳児の発達と保育②
- ⑧1歳児の発達と保育①
- ⑨1歳児の発達と保育②
- ⑩2歳児の発達と保育①
- ⑪2歳児の発達と保育②
- ⑫乳児期の発達と保育・まとめと振り返り
- ⑬乳児保育の環境①
- ⑭乳児保育の環境②
- ⑮乳児保育における連携

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・乳児期の発育や発達を理解し、子どもの姿を捉えることができる。
- ・乳児保育の現状や意義、役割について理解することができる。
- ・乳児保育に求められる保育者の役割や協働の大切さを理解することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DR1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

小レポートと小テスト 30%

課題ワーク 20%

定期試験 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『やさしい乳児保育』神蔵幸子 金允貞編著 青踏社

【参考文献】

『保育所保育指針』厚生労働省編 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前にはテキストを読み、分らない内容は授業の中で確認できるようにしてください。疑問を持って授業に臨むことが良い学びにつながります。
授業後はテキストや授業プリント、資料などを基に復習してください。授業で話された内容も含めて振り返っておくことが大切です。
「子どもの命を育むために必要な知識」であることを意識し、事前事後学習に取り組みましょう。
また、子育てに関する新聞記事やニュースなどに関心を持ち、日頃から乳児保育に意識を向けるように心がけてください。

【必要な時間】

事前・事後学習は、それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

授業計画は、必要に応じて授業内容の入れ替えや変更を行うことがあります。

科目名	乳児保育Ⅱ[幼教]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 1単位・演習
担当者	荒井 ひとみ

■講義の目的および概要

乳児保育Ⅰで学んだ乳児期（0.1.2歳児）の発達や特性を踏まえて、子どもへの生活や遊びの具体的な援助の方法について学ぶと共に、乳児期の健康や安全、保育計画や子育て支援について理解するなど、乳児保育の実践力を高めることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義と演習とし、グループワークやディスカッションなどを交えて行います。資料や映像などを参考に具体的な援助の方法を実技を通して学んだり、遊びや製作なども取り入れながら、乳児保育がより身近に感じられるように進めます。

講義後は、小レポートや小テストなどで学びの振り返りを行っていきます。

本講義は、保育所等の実務経験のある教員が乳児保育に携わった経験を活かし、保育者としての専門的な視点から乳児保育の理解を深められるようにします。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。小レポート内の質問や疑問についても個別回答や必要に応じて全体への解説を行います。

■授業計画

- ①ガイダンス 乳児保育の援助の基本
- ②乳児期の生活援助と配慮①
- ③乳児期の生活援助と配慮②
- ④乳児期の生活援助と配慮③
- ⑤乳児期の生活援助と配慮④
- ⑥乳児保育の遊びと環境①
- ⑦乳児保育の遊びと環境②
- ⑧乳児保育の遊びと環境③
- ⑨乳児保育における保育の計画
- ⑩乳児保育における子育て支援①
- ⑪乳児保育における子育て支援②
- ⑫乳児保育における健康と安全①
- ⑬乳児保育における健康と安全②
- ⑭乳児保育における安全管理
- ⑮授業の振り返りとまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・実技や演習を通して、乳児期の子どもや保護者に対する具体的な援助や配慮ができるようになる
- ・乳児期の健康や安全について理解し、発達の特徴を踏まえた適切な援助や配慮、保育者の責任ある行動などを説明できる。
- ・習得した知識や技術・理解した内容を、保育の場でどのように活用し展開するかを主体的に考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

小レポートと小テスト 30%
課題ワーク 30%
期末試験 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『やさしい乳児保育』神蔵幸子 金允貞編著 青踏社

【参考文献】

『保育所保育指針解説』厚生労働省編 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前には指定箇所を読み、分らない内容は授業の中で確認できるようにしてください。疑問を持って授業に臨むことが良い学びにつながります。
授業後はテキストや資料、授業プリントなどを基に復習してください。グループワークで得た友達の考えも含めて振り返っておくことが大切です。
「子どもの命を育むために必要な知識」であることを意識し、事前事後学習に取り組みましょう。
また、子育てに関する新聞記事やニュースなどに関心を持ち、日頃から乳児保育に意識を向けるように心がけてください。

【必要な時間】

事前・事後学習は、それぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

授業計画は、必要に応じて授業内容の入れ替えや変更を行うことがあります。

科 目 名	学びの技法[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・必修 1単位・演習
担 当 者	東谷 一彦、森岡 毅

■講義の目的および概要

この科目は、次の2点を主な目的とする。

- ①2年間の短期大学での学習方法などを学び、一人ひとりが短期大学での学びの意味と方法、目標を考え理解すること。
- ②大学で課せられるレポートや実習日誌、指導案、専門職に就いてからのお便りや報告書など、様々な文書を作成できるようになるための考え方と文章力を身につけること。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習が中心となる。テーマに沿った課題をおこない、提出する。

提出された課題は添削をしたうえで返却し、不足している点について解説を加え、修正をほどこす。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出された課題はチェックした上で返却し、講義内で解説を加える。

■授業計画

- ①ガイダンス『学びの技法とは』
- ②「学び」のバリエーション：高校までの学びと大学からの学び
- ③図書館が「学び」のパートナー 図書館の活用
- ④著作権について知る
- ⑤「入学前課題」振り返り①日本語系①
- ⑥「入学前課題」振り返り②日本語系②
- ⑦「入学前課題」振り返り③日本語系③
- ⑧「入学前課題」振り返り④算数・数学・論理系①
- ⑨「入学前課題」振り返り⑤算数・数学・論理系②
- ⑩「入学前課題」振り返り⑥算数・数学・論理系③
- ⑪伝わる文章を書く
- ⑫思考の整理
- ⑬「入学前課題」振り返り⑦読書レポート
- ⑭「入学前課題」振り返り⑧推敲
- ⑮まとめ・履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

大学での学びを身に付ける。

資料から適切な引用をして、論理的に文章を書くことができる。

自分の考えを論理的に他者に伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3) 課題を発見し、解決する力

(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

各回の課題：80点

最終レポート：20点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「入学前課題」

『ポケット国語辞典』（三省堂）

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

入学前課題について振り返りをしておくこと。

社会情勢の変化に伴い、子どもを取り巻く環境も変化する。いろいろな事柄に興味や関心を持ち、自分たちが学ぶべき内容との関わりを知ってほしい。そのために、新聞などを日頃から読んでおくこと。

【必要な時間】

事前・事後それぞれ1時間程度の学習を必要とする。

■その他

科目名	キャリア形成[幼教]
開講期・単位	1年 秋学期・必修 1単位・演習
担当者	山内 太郎、森岡 毅、神林 裕子、野崎 剛毅

■講義の目的および概要

本講義では社会人・保育者になるための学びにはどのような種類や体系があるか、どのような資質・能力が求められるかを理解します。また、社会人・保育者を目指すための指標や課題を自分自身で具体的に考えられることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークやディスカッション、プレゼンテーション等の演習、発表を中心としながら、講義を織り交ぜます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。またグループワークやディスカッション等を通して他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

■授業計画

- ①ガイダンス
- ②社会人・保育者に求められる資質・能力①：自分を知る
- ③社会人・保育者に求められる資質・能力②：他者からみた自分（グループワーク）
- ④社会人・保育者になるための学び①：卒業生に聞く「キャリア」
- ⑤社会人・保育者になるための学び②：多様なキャリア、ライフサイクルのなかのキャリア
- ⑥社会人・保育者になるための学び③：先輩の活動にみる協働性
- ⑦社会人・保育者に求められる資質・能力③：女性と保育（グループワーク）
- ⑧社会人・保育者に求められる資質・能力④：女性と保育（プレゼンテーション準備）
- ⑨社会人・保育者に求められる資質・能力⑤：女性と保育（プレゼンテーション）
- ⑩社会人・保育者に求められる資質・能力⑥：社会人としてのマナー
- ⑪社会人・保育者になるための学び④：社会と地域について考える（グループワーク）
- ⑫社会人・保育者になるための学び⑤：社会と地域へのアクション（グループワーク）
- ⑬社会人・保育者になるための学び⑥：社会と地域のための活動（グループワーク）
- ⑭社会人・保育者になるための学び⑦：社会と地域のための活動（グループワーク）
- ⑮まとめ：ライフプラン、キャリアプラン、キャリアパスノート作成、履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・自分が目指す社会人像、保育者像を具体的に描き、その実現に必要な事故課題を定めることができる。
- ・自分のライフプラン・キャリアプランを描き、目標を定めることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP2【コミュニケーション能力】
- DP3【課題を発見し、解決する能力】
- DP4【多様性の理解と協働する力】
- DP5【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ・提出物：計60%
- ・プレゼンテーション：10%
- ・社会・地域のための活動での実践報告：10%
- ・キャリアパスノート作成：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

次回授業内容について自分の考えをまとめたり、発表準備をしたりするなどの予習をし、ノート、ファイルにまとめてください。
毎回の授業内容を振り返り、ポイントをノート、ファイルにまとめてください。

【必要な時間】

予習復習はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

■その他

- ・総合生活キャリア学科との交流授業（⑨⑩）を予定しています。
- ・各活動は総合生活キャリア学科や本学科2年生とのスケジュール調整、または新型コロナウイルス感染症対策によって前後することがあります。変更がある際は授業内及びmanabaにおいてお知らせしますので、連絡には充分注意をしてください。

科目名	外国語コミュニケーション(基礎) [保育英語]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

■講義の目的および概要

本講義では英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けるとともに、日常生活に関連した英会話力を身に付けることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

日常生活に関連した内容について、ペアワークやグループワークを中心に学習する。また、英語を使う楽しさを実感できるような資料等を適宜配布し、演習形式で学習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリント等にまとめて提供する。

■授業計画

授業計画

- ① Orientation
- ② Unit 1 Introductions
- ③ Unit 2 Daily Life
- ④ Unit 3 Weekend Events
- ⑤ Review of Units 1-3
- ⑥ Unit 4 Small Talk
- ⑦ Unit 5 Likes and Dislikes
- ⑧ Unit 6 Student Life
- ⑨ Review of Units 4-6
- ⑩ 確認テスト1 / フィードバック
- ⑪ Unit 7 Family
- ⑫ Unit 8 Friends
- ⑬ Unit 9 Going Out
- ⑭ Review of Units 7-9
- ⑮ 確認テスト2 / フィードバック

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

基本的な英会話を身に付け、様々な場面において対応できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ① 毎回の課題等 (30%)
- ② 授業の参加状況 (10%)
- ③ 確認テスト1 (30%)
- ④ 確認テスト2 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

・Free Talking, by Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa, 出版社: Cengage Learning

【参考文献】

- ・しゃべる英文法, 監修・著 白井恭弘、出版社: コスモピア株式会社
- ・究極の英語学習法K/Hシステム① 基本編 著 国井信一／橋本敬子、出版社: アルク
- ・Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English with answers), by Raymond Murphy, 出版社: Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

- ・Be helpful.
- ・Be friendly.
- ・Be active.
- ・Be creative.
- ・Be ambitious.

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科 目 名	外国語コミュニケーション(応用) [保育英語]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	藤垣 エミリア

■講義の目的および概要

本講義では英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けるとともに、日常生活に関連した英会話力を身に付けることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】日常生活に関連した内容について、ペアワークやグループワークを中心に学習する。また、英語を使う楽しさを実感できるような資料等を適宜配布し、演習形式で学習する。

【課題に対するフィードバックの方法】課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリント等にまとめて提供する。

■授業計画

- ① Orientation
- ② Unit10 Restaurants
- ③ Unit11 Shopping
- ④ Unit12 Strenghts and Weeknesses
- ⑤ Review Units10-12
- ⑥ Unit13 Places
- ⑦ Unit14 Vacations
- ⑧ Review Units10-14
- ⑨ 確認テスト
- ⑩ テストのフィードバック / Explain about "kamishibai" script
- ⑪ "kamishibai" script writing / Unit 15 Experiences
- ⑫ Unit 15 Experiences and Review of some of the Units
- ⑬ "kamishibai" drawing and practicing for presentation
- ⑭ "kamishibai" drawing and practicing for presentation
- ⑮ "kamishibai" presentation (スピーキングテスト)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
基本的な英会話を身に付け、様々な場面において対応できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- DP2 【コミュニケーション能力】
DP4 【多様性の理解と協働する力】
DP5 【能動的に学び続ける力】

■成績評価基準と方法

- ①毎回の課題等 (20%)
- ②授業内の活動 (20%)
- ③確認テスト1 (30%)
- ④確認テスト2 (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】Free Talking, by Adam Gyenes, Matthew Guay, Lauren Eldekvis, Yuki Hasegawa, 出版社：Cengage Learning

【参考文献】しゃべる英文法, 監修・著 白井恭弘、出版社：コスモピア株式会社
・Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English, with answers), by Raymond Murphy,出版社：Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】 ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう

2022 (令和4) 年4月1日

- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・ Be helpful
- ・ Be friendly
- ・ Be active
- ・ Be creative
- ・ Be ambitious

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科 目 名	体育実技(基礎) [幼教]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	林 二士、柴田 良子

■講義の目的および概要

様々な運動を通し、体を動かす楽しさを体験し、保育者として求められる基礎体力や運動能力、運動の基礎知識を身につけることを目的とする。また生涯にわたる自らの健康づくりに必要な資質や能力を育成する。また、子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの身体活動や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・2名の教員によるオムニバス形式で実技を中心に理論を交えて演習を行う。
1～8回目（担当教員：林） 9～15回目（担当教員：柴田）
- ・講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

■授業計画

1. ガイダンス 幼児の身体活動や運動の意義
2. 乳幼児期の運動の発達
3. 3歳児の動きの発達と運動遊び
4. 4歳児の動きの発達と運動遊び
5. 5歳児の動きの発達と運動遊び
6. グループワーク（運動遊びの指導実践案の作成）
7. グループ発表① 振り返りと意見交換
8. グループ発表② 振り返りと意見交換
9. 身体表現の意義とその方法
10. 身体表現における多様な動きの展開①
11. 身体表現における多様な動きの展開②
12. グループワーク（創作ダンスの構成）
13. グループワーク（創作ダンスの振付）
14. グループワーク（創作ダンスの中間発表）
15. グループ発表 振り返りと意見交換 レポート提出

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・体を動かすことを楽しみ、基礎体力や運動能力の向上を目指す。
- ・子どもの運動の発達を理解し、運動の基礎知識を身につける。
- ・チームプレイやグループワークなどの集団的活動を通して、他者との積極的なコミュニケーションを図り、相互理解を深める。
- ・自らの健康づくりに必要な知識や態度を選択し行動できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ・実技試験 30%
- ・指導技術達成度 30%
- ・レポート課題 20%
- ・毎回の提出物 20%

■テキスト・参考文献

【使用テキスト】

- ・ACPガイドブック（日本スポーツ協会）

【参考文献】

- ・幼児期運動指針 ガイドブック（文部科学省）
- ・小学校学習指導要領・体育編（文部科学省）

■授業外学習

【事前学習】（2時間）

・基礎体力向上を意識し、日常の生活の中で体を動かすこと（階段での移動、徒歩での移動など）や、運動やスポーツすることを心がける。

- ・授業の前日は食事・睡眠をしっかり取り、体調管理を心がける。

【事後学習】（2時間）

- ・授業で学んだストレッチ、動きや技術を復習する。
- ・授業を振り返り、疑問や不明な点があれば自分で調べる。

■その他

- ・運動に適した服装（運動着、運動靴）や準備（タオル、水分、気持ち）をする。
- ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。
- ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。
- ・幼児や児童と関わる場所（教室やボランティアなど）に積極的に参加し、子どもと触れ合う機会をつくる。

科目名	体育実技 (応用) [幼教]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	林 二士、柴田 良子

■講義の目的および概要

体育実技（基礎）で身に付けた基礎知識・体力・技能をもとに、さらに保育者として活躍するための体力の維持向上を目指し、生涯にわたる自らの健康づくりに必要な資質や能力を育成する。また子どもの身体活動や運動遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・2名の教員によるオムニバス形式で実技を中心に理論を交えて演習を行う。
1～8回目（担当教員：林） 9～15回目（担当教員：柴田）
- ・講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

■授業計画

1. ガイダンス・「多様な動き」を導き出す運動遊び
2. 「ボール」を使った運動遊び
3. 「縄・フープ」を通した運動遊び
4. 「マット」を使った運動遊び
5. 「跳び箱」を使った運動遊び
6. 「鉄棒」を使った運動遊び
7. 「遊具や用具」を用いた運動遊び①
8. 「遊具や用具」を用いた運動遊び②
9. 身体表現における体づくり・ストレッチ（レクリエーションゲーム）
10. 身体表現における指導技術Ⅰ（フィールドを使った全身運動）
11. 身体表現における指導技術Ⅱ（手具を使った全身運動）
12. グループワーク（創作ダンスの構成・選曲・振付）
13. グループワーク（創作ダンスの中間発表）
14. グループワーク（創作ダンスのリハーサル）
15. 創作ダンス発表 振り返りと意見交換

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・体を動かすことを楽しみ、基礎体力や運動能力の向上を目指す。
- ・運動遊びの基本的な指導方法と指導技術の習得をする。
- ・チームプレイやグループワークなどの集団的活動を通して、他者との積極的なコミュニケーションを図り、相互理解を深める。
- ・自らの健康づくりに必要な知識や態度を選択し行動できるようにする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- （DP1）専門知識・技能を活用する力
- （DP2）コミュニケーション能力
- （DP3）課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ・実技試験 30%
- ・技術達成度 30%
- ・レポート課題 20%
- ・毎回の提出物 20%

■テキスト・参考文献

【使用テキスト】

- ・ACPガイドブック（日本スポーツ協会）

【参考文献】

- ・幼児期運動指針 ガイドブック（文部科学省）
- ・小学校学習指導要領・体育編（文部科学省）

■授業外学習

【事前学習】（2時間）

・基礎体力向上を意識し、日常の生活の中で体を動かすこと（階段での移動、徒歩での移動など）や、運動やスポーツすることを心がける。

- ・授業の前日は食事・睡眠をしっかり取り、体調管理を心がける。

【事後学習】（2時間）

- ・授業で学んだストレッチ、動きや技術を復習する。
- ・授業を振り返り、疑問や不明な点があれば自分で調べる。

■その他

- ・運動に適した服装（運動着、運動靴）や準備（タオル、水分、気持ち）をする。
- ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。
- ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。
- ・幼児や児童と関わる場所（教室やボランティアなど）に積極的に参加し、子どもと触れ合う機会をつくる。

科 目 名	子どもの音楽(基礎)
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	伊藤 桂子、河口 しほり

■講義の目的および概要

保育職に必要な音楽に関する基礎的な知識と表現を知り、これらを自ら学び続けるための方法を身につけることを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

毎回の冒頭20分程度を使い、「スキルアップタイム（発声、読譜、リズム等）」をおこないます。

【課題に対するフィードバックの方法】

スキルアップタイムでは実技レベルの確認を行い、その都度学生のレベルに合った適切な助言を行います。また、授業終了時に提出するコミュニケーションシート（一言感想）を基に、次の授業時に課題に対する具体的な助言をおこないます。

■授業計画

- ①オリエンテーション：今持っている音楽の力を把握し、今後の授業の受け方に役立てます。
- ②音と音楽の基礎～楽譜の読み方などの基本を知ります。
- ③声の重要性について
- ④声の重要性について(2)
- ⑤子どもの発達と音楽
- ⑥子どもの発達と音楽(2)
- ⑦子どもの発達に合わせた音楽あそび
- ⑧子どもの発達に合わせた音楽あそび(2)
- ⑨コードの仕組み
- ⑩コードの仕組み(2)
- ⑪コードの違いを感じ取る音楽作り
- ⑫コードの違いを感じ取る音楽作り(2)
- ⑬子どもに聴かせる歌（グループワーク）
- ⑭わらべうた・うたあそび
- ⑮授業内試験（実技試験）・まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

- ①子どもの発達を踏まえた音楽表現のための基礎的な知識について理解している。
- ②子どもの音楽表現の支援に必要な基礎的な音楽知識について理解している。
- ③子どもの音楽表現に必要なピアノの使い方や歌唱についての基本的な技術が身についている。
- ④保育に必要なピアノや歌唱の技能を向上させるための基本的な方法が身についている。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

実技試験 50%

レポート 30%

毎時の取り組み 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・子どもの歌200（チャイルド本社） ※複数科目共用
- ・ゆびトレ（本学オリジナル教材）

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

スキルアップタイムの課題は、事前の練習が必要です。毎回指名しますので、必ず練習してきてください。また、事後は扱った教材について演奏や演習の復習が必要です。

【必要な時間】

- ・スキルアップ課題については30分程度、授業内容の下調べに30分程度、合計1時間程度の事前学習が必要です。
- ・事後の復習については、実技的な内容について30分程度、理論的な内容については30分程度の時間を要します。

■その他

音楽用の五線譜ノートを必ず用意してください。

【関連免許資格】幼稚園教諭、保育士、こども音楽療育士

科目名	幼稚園実習(基礎)
開講期・単位	1年 通年・選択 2単位・実習
担当者	伊藤 桂子、小川 久恵、朝地 信介、田村 めぐみ

■講義の目的および概要

本講義では付属認定こども園での実習を通して、保育者としての在り方や子どものかかわり方について課題意識を持って取り組み、保育者に求められる態度・姿勢、資質・能力について知ることを目的とします

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

付属認定こども園での実習と、学内研修をローテーションで行います。学内研修では制作や指導案作成等のグループワーク、また、弾き歌いや模擬保育等の演習、発表を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

本講義は教員・幼稚園教諭の実務経験のある教員が、実習にかかわる知識・技術を活かして、教育実習の意義、習得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワークや演習、発表等を通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

■授業計画

- ①オリエンテーション・授業計画と学内研修説明、個人票・日誌などの配布
- ②学内研修(名札作成)
- ③学内研修(名札作成、手遊びのローテーション)
- ④学内研修(名札作成、手遊びのローテーション)
- ⑤学内研修(弾き歌い、制作、日誌の書き方、読み聞かせのローテーション)
- ⑥学内研修(弾き歌い、制作、日誌の書き方、読み聞かせのローテーション)
- ⑦学内研修(弾き歌い、制作、日誌の書き方、読み聞かせのローテーション)
- ⑧学内研修(弾き歌い、制作、日誌の書き方、読み聞かせのローテーション)
- ⑨学内研修(弾き歌い、制作、指導案、手遊びのローテーション)
- ⑩学内研修(弾き歌い、制作、指導案、手遊びのローテーション)
- ⑪学内研修(弾き歌い、制作、指導案、手遊びのローテーション)
- ⑫学内研修(弾き歌い、制作、指導案、手遊びのローテーション)
- ⑬付属認定こども園実習事前指導
- ⑭付属認定こども園実習①(観察実習),学内研修(弾き歌い,制作,指導案,手遊びのローテーション)
- ⑮付属認定こども園実習①(観察実習),学内研修(弾き歌い,制作,指導案,手遊びのローテーション)
- ⑯学内研修(弾き歌い,制作,指導案,手遊びのローテーション)
- ⑰学内研修(弾き歌い,制作,指導案,手遊びのローテーション)
- ⑱付属認定こども園実習②(参加実習),学内研修(弾き歌い,制作,読み聞かせ,指導案のローテーション)
- ⑲付属認定こども園実習②(参加実習),学内研修(弾き歌い,制作,読み聞かせ,指導案のローテーション)
- ⑳学内研修(弾き歌い,制作,指導案,読み聞かせのローテーション)
- ㉑学内研修(弾き歌い,制作,指導案,読み聞かせのローテーション)
- ㉒付属認定こども園実習③(参加・部分実習),学内研修(弾き歌い,制作,保育準備のローテーション)
- ㉓付属認定こども園実習③(参加・部分実習),学内研修(弾き歌い,制作,保育準備のローテーション)
- ㉔学内研修(弾き歌い,制作,指導案,部分実習リハのローテーション)
- ㉕学内研修(弾き歌い,制作,指導案,部分実習リハのローテーション)
- ㉖付属認定こども園の先生からの講話、実習についての質疑応答
- ㉗付属認定こども園一日実習④(指導案による保育の観察、参加・部分実習)
- ㉘付属認定こども園実習⑤(運動会観察)
- ㉙付属認定こども園の先生からの講話、実習についての質疑応答
- 30振り返りとまとめ、履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・子どもとかかわることへの関心や意欲をもつことができる。
- ・仲間と意見交換したり、協働で作業したりすることを大切にする態度が身につく。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
(DP2)コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

- ・付属認定こども園の実習評価(日誌を含む) 30%
- ・学内研修(各活動)における提出物・発表等 70%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『幼稚園実習（基礎）付属認定こども園実習ハンドブック』

『実習ハンドブック』

【参考文献】

『こどものうた200』（チャイルド社）

■授業外学習

【具体的な内容】

『幼稚園実習(基礎)付属認定こども園実習ハンドブック』を精読し、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習しノートにまとめてください。実習目標の設定や自己課題の設定時に課題を出題します。

また、学内研修の内容を振り返り、付属認定こども園での実習に向けて知識・技能の向上を目指して復習に取り組んでください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

■その他

- ・実習時は指定の実習着(指定ポロシャツ)を着用します。
- ・証明写真（付属、保育実習で使用）が必要になります。
- ・付属認定こども園での実習の際に昼食が必要になる日があります。
- ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。

科 目 名	保育者論
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	小川 久恵

■講義の目的および概要

本講義は保育者の役割と倫理、保育者の制度的な位置づけを理解し、保育者の専門性について考察することを目的とします。
また保育者の協働及び専門的成長について理解します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行いながら、授業の中ではテキストの要点を捉える、学習したことに基づき自らの考えに重ねて思考する、考えたこと発言する、文章としてまとめる等、グループワークやディスカッションを織り交ぜながら能動的な学修を目指します。

本講義は幼稚園教諭の実務経験のある教員が、保育者の役割や倫理、制度的な位置づけ等にかかわる視点・知識などを活かして、保育者の専門性とは何かを保育者の視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
～授業計画説明、科目・授業へのアンケート～
- ②幼稚園・保育所における保育者の仕事と役割
- ③認定こども園・児童福祉施設における保育者の仕事と役割
- ④保育者になるための学び(資格・要件)
- ⑤保育に求められる資質とは
- ⑥職場で学びあう専門家として
- ⑦子どもの育ちの危機
- ⑧子育て支援と保育者の役割
- ⑨現代社会の変化と保育者の仕事や課題
- ⑩保育者の専門性
- ⑪保育者の職務と生活
- ⑫地域のなかの保育者・施設
- ⑬保育者になるために必要な経験
- ⑭保育者の実態、諸外国の保育者
- ⑮保育者の仕事や課題、これまでのまとめ、履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育者の役割や意義、制度、歴史等に関する基本的知識について理解することができる。
- ・自分が目指す保育者像を具体的に描くことができる。
- ・保育者として求められるモラル、考え方、マナー、所作について理解している。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
- (DP2)コミュニケーション能力
- (DP3)課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ・試験40%
- ・レポート30%
- ・授業のまとめ提出物・小テスト30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・秋田喜代美編集代表『今に生きる保育者論』株式会社みらい

【参考文献】

- ・『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 フレーベル館
- ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館
- ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説書』
内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・春学期で学んだ「保育原理」や「教育原理」等を参考に、保育者の役割や保育・幼児教育の制度などのポイント、また、次回の授業範囲について専門用語の意味などを予習しノートにまとめてください。
- ・授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。
- ・付属認定こども園実習や学外保育実習を通して、保育者の子どもや保護者への対応、保育者同士のかわり、保育時間外の仕事などを観察するように心がけてください。

【必要な時間】

予習・復習時間はそれぞれ2時間、計4時間を目安とします。

■その他

科 目 名	子どもの食と栄養(基礎)[幼教]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	加藤 聖子

■講義の目的および概要

乳児期、幼児期、学童期の各ライフステージにおける心身の発達と食生活、および生涯発達と食生活の関連についての基本的知識の習得を目指す。また、学んだ知識や理論をふまえて演習を行い、実際の保育現場で実践し発展させることができる力を養うことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式中心で進める。
数回グループワークを行う。
テキストを中心に進めていくが、必要に応じて資料を配布する。
動画教材を利用する。
毎回ミニテストの実施、またはミニレポートの提出を求める。

【課題に対するフィードバックの方法】

ミニテストの採点結果の返却、またミニレポート返却時にコメントすることでフィードバックを行う。

■授業計画

- ① 子どもの心身の健康と食生活の現状と課題
- ② 栄養の基本的知識 (1) 栄養素の種類と機能 (炭水化物・脂質・たんぱく質)
- ③ 栄養の基本的知識 (2) 栄養素の種類と機能 (ミネラル・ビタミン)
- ④ 栄養の基本的知識 (3) 日本人の食事摂取基準
- ⑤ 栄養の基本的知識 (4) 献立と調理の基本
- ⑥ 乳児期の授乳の意義と食生活 (1) 母乳栄養・人工栄養
- ⑦ 乳児期の離乳の意義と食生活 (2) 離乳食の進め方の実際
- ⑧ 幼児期の心身の発達と食生活 (1) 幼児期の食生活 (1～2歳) の特徴とその実践
- ⑨ 幼児期の心身の発達と食生活 (2) 幼児期の食生活 (3～5歳) の特徴とその実践
- ⑩ 幼児期の心身の発達と食生活 (3) 偏食児への対応・間食の意義
- ⑪ 幼児期の心身の発達と食生活 (4) お弁当の献立作成
- ⑫ 幼児期の心身の発達と食生活 (5) 作成した献立に基づいたお弁当作り
- ⑬ 学童期・思春期の心身の発達と食生活
- ⑭ 生涯発達と食生活
- ⑮ 子どもの食と栄養 (基礎) のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。
3. 学んだ知識や理論をふまえてライフステージごとに演習を行うことで、実践力を養う。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

筆記試験 (50%) ・ミニテスト (30%) ・ミニレポート (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『最新 保育士養成講座 第8巻 子どもの食と栄養』最新保育士養成講座総括編集委員会編, 全国社会福祉協議会, 2019

【参考文献】

必要に応じて授業中に紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

子どもの食生活の現状と問題点について普段から関心を持ち、ニュース、新聞等により情報を得るように心がけること。

【必要な時間】

予習・復習合わせて1時間を目安とする

■その他

科目名	保育内容総論[幼教]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担当者	小川 久恵、田村 めぐみ

■講義の目的および概要

子どもが健やかに育つために保育者が、どのような視点で保育を行っているのかを学ぶ。

幼稚園教育要領や保育所保育指針等における「保育目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育内容」の関連を理解する。また保育内容の歴史や発達をどのように捉えるのか、遊びとは何かなど、5領域の保育内容の考え方や指導方法について理解できるようにする。保育の基本的な考え方を理解するのが本講義の目的である。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストや講義資料を用いて学習を進める。また学習テーマごとにグループディスカッションや模擬保育を行いながら、学びを深めていく。
本講義は、幼稚園教諭の実務経験のある教員が保育内容の知識や保育を構想する知識・技術を活かして、保育内容全体を構造的に理解し、具体的な保育の場面を想定する方法を理解できるよう講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・responなどへの講義の感想や質問などには、適宜講義内で回答する。
- ・提出した課題には、返却後コメントや解説を行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション／保育内容の総合的把握
- ②各領域のねらい及び内容並びに全体構造の理解
- ③幼稚園・保育所・認定こども園の一日の流れと保育内容
- ④子どもの発達特性と保育内容 0・1歳児
- ⑤子どもの発達特性と保育内容 2・3歳児
- ⑥子どもの発達特性と保育内容 4・5歳児
- ⑦保育内容と保育の計画・観察・記録・評価
- ⑧保育内容の展開（養護と教育、環境、遊び）
- ⑨保育内容の展開（生活や発達の連続性、家庭・地域・小学校との連携）
- ⑩模擬保育1 各領域のねらい及び内容の理解
- ⑪模擬保育2 各領域の特性や幼児の体験の関連を考慮した教材活用法
- ⑫模擬保育3 幼児の認識や思考、動きを考慮した指導案作成
- ⑬模擬保育4 模擬保育の振り返り
- ⑭多様な保育（長時間保育・特別な配慮を要する子ども・多文化共生など）の展開と保育内容
- ⑮保育内容の歴史的変遷と今後の課題／履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育の基本を踏まえた指導や援助のあり方を理解する。
- ・保育内容5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を保育の全体的な構造として理解する。
- ・保育の多様な展開について具体的に理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・定期試験 30%
- ・レポート 30%
- ・授業の振り返り（コメントシート等） 20%
- ・模擬保育 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

編著 咲間まり子 『コンパス 保育内容総論 第2版』 建帛社

【参考文献】

『保育所保育指針解説書』 厚生労働省編 フレーベル館
『幼稚園教育要領解説書』 文部科学省編 フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』 内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・受講前に必ずテキストの各学習範囲を読んでおくこと。
- ・各講義資料を読み返し、振り返りをする。

【必要な時間】

毎回の授業の事前・事後の学習時間として、それぞれ1時間程度を学習の目安とする。

■その他

科 目 名	保育実習Ⅰ [幼教]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 4単位・実習
担 当 者	山内 太郎、朝地 信介、林 二士、深浦 尚子、野崎 剛毅

■講義の目的および概要

保育所・各種児童福祉施設での実習を通して保育士として必要な知識・技能を身につけ、学内における学習と関連付けて学ぶ。特に実習後の学習への動機づけをする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

内容は、実習先によって異なる。

【課題に対するフィードバックの方法】

関連する実習科目において振り返りを行う。

■授業計画

保育所 10日間、施設 10日間の実習を行う。

保育所、施設理解から始まり、子どもや施設の利用者とかかわりを通して、参加、部分的な責任実習を行う。実習の内容については実習先によって多少異なる。

- ・事前訪問（オリエンテーション）・・・スケジュールの確認、実習のための諸注意
- ・観察参加実習・・・子どもたち、利用者とともに生活しながら観察・援助をする。
- ・部分実習・・・絵本の読み聞かせ、ゲーム、制作など保育のなかの一部分を責任をもって担う。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育所・施設での実習が終了することで単位の認定が行われる。それぞれの実習先で充実した実習を行うことが最大の目標であるが、さらに2年次での発展学習への課題を明確にすることが求められる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

(DP2)コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

授業への取組み 20%

提出物 30%

評価表 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『実習ハンドブック』

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

健康管理をしっかりとる。

挨拶など基本的な対人関係のマナーをしっかりと身につけておく。

【必要な時間】

事前・事後の学修は合わせて1時間を目安とする。

■その他

5月頃に実習費29,000円（2021年度実績）の納入が必要になります。

科 目 名	保育実習指導Ⅰ[幼教]
開講期・単位	1年 通年・選択 2単位・演習
担 当 者	山内 太郎、朝地 信介、野崎 剛毅、高橋 由美子

■講義の目的および概要

保育所・各種福祉施設での実習を有意義なものにするために、事前及び事後の指導として必要な知識、技術を習得するとともに、必要な諸手続きについて理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式でおこなう。また、重要事項等の確認や演習等で必要な場合はグループにわかれて演習形式でおこなう。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業の冒頭に適宜小テストを行い、理解度を確認する。

■授業計画

<全体事前指導>

- ①オリエンテーション（保育実習とは何か・全体のスケジュール／実習費のことなど）
- ②実習生としての心得
- ③免疫について

<施設実習事前指導>

- ④実習に向けた準備①（書類作成）
- ⑤実習施設種別ごとの理解①（養護系）
- ⑥実習施設種別ごとの理解②（障害児系）
- ⑦実習施設種別ごとの理解③（障害者支援施設）
- ⑧実習先の発表／日誌等配布
- ⑨実習における記録について①（言葉の使い方）
- ⑩実習における記録について②（施設実習日誌の書き方）
- ⑪実習に向けた準備②（実習事前事後の流れ確認／礼状の書き方・電話のかけ方など）
- ⑫実習課題の検討（Q&A準備）／巡回教員発表
- ⑬実習直前Q&A

<施設実習事後指導>

- ⑭実習報告会

<保育所実習事前指導>

- ⑮実習に向けた準備③（保育所実習の事前事後の流れ）／日誌等配布／実習先発表
- ⑯保育所的一天
- ⑰実習における記録について①（保育所実習日誌の書き方）／オリエンテーション確認
- ⑱実習における記録について②（指導案の書き方）／巡回教員発表
- ⑲実習グッズ紹介
- ⑳実習課題の検討
- ㉑実習直前Q&A

<保育所実習事後指導>

- ㉒実習の振り返り／実習コースについて

<全体事後指導>

- ㉓実習報告書作成／履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

実習を円滑に行うために、必要な知識・技術を身につける。
実習を開始するための諸手続きと実習終了後の諸手続きの必要性を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
(DP2)コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

提出物：50%
課題：20%
小テスト：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『実習ハンドブック』
『これからの時代の保育者養成・実習ガイド：学生・養成校・実習園がともに学ぶ』
大豆生田啓友ほか編著 中央法規

【参考文献】
授業において適宜提示する

■授業外学習

【具体的な内容】
事前学習として実習ハンドブックの毎回のテーマに該当する箇所を目を通しておくこと
事後学習として配布資料等を読み返しておくこと

【必要な時間】
事前・事後、それぞれ1時間程度で合計2時間を目安とする。

■その他

科 目 名	保育の心理学Ⅰ
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担 当 者	深浦 尚子

■講義の目的および概要

保育実践にかかわる心理学の知識の習得を目的とする。その際に、子どもが人のかかわりを通して発達することを理解する。また、発達とは子どもだけではなく、生涯発達という観点から発達のプロセスについて保育との関連で理解し、考える。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で行うが、必要に応じてグループディスカッションを行う。毎回コミュニケーションカードに講義の振り返りと質問などの記入を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は、講義中に行い、提出後コメントをつけて学生に返却を行う

■授業計画

- ①オリエンテーション 発達とは
- ②発達と環境
- ③発達の理論
- ④身体機能と運動機能の発達
- ⑤認知の発達
- ⑥言語の発達
- ⑦社会性・情動の発達
- ⑧学びとは
- ⑨主体的学びと意欲
- ⑩生活・学び・遊び
- ⑪学びの過程と支援
- ⑫集団・仲間関係
- ⑬学びの評価
- ⑭発達や学びに困難を抱える子どもたち
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

人の発達を多様な側面から学ぶことで、子どもの発達の特性を理解し、保育をすすめる際の子どもの理解ができるようになる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

授業コミュニケーションシート 20%
中間レポート 40%
定期テスト 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「子どもの姿から考える 保育の心理学」 編 結城孝治 遠藤順子 請川滋大 アイ・ケイコーポレーション

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

教科書を読んだりするなどの予習、復習が必要です

【必要な時間】

それぞれ、およそ2時間くらい

■その他

科目名	人間の心理
開講期・単位	1年 春秋学期・選択 2単位・講義
担当者	岡田 美恵子

■講義の目的および概要

心理学の入門の授業である。心理学の各分野の基礎知識を学びながら、心理学的な見方や考え方を習得することを目指している。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

パワーポイントを使用しながら授業を展開する。必要に応じて、授業内容に関連する視聴覚教材を使用する。心理学の考え方を理解するために、簡単な実験や調査を実施することがある。

【課題に対するフィードバックの方法】

授業内で返却、解説をおこなう。

■授業計画

身近な事例等を交えながら、概ね以下の分野に関連する講義を展開する予定である。進行状況や理解度によって扱う順序を変更したり、数週にわたって同テーマを展開したり複合的に扱うことがある。

1. オリエンテーション
2. 心理学って何だろう
3. 臨床の心理学
4. 感覚と知覚
5. 動機付け
6. 発達
7. 知覚
8. 認知
9. 性格
10. 学習
11. 記憶
12. 対人関係
13. 社会のなかの「こころ」
14. 関係とコミュニケーション 1
15. 関係とコミュニケーション 2

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 心理学の全体について基礎知識を獲得する。
2. 心理学的研究方法について理解し応用できる。
3. 日常生活の中に心理学的視点を持ち、社会事象や他者、自分自身について心理学的探求をし理解を深める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力
(DP3)課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

リモート授業の場合－小テスト（60％）、最終試験（40％）で評価する。

対面・ハイブリッド授業の場合－小テスト（60％）、期末定期試験（40％）で評価する。

＊提出物の締切後の提出は減点になるので注意すること。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

毎回プリントを配布する。

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- 図書やWebを活用し、興味や関心のある心理学のトピックスについて学習すること。
- 授業中に得た知識を定着させるため復習を行うこと。

【必要な時間】

予習・復習はそれぞれ2時間程度を目安とする。

■その他

科目名	子どもの遊び演習
開講期・単位	1年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	野崎 剛毅、高橋 由美子

■講義の目的および概要

学生自身が遊びを体験し、楽しむことで保育者としての基礎をつくることを目的とする。幼児教育における遊びの重要性を理解し、子どもにとってより楽しく、意義のある遊びについて考えていく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
実践を重視し、学生自身が授業構築に直接関わり、遊びについて検討していく。

【課題に対するフィードバックの方法】
学生から提示された疑問等には講義内で対応していく。

■授業計画

- ①ガイダンス：科目の意義、遊びについて
 - ②運動あそび
 - ③わらべうたあそび
 - ④伝統遊び：けん玉
 - ⑤伝統遊び：コマ
 - ⑥伝統遊び：竹馬
 - ⑦カブラ
 - ⑧伝統遊び：竹とんぼ
 - ⑨絵本
 - ⑩音楽あそび
 - ⑪小遊具の探求
 - ⑫作って遊ぼう
 - ⑬恩物・モンテッソーリ教具
 - ⑭まとめ・履修カルテの記入
 - ⑮（冬開講）雪で遊ぼう
- なお、天候等による順番が前後することがある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
子どもの遊びを自分自身が体験し、その楽しさ、難しさを実感する。
子どもが楽しめる遊びを考え、実践できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP2) 【コミュニケーション能力】

■成績評価基準と方法

授業各回の実践レポート 70%
まとめのレポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『新版遊びの指導 乳・幼児編』 幼少年教育研究所編、同文書院

【参考文献】
必要に応じて紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】
子どもの頃に体験した遊びを思い出しておく。また、保護者や身近な大人に、子どもの頃の遊び経験を聞いておくこと良い。
また、授業で体験して終わるのではなく、継続的に実践し続けることを望む。

【必要な時間】
授業後、1時間以上の振り返りを求める。

■その他

※15回目は2月におこなう。
※実際に身体を動かすことが多いため、原則として動きやすい服装で参加すること。
その他、必要な準備は授業内で指示する。

科 目 名	ことばの基礎
開講期・単位	1年 春学期・必修 2単位・講義
担 当 者	東谷 一彦、森岡 毅

■講義の目的および概要

ことばには様々な働きや役割がある。この授業では、ことばの様々な働きや役割について具体的に理解し、「読む・聞く・書く・話す」といった現実的な場面でことばを使いこなすための基礎を身に付けることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ことばについての理解とともに、「読む・聞く・書く・話す」といった領域の演習を盛り込み、例えばグループワークなど、知識・技能を活用する能力を育てるための実践的な内容も取り入れる。また、漢字の知識や保育に関する語彙力を高めるために、小テストを毎回実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、資料を配付する。

■授業計画

- ①オリエンテーション・話しことばと書きことばの違いについて(1)
- ②話しことばと書きことばの違いについて(2)
- ③正しい文章表現について(1)
- ④正しい文章表現について(2)
- ⑤敬語について(1)
- ⑥敬語について(2)
- ⑦敬語について(3)
- ⑧通信文について(1)
- ⑨通信文について(2)
- ⑩メール文について
- ⑪要約文
- ⑫自己紹介文
- ⑬意見文(1)
- ⑭意見文(2)
- ⑮表現活動についてのまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ことばの様々な働きや役割について具体的に理解し、幼児教育に関わる者として必要な知識・技能としてのことばの基礎を身に付け、適切な表現ができること。例えば、保育・幼稚園等における実習での日誌の作成などで学習したことが発揮できること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し解決する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

定期試験50%

提出物等40%

- ①自己紹介文、要約文、手紙文、メール文、意見文などの提出
- ②ワークシート・振り返りシートの提出

小テスト10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし。適宜、プリントを配布。

【参考文献】

保育所保育指針 (H29)
ポケット国語辞典 (三省堂)

■授業外学習

【具体的な内容】

漢字やことばの知識を身に付けるための学習も行うが、日頃から新聞や本を読むなど、活字に親しみ、「ことば」について意識すること。 また、授業内容については、しっかり振り返りを行うことが必要である。

【必要な時間】

予習・復習として、それぞれ2時間程度の学習を目安とする。

■その他

授業での配布物等を保管するためのファイル（A 4 版）を用意すること。

科 目 名	ことばの力
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	東谷 一彦

■講義の目的および概要

春学期に受講した「ことばの基礎」の授業内容を踏まえ、ことばの様々な働きや役割について実践的に理解し、保育者として社会で役立てることのできる生きたことばの使い手になることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ことばの様々な働きや役割について実践的に理解し、知識の活用を促すための応用的な内容を中心として授業を行う。例えば、絵本や紙芝居について深く学び、絵本の「読み聞かせ」や「紙芝居」の制作と実演などを行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、資料を配付する。

■授業計画

- ①オリエンテーション・「絵本」について
- ②「絵本」の書評について
- ③「絵本」の書評〔実作〕
- ④「絵本」の読み聞かせについて
- ⑤「絵本」の読み聞かせ〔実演〕
- ⑥子どもの発達と「絵本」
- ⑦「紙芝居」について
- ⑧「紙芝居」づくり〔構想〕
- ⑨「紙芝居」づくり〔作画〕
- ⑩「紙芝居」づくり〔台本〕
- ⑪「紙芝居」づくり〔演出〕
- ⑫「紙芝居」発表
- ⑬「敬語」について（１）
- ⑭「敬語」について（２）
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

ことばの様々な働きや役割について実践的に理解し、幼児教育に関わる者として、十分に現場で生かすことのできる知識・技能を身に付ける。例えば、絵本の読み聞かせや紙芝居ができる、正しい言葉遣いができる、など。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

創作（書評、紙芝居創作など） 30 %
発表（読み聞かせ、紙芝居実演など） 30 %
小テスト・提出物等 40 %

■テキスト・参考文献

【テキスト】

保育・教育ネオシリーズ20「保育内容・言葉」太田光洋編著（同文書院）
※このテキストは2年次の「保育内容（言葉）」でも使用する。その他、適宜プリントを配布。

【参考文献】

「保育の基本用語」（わかば社）

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・日頃から新聞や本などで活字に親しみ、「ことば」について意識する。
- ・授業内容について、家庭でしっかりと振り返りを行う。
- ・課題が授業内で完成しなかった場合は、授業外学習で完成させ、提出すること。

【必要な時間】

- ・小テストの準備などを含めて、予習・復習にそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

授業での配布物等を保管するためのファイル（A 4 版）を用意すること。

科 目 名	ピアノ基礎演習Ⅰ
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	二口 英恵、伊藤 桂子、佐々木 沙織、小杉 恵、竹田 有希、長谷部 祥子

■講義の目的および概要

保育現場で必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。

■授業計画

- 1.オリエンテーション（グループ分け）
- 2.～13. 下記の①～⑬の指導項目をテキストに関連させて指導します。
 - ①読譜（拍子）
 - ②読譜（リズム）
 - ③読譜（ト音譜表）
 - ④読譜（ヘ音譜表）
 - ⑤ハ長調の和音
 - ⑥ヘ長調の和音
 - ⑦ト長調の和音
 - ⑧分散和音など様々な伴奏型
 - ⑨初見視奏
 - ⑩簡易な即興演奏
 - ⑪自由曲による表現
 - ⑫子どもの歌の弾き歌い
 - ⑬生活の歌、行事の歌、季節の歌
- 14.授業内試験
- 15.春学期のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。
- ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。
- ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

A:定期試験（レッスンからの選択曲1曲：50%）＋授業内試験（初見視奏、伴奏付け：20%）：合計70%

B:毎時の課題： 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』
- ・『こどものうた200（チャイルド本社）』
- ・『ゆびトレ』（本学オリジナル教材）

■授業外学習

【具体的な内容】

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

【必要な時間】

事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。

■その他

幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

科 目 名	ピアノ基礎演習Ⅰ[再・1年]
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	伊藤 桂子

■講義の目的および概要

保育現場で必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。

■授業計画

- 1.オリエンテーション（グループ分け）
- 2.～13. 下記の①～⑬の指導項目をテキストに関連させて指導します。
 - ①読譜（拍子）
 - ②読譜（リズム）
 - ③読譜（ト音譜表）
 - ④読譜（ヘ音譜表）
 - ⑤ハ長調の和音
 - ⑥ヘ長調の和音
 - ⑦ト長調の和音
 - ⑧分散和音など様々な伴奏型
 - ⑨初見視奏
 - ⑩簡易な即興演奏
 - ⑪自由曲による表現
 - ⑫子どもの歌の弾き歌い
 - ⑬生活の歌、行事の歌、季節の歌
- 14.授業内試験
- 15.春学期のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。
- ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。
- ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

A:定期試験（レッスンからの選択曲1曲：50%）＋授業内試験（初見視奏、伴奏付け：20%）：合計70%

B:毎時の課題： 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』
- ・『こどものうた200（チャイルド本社）』
- ・『ゆびトレ』（本学オリジナル教材）

■授業外学習

【具体的な内容】

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

【必要な時間】

事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。

■その他

幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

科 目 名	ピアノ基礎演習Ⅱ
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	二口 英恵、伊藤 桂子、佐々木 沙織、小杉 恵、竹田 有希、長谷部 祥子

■講義の目的および概要

「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身に付けます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学生個々の経験や習熟度に応じてそれぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で、細やかに指導を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。

■授業計画

1. オリエンテーション（習熟度と秋学期の目標の確認）
2. ～13. 下記の①～⑩の課題を習熟度に応じて指導します。
 - ①ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調の主要和音
 - ②ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調の和音の変奏
 - ③子どもの歌の弾き歌い
 - ④初見視奏
 - ⑤伴奏付け
 - ⑥移調
 - ⑦小品の演奏
 - ⑧保育実践のための即興
 - ⑨就職試験対応曲
 - ⑩様々な演奏表現について
14. 授業内試験
15. 秋学期のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。
- ②子どもの歌に伴奏を付けたり、移調したり、アレンジすることができる。
- ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- A: 定期試験（レッスンからの選択曲1曲：50%）＋授業内試験（移調演奏、伴奏付け：20%）：合計70%
 B: 毎時の課題：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』
- ・『こどものうた200（チャイルド本社）』
- ・『ゆびトレ』（本学オリジナル教材）

■授業外学習

【具体的な内容】

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

【必要な時間】

事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。

■その他

「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。
幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

科 目 名	子どもの図画工作
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	朝地 信介

■講義の目的および概要

作品制作を通してつくってあそぶ楽しさを感じると共に、保育者として必要な図画工作の基礎的技術と実践法を学ぶ。幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された図画工作の学習内容の理解を深める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

資料・参考作品を基に課題の説明を行い、主に制作実習室と学内、大学敷地内をフィールドとして作品を制作・鑑賞する。また授業内容の振り返りと学生個人の資料として、作品や配布物を綴じて作品ポートフォリオを作成する。授業冒頭には学生相互の制作実践（折り紙等・プレゼンテーション方式）を行う。

日本画家・美術教諭としての実務経験を元にした内容を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

制作した作品の鑑賞や制作実践での学生同士の相互評価と教員からのアドバイスをを行う。また毎時間の取り組みの振り返りや質問等のコメントを記入・提出し、教員がコメント等で応える。

■授業計画

- ①オリエンテーション／子どもの表現、自分の表現
- ②素材を見る、感じる（いろいろな紙とあそび）
- ③素材を見る、感じる（いろいろな描画用具とあそび）
- ④基礎技法の造形あそび（絵具）
- ⑤基礎技法の造形あそび（クレヨン）
- ⑥基礎技法の造形あそび（鉛筆・色鉛筆）
- ⑦基礎技法の造形あそび（色紙）
- ⑧基礎技法の造形あそび（様々な材料）
- ⑨造形のための素材活用（折り紙・装飾）
- ⑩造形のための素材活用（自然素材）
- ⑪技法・素材を生かした作品制作（自分を表現お面づくり／制作）
- ⑫技法・素材を生かした作品制作（自分を表現お面づくり／展示・鑑賞）
- ⑬技法・素材を生かした作品制作（おもしろ架空生物をつくる／調べ・構想）
- ⑭技法・素材を生かした作品制作（おもしろ架空生物をつくる／下絵）
- ⑮技法・素材を生かした作品制作（おもしろ架空生物をつくる／着彩）／履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①作品制作を通して自分なりに感じたことや考えたことを表現することができる。
- ②制作した作品や発表を互いに鑑賞することで様々な感性や表現を知り、理解することができる。
- ③造形の基本を学び、作品制作に必要な技術を身に付けることができる。
- ④作品制作を振り返り、自らの表現や制作方法の課題を見つけ把握することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力
(DP5)能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・完成作品の提出、作品内容・作品数・期限など条件の達成度：70%
- ・毎時間の取り組みの振り返り（小レポート）：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

- ・文部科学省「幼稚園教育要領解説」
- ・厚生労働省「保育所保育指針解説書」
- ・授業時にプリント、資料を配布し参考作品を提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・制作に必要な資料や図案、モチーフを準備する。
- ・配布される材料以外に必要なものは各自で用意する。
- ・折り紙のレパートリーを調べる。
- ・期日までに提出できるよう各自で制作を進める。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。

■その他

- ・図画工作、造形表現、その他演習や実習で使用するための教材を受講年度初めに全員購入する。（絵の具、はさみ、カッター、クレヨン、のり、折り紙等 4,000円）
- ・スマートフォン（もしくはタブレット・パソコン）を使用するので持参する。

科 目 名	教育と保育の方法
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	田村 めぐみ

■講義の目的および概要

保育は、目の前にいる子どもの一人ひとりの発達や育ちに合ったかかわりが必要である。
 その実現に向け、幼児期に育みたい資質・能力を理解するとともに、幼稚園教育要領や保育所保育指針等示されている各領域のねらい及び内容について、理解を深めていく。
 また、具体的な保育場面や子どもとのかかわりを想定して、保育を構想する方法を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
 講義形式で行う。事例検討や視聴覚教材などにも触れながら、具体的な保育場面について、自分の考えをまとめたり、グループワークや模擬保育の実践を通すなどして、体験的に学ぶ。
 本講義は、幼稚園・認定こども園での実務経験のある教員が子どもとかわる視点や保育の計画の重要性等について理解を深める講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】
 毎回の講義へのコメントや質問等については、次回講義の際に回答する
 指導案・記録・評価について、全体で共有し、改善の視点について検討する。

■授業計画

- ①オリエンテーション／保育とは何か
- ②子ども理解にもとづいた保育方法と評価
- ③子どもにふさわしい園生活と保育形態
- ④養護と教育が一体となった保育の方法
- ⑤環境を通した保育の方法
- ⑥遊びを通した保育の方法
- ⑦個と集団を活かした保育の方法
- ⑧0・1・2歳児の発達に応じた保育方法
- ⑨3・4・5歳児の発達に応じた保育方法
- ⑩配慮を要する子どもへの保育方法
- ⑪教材や情報機器を活かした保育方法
- ⑫家庭・地域・小学校と連携した保育
- ⑬保育の計画・実践・評価 1
- ⑭保育の計画・実践・評価 2
- ⑮全体のまとめと振り返り／履修カルテの記載

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
 ・子ども理解の意義を理解している。
 ・子ども理解にもとづいた保育の構想の重要性について理解している。
 ・各領域の特性や子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材等の活用法を理解し、保育の構想に活動することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
 (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP2) コミュニケーション能力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

定期試験 30%
 授業内レポート 30%
 授業内提出物 30%
 模擬保育 10%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
必要に応じてプリントを配布

【参考文献】
「保育方法・指導法」大豆生田啓友・渡邊英則編著 ミネルヴァ書房
「幼児理解からはじまる 保育・幼児教育法【第2版】」小田豊・中坪史典編・著建
帛社
「保育方法の実践的理解」久富陽子・梅田優子 萌文書林
「保育所保育指針解説書」厚生労働省編 フレーベル館
「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編 フレーベル館
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」内閣府・文部科学省・厚生労働省
編 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】
授業内容と各解説書を参照し、3法令に対応した理解を進める。
図書館等を利用し、広い範囲からの情報を収集し、指導案作成等に取り組んでほしい。
。

【必要な時間】
事前事後それぞれ2時間程度を目安とする。

■その他

これまでの保育原理や教育原理で学んだ、保育・幼児教育の基本を復習しておくこと。
。子どもの発達の道筋を理解しておくこと。これまでに経験をした各実習の日誌や、
実践した指導案を振り返ったり、省察をしておくこと。

科 目 名	子どもの保健[幼教]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	河崎 和子

■講義の目的および概要

子どもの心身の健康増進を図る保健活動、子どもの身体発育や生理機能および精神機能の発達と保健、子どもの疾病とその予防、保育における環境・衛生管理および安全管理について理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

主に、講義形式で行う。参加型の講義が中心であり、一部、グループワークやテーマについての意見交換を実施する（遠隔の場合についても画面オンにして意見交換する場合がある）。虐待予防の取り組み、東日本大震災やCOVID19の対応の実際についての実務経験を含めた講義を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義時には、ワークシートの実施により、質問や意見、理解した内容についての項目を設定し、自己の振り返りができるようにする。結果については、次回講義時に全体への講評を行う。

■授業計画

- ①子どもの健康とは
- ②子どもの保健と子どもを取り巻く環境
- ③少子化社会における子育てと保育（保護者との情報共有も含む）
- ④子どもの発育と発達1～身体発育と子どもの発達
- ⑤子どもの発育と発達2～生理機能の特徴
- ⑥子どもの健康状態の観察と発育・発達の評価
- ⑦予防接種
- ⑧子どものかかりやすい病気とその特徴1
- ⑨子どものかかりやすい病気とその特徴2
- ⑩子どものアレルギーとアレルギー疾患をもつ子どもへの対応
- ⑪保育環境と健康安全管理～子どもの事故と予防
- ⑫災害の備えと危機管理～東日本大震災の妊産婦相談対応の経験から
- ⑬子どもの救急対応
- ⑭COVID19における保育園の感染対策の実際（感染症の予防と対策）
- ⑮児童虐待の特徴と地域との連携

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 子どもの保健の目的と保健活動の意義を理解する
2. 子どもの取り巻く環境について理解する
3. 子どもの発育と発達について理解する
4. 保育環境における管理について理解する
5. 子どもの救急対応について理解する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- ①平常点：ワークシート30点
 - ②最終課題レポート：70点
- ※①と②を合計し、60点未満を不合格とする。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

保育者のためのわかりやすい子どもの保健（総合医学社、2022）

【参考文献】

厚生労働省ホームページより

- ①「保育所における感染症対策ガイドライン」
- ②「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習：上記に提示したテキストの該当内容に目を通しておく。

事後学習：毎回のワークシートで不明だった点について復習する。

【必要な時間】

事前学習・事後学習、それぞれ2時間を目安とする。

■その他

自己の母子健康手帳があれば講義前に見ておく。特に自己の成長の記録や発育曲線、予防接種、子どもの権利条約については目を通しておくこと。

科 目 名	子ども家庭福祉[幼教]
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	大野 慶

■講義の目的および概要

保育者とは「専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者」（児童福祉法第18条の4）である。そこで本講義では、子どもの保育及び保護者に対する保育に関する援助・指導のあり方を考察していく上で不可欠となる子ども・家族の生活・福祉に関する基礎的な知識を学修していく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義方法は以下のとおりである。

1) 講義形式を基本とする。ただし必要に応じて視聴覚教材を用いることもある。

2) レジュメとその他資料を配布する。

3) リアクションペーパーの提出を求める。提出されたリアクションペーパーに対しては必要に応じて応答する。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出されたリアクションペーパーについては、毎回講義の前半に応答・共有する時間を設ける。

■授業計画

- ① 子ども家庭福祉と保育士
子ども家庭福祉の理念や意義、それをふまえて保育者の役割を確認する。
- ② 子どもの人権
子どもへの視点の変化、近代の子どもの権利の動向、子どもの権利条約の理念などを確認する。
- ③ 子ども家庭福祉の成立と展開（欧米）
おもにイギリスにおける子ども家庭福祉の歴史の変遷を確認する。
- ④ 子ども家庭福祉の成立と展開（日本）
日本における子ども家庭福祉の歴史の変遷を確認する。
- ⑤ まとめとテスト（1）
①～④までのまとめとテストをおこなう。
- ⑥ 現代社会と子ども家庭福祉
少子高齢社会からみえる子ども・家族をとりまく現状とその変化を確認する。
- ⑦ 子ども・家族と貧困
子どもの相対的貧困率の概要、子どもの貧困の構造的背景などを確認する。
- ⑧ 子ども・家族と虐待
子ども虐待と家族の不利・困難の重なり合いを確認し、子ども虐待対策のあり方を考える。
- ⑨ 子ども・家族と障害
障害を捉える視点、障害のある子ども・家族に関する制度と支援のしくみを確認し、障害のある子どもの育ちと家族を支える支援のあり方を考える。
- ⑩ 子ども・家族と非行
非行少年のイメージと実際、少年保護の理念と保護処分などを確認したのち、非行少年支援のあり方を考える。
- ⑪ まとめとテスト（2）
⑥～⑩までのまとめとテストをおこなう。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

子どもの保育及び保護者に対する保育に関する援助・指導のあり方を考察していく上で不可欠となるであろう、子ども・家族の生活・福祉に関する基礎的な知識を習得することである。具体的には以下のとおりである。

1) 子ども・家族を取り巻く現代社会について理解すること

2) 子ども・家族の生活と困難について理解すること

3) 子ども・家族を支える社会的仕組みについて理解すること

4) 上記1)～4)を理解した上で、子どもの保育及び保護者に対する保育に関する援助・指導のあり方を考察できるようになること

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 【専門知識・技能を活用する力】

(DP4) 【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

成績評価基準と方法は以下のとおりである。

- 1) テスト (70%)
- 2) リアクションペーパー (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

原則使用しない。講義方法2) のとおりレジュメと関係資料を配布して講義を行う。

【参考文献】

適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習では「子ども家庭福祉論」「児童福祉論」と冠したテキストを購読するとよい。適宜紹介する参考文献も併せて読まれない。また、常日頃からニュース・新聞報道に目を通されるとよい。事後学習では配布されたレジュメやその他資料を見直しながノートを作成するとよい。

【必要な時間】

事前事後学習はそれぞれ2時間程度を目安とする。

■その他

その他注意してほしいことは以下のとおり。

- 1) 十分に事前事後学習をしておくこと。
- 2) 授業態度としては常に「問い」をもって臨むこと。
- 3) 他受講生の権利保護の観点から私語は慎むこと。

科 目 名	社会的養護Ⅰ [幼教]
開講期・単位	1年 春学期・選択 2単位・講義
担 当 者	山内 太郎

■講義の目的および概要

本講義の目的は大きく二つある。一つは社会的養護が必要な子どもの存在について理解することである。もう一つは保育所以外の児童福祉施設職員として保育士がどのような役割を果たしているのか理解することである。また、こうした取り組みが必要となる社会的背景や家族が置かれた状況についても解説する

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを中心に進めていくが、必要に応じて配布資料や視聴覚資料を使って内容を補っていく。

また、必要に応じて発言を求めたり、グループ討議を行う場合がある。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義の終盤に小レポートを課し、内容に応じて適宜次回の授業の冒頭で回答する。

■授業計画

1. 現代社会における社会的養護の意義と変遷
2. 子どもの人権擁護と社会的養護
3. 家庭の機能と社会的養護
4. 社会的養護の基本原則Ⅰ 養育—日常生活支援
5. 社会的養護の基本原則Ⅱ 保護—自己実現に向けた支援
6. 社会的養護の基本原則Ⅲ 子どもであることへの回復——治療的支援
7. 社会的養護の基本原則Ⅳ 生活文化と生活力の習得——自立支援
8. 社会的養護の基本原則Ⅴ 生命倫理観の醸成——生と性の倫理
9. 社会的養護の制度と実施体系
10. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ——乳児院と児童養護施設
11. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ——障害児の入所施設
12. 施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ——児童自立支援施設と児童心理治療施設
13. 家庭養護の特徴・対象・形態——里親とファミリーホーム
14. 社会的養護の現状と課題
15. まとめと履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

児童福祉施設の機能について理解できるとともに施設保育士として子どもとどのように向き合うべきかを考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

(DP4)多様性の理解と協働する力

(DP6)社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

定期試験による評価50%

レポート課題20%

毎時間後の小レポート提出30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『児童の福祉を支える社会的養護Ⅰ』吉田眞理編著 萌文書林

【参考文献】

講義中に適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として該当する箇所についてはテキストを読み込んでおくこと。事後学習として配布された資料等を読み返して、ポイントや重要事項等を復習すること。

【必要な時間】

それぞれ2時間程度が目安である。

科 目 名	幼児理解
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	深浦 尚子

■講義の目的および概要

幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものです。
幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる力を身に付けます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で行う。グループワークを取り入れる。また、毎回ワークシートに必要事項を記入、提出を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は、授業中に行い、提出し、コメントをつけて返却します

■授業計画

- ①子ども理解の意義と原理
- ②保育における子ども理解の意義
- ③子ども理解に基づく養護及び教育の一体的展開
- ④子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり
- ⑤子どもの生活と遊び
- ⑥人的環境としての保育者と子どもの発達
- ⑦集団における経験と育ち
- ⑧保育環境の理解とその構成・変化・移行 中間の振り返りとフィードバック
- ⑨子どもを理解する方法
- ⑩職員間の対話・保護者との情報の共有
- ⑪発達の課題に応じた援助と関わり
- ⑫特別な配慮を要する子どもの理解と援助 1
- ⑬特別な配慮を要する子どもの理解と援助 2
- ⑭発達の連続性と就学への支援
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 幼児理解の意義と原理・・・幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎態度を理解する
2. 幼児理解の方法・・・幼児理解の方法を具体的に理解する

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

定期テスト50%、成果物（中間の振り返り30%、ワークシート20%）50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「子ども理解 個と集団の育ちを支える理論と方法」請川滋大 萌文書林

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

テキストを読むなどの予習、復習が必要です。

【必要な時間】

それぞれおおそ2時間くらいです。

科 目 名	保育英語 I
開講期・単位	1年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	神林 裕子

■講義の目的および概要

近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための基本的な英語表現を身に付ける。また、英語の歌や絵本の読み聞かせ等の活動の学習を通して、積極的に保育活動に英語を取り入れ、英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる基本的な英語表現を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。
- ・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動活動に取り組むなどの演習をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②児童英語に関わる事項、幼保英検について
- ③第2言語習得理論 (1)
- ④第2言語習得理論 (2)
- ⑤児童英語のキーワード、英語の歌、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 1)
- ⑥児童英語のキーワード、英語の歌、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 2)
- ⑦児童英語のキーワード、英語の歌、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 3)
- ⑧確認テスト、児童英語のキーワード、英語の絵本、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 4)
- ⑨児童英語のキーワード、英語の絵本、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 5)
- ⑩児童英語のキーワード、英語の絵本、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 6)
- ⑪フィールドワーク(予定)
- ⑫フィールドワークの振り返り、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 7)
- ⑬児童英語のキーワード、英語のゲーム等、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 8)
- ⑭児童英語のキーワード、英語のゲーム等、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 9)
- ⑮確認テスト、これまでのまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。
- ・保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
- (DP2)コミュニケーション能力
- (DP5)能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎回の課題等 (30%)
- ②小テスト等の課題 (30%)
- ③確認テスト (各2回 20%、合計40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『幼保英検3級テキスト』ブックフォレ
その他、適宜、授業で配布する。

【参考図書】
『幼保英検2級テキスト』ブックフォレ

■授業外学習

【具体的な内容】
・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】
・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

- ・ Be helpful.
- ・ Be friendly.
- ・ Be active.
- ・ Be creative.
- ・ Be ambitious.

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科目名	保育英語Ⅱ
開講期・単位	1年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	ケビン マギー、神林 裕子

■講義の目的および概要

近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語Ⅰを踏まえ、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための基本的な英語表現を身に付ける。また、英語の歌や絵本の読み聞かせ等の英語学習における留意点を学び、マイクロティーチングに取り組む。マイクロティーチングを通して、積極的に保育活動に英語を取り入れ、て英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる基本的な指導力を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。
- ・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動活動に取り組むなどの演習をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②児童英語のキーワード、小学校との連携、幼保英検について
- ③児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 10)
- ④児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 11)
- ⑤児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 12)
- ⑥児童英語のキーワード、絵本の読み聞かせ、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 13)
- ⑦児童英語のキーワード、絵本の読み聞かせ、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 14)
- ⑧確認テスト、児童英語のキーワード、絵本の読み聞かせ
- ⑨児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 15)
- ⑩児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 16)
- ⑪児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 17)
- ⑫マイクロティーチングの準備、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 18)
- ⑬マイクロティーチング 1
- ⑭マイクロティーチング 2
- ⑮確認テスト、マイクロティーチング (振り返り)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。
- ・保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎回の課題等及び授業への参加状況 (30%)
- ②確認テスト (各2回 20%、合計40%)
- ③マイクロティーチング (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『幼保英検3級テキスト』ブックフォレ
その他、適宜、授業で配布する。

【参考図書】
『幼保英検2級テキスト』ブックフォレ

■授業外学習

- 【具体的な内容】
- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
 - ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
 - ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。
- 【必要な時間】
- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

- ・Be helpful.
 - ・Be friendly.
 - ・Be active.
 - ・Be creative.
 - ・Be ambitious.
- ※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。
- ※幼保英検などの検定試験に積極的に取り組みましょう。

科 目 名	海外研修(事前・事後指導を含む)
開講期・単位	1年 秋学期・選択 2単位・演習
担 当 者	神林 裕子

■講義の目的および概要

国際的視野をもつ保育者を育成するために、海外研修をオーストラリアのサザンクロス大学 (Southern Cross University) において行う (予定)。この研修の目的は、グローバルな視点で保育に係る様々な事象を捉えて思考すること、サザンクロス大学の英語教師等との交流を通して英語でのコミュニケーションの幅を広げること、ホームステイで異文化コミュニケーション能力と自立心を養うことなどである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習を通して、自分自身の研究課題を設定し、研修後には研究課題の発表をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、研究課題については研究発表の際にフィードバックをする。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習
- ③海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習、研究課題の設定
- ④海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習、研究課題の設定
- ⑤海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑥海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑦海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑧海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑨海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑩海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑪海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑫海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑬研究課題のまとめ
- ⑭研究課題のまとめ
- ⑮研究課題の発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

サザンクロス大学の英語教師等、ホームステイ先のホストファミリーとの交流を通して、自分自分を見つめ直すとともに、他者理解を深めながら、英語でコミュニケーションを図ることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・海外での大学における取組 60%
- ・帰国前後の研究課題への取組 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、配付する。

【参考文献】

『改訂版 英語で日本紹介ハンドブック』松本 美江 (著)、アルク

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・海外での大学での講義、ホームステイ先での場面や状況を想定し、円滑なコミュニケーションを図ることができるよう英語表現を習得しましょう。
- ・日本、北海道、札幌、自分自身等について、英語で紹介できるようまとめておきましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・海外研修の実施の最終判断は8月末となります。新型コロナウイルス感染症対策によって、研修先の変更等もあります。変更がある際は授業内及びmanabaにおいてお知らせしますので、連絡には充分注意をしてください。

科 目 名	プレゼンテーション演習
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	小林 純、石田 麻英子

■講義の目的および概要

基本的なプレゼンテーションの理論を学ぶことで発表のクオリティを高める、「よりよい実践的プレゼンテーション」を重視して、コミュニケーション力をアップすることを目指します。
発表時の振る舞いや、環境・TP0に合わせたプレゼンテーションの実施、そして発表の場をプロデュースすることを目的に授業を進めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義説明+演習（プレゼンテーション）の組合せです。コンピュータによるスライドショーソフトウェアを利用して資料を作成することや、グループワークを中心に進めます。また、プレゼンテーションだけでなく、発表会の運営なども考えていきます。

【課題に対するフィードバックの方法】

学生相互によるパフォーマンス評価、また授業内で全員に共通する要素をフィードバックするとともに、個別に添削、及びコメント評価を行います。
一部の演習では、学外審査員にご協力をお願いする予定です。

■授業計画

以下のような流れで授業を展開する予定ですが、
進度により内容・順序を変更することもあります。

- ① ガイダンス：視覚資料の振り返り（視覚資料をメインとしたプレゼンテーション）
- ② 【グループワーク】：ポスタープレゼンテーションの計画と準備
- ③ 【グループワーク】：ポスタープレゼンテーションの製作
- ④ 【実習Ⅰ】：ポスタープレゼンテーション
- ⑤ 実習Ⅰ：振り返り／実習Ⅱ：動画作品を作成する
- ⑥ 実習Ⅱ：企画・ストーリーの構成
- ⑦ 実習Ⅱ：動画の作成と編集
- ⑧ 【実習Ⅱ】：魅力ある動画作品を作成してみよう／視聴しよう
- ⑨ 実習Ⅲ：チームプレゼンテーションの概要とチーム分け
- ⑩ 【グループワーク】：説得力のある構成を考える
- ⑪ 【グループワーク】：魅力あるスライドの作成と編集（1）
- ⑫ 【グループワーク】：魅力あるスライドの作成と編集（2）
- ⑬ 【グループワーク】：チームプレゼンテーションのリハーサルと見直し
- ⑭ 【実習Ⅲ】：チームプレゼンテーションと発表会の準備・実施
- ⑮ まとめ：もう一度、プレゼンテーションとは何かを考える

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ① プレゼンテーションによる表現、伝達の効果、目的を学び、実践に活かすことができる。
- ② プレゼンテーションの効果的な発表場面を選択し、また自ら創造することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
(DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

発表の様子・技術 40%
発表内容 40%（視覚資料・原稿など）
授業内における提出物 20%

以上の成績評価基準をベースとして、各演習・発表毎に配点します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2019」
編：実教出版企画開発部 実教出版

※ その他、適宜プリント等を配布します。

■授業外学習

【具体的な内容・必要な時間】

プレゼンテーション実習に関する準備活動（資料の作成・練習）に、少なくとも2時間程度の準備が必要となると考えられます。特にプレゼンテーションの完成度は、リハーサル・練習の回数によって大きく変化します。授業時間内では時間を取ることが難しいので、発表前に個々で準備をしてください。

また、プレゼンテーション後の提出物の作成などでは、1時間程度が目安となります。

その他 毎回の授業の資料をまとめ復習し、次の回に役立ててください。次回の授業までに課せられた、または自ら設定した課題を予習として達成しておくようにしてください。

■その他

多く出版されている、プレゼンテーションに関する書籍は、授業の理解を助けます。また、授業以外の時間での作業が必要になります。コンピュータ操作に慣れていない人は特にスライドの作成に時間が必要になるでしょう。

この授業内では、コンピュータの操作や、スライドショーソフト（PowerPoint等）の操作説明を行う時間はありませんが、基本的な操作が可能であることが求められます。

科 目 名	教育課程総論
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	野崎 剛毅

■講義の目的および概要

学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
講義形式を中心に、適宜グループワークをおこなう。

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中提示された質問等については、講義内で回答し、問題意識の共有を図る。
授業内課題についても、返却の際に解説を加える。

■授業計画

- ①教育課程とは何か① 幼稚園教育要領
- ②教育課程とは何か② 教育課程の役割と機能
- ③幼稚園教育要領の歴史① 保育要領
- ④幼稚園教育要領の歴史② 幼稚園教育要領の制定
- ⑤幼稚園教育要領の歴史③ 保育所保育指針との分離
- ⑥幼稚園教育要領の歴史④ 教科化と五領域
- ⑦幼稚園教育要領の歴史⑤ 2008年の改訂
- ⑧幼稚園教育要領の歴史⑥ 2018年改訂版の特徴 (小レポート)
- ⑨幼稚園教育要領と幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (小レポート)
- ⑩教育課程編成① 基本的な考え方 (グループワーク)
- ⑪教育課程編成② 地域・幼稚園の特色を活かした教育課程 (グループワーク)
- ⑫特色ある教育課程① レッジョ・エミリア・アプローチとシュタイナー教育
- ⑬特色ある教育課程② テ・ファリキとドイツの教育課程改革
- ⑭カリキュラム・マネジメントと評価 (グループワーク)
- ⑮総まとめ 幼稚園教育要領と教育課程 (小レポート)、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。
学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。
教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。
教育課程編成の基本原則を理解している。
教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。
単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。
学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。
カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

小レポート・グループワーク提出物…30%
15回目におこなう小テスト…20%
定期試験…50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
『幼稚園教育要領解説』：毎回持参すること
『保育所保育指針解説』
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

【参考文献】
無藤隆他『ここがポイント！ 3法令ガイドブック』フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

2回目以降は次回の予告をするため、『幼稚園教育要領解説』等の該当する箇所を読んでおくこと。
新聞、ニュースなどを日頃からみて、社会でどのようなことが問題とされているのかを把握しておくこと。
実習経験を思い返し、実習園の教育課程について考えておくこと。

【必要な時間】

復習に重きを置く。1時間程度の予習と3時間程度の復習を必要とする。

■その他

科 目 名	教育経営
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	丸谷 雄輔

■講義の目的および概要

本講義の目的は、現代社会の中で求められる幼児教育の意義や幼稚園、保育所、認定こども園の在り方について理解を深めると共に、社会情勢の変化等に伴い、地域に根差した幅広い保育実践の在り方が求められる保育現場の現状と課題を把握し、幼児教育の実践について幅広い観点から学ぶことを目指します。
また、教職員の研修や自己研鑽と保育者の人間性や専門性の向上についても理解を深め、園の運営やクラス経営をどのように対応したらよいかについても考察していきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行いますが、毎回振り返りシートを記入し、講義内容の振り返りを行っていきます。また、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説します。

■授業計画

- ①保育の仕事を考える
- ②新しい時代に求められる幼児教育（１）
- ③新しい時代に求められる幼児教育（２）
- ④遊びを中心とした保育実践
- ⑤子どもの育ちを支えるデイリープログラム
- ⑥教育課程と指導計画
- ⑦保育の振り返りと記録
- ⑧保育環境の重要性
- ⑨保育実践を学ぶ（１）
- ⑩学びを深める園内研修
- ⑪保育実践を学ぶ（２）
- ⑫保育実践を支える家庭との連携
- ⑬地域と繋がる保育実践
- ⑭子どもの育ちを繋げる幼小の接続
- ⑮保育者としてのキャリアアップ（授業のまとめと振り返り）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育者としての専門性について関心を持ち、幼児教育の本質全般「保育の営み」「遊びの本質」「保育者の役割」等々について説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

毎回の提出物（振り返りシート）：80%

課題：20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし

【参考文献】

『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

次回の授業範囲について自分なりの観点で予習し、他の授業との関連事項等についても把握し、予習ノートにまとめてください。また、授業後には授業内容を振り返り、ポイントや重要事項を復習ノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間程度を目安とします。

■その他

授業中に随時指名して発言を求める場合もあるので、思考力を働かせながら、自分なりの考えを積極的に発言するよう心掛けてください。

2022 (令和4) 年4月1日

科 目 名	教育相談(カウンセリングを含む)[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	小林 久美子

■講義の目的および概要

教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動です。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識を身に付けることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義とグループワークです。振り返りシートやディスカッションなどで能動的な学修を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。

■授業計画

- ①教育相談の意味と意義及び課題についての理解
- ②教育相談に生かせる心理学の基礎理論と概念の理解
- ③幼児、児童及び生徒の不応答や問題行動の意味とその兆候を捉える視点
- ④受容、傾聴、共感的理解等のカウンセリングの基礎的理解
- ⑤職種や公務分掌に配慮した教育相談の計画作成と対象の状況に応じた目標設定と相談の進め方の基本を理解する
- ⑥地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解する
- ⑦学校教育におけるカウンセリングマインドの必要性の理解と授業内試験1
- ⑧試験1の解説と、学校課題1 いじめに関する理解と発達段階に応じた教育相談の実際の進め方
- ⑨学校課題2 不登校・不登園に関する理解と発達段階に応じた教育相談の実際の進め方
- ⑩学校課題3 非行・学級崩壊に関する理解と発達段階に応じた教育相談の実際の進め方
- ⑪学校課題4 虐待に関する理解と発達段階に応じた教育相談の実際の進め方
- ⑫学校課題5 学級の雰囲気把握と、その状況に応じた教育相談の計画の作成や校内体制の整備
- ⑬学校課題6 発達障害のある子どもの状況に応じた教育相談の計画の作成や校内体制の整備
- ⑭教育相談における組織的取り組みの必要性和授業内試験2
- ⑮試験2の解説と、ここまでの授業から効果的な教育相談を進めるために自分自身に必要な自己課題について論拠を示しながら考察する。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

授業の各回のテーマについて理解し、説明できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
- (DP4)多様性の理解と協働する力
- (DP6)社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

試験1 (40%) 試験2 (40%) レポート・ノート点検・口頭試問 (20%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントを配布します。

【参考文献】

幼稚園教育要領(平成29年告示)
文部科学省生徒指導提要(平成22年3月)

■授業外学習

【具体的な内容】

常日頃からニュース・新聞などで、子どもの育ちについて考えるように心がけてください。

【必要な時間】

事前・事後30分以上の予習・復習を要する。

■その他

授業中に随時発言を求めることもあるので、しっかりと学習したうえで授業に参加してください。

科目名	教師論[幼教]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担当者	野崎 剛毅

■講義の目的および概要

現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割、教員の資質能力及び職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
講義形式で、適宜グループワークをおこなう。

【課題に対するフィードバックの方法】
講義内で出された質問や課題には、講義内で紹介して課題意識の共有をはかるとともに解説を加える。

■授業計画

- ①ガイダンス：幼稚園教諭の特殊性と存在意義
- ②公教育・幼稚園教育の目的（小レポート）
- ③幼稚園保姆・教諭の誕生と展開
- ④幼稚園教諭をめぐる現代的特性① 少子化概観
- ⑤幼稚園教諭をめぐる現代的特性② 少子化と学校教育（小レポート）
- ⑥幼稚園教諭をめぐる現代的特性③ 子どもの貧困概観
- ⑦幼稚園教諭をめぐる現代的特性④ 子どもの貧困と教育（小レポート）
- ⑧幼稚園教諭をめぐる現代的特性⑤ 幼児教育の今日的課題（小レポート）
- ⑨幼稚園教諭の一日、一月、一学期、一年
- ⑩幼稚園教諭の職務と研修（小レポート）
- ⑪地域社会と教育① チーム学校
- ⑫地域社会と教育② 保護者支援
- ⑬地域社会と教育③ 早期教育
- ⑭地域社会と教育④ 地域の特色を活かした教育（小レポート）
- ⑮総まとめ 幼稚園教諭の今日的意義（小レポート）、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。
進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。
教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。
今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。
幼児、児童及び生徒への指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。
。教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。
教員に課せられる服務上・身分上の義務並びに身分保障を理解している。
多様な専門性を持つ人材と効果的に連携し、分担し、教員とこれらの者がチームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP3)【課題を発見し、解決する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】
(DP6)【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

小レポート…50%
定期試験…50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
指定しない。

【参考文献】
『幼稚園教育要領解説』（文部科学省）
『最新保育資料集2022』（子どもと保育総合研究所、ミネルヴァ書房）

■授業外学習

【具体的な内容】

新聞、ニュースをみて、幼児教育・保育に関する今日的課題について把握しておくこと。

【必要な時間】

事前学習1時間、事後学習3時間を必要とする。

■その他

科 目 名	健康とスポーツⅠ [幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	林 二士、石川 みゆき、長屋 純市

■講義の目的および概要

スポーツを通して身体を動かす楽しさや大切さを学ぶ。また現代社会における様々な健康問題について認識し、自らの健康に関心を持つことの重要性を理解する。さらに実技を通して積極性、協調性などを養い保育者としての資質の向上を目指す。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・3名の教員によるオムニバス形式で理論を交えて実技を行う。
- ・3つのグループに分かれてローテーションで行う。
- ・実技科目(担当教員)は、バレーボール(石川)・バスケット(長屋)、バドミントン(林)。
- ・講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。
- ・第一体育館、第二体育館、アリーナで行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

■授業計画

1. 種目A ガイダンス 履修方法の説明 担当教員の紹介 種目の特徴とルール
2. 種目A 基本技術 個人技術の習得
3. 種目A 基本技術 コンビ・チームプレイ
4. 種目A 応用技術 試合のルールの理解と審判
5. 種目A 応用技術 試合 習得した技術を実践する
6. 種目B 種目の特徴とルール
7. 種目B 基本技術 個人技術の習得
8. 種目B 基本技術 コンビ・チームプレイ
9. 種目B 応用技術 試合 ルールの理解と審判
10. 種目B 応用技術 試合 習得した技術を実践する
11. 種目C 種目の特徴とルール
12. 種目C 基本技術 個人技術の習得
13. 種目C 基本技術 コンビ・チームプレイ
14. 種目C 応用技術 試合 ルールの理解と審判
15. 種目C 応用技術 試合 習得した技術を実践する

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・身体を動かす楽しさや大切さを学び、自発的に運動を実践できるようになる。
- ・実技を通して体力の維持向上や、自らの健康の保持増進を図る。
- ・チームプレイを通して、積極性や協調性を養い、保育者としての資質を高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ・授業への参加意欲、態度、積極性、準備・片付け、マナー (40%)
- ・各種目の基礎技能の個人的到達度 (35%)
- ・レポート課題 (25%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・適宜資料を配布する。

【参考文献】

- ・適宜資料を配布する。

■授業外学習

【事前学習】(2時間)

- ・自らの健康づくりに興味を持ち、日常生活の中で体を動かすことを心がける。
- ・様々なスポーツに興味を持ち「スポーツをする・観る・応援する」を意識する。

【事後学習】(2時間)

- ・授業を振り返り、動きや技術の課題について自分の意見や考えを明確にし、次の授業に向けて、解決策や練習方法を調べておく。

■その他

- ・運動に適した服装(運動着、運動靴)や準備(タオル、水分、気持ち)をする。
- ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。
- ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。

科 目 名	健康とスポーツⅡ[幼教]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	林 二士、石川 みゆき、長屋 純市

■講義の目的および概要

スポーツを通して身体を動かす楽しさや大切さを学び、また高齢化が進む現代社会における様々な健康阻害要因について認識し、青年期から健康に関心を持つことの重要性を理解する。さらに各スポーツの技能・戦術・審判法についても学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・3名の教員によるオムニバス形式で理論を交えて実技を行う。
- ・3つのグループに分かれてローテーションで行う。
- ・実技種目(担当教員)はバレーボール(石川)・バスケット(長屋)・卓球(林)
- ・講義の内容に応じてグループワークを取り入れ、主体的・協働的な学修を目指す。
- ・第一体育館、第二体育館、アリーナで行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

- ・課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

■授業計画

1. 種目A ガイダンス 種目の特徴と基礎技術 個人技術
2. 種目A 種目の特徴と基礎技能 コンビ・チームプレイ
3. 種目A 種目のルールと基礎技能 ルールの理解
4. 種目A 応用技能と審判法 審判(ルールを活かす)
5. 種目A 応用技能とゲーム 試合(技能を活かす)
6. 種目B 種目の特徴と基礎技術 個人技術
7. 種目B 種目の特徴と基礎技能 コンビ・チームプレイ
8. 種目B 種目のルールと基礎技能 ルールの理解
9. 種目B 応用技能と審判法 審判(ルールを活かす)
10. 種目B 応用技能とゲーム 試合(技能を活かす)
11. 種目C 種目の特徴と基礎技術 個人技術
12. 種目C 種目の特徴と基礎技能 コンビ・チームプレイ
13. 種目C 種目のルールと基礎技能 ルールの理解
14. 種目C 応用技能と審判法 審判(ルールを活かす)
15. 種目C 応用技能とゲーム 試合(技能を活かす)

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・身体を動かす楽しさや大切さを学び、自発的に運動を実践できるようになる。
- ・実技を通して体力の維持向上や、自らの健康の保持増進を図る。
- ・チームプレイを通して、積極性や協調性を養い、保育者としての資質を高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ・授業への参加意欲、態度、積極性、準備・片付け、マナー (40%)
- ・各種目の基礎技能の個人的到達度 (35%)
- ・課題レポート提出 (25%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・適宜資料を配布する。

【参考文献】

- ・適宜資料を配布する。

■授業外学習

【事前学習】(2時間)

- ・自らの健康づくりに興味を持ち、日常の生活の中で体を動かすことを心がける。
- ・様々なスポーツに興味を持ち「スポーツをする・観る・応援する」を意識する。

【事後学習】(2時間)

- ・授業を振り返り、動きや技術の課題について自分の意見や考えを明確にし、次の授業に向けて、解決策や練習方法を調べておく。

■その他

- ・運動に適した服装(運動着、運動靴)や準備(タオル、水分、気持ち)をする。
- ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることもある。
- ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。

科 目 名	現代社会論
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	森岡 毅

■講義の目的および概要

本講は、現代社会の様々な課題について、文献・資料を読み込んでいくことで理解を深め、広く教養を身につけるとともに読解力を高めていくことを目的とする。
講義はゼミ形式を基本として行う。
社会全般の分野と教育分野の両分野から受講者で文献・資料を自ら選び、全員で議論をしながら読み進めていく。受講者はそれぞれの分野で必ず1回以上、レジュメを作成し発表する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
少人数によるゼミ形式でおこなう。
課題図書について受講者で読み合わせをし、また担当者がレジュメを作り報告をする。

【課題に対するフィードバックの方法】
講義中に出てきた質問や提出された課題については、講義中に適宜取り上げ、解説を加える。

■授業計画

- ①ガイダンス：テキストの紹介、検討、決定
- ②社会全般関連の文献講読1
- ③社会全般関連の文献講読2
- ④社会全般関連の文献講読3
- ⑤社会全般関連の文献講読4
- ⑥社会全般関連の文献講読5
- ⑦社会全般関連の文献講読6
- ⑧小括
- ⑨教育関連の文献講読1
- ⑩教育関連の文献講読2
- ⑪教育関連の文献講読3
- ⑫教育関連の文献講読4
- ⑬教育関連の文献講読5
- ⑭教育関連の文献講読6
- ⑮まとめレポート・履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
現代社会で課題とされていることについて理解を深める。
専門書を読み込める読解力を身につける。
他者の考えをきき、批判し、自分の意見に取り込むことでこれまでよりも広い知見を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP4) 多様性の理解と協働する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

担当回の報告：50%
小括、まとめレポート：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
受講者と担当教員で協議し、決定する。
新書、ブックレット等を使用する。

【参考文献】
講義内で適宜紹介する。

■授業外学習

【具体的な内容】
テキストには事前に必ず目を通しておくこと。
また、担当回ではレジュメを作成し、わからない語句等は必ず調べておくこと。

【必要な時間】
3時間程度の事前学習、1時間程度の事後学習を必要とする。

■その他

講義開始後に、受講者で選んだテキストを2冊（社会全般関連、教育関連）、購入する必要がある。

科 目 名	社会福祉
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	山内 太郎

■講義の目的および概要

本講義は、自分や家族の生活にはあまり関係がないと思っていた社会福祉の話が、実は普段の生活やこれからの人生に大きくかかわっていることを理解し、そのうえで保護者支援にかかわる専門職として本講義で学んだ知識を活かすことができるようになることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを用いて講義形式で行うことを基本とするが、必要に応じて視聴覚資料も利用する。講義中に発言を求めたり、グループ討議、小レポートの提出を行う場合もある。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義終盤に行う小レポートに対し、内容に応じて次回に応答する。

■授業計画

1. オリエンテーション
2. 子どもと家族の福祉①ー妊娠、出産にかかわる制度
3. 子どもと家族の福祉②ー児童虐待の発生
4. 社会保障①ー保育士として就職した時に重要な制度
5. 社会保障②ー老後の暮らし方はどうすればよい？
6. 障がい児・者福祉ー障がい児の子どもの担任になる
7. 女性として生きる①ーDVとその対策
8. 地域福祉ー職場の中心（中堅保育士）として
9. ソーシャルワーカー保護者支援について考える
10. 女性として生きる②ー産休・育休
11. 低所得者の福祉①ー実父がリストラに
12. 低所得者の福祉②ー子どもの貧困という視座
13. 低所得者の福祉③ー見えにくい女性の貧困
14. 高齢者福祉ー介護の経験と穏やかな老後
15. まとめと履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会福祉の基本的な法制度を理解し、子育て支援の専門職として社会福祉の問題をとらえることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3)課題を発見し、解決する

(DP6)社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

授業内試験 50%

レポート課題 20%

毎時間後の小レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『図解で学ぶ保育 社会福祉』直島正樹・原田句哉編著 萌文書林

【参考文献】

講義中に適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前に関連する内容について書籍や新聞、インターネット等で調べ学習をしておくこと。また、講義終了後、配布された資料等を見直して、振り返りのポイントや重要事項を復習すること。

【必要な時間】

予習・復習は、それぞれ2時間ずつが目安となる。

■その他

NH K番組「ハートネットTV」は社会福祉にかかわる良質な情報を提供しているので視聴して授業に臨むと理解が進む。

科 目 名	日本国憲法[幼教2年]
開講期・単位	2年 春学期・必修 2単位・講義
担 当 者	姫嶋 瑞穂

■講義の目的および概要

すでに中学・高校で「日本国憲法」を学習しているため、「日本国憲法」については簡単なイメージをもっていていると思うが、大学で学ぶ「憲法」は社会科の延長ではない。憲法の条文などを『覚える』のではなく、さまざまな憲法上の問題に対して「何が問題なのか?」「解決するためにどう対処すべきなのか?」を『考える』ことが重要になる。講義では、できる限り身近な具体的事例から憲法の本質に迫るように配慮し、保育者を目指している学生のみでなく、就職して教育・保育の現場に立った後にも役立つよう日本国憲法の基本的知識と考え方について学ぶことに重点をおく。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
配布したレジュメに沿って、憲法の基本的知識とそれに関連する具体的な憲法問題について講義形式で解説する。さらに、講義に関連した小課題を提出してもらう。

【課題に対するフィードバックの方法】
課題の返却は行わないが、講義内で解説講評する。最終試験については、単位確定日以降、希望する学生には、採点結果を開示説明する。

■授業計画

- ①保育者と日本国憲法
- ②日本国憲法の成立と特徴
- ③基本的人権とは何か
- ④子どもの人権と教育を受ける権利
- ⑤個人の尊重と幸福追求権 Part1
- ⑥個人の尊重と幸福追求権 Part2
- ⑦法の下での平等
- ⑧思想・良心の自由
- ⑨自由に学び表現する権利
- ⑩罪と罰の果てー死刑制度ー
- ⑪社会権
- ⑫裁判員制度
- ⑬平和主義が危ない!
- ⑭憲法の変身ー改憲の可能性ー
- ⑮まとめと筆記試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

- 【到達目標】
- ①日本国憲法の人権規定の意義とそれぞれの規定が抱える問題点について理解すること。
 - ②基本的知識の習得を目指すだけでなく、国家や社会のあり方について関心をもち、自分の考えを表現できるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

講義内に提出してもらう複数回の課題で45%、日本国憲法の基本的知識を問う論述形式の最終試験で55%の評価を行う。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
教科書は使用せずに毎回レジュメを配布する

【参考文献】
『新時代の法学・憲法』 建帛社

■授業外学習

【具体的な内容】
予習の必要はないが、レジュメ・講義ノートを活用し、ポイントを整理してまとめておくこと(約2時間)。わからないことや疑問に思ったことは、次回の講義に質問して確認すること。

■その他

身近な憲法問題に関心を持つためにも、新聞に目を通す習慣を身につけてもらいたい。

科 目 名	保育内容(環境)[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・必修 1単位・演習
担 当 者	森岡 毅

■講義の目的および概要

本講義は、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型の認定こども園・保育要領に示された保育内容（環境）のねらい及び内容について学び、乳幼児期における「環境を通して行う教育・保育」の意義を理解する。また、乳幼児期を取り巻く「環境」に関わる具体的な指導場面を想定し、実践する力を身につけることを目標とする。学生自らが身近な自然・社会環境について興味・関心をもち、それらを保育の環境づくりに活用できることを目指し、要領・指針の確認や実践事例の紹介、体験活動などを取り入れながら講義を進める。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

専門事項については講義形式、その他演習、グループワーク等の中で体験的に講義を進める。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の解説、学生からの疑問等は講義内で対応する。

■授業計画

- ①オリエンテーション「環境」とは
教育・保育における「環境」、子どもの育ちと領域「環境」
- ②乳児、1、2 歳児の世界と環境
- ③ものや道具に関わって遊ぶ（演習）
- ④ものや道具に関わって遊ぶ（まとめ）
- ⑤自然に親しみ、植物や生き物に触れる（演習）
- ⑥自然に親しみ、植物や生き物に触れる（まとめ）
- ⑦文字や標識、数量や図形に関心をもつ（演習）
- ⑧文字や標識、収量や図形に関心をもつ（まとめ）
- ⑨遊びや生活の情報に興味をもち、地域に親しむ
（生活体験・異年齢の交流・テレビ・文化や習慣・国際理解）
- ⑩環境構成案づくりの実践事例
- ⑪環境構成案づくり（個人案作成）
- ⑫環境構成案づくり（グループ案作成・グループワーク）
- ⑬環境構成案づくり（準備・作成・グループワーク）
- ⑭環境構成案づくりの発表と反省・考察
- ⑮現代の保育の課題と領域「環境」のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・領域「環境」のねらい及び内容について理解する。
- ・乳幼児期における「環境を通して行う教育・保育」の意義を理解し計画・説明できる。
- ・乳幼児の身近な環境に関わる具体的な指導場面を想定し、実践できる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- （DP1）専門知識・技能を活用する力
- （DP3）課題を発見し、解決する力
- （DP5）能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・小テスト、筆記試験（40％）
- ・グループワーク等の貢献度（30％）
- ・授業ごとの課題レポート・提出物（30％）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『体験する 調べる 考える 領域「環境」』田宮緑著 萌文書林

【参考文献】

- ・幼稚園教育要領 ・保育所保育指針 ・幼保連携型こども園・保育要領

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・（事前学習）次回の学習内容を確認し、専門事項であればテキストを参考に自分の考えや疑問をまとめ、指導実践であればアイデアを考えておく。
- ・（事後学習）テキストや配布資料を振り返り、学習の内容をまとめ整理しておくこと。
- ・指導発表後は、自他の指導内容を振り返り考察すること。

【必要な時間】

（事前学習）1時間程度（事後学習）1時間程度

■その他

- ・授業での配布物等を保管するためのファイル（A4版）を用意しておくこと。
- ・日ごろから身近な自然・社会環境に興味・関心をもち、自分は「どう思うか」「どう考えるか」など意見を持つ習慣を付けましょう。

科 目 名	保育内容(言葉)[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・必修 1単位・演習
担 当 者	森岡 毅

■講義の目的および概要

本講義は、幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型の認定こども園・保育要領に示された保育内容（言葉）のねらい及び内容について学ぶとともに、幼児の「言葉」の発達過程や発達過程に即した指導の在り方等を理解する。また、具体的な指導場面を想定し実践する力を身につけることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストやプリントなどを用いて、理論的な説明を中心に基礎知識を深めるための講義を行う。また、指導場面を具体的に想定した演習（グループワーク等）を取り入れ、「言葉」関わる活動について実践力を高めることを目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題の解説、学生の疑問等について講義内で対応する。

■授業計画

- ①オリエンテーション 幼稚園教育要領における領域「言葉」
- ②保育所保育指針における領域「言葉」
- ③領域「言葉」と他の領域との関係
- ④言葉の発達
- ⑤特別な配慮が必要な子どもとの関わり
- ⑥うたや触れ合い遊び 1
- ⑦うたや触れ合い遊び 2
- ⑧絵本に親しむ 1
- ⑨絵本に親しむ 2
- ⑩絵本に親しみ 3
- ⑪劇や物語を楽しむ 1
- ⑫劇や物語を楽しむ 2
- ⑬創造や言葉のリズムを楽しむ 1
- ⑭創造や言葉のリズムを楽しむ 2
- ⑮保育の基本と領域「ことば」まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

乳幼児の言葉の発達を理解し、整理できること。また、言葉の重要性を踏まえ、その指導と援助について具体的に方法を考えることができること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ・提出物の評価（40％）
- ・グループワーク等での貢献度（40％）
- ・振り返りシート等の評価（20％）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『保育内容・言葉』太田光洋編著 同文書院

【参考文献】

・幼稚園教育要領 ・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園・保育要領

■授業外学習

【具体的な内容】

（事前学習）毎時の学習内容に関して、事前にテキストを読み込んでおくこと。
（事後学習）講義内容について、振り返りを確実に行うこと。

【必要な時間】

（事前学習）2 時間程度（事後学習）2 時間程度

■その他

授業での配布資料を保管するためのファイル（A4版）を用意しておくこと。

科 目 名	北海道論[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担 当 者	森 順子

■講義の目的および概要

本講義では、北海道の自然や歴史、産業を中心に、人口動態や経済事情に関する基本的な数値統計のデータなども学び、北海道の現状を理解することを目的としています。

さらに、北海道の主要な都市を取り上げ、地場産業やまちの活性化の取り組みのほか、それぞれの地域が抱える課題などについても理解を深めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・配布するプリントを中心とした講義形式
- ・グループディスカッションやミニワーク形式
- ・プレゼンテーションでの発表

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については、授業内で解説するとともに、参考資料等を適宜提示・配布します。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②北海道の基本統計
- ③北海道の自然
- ④北海道の歴史・文化
- ⑤北海道の観光
- ⑥北海道の食・スポーツ
- ⑦北海道の都市Ⅰ（旭川）
- ⑧北海道の都市Ⅱ（函館）
- ⑨北海道の都市Ⅲ（北見）
- ⑩北海道の都市Ⅳ（釧路）
- ⑪北海道の都市Ⅴ（帯広）
- ⑫グループワークⅠ（ディスカッション）
- ⑬グループワークⅡ（調査内容のまとめ）
- ⑭グループワークⅢ（プレゼンテーション）
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・北海道についての基本的統計や基礎知識を身につけ、北海道内の地域に対する関心もちづくり、地域貢献の意識を高める
- ・北海道の魅力や課題を発見・把握し、調べた内容をまとめて発信できる能力を身につける

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ①毎時の出席率 30%
- ②プレゼンテーション 20%
- ③定期試験 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、資料などを提示・配布します。

【参考文献等】

- ・地図帳
- ・北海道庁総合政策部計画局統計課企画情報係 第128回（令和3年）北海道統計書
<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/920hsy/21.html>

■授業外学習

【具体的な内容】

授業で扱う内容に関して、日ごろのニュースから知識を得ておき、地図帳などと照らし合わせてその土地への理解を深めておいてください。
学んだことをノートなどにまとめ、授業後は関連する内容などを整理してください。

【必要な時間】

予習・復習、それぞれ2時間程度が目安となります。

■その他

科目名	保育内容(表現)[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・必修 1単位・演習
担当者	朝地 信介、河本 洋一

■講義の目的および概要

幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。

- ◇幼稚園教育要領や保育所保育指針における「表現」の位置付けを理解します。
- ◇「表現」の構成要素を理解し、指導案を理解する力を身につけます。
- ◇子どもの表現力を伸ばすための技術や教材を作成する力を身につけます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

「保育者としての自分」という観点を毎回の授業の中に採り入れ、オムニバス形式で講義と演習をバランスよく取り入れながら、学生が自ら目標を立てて活動することを基本とします。なお、各回の講義方法と担当者については授業計画に別掲します。

【課題に対するフィードバックの方法】

模擬保育などの演習については、口頭による助言また、提出物に関してはコメントを付けるなどのフィードバックをおこないます。

■授業計画

- ①オリエンテーション：保育内容（表現）という科目の目指すものを理解し、授業の受け方を確かめます。（朝地・河本）【講義】
- ②幼稚園教育要領や保育所保育指針等における「表現」の位置付け：当該領域のねらいおよび内容を踏まえ、「気づいたり、感じたりするなどして楽しむ」とはどういうことか具体的に検討します。（朝地・河本）【講義・演習】
- ③「表現」の構成要素：様々な事例から、多岐多様な「表現」の保育内容を理解し、指導上の留意点を理解します。（朝地・河本）【講義・演習】
- ④「教えられること」と「教えるのではなく育てること」保育の中で混同されがちなこの2つについて具体的に検討し、幼稚園教育における評価の考え方を理解します。（河本）【講義・演習】
- ⑤保育技術の基本（音楽）：発問の仕方、表情によるコミュニケーションなど、子どもの表現力を伸ばすための技術の基本を体験します。（河本）【講義・演習】
- ⑥保育技術の基本（図画工作・造形）：発問の仕方、表情によるコミュニケーションなど、幼児の認識や思考を踏まえ、子どもの表現力を伸ばすための技術の基本を体験します。（朝地）【講義・演習】
- ⑦「表現」の指導の実際①：器楽を中心とした指導や評価の留意点について理解します。（河本）【講義・演習】
- ⑧「表現」の指導の実際②：歌唱を中心とした指導や評価の留意点について理解します。（河本）【講義・演習】
- ⑨「表現」の指導の実際③：図画工作や造形を中心とした指導や評価の留意点について理解します。（朝地）【講義・演習】
- ⑩「表現」の指導の実際④：レッジョ・エミリア・アプローチ等の先進的な取組から、情報機器の活用や小学校の教科との関連及び保育構想の向上の方法を理解します。（河本・朝地）【講義・演習】
- ⑪モデルプランの再現の準備：優れた保育事例を基に、自分たちがそれを再現するための指導案の作成方法を身に付けます。（河本・朝地）【グループワーク】
- ⑫モデルプラン・リレー模擬保育①：既成の指導案を使い、先生役、子ども役、観察役にわかれ模擬保育を行うと共に、保育を改善するための視点を身に付けます。（朝地・河本）【グループワーク・演習】
- ⑬モデルプラン・リレー模擬保育②：役割を入替えて同上の内容を実施します。（朝地・河本）【グループワーク・演習】
- ⑭モデルプラン・リレー模擬保育③：役割を入替えて同上の内容を実施します。（朝地・河本）【グループワーク・演習】
- ⑮授業内レポート：保育における「表現」の位置付け及び、子ども一人ひとりや集団の特徴に合わせた「表現」についての自分の考えを述べます。履修カルテの記入（朝地・河本）【レポート】

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- 1) 幼稚園教育要領や保育所保育指針等における保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。
- 2) 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。
- 3) 保育における評価の考え方を理解している。
- 4) 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。
- 5) 子どもの認識や思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。
- 6) 各領域の特性や子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。
- 7) 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案の導入部を作成することができる。
- 8) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。
- 9) 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
 (DP3) 課題を発見し、解決する力
 (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

下記A：B＝40：60 合計100点で評価します。

A 授業内レポート（40点） 幼稚園教育要領等で示される保育における「表現」の位置付けを踏まえ、「表現」の内容および指導法や評価法について、課題に沿って記述します。

B リレー模擬保育（20点×3回） 先生、子ども、観察のそれぞれの立場による取組についてワークシートを作成します。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ◇新版実践保育内容シリーズ⑤『音楽表現』一藝社 ※1年生時に購入
 ◇新版 遊びの指導 乳・幼児編（同文書院）※1年生時に購入済

【参考文献】

- ◇幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
 ◇岩下修著 『AさせたいならBと言え?心を動かす言葉の原則』 明示図書
 ◇向後千春著 『上手な教え方の教科～入門インストラクショナルデザイン』 技術評論社

■授業外学習

【具体的な内容】

- ◇リレー模擬保育の事前準備に関しては、その内容相当の授業外学習（準備作業）を要します。
 ◇指導案の作成はありませんが、リレー模擬保育で扱う「導入」部分のプランの作成があります。

【必要な時間】

- ◇事前
 ・次時の授業内容の準備のための下調べや材料の用意などで最低1時間を要します。
 ・模擬保育の場合には上記の準備時間に加え、グループ内での練習の時間が加わります。
 ◇事後
 ・毎時の授業内容の記録に1時間程度の時間を要します。なお、記録媒体は文字や図、音符などが記録できるノートが望ましい。

■その他

- ◇本授業内では、既成のモデルプランを使用するので、指導案全体を作成することはありません。
 ◇リレー模擬保育は、グループ評価ではなく個人評価なので、グループで準備する内容はありますが、模擬保育のどの部分を担当しても構わないように、予め準備しておく必要があります。
 ◇模擬保育に必要な消耗品については、教員と相談の上、可能な限り学科で用意します。
 ◇制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。

科 目 名	幼稚園実習指導[幼教]
開講期・単位	2年 通年・選択 1単位・演習
担 当 者	伊藤 桂子、小川 久恵、朝地 信介、田村 めぐみ

■講義の目的および概要

事前指導では教育実習生として学校(幼稚園)の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得までに習得すべき知識や技能等について理解します。これらを通して教育実習の意義を理解します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学外幼稚園実習に向け、グループワークやディスカッション、保育計画の作成等の演習、発表、講義を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。
本講義は教員・幼稚園教諭の実務経験のある教員が、実習にかかわる知識・技術を活かして、教育実習の意義、習得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、ディスカッションやグループワークを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

■授業計画

- ①オリエンテーション(幼稚園実習の意義と目的)
- ②幼稚園実習記録の作成について(日誌の振り返り、日誌記載における課題の確認)
- ③指導案作成① 保育実習における指導案の振り返りをふまえた立案
- ④指導案作成② 子ども理解・保育内容・指導法をふまえた立案
- ⑤幼稚園実習の研究課題の設定(実習園の概要、実習目標、実習内容)
- ⑥幼稚園実習の振り返り① (自己課題の振り返り、成果と自己課題の交流)
- ⑦幼稚園実習の振り返り② (自己課題の改善に向けて)
- ⑧幼稚園実習のまとめ(実習記録の作成)、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
- ・教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
- (DP2)コミュニケーション能力
- (DP3)課題を発見し、解決する力
- (DP5)能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・提出物(指導案、実習報告レポートなど)：70%
- ・授業のまとめ、リアクションシートなど：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『実習ハンドブック』

【参考文献】

『幼稚園実習(基礎) 附属幼稚園ハンドブック』、『実習記録』

■授業外学習

【具体的な内容】

『幼稚園実習(基礎) 附属幼稚園ハンドブック』と『実習ハンドブック』を精読し、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習しノートにまとめてください。研究課題の設定や自己課題の設定時に課題を出題します。
毎回の授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

■その他

- ・幼稚園実習(応用)を合わせて履修すること
- ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。

科 目 名	日本文化演習 (茶道) [幼教]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	吉井 守和

■講義の目的および概要

茶道とは何だろうか。点前とは何だろうか。最低限の道具を使って、略盆の点前を習いながら、点前の意味、茶道の意味を学んでいきます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

点前に関しては、実習です。基本動作を繰り返して、身につけます。講義部分では茶道を学ぶ上で常識としてほしい内容を学びます。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は振り返りながら進みます。それぞれが独立しているわけではなく、関連しているということを意識して下さい。

■授業計画

以下は基本的な進行です。状況によって多少変化していきます。授業の中で変わる部分は説明していきますので、授業を休まないようにしてください。

- ①オリエンテーション/道具の説明/座すということ
- ②道具の引き渡し（菓子）
- ③茶を点じてみる/基本の手順
- ④茶巾の畳方と扱い/袱紗の扱い
- ⑤茶筌の扱い
- ⑥通して点前をする
- ⑦通して点前をする
- ⑧実技試験
- ⑨実技試験
- ⑩煎茶
- ⑪茶道の歴史（10）
- ⑫茶事（茶会）と懷石料理（10）
- ⑬茶道具について（10）
- ⑭菓子について（10）
- ⑮まとめ（茶から何を楽しむか/何を学ぶか）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

茶道とは何かということについてある程度の説明ができるようになること。
抹茶を点てる、煎茶を入れることができるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

以下のような内容を基本的に考えていますが、進度や状況によって変わります。
<実技>茶巾の扱い（10）、袱紗の扱い（10）、点前（20）、客の作法（10）、煎茶（10）
<講義>茶道の歴史（10）、懷石料理（10）、茶道具（10）、菓子（10）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

配布物

【参考文献】

茶道、懷石料理、禅、焼き物など多くの関連分野があります。

■授業外学習

【具体的な内容】

型を正確に覚えるためには繰り返しが必要です。
また、先入観が非常に多い内容です。自分の目でしっかりと見て、判断することが重要です。

【必要な時間】

授業と同じぐらいの時間を基本的な振り返りの時間と考えてください。

■その他

茶道には様々な側面があります。茶を楽しむ。道具を楽しむ。精神修養。礼儀作法。様々な側面があることを学ぶことが第一歩です。

科 目 名	情報処理演習(データ活用)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	常見 裕子

■講義の目的および概要

パソコンの表計算ソフト「Microsoft Excel」を使い、基本操作から応用までを実社会での使用例や実践テクニックをもちこみながら学習する。
Excelを活用しながら様々な数値の求め方、データの加工方法などを理解する。
ワープロソフトなどとの併用方法についての学習を通して、データ活用の知識と技術を身につける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

教員がテキストを解説し補足説明をしながら、学生がパソコンを用いて文書ファイルを作成する「実技演習形式」で授業を進める。必要に応じてディスカッションなどを取り入れて実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題及び参考資料は、学内共有フォルダやWeb上の共有ドライブを介して配布する。
提出されたファイルへの概評などを適宜、行う。

■授業計画

- ①科目ガイダンス、授業用各種環境確認
- ②Excelの基本操作と四則演算
- ③表の作成と書式設定
- ④関数Ⅰ 連続データとふりがな機能
- ⑤行列の編集（行列の挿入と削除、行列幅の変更）
- ⑥絶対参照と相対参照
- ⑦関数Ⅱ（IF・ROUNDなど）
- ⑧グラフの作成
- ⑨印刷の設定
- ⑩データベース機能
- ⑪関数Ⅲ（RANK.EQ・VLOOKUPなど）
- ⑫Word文書との複合文書作成
- ⑬応用練習 実務練習①
- ⑭応用練習 実務練習②
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

Excelの基本を理解し、計算式などを入力した表を作成することができる。
様々な機能を理解し、必要なデータを抽出・集計し、目的に応じた情報の資料化の処理ができる。
Excelを中心に、他のソフトウェアとの連携を通して、効果的なデータ活用の処理ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

■成績評価基準と方法

課題提出 : 70%
確認テスト: 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『初歩から実用まで 100題で学ぶ表計算（第4版）』日経BP社発行

【参考文献】

各アプリケーションソフトの市販解説本

■授業外学習

【具体的な内容】

講義内で学習した内容を繰り返し練習・確認すること。
タイピング練習（ブラインドタッチ）を継続練習する。

【必要な時間】

週に1～2時間程度

■その他

テキストを使用して自発的に予習復習をしてください。
パソコンが苦手という人も、基本からしっかり学習していきますので、積極的に取り組んでください。

科 目 名	情報処理演習(文書処理)
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	常見 裕子

■講義の目的および概要

現代社会に必要な情報リテラシー能力を習得するため、コンピュータの基本操作、活用技術、マナーなどの基礎知識を学びながら、パソコンの代表的なアプリケーションソフトの使い方を通して、多様な文書作成のスキルを習得する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

配布プリントの解説や教員の補足説明を参考に、学生が主体的に取り組む実技演習形式で授業を進める。必要に応じてディスカッションなどを取り入れて実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題及び参考資料は、プリント、学内共有フォルダやWeb上の共有ドライブを介して配布する。提出されたファイルの概評などを適宜、行う。

■授業計画

- ①科目ガイダンス、情報環境の確認と設定
- ②Windows基本操作、環境設定
- ③ファイル操作、タイピング練習
- ④長文練習と文字の訂正
- ⑤Word文書の編集とページ設定
- ⑥Wordで表の作成
- ⑦Wordの図形機能と画像挿入
- ⑧Wordでチラシ作成①
- ⑨Wordでチラシ作成②
- ⑩Excelの基本
- ⑪Excelで成績データの作成
- ⑫パソコンメールのマナーと形式 PDFファイル変換など
- ⑬PowerPointでスライド作成①
- ⑭PowerPointでスライド作成②
- ⑮まとめと振り返り

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ソフトウェアの多様な機能を理解し、情報の整理や文書作成などを創意工夫して処理することができる。
- ・幼稚園の園だより、案内文書などを考えながら作成することができる。
- ・電子メールのマナーやモラルを理解し、コミュニケーションツールとして使用することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP3)【課題を発見し、解決する力】

■成績評価基準と方法

タイピング：10%
課題提出：60%
確認テスト：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『学生のためのOfficeスキル活用 & 情報モラル』noa出版

【参考文献】

各アプリケーションソフトの市販解説本

■授業外学習

【具体的な内容】

基本操作でわからないことがあれば復習しておく。授業後、新しく学習したことを復習し、理解を深める。入力速度をあげるために、タイピング練習（ブラインドタッチ）を継続練習する。

【必要な時間】

週に1～2時間程度

■その他

一つ一つの課題に順番に取り組むことによって、様々な文書作成ができるようになります。パソコンが苦手という人も、基本からしっかり学習していきますので、あきらめず、積極的に取り組んでください。

2022 (令和4) 年4月1日

科 目 名	キャリア基礎演習[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・必修 1単位・演習
担 当 者	伊藤 桂子、小川 久恵、朝地 信介、田村 めぐみ、神林 裕子

■講義の目的および概要

社会人として必要な常識、態度などについて学びます。「キャリア形成」を踏まえ、就職することについて考察することにより、就職に対して具体的な理解を深めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークやディスカッション、資料作成等の演習を中心としながら、講義や外部講師講話を通して課題の明確化等を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

■授業計画

- ①オリエンテーション、進路調査アンケート
- ②就職までの手続きについて（キャリア支援センターより）、社会人に求められるマナーについて
- ③進路調査票について
- ④外部講師講話①：就職するということ
- ⑤就職試験について（実技編）
- ⑥就職試験について（一般常識編）
- ⑦就職試験について（専門知識編）
- ⑧外部講師講話②：就職試験に向けて
- ⑨求人票の見方
- ⑩履歴書の書き方①
- ⑪履歴書の書き方②・就職までの手続きについて（キャリア支援センターより）
- ⑫面接について①
- ⑬面接について②（グループワーク）
- ⑭外部講師講話③：保育者として
- ⑮まとめ及び就職ガイダンス、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

社会人として豊かな生活を送るための必要な知識、態度などについて理解を深めるとともに、保育者としての専門性について理解を深めることを目標とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

毎時のワークシート等の提出物 60 %
授業内レポート 40 %

■テキスト・参考文献

【テキスト】

テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

常日頃から新聞やニュースなどで、最近の社会や企業の動き、世の中の動向を意識することを心掛けて下さい。
必ず前回の授業内容を復習し、自分の将来について具体的にイメージして出席してください。

【必要な時間】

予習・復習の時間は合わせて、時間を目安とします。

■その他

保育士模試を受験する場合は、受験料として3100円程度必要となります。

科 目 名	外国語コミュニケーション (基礎)
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	神林 裕子

■講義の目的および概要

本講義では、保育者として必要な基本的な英語表現を身に付ける。また、適宜、英語の歌やゲーム等の活動の学習を通して、保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる指導力を育成する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②Unit 1 What's your name?
- ③Unit 2 Where are you from?、関連した英語の活動
- ④Unit 3 Good morning! ①
- ⑤Unit 3 Good morning! ②、関連した英語の活動
- ⑥Unit 4 Are you OK? ①
- ⑦Unit 4 Are you OK? ②、確認テスト1
- ⑧Unit 5 What are you doing? ①
- ⑨Unit 5 What are you doing? ②、関連した英語の活動
- ⑩Unit 6 How are you feeling? ①
- ⑪Unit 6 How are you feeling? ②、関連した英語の活動
- ⑫Unit 7 What's she like? ①
- ⑬Unit 7 What's she like? ②、関連した英語の活動
- ⑭Unit 8 What's she like? ① 確認テスト2
- ⑮Unit 8 What's she like? ②、関連した英語の活動

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。また、発音とリズムに留意しながら、英語の歌、英語の絵本の読み聞かせ等の活動ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎回の課題の提出 30%
- ②小テスト 30%
- ③確認テスト1 20%
- ④確認テスト2 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・Speaking of Childcare」Peter Vincent&Naoko Nakazono、出版社：NAN'UN-DO

【参考文献】

- ・しゃべる英文法、監修・著 白井恭弘、出版社：コスモピア株式会社
- ・Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English with answers), by Raymond Murphy, 出版社：Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

次の5つを大切にしましょう。

- Be helpful.
- Be friendly.
- Be active.
- Be creative.
- Be ambitious.

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科目名	外国語コミュニケーション(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担当者	神林 裕子

■講義の目的および概要

本講義では、保育者として必要な基本的な英語表現を身に付ける。外国語コミュニケーション（基礎）を踏まえ、フィリピン講師との実績的な英会話にも取り組む。また、適宜、英語の歌やゲーム等の活動の学習を通して、保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる指導力を育成する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②Unit 9 Let's eat lunch!①
- ③Unit 9 Let's eat lunch!②、Zoomにおける実践
- ④Unit10 What do you want to do? ①
- ⑤Unit10 What do you want to do? ②、Zoomにおける実践
- ⑥Unit11 What do you have to do? ①
- ⑦Unit11 What do you have to do? ②、Zoomにおける実践
- ⑧Unit12 I need to go potty①
- ⑨確認テスト1、Unit12 I need to go potty②、
- ⑩Unit13 Good job!①
- ⑪Unit13 Good job!②、関連した英語の活動
- ⑫Unit14 Injuries and emergencies ①
- ⑬Unit14 Injuries and emergencies ②、関連した英語の活動
- ⑭確認テスト2、Unit15 We're going to go outside ①
- ⑮Unit15 We're going to go outside ②

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育現場における基本表現を用いて、積極的に日常的な会話ができる。また、発音とリズムに留意しながら、英語の歌、英語の絵本の読み聞かせ等の基本的な指導ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎回の課題の提出 30%
- ②小テスト 30%
- ③確認テスト1 20%
- ④確認テスト2 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・Speaking of Childcare, Peter Vincent & Naoko Nakazono、出版社：NAN'UN-DO

【参考文献】

- ・しゃべる英文法、監修・著 白井恭弘、出版社：コスモピア株式会社
- ・Essential Grammar in Use (A self-study reference and practice book for elementary students of English with answers), by Raymond Murphy,出版社：Cambridge University Press

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

次の5つを大切にしましょう。

- ・Be helpful.
- ・Be friendly.
- ・Be active.
- ・Be creative.
- ・Be ambitious.

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

科 目 名	幼稚園実習 (応用)
開講期・単位	2年 通年・選択 3単位・実習
担 当 者	山内 太郎、朝地 信介、林 二士、深浦 尚子、田村 めぐみ

■講義の目的および概要

教育実習（幼稚園実習）は、将来教員（幼稚園教諭）になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会として行われます。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育（幼稚園教育）の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

8月下旬から3週間、学外の幼稚園で実習を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

実習終了後、実習日誌、レポート等を作成し、「幼稚園実習指導」の中で事後指導を行います。

また「学外幼稚園実習記録」の作成に取り組み、記録集として発行し、各自の課題を明らかにするとともに課題点の共有を図ります。

■授業計画

※原則として私立幼稚園で実習を行う。

※実習期間は8月下旬から3週間を予定。

※実習前に実習園を訪問し、オリエンテーションを行う。

※およその実習日程・内容は以下の通り。実習園ごとに日程・内容は異なる。

- ①着任式・見学実習
- ②観察実習
- ③ //
- ④ //
- ⑤ //
- ⑥観察実習、参加実習、部分実習
- ⑦ //
- ⑧ //
- ⑨ //
- ⑩ //
- ⑪ //
- ⑫ //
- ⑬ //
- ⑭全日実習(責任実習)
- ⑮集会実習、離任式

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・幼児の活動や環境等に対して適切な観察を行うとともに、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解するため、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うよう行動できる。
- ・大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育の実践を通して身に付けることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
- (DP2)コミュニケーション能力
- (DP3)課題を発見し、解決する力
- (DP5)能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

実習園の評価を70%、提出物(実習日誌・指導案レポートなど)を30%とし、これらを合わせて評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『実習ハンドブック』

【参考文献】

『幼稚園実習（基礎）ハンドブック』

前年度『学外幼稚園実習記録』

■授業外学習

【具体的な内容】

『実習ハンドブック』と『幼稚園実習（基礎）ハンドブック』をよく読み、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習しノート等にまとめてください。
また、幼稚園実習（基礎）や幼稚園実習指導での講義内容と、付属幼稚園実習で気付いたことや各幼稚園での事前オリエンテーションの内容、各自の研究課題に沿って、実習で必要となる指導案や実習グッズの作成、手遊びや読み聞かせ、楽器の練習等を行ってください。また一日ごとの日誌の作成や、課題点の整理などを行ってください。

【必要な時間】

予習・復習に必要な時間とはそれぞれ3.5時間を目安とします。

■その他

- ・幼稚園実習指導を合わせて履修すること。
- ・実習費23,000円（2021年度参考）

科 目 名	保育実習 II (保育所)
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・実習
担 当 者	山内 太郎、朝地 信介、林 二士、深浦 尚子

■講義の目的および概要

保育所での実習を通して、保育士として必要な知識・技能を身につける。この科目は1年次の保育所実習の発展版と位置付けられるので、学生には実際に現場に立つ卒業後の自分自身を想定しながら、より専門的に学ぼうとする姿勢が求められる。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的には、1年次に実習した保育所で行う。
「学外」科目につき、内容は実習先によってそれぞれ異なる。

【課題に対するフィードバックの方法】

関連する実習科目で振り返りを行う。

■授業計画

講義の目的にあるように、この実習は基本的な施設理解が既に習得されているという前提で行われる。そのため、1年次の実習において得たことを踏まえ、さらに課題を設定して行うことが望まれる。

実習の内容については、実習先によって多少異なるが、大まかには以下の通りである。

- ・課題の設定
- ・部分実習（時間をいただき、絵本の読み聞かせやゲーム、制作等の活動をする。）
- ・完全実習（仕上げの段階で、クラスの保育を初めから終わりまで一通り任される。）
- ・実習のまとめ、反省
- ・実習終了後、レポート提出（実習前に設定した課題について、レポートにまとめる。）

実習期間中、3歳未満時（0・1・2歳）、3歳児、4歳児、5歳児の各クラスに入ったり、縦割りによる異年齢混合クラスに入って実習を行う。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育現場に立つ者としての自覚ある態度で取り組み、自分自身の課題を明確にする。有意義な実習を行い、保育者として必要な知識・技能をさらに高める。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力
(DP2)コミュニケーション能力
(DP3)課題を発見し、解決する力
(DP5)能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

学外保育所における実習評価を60%、実習日誌・レポートを40%とし、これらを合わせて評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

実習ハンドブック

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として1年次の振り返りをしっかりとしておくこと。

【必要な時間】

実習科目のため事前学習は何時間必要かは学生によって異なるが、おおむね予習・復習にかかる時間はそれぞれ2時間を下回らない。

■その他

実習費18,000円（2021年度実績）の納入が5月頃に必要になります。

科 目 名	保育実習III(施設)
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・実習
担 当 者	山内 太郎、朝地 信介、林 二士、深浦 尚子

■講義の目的および概要

科目は、卒業後に施設保育士として働きたいと思っている学生が履修していることを想定している。したがって、保育実習Ⅰにおいて経験した施設実習を踏まえて、より専門的ななかかわりの習得を目的としている。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学外における保育所以外の児童福祉施設での実習を行う。
そのため内容は配属される実習先によって異なる。

【課題に対するフィードバックの方法】

関連する実習科目において振り返りを行う。

■授業計画

講義の目的にあるように、この実習は基本的な施設理解がすでに習得されているという前提で行われる。そのため、1年次の実習において得られたことを踏まえ、さらに課題を設定して行うことが望まれる。

実習の内容については、実習先によって異なるが、大まかには以下のとおりである。

- ・施設機能の理解（入所児童の理解含む）
- ・保育実習指導において設定した実習課題への取り組み
- ・個別的なかかわりを深める（ケース研究的なかかわり）
- ・設定保育（行わない場合もある）
- ・実習のまとめ、反省
- ・実習終了後、レポート提出（実習課題についてレポートにまとめる）

実習先によっては関連する地域の諸機関での実習も含まれる。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

施設保育士としての仕事のおもしろさと難しさを体験的に語れるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力
(DP2)コミュニケーション能力
(DP3)課題を発見し、解決する力
(DP5)能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

実習先による評価（評価表）60%、実習日誌、レポート等の提出物40%とし、これらを合わせて総合的に評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】

実習ハンドブック

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

1年次の振り返りをしっかりとしておくこと。

【必要な時間】

実習科目のため一律に必要な時間を設定することはできない。各自の自覚が必要。

■その他

実習費18,000円（2021年度実績）の納入が5月頃に必要になります。

科目名	保育・教職実践演習 (幼稚園) [幼教]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担当者	小川 久恵、朝地 信介、森岡 毅

■講義の目的および概要

本講義では、これまで履修してきた実習を含む全ての科目を通して、幼児理解のための理論及び方法が形成されたかを振り返ります。
保育者になる上での自己課題を明確化し、改善に取り組む中で保育者に必要な資質・能力を高めます。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークやディスカッション、模擬保育等の演習を中心としながら、記録からの省察や課題分析等を織り交ぜ、能動的な学習を目指します。
本講義は幼稚園教諭や学校教員として実務経験のある教員が、保育・教育の計画・実践にかかわる視点・知識・技術を活かして、指導方法や振り返りを通して自己課題を改善する方法を身に付けられる内容を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して他者の考えや学びを知り、自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。

■授業計画

- ①オリエンテーション(履修カルテより自己課題を設定)
- ②自己課題の設定① 幼稚園実習の振り返り
- ③自己課題の設定② 自己課題の設定(教員を目指すものとして)
- ④模擬保育に向けての準備① 望ましい教員のあり方を考察
- ⑤模擬保育に向けての準備② 環境(物的環境・人的環境)
- ⑥模擬保育に向けての準備③ 子ども理解と保育内容をふまえた指導案作成
- ⑦模擬保育に向けての準備④ 子どもの発達と保育内容をふまえた指導案作成
- ⑧模擬保育に向けての準備⑤ 個と集団の発達と保育内容をふまえた指導案作成
- ⑨模擬保育(保育実践)① 指導案をもとに保育方法の実践
- ⑩模擬保育(保育実践)② 保育方法の展開・発展
- ⑪模擬保育の振り返り① 保育方法の実践への反省・評価
- ⑫模擬保育の振り返り② 保育方法の実践への改善・計画
- ⑬自己課題の発表① 保育実践から得られた指導計画・教材研究の展開
- ⑭自己課題の発表② 自己課題の改善に向けた保育実践から得られたまとめ
- ⑮自己の学びの振り返り(まとめ)、履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

幼稚園、保育所、認定こども園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び、過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
- (DP2)コミュニケーション能力
- (DP3)課題を発見し、解決する力
- (DP4)多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ・提出物・レポート・発表70%
- ・まとめレポート30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・子どもの発達段階の特徴と保育のポイントなどを予習しノートにまとめてください。
- ・これまでの学修や実習を通して明確になった自己課題をノートにまとめてください。
- ・自己課題の設定や指導案作成時に課題を出題します。
- ・毎回の授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ2時間ずつ、合計4時間を目安とします。

■その他

- ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。

科 目 名	子どもの食と栄養(応用)[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	小野 昭子

■講義の目的および概要

胎児期から幼児期の食生活、生活習慣がその子の体格や病気になりやすさだけでなく性格までも影響することが近年の研究から明らかになっている。幼児教育の中での保護者をも巻き込んだ「食育」は今その重要性を増している。秋学期は食育にフォーカスする

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

ビデオ、OHPを使い、教室にて授業を行う。
考えてもらうために参加方式を出来るだけ取り入れたいと考えている。
積極的なかわりを期待している。

【課題に対するフィードバックの方法】

レスポンのミニテストや感想を、授業中に回答・披露することで理解を深める

■授業計画

【応用】 発育期の食生活

- ① 人生で一番大事な最初の1000日の食事【胎児期から幼児期の重要性】
- ② 幼児期（6歳まで）の食と眠りの重要性【腸内細菌と生活リズム・体格も脳機能も心までも。味覚形成の仕組み】
- ③ 乳児期の食生【母乳と腸内細菌の多様性・人工乳】
- ④ 離乳期の栄養【食のスタートが将来の人生に関係・悩みが深い離乳食母への対応と世界の状況】
- ⑤ アレルギーについて考える【予防は離乳期から】
- ⑥ 幼児の食 お弁当で考える食事
- ⑦ お弁当実習へ向けて（グループ学習）
- ⑧ お弁当実習・「だし」とベビーフード味覚レポート
- ⑨ 幼児期の発育・発達と食生活（食事形態・食環境・間食）
- ⑩ 幼児期の発育・発達と食生活（保護者の悩みへの対処）
- ⑪ 幼児の食と心の育ち 食卓の重要性【共食とコミュニケーション・自己評価】
- 【行事食と子供の人生・脳のつくられ方】
- ⑫⑬ 保育所給食と幼児の食育 1
- ⑭ 保育所給食と幼児の食育 2（グループ）
- ⑮ グループ発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

幼児期の栄養と食習慣が、子どもの未来の可能性を広げることを理解する。日々の食教育の重要性、必要性を理解し、保護者・地域を巻き込んだ食育を考える。その実践に役立つ知識を習得し、実際に演習する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

(DP3)課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

定期試験	50%
課題レポート	45%
レスポンスミニテスト・感想	5%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

子どもの食と栄養 第2班 羊土社 太田百合子 堤 ちはる

【参考文献】

家族を育てる食卓 室田洋子著
「自分で食べる！」が食べる力を育てる ジェル・アラ・レイ・トレシー・マーケット著
人生で一番大事な最初の1000日の食事 ハイリー・サイラット・クレア・ルウェリン

■授業外学習

【具体的な内容】

1. 幼児期に関わってくれた人（父母、祖父母など）からエピソードを聞いてくる。
またはアルバムや、おたより帳などがあれば目を通す
2. 自分の母子手帳見ておく。（授乳期、離乳食の様子を聞く）

【必要な時間】

予習・復習の時間は、1時間を目安とします。

■その他

科 目 名	保育実習指導Ⅱ(保育所)
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	山内 太郎、深浦 尚子、野崎 剛毅、高橋 由美子

■講義の目的および概要

1年次に行った保育実習Ⅰの経験を踏まえて、子ども理解と保育・養護の技術のさらなる深化を目的とする。そのために事前指導として課題の明確化や指導案・記録技法の習得が中心となる。
また、事後指導として、実習終了後に保育者としての自身の特性や課題を明確にすることを旨とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
実習の振り返りをもとに課題を明らかにし、実習に向けての取り組みを具体化できるよう、講義・演習・発表形式で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で適宜質問を受け付けることでフィードバックを行う。

■授業計画

<事前指導>
①保育実習Ⅱの目的
②記録技法について①：指導案の基本的な考え方
③記録技法について②：指導案の作成
④実習課題の検討
⑤記録技法について③：日案の基本的な考え方
⑥記録技法について④：日案の作成

<事後指導>
⑦実習の振り返り
⑧実習報告会の実施

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
実習での経験を踏まえて、保育士としての自身の特性と課題を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1)専門知識・技能を活用する力
(DP2)コミュニケーション能力
(DP3)課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ・提出物(実習の振り返り、実習報告レポートなど)：50%
- ・授業への取り組み、毎回のまとめ：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
実習ハンドブック

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
毎回の授業で配布された資料等を読み返して理解を深めること。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間程度を目安とする。

■その他

- ・1年次に学習した専門科目を復習し、実習との繋がりを理解しておくこと。
- ・保育実習Ⅱと合わせて履修すること。

科 目 名	保育実習指導III(施設)
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	山内 太郎、深浦 尚子、野崎 剛毅、高橋 由美子

■講義の目的および概要

1年次に行った保育実習Ⅰの経験を踏まえて、子ども理解と保育・養護の技術のさらなる深化を目的とする。そのために事前指導として課題の明確化や指導案・記録技法の習得が中心となる。
また、事後指導として、実習終了後に保育者としての自身の特性や課題を明確にすることを旨とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
実習の振り返りをもとに課題を明らかにし、実習に向けての取り組みを具体化できるよう、講義・演習・発表形式で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】
授業の中で随時質問を受け付けることでフィードバックを図る。

■授業計画

<事前指導>
①保育実習Ⅲの目的
②記録技法について①：指導案の基本的な考え方
③実習先の施設種別について調べ学習
④実習課題の検討
⑤記録技法について②：日案の基本的な考え方
⑥記録技法について③：日案の作成

<事後指導>
⑦実習の振り返り
⑧実習報告会の実施

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】
実習での経験を踏まえて、保育士としての自身の特性と課題を理解している。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1)専門知識・技能を活用する力
(DP2)コミュニケーション能力
(DP3)課題を発見し、解決する力

■成績評価基準と方法

- ・提出物(実習の振り返り、実習報告レポートなど)：50%
- ・授業への取り組み、毎回のまとめ：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
実習ハンドブック

【参考文献】
授業中に適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】
毎回の授業で配布された資料等を読み返して理解を深めること。

【必要な時間】
2時間程度を目安とする。

■その他

- ・1年次に学習した専門科目を復習し、実習との繋がりを理解しておくこと。
- ・保育実習Ⅲと合わせて履修すること。

科 目 名	保育の心理学Ⅱ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	深浦 尚子

■講義の目的および概要

保育実践について理解を深めるとともに、学習の過程を理解し、保育における発達援助を学ぶ

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

演習形式で行い、グループワークでの議論やその結果を発表する。
グループワークでは、ワークシートを記入し、提出をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題は授業中に行い、提出後、コメントをつけて返却を行う。

■授業計画

- 1.子ども理解における発達の把握
- 2.個人差や発達過程に応じた保育
- 3.身体感覚をともなう多様な経験と環境との相互作用
- 4.環境としての保育者と子どもの発達
- 5.子どもの相互のかかわりと関係づくり
- 6.子ども集団と保育の環境
- 7.子どもの生活と学び
- 8.子どものあそびと学び 中間レポート
- 9.基本的生活習慣の獲得
- 10.自己主張と自己抑制
- 11.主体性の形成
- 12.生涯にわたる生きる力の基礎を培う
- 13.発達と学びの連続性と就学支援
- 14.発達援助における協働
- 15.現代社会における子どもの発達と保育の課題

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める
2. 生活や遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する
3. 保育における発達援助について学ぶ

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

成果物 20%
中間レポート30%
定期試験 50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

「保育の心理学Ⅱ」清水益治編、中央法規

【参考文献】

■授業外学習

予習・復習をしっかりと行う。予習は主にテキストを熟読し、復習は、ノートやワークシートを振り返り理解を深める。

【必要な時間】

予習、復習におおよそ2時間ほど必要である

■その他

科 目 名	諸外国の保育
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	野崎 剛毅

■講義の目的および概要

国際化社会である現在、幼稚園や保育所においても外国人児童や外国につながる児童が多く入所している。
この科目をとおして、諸外国の保育の現状を学ぶとともに、多文化共生の理論を理解し、外国につながる児童への保育の基礎知識を学習する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義と演習でおこなう。
幼児教育の世界的な潮流を確認したあと、いくつかの国について学生が調べ、発表する。

【課題に対するフィードバックの方法】

質問、課題内容等については、講義内でとりあげ、解説をおこなう。

■授業計画

- ①ガイダンス 外国の保育を学ぶ意義
 - ②諸外国の保育の概観
 - ③関心の整理とテーマの設定
 - ④テーマ学習 基礎学習
 - ⑤テーマ学習 資料の作成
 - ⑥発表① スウェーデンの保育
 - ⑦スウェーデンの保育の補足と検討
 - ⑧発表② フィンランドの保育
 - ⑨フィンランドの保育の補足と検討
 - ⑩発表③ ニュージーランドの保育
 - ⑪ニュージーランドの保育の補足と検討
 - ⑫発表④ ドイツの保育
 - ⑬ドイツの保育の補足と検討
 - ⑭日本の多文化保育
 - ⑮まとめと履修カルテ記入
- ただし、とりあげる国、地域については受講生の関心にそって変更することがある。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

海外の保育の動向を理解する。
現代日本の保育を多角的、客観的、相対的にみることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)【専門知識・技能を活用する力】
(DP4)【多様性の理解と協働する力】

■成績評価基準と方法

発表 50点
検討会 20点
まとめ 30点

■テキスト・参考文献

【テキスト】

指定しない

【参考文献】

講義内で紹介する

■授業外学習

【具体的な内容】

準備学習として、紹介する資料やHP、関連書籍などにより、その国の基本情報をまとめておく必要がある。
また、我が国の保育を相対化するためには、何よりも我が国の保育について正しく理解している必要がある。2年生秋学樹科目であることから、これまでに学んだことをきちんと振り返り、理解しておくことが何より重要である。

【必要な時間】

事前・事後それぞれ2時間程度の学習を必要とする。

■その他

科 目 名	子どもの発達と保育
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	高橋 由美子

■講義の目的および概要

本授業では、子どもの心身の発達に関する学習と保育実習を関連付けながら、子どもの発達段階に応じた保育を展開できる力を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

年齢ごとの子どもの発達の振り返りを行いながら、ロールプレイ、グループワークを含めた演習形式で実施する。

本授業は、保育士、保育園長の実務経験のある教員が、その知識、技術を活かして、各年齢の発達を理解するとともに、具体的な場面に応じた保育の方法・展開を学びあえるよう実施していく。

【課題に対するフィードバックの方法】

グループワーク等の課題の中で特筆すべき点については、全体に向けて解説する。また、グループワークやディスカッションを通し、様々な考えや保育の方法について共有する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②0歳児の心身の発達
- ③0歳児の保育
- ④1歳児の心身の発達
- ⑤1歳児の保育
- ⑥2歳児の心身の発達
- ⑦2歳児の保育
- ⑧未満児のまとめ（中間レポート）
- ⑨3歳児の心身の発達
- ⑩3歳児の保育
- ⑪4歳児の心身の発達
- ⑫4歳児の保育
- ⑬5歳児の心身の発達
- ⑭5歳児の保育
- ⑮全体のまとめ（レポート）

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保育者としての子どもの発達についての知識の再確認と、それを保育実践に結び付けて展開できる力を身につける。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
- (DP2)コミュニケーション能力
- (DP3)課題を発見し、解決する力
- (DP4)多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

中間レポート 40%
 まとめのレポート 40%
 提出物 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

保育の心理学Ⅰ、Ⅱ、乳児保育など関連する科目について復習をする。

【必要な時間】

事前事後各1時間程度

■その他

科 目 名	子ども音楽療育概論[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担 当 者	下出 理恵子

■講義の目的および概要

音楽教育、保育、発達臨床、音楽療法などの様々な関連分野から、保育音楽療育の専門性を、論理的に学習する。また、音楽を構成している要素と療育における音楽活動の関係を学び、音楽療育における音楽の役割を理解する

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

関連領域の文献や臨床のVTRを使い、必要に応じて演習を交えながら講義を行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

■授業計画

- ①オリエンテーション／保育音楽療育とは
- ②対象者理解（成人、高齢者）
- ③対象者理解（乳幼児、児童、～WSの子どもたち～）
- ④音楽の特性
- ⑤歌唱(声)活動の目的とデザイン
- ⑥器楽（即興的な活動）の目的とデザイン
- ⑦器楽（既成曲を使った活動）の目的とデザイン
- ⑧動きを伴う活動の目的とデザイン
- ⑨音楽のコミュニケーション性
- ⑩音楽活動のサポートとは
- ⑪アセスメント・プログラム・評価
- ⑫音楽と人間形成 ～音楽心理学に学ぶ～
- ⑬関連領域に学ぶ対象理解
- ⑭WSプログラムの意義と目的
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・対象理解のための知識を備える
- ・保育音楽療育における音・音楽の役割を理解する。
- ・保育音楽療育の意義と目的を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

毎回の授業後のコメントシート 40%

テスト、レポートなど、授業内で提示される課題を総合して60%で評価する。

■テキスト・参考文献

【テキスト】
適宜資料配布

2022 (令和4) 年4月1日

【参考文献】
障害児の成長と音楽 音楽の友社編 音楽の友社
音楽療法の実践 加藤美知子 他 春秋社
音楽療法の手引き 松井 紀和 牧野出版
保育における特別支援 竹田 契一他 日本文化科学社

■授業外学習

【具体的な内容】
関係する領域は多岐にわたる。参考文献や講義内で紹介された著書などは必ず読んで、自ら学び、興味を広げていくことが、大切である。

【必要な時間】
事前・事後 2 時間以上の予習・復習を要する。

■その他

科 目 名	子ども音楽療育演習[幼教]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	小川 久恵

■講義の目的および概要

本講義は発達が多様な子どもを対象とした音楽療育実践に必要な基礎知識と技術を獲得することを目的とします。
また、音楽療育実践のための音・音楽の使い方、対象に応じた展開やサポートの方法を習得することを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループワークやディスカッション等の演習、発表などを通して療育プログラムの立案・模擬セッション・省察・セッション再構成を体験します。
また、講義を通して療育のための音楽活動の構成力、実践力を高めます。
本講義は幼稚園教諭・保育音楽療育士の実務経験のある教員が、療育実践にかかわる知識・技術を活かして、音楽療育実践に必要な知識と技術、実践方法について、保育者の視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワーク等の演習・実習を通して、多様な理論、実践方法について互いに検討します。

■授業計画

- ①オリエンテーション／からだあそび
- ②スキンシップあそび
- ③身体の知覚、ボディイメージを高めるあそび
- ④模擬セッション1
- ⑤模擬セッション1 振り返りグループワーク
- ⑥楽器を使うあそび
- ⑦身体模倣あそび
- ⑧うたあそび、ことばあそび
- ⑨模擬セッション2
- ⑩模擬セッション2 振り返りグループワーク
- ⑪シアターにおける音楽の役割
- ⑫音楽つきミニシアター計画
- ⑬音楽つきミニシアター練習
- ⑭音楽つきミニシアター発表
- ⑮まとめ、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・目的に応じた音楽療育を計画し、実践することができる。
- ・音楽活動時に見られる子どもの姿を発達の視点で捉え、活動をサポートする方法を考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
- (DP2)コミュニケーション能力
- (DP4)多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ・療育プログラムの立案・実践・省察レポート70%
- ・コメントシート(毎回授業後に提出する)30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・『ユニバーサルデザインの音楽表現』星山麻木編著・板野和彦著 萌文書林

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

『子ども音楽療育概論』や関連する科目を参考に、障害の特性やかかわりのポイント、音楽あそびなどを予習しノートにまとめてください。療育プログラムの計画や実践時に課題を出題します。
毎回の授業を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

■その他

科 目 名	子ども音楽療育実習[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・実習
担 当 者	小川 久恵

■講義の目的および概要

本講義では音楽活動の多様性を知り、関連領域の理論と音楽活動の関係を体験的に理解することから実践力を広げることを目的とします。
また、子どもの多様な発達についての理解を深めながら、音楽活動時に見られる子どもの姿を理解することを目指します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

音楽療育ワークショップにおける療育実践に向け、音楽療育ワークショップ実習や現場実践者の講義、またグループワークや療育プログラムの検討・作成等の演習を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

本講義は幼稚園教諭・保育音楽療育士の実務経験のある教員が、療育実践にかかわる知識・技術を活かして、音楽活動の多様性や音楽療育の実践について、保育者の視点から理解できる講義を実施します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説します。また、グループワーク等の演習・実習を通して、多様な理論、実践方法について互いに検討します。

■授業計画

- ①オリエンテーション：実習の心構え、マナー
- ②音楽療育実習の活動計画：ワークショップの構成とねらい
- ③実習事前指導：観察視点と日誌の書き方
- ④ワークショップ観察実習：流れを知る
- ⑤ワークショップ観察実習：子どもの姿を理解する
- ⑥ワークショップ観察実習：子どもの姿を理解する
- ⑦ワークショップ観察実習：音楽活動時におけるかかわり方を学ぶ
- ⑧観察実習事後指導：日誌を使用した省察
- ⑨ワークショップ参加実習：指導者と子どものかかわりを学ぶ
- ⑩ワークショップ参加実習：音楽活動の関与について学ぶ
- ⑪ワークショップ部分実習：音楽活動による療育の計画・実践
- ⑫ワークショップ部分実習：音楽活動による療育の計画・実践
- ⑬ワークショップ部分実習：療育の計画・実践に対する省察
- ⑭特別講座：関連領域から障害を理解する
- ⑮実習事後指導：まとめ、履修カルテの記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・ワークショップにおいて子どもや保護者・支援者とかかわることから、多様な発達についての理解や子ども理解について深めることができる。
- ・概論と演習を繋ぎ、自身の療育プログラムを実習の場で実践することができる

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
- (DP2)コミュニケーション能力
- (DP4)多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ・実習日誌などの提出物：50%
- ・部分実習の立案、実践(発表)など：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・『ユニバーサルデザインの音楽表現』 星山麻木編著・板野和彦著 萌文書林

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

『子ども音楽療育概論』や関連する科目を参考に、障害の特性やかかわりのポイントなどを予習しノートにまとめてください。療育プログラムの計画や実践時に課題を出題します。

毎回の授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートや実習日誌にまとめてください。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。

■その他

実習費 2000円

資格申請費 5700円

上記の費用が必要になります。(2021年度参考)

科 目 名	保育プロジェクト演習
開講期・単位	2年 通年・必修 1単位・演習
担 当 者	伊藤 桂子、山内 太郎、平野 良明、朝地 信介、東谷 一彦、林 二士、田村 めぐみ、神林 裕子、野崎 剛毅

■講義の目的および概要

自らの興味関心に基づき、保育者として必要な基礎知識をさらに深めていく。具体的には指導教員の専門性に基づきテーマを提示し、学生自身が教員の指導の下で、具体的な学習テーマを決めた上で、それについて学習を深め実践する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

グループごとに、その会の授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。

【課題に対するフィードバックの方法】

各自の目標に合わせて、学習を積み上げ、必要に応じてフィールドワークや、実技の発表等を行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション 授業の目的とすすめ方
- ②専門領域ごとの概要とテーマの設定
- ③課題についての情報収集とアドバイス
- ④専門学習 1
- ⑤専門学習 2
- ⑥専門学習 3
- ⑦専門学習 4
- ⑧専門学習 5
- ⑨専門学習の振り返り：中間レポート
- ⑩フィールドワーク 1 （実践 1）
- ⑪フィールドワーク 2 （実践 2）
- ⑫調査のまとめ（資料のまとめ）（実践 3）
- ⑬調査のまとめ（活動のまとめ）（実践 4）
- ⑭ディスカッション（発表）
- ⑮授業内レポート（発表）・履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

学生自身が課題を設定し、それを調べ、実践し、省察することでができ、さらに保育者の専門性の幅をひろげることを目標とする。その場合、個人の活動に加え他者と協働し行うことを経験する。

また春学期での保育プロジェクト演習での学びは、秋学期の保育・教職実践演習において、模擬保育に繋がるようなものとする。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 【専門知識・技能を活用する力】
- (DP2) 【コミュニケーション能力】
- (DP3) 【課題を発見し、解決する力】
- (DP4) 【多様性の理解と協働する力】
- (DP5) 【能動的に学び続ける力】
- (DP6) 【社会に貢献する姿勢】

■成績評価基準と方法

中間レポート（40%）
授業内レポート・発表（40%）
提出物・振り返りシート（20%）

■テキスト・参考文献

【テキスト】

配属されたグループにおいて、適宜指示される。

【参考文献】

配属されたグループにおいて、適宜指示される。

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業において、次週の授業までに行う予習や課題が提示される。
次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。

【必要な時間】

各グループにおいて指示される。

■その他

科 目 名	ピアノ基礎演習Ⅰ[再・2年]
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	伊藤 桂子

■講義の目的および概要

保育現場で必要なピアノの基礎的な技術（読譜力、表現力、即興力）を身に付けることを目的とし、学生個々のピアノ経験に応じて指導します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学生個々のピアノ経験に応じて、個人レッスンの形態で講義を行います。楽譜の読み方から、音楽表現についてまで細やかに指導します。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。

■授業計画

- 1.オリエンテーション（グループ分け）
- 2.～13. 下記の①～⑬の指導項目をテキストに関連させて指導します。
 - ①読譜（拍子）
 - ②読譜（リズム）
 - ③読譜（ト音譜表）
 - ④読譜（ヘ音譜表）
 - ⑤ハ長調の和音
 - ⑥ヘ長調の和音
 - ⑦ト長調の和音
 - ⑧分散和音など様々な伴奏型
 - ⑨初見視奏
 - ⑩簡易な即興演奏
 - ⑪自由曲による表現
 - ⑫子どもの歌の弾き歌い
 - ⑬生活の歌、行事の歌、季節の歌
- 14.授業内試験
- 15.春学期のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。
- ②簡単なメロディを初見で弾くことができる。
- ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

A:定期試験（レッスンからの選択曲1曲：50%）＋授業内試験（初見視奏、伴奏付け：20%）：合計70%

B:毎時の課題： 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』
- ・『こどものうた200（チャイルド本社）』
- ・『ゆびトレ』（本学オリジナル教材）

■授業外学習

【具体的な内容】

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

【必要な時間】

事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。

■その他

幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

科 目 名	ピアノ基礎演習Ⅱ[再]
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	伊藤 桂子

■講義の目的および概要

「ピアノ基礎演習Ⅰ」を踏まえ、より実践的なピアノの技術を身に付けます。一人ひとりが、自身の力を伸ばして保育実践にピアノを活用できるように、経験年数や習熟度に応じた指導を行います。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学生個々の経験や習熟度に応じてそれぞれに合わせた目標を立て、個人レッスンの形態で、細やかに指導を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で個別に解説するとともに、他者の演奏を聴くことで学びを深めていきます。

■授業計画

1. オリエンテーション（習熟度と秋学期の目標の確認）
2. ～13. 下記の①～⑩の課題を習熟度に応じて指導します。
 - ①ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調の主要和音
 - ②ハ長調、ヘ長調、ト長調、ニ長調の和音の変奏
 - ③子どもの歌の弾き歌い
 - ④初見視奏
 - ⑤伴奏付け
 - ⑥移調
 - ⑦小品の演奏
 - ⑧保育実践のための即興
 - ⑨就職試験対応曲
 - ⑩様々な演奏表現について
14. 授業内試験
15. 秋学期のまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①ピアノ曲を正しく、表情豊かに演奏することができる。
- ②子どもの歌に伴奏を付けたり、移調したり、アレンジすることができる。
- ③簡単なメロディに伴奏をつけることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

■成績評価基準と方法

- A: 定期試験（レッスンからの選択曲1曲：50%）＋授業内試験（移調演奏、伴奏付け：20%）：合計70%
 B: 毎時の課題：30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

- ・『教職課程のための大学ピアノ教本（教育芸術社）』
- ・『こどものうた200（チャイルド本社）』
- ・『ゆびトレ』（本学オリジナル教材）

■授業外学習

【具体的な内容】

毎時、次の授業までの課題が提示されます。
各自で毎日しっかりと練習の上、レッスンを受講してください。

【必要な時間】

事前事後各1時間程度を目安としますが、技術を身に付けるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。

■その他

「ピアノ基礎演習Ⅰ」の単位を取得済みであること。
幼稚園教諭二種免許、保育士資格を取得する者は、必ず受講してください。また、本科目は「こども音楽療育士」に関する科目です。

科 目 名	表現課題演習(基礎)
開講期・単位	2年 春学期・必修 1単位・演習
担 当 者	伊藤 桂子、小川 久恵、朝地 信介、深浦 尚子、田村 めぐみ

■講義の目的および概要

学科行事『わくわくフェスティバル』に向けてミュージカルを中心とした表現活動のテーマを設定し、計画・目標を立てて取り組む過程を通して、自ら課題を発見して解決する手段や方法を実践的に学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

提示された表現活動の基礎的な知識や方法、活動の見通しに基づいて、学生が個人・グループで主体的に活動する演習形式で行う。授業内容としてはディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどの能動的学修、実践が中心となる。

【課題に対するフィードバックの方法】

各自の計画・目標、授業での取り組み、成果物、課題などについて記録にまとめる。作成した記録は記録集として発行し、各自の取り組みの課題を振り返るとともに、学生同士での課題の共有を図る。

■授業計画

- ①授業の目的、わくわくフェスティバルの概要、活動の見通し
- ②表現活動の基礎知識・方法、表現形態の紹介、表現形態・演目選びの要点、準備委員選出
- ③表現活動のテーマ検討
- ④表現活動のテーマ決定、表現形態・演目の検討
- ⑤表現形態・演目の決定、作業役割分担班の検討・希望調査・調整
- ⑥作業役割分担班の決定、各班リーダー選出
- ⑦全体のスケジュール検討（舞台監督など）、脚本作成（演出など）
- ⑧全体のスケジュール決定、作業役割分担班ごとの活動内容・スケジュール検討（各班リーダーなど）
- ⑨全体活動（キャスト検討・希望調査など）、作業役割分担班ごとの活動・作業計画決定
- ⑩全体活動（オーディションなど）、作業役割分担班ごとの活動
- ⑪全体活動（キャスト調整など）、作業役割分担班ごとの活動
- ⑫全体活動（キャスト発表など）、作業役割分担班ごとの活動、個人の課題・計画・目標設定
- ⑬全体活動（脚本配布、脚本読み合わせ、練習）、作業役割分担班ごとの活動
- ⑭全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
- ⑮作業分担ごとの取り組み経過の発表、授業内レポート、履修カルテ記入

※準備委員は作業役割分担班リーダー選出まで、準備委員会議、授業の進行などを担当する。

※各班リーダーはわくわくフェスティバル終了まで、リーダー会議、授業の進行などを担当する（主に舞台監督など）。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①保育者となる学生としての視点を持って、子どもから大人までが楽しめる表現活動のテーマや内容を設定することができる。
- ②テーマの具現化に向けて課題を発見し、解決に向けた手段や方法を探り、計画・目標を立てることができる。
- ③自らの取り組みについて省察することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
- (DP2)コミュニケーション能力
- (DP3)課題を発見し、解決する力
- (DP4)多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ・取り組み（毎時間の授業記録提出）：50%
- ・レポート①・②：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じてその都度提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・取り組み、成果物などの記録やワークシートを作成する。
- ・表現に関わる様々な内容や方法、わくわくフェスティバルのイベントとして必要な事について情報を集める。
- ・制作や練習などの準備は個人、グループでも進める。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。

■その他

- ・制作や練習に関わる費用は、授業予算を充てる。
- ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用する。
- ・スマートフォン（もしくはタブレット・パソコン）を使用するので持参する。

科 目 名	表現課題演習(応用)
開講期・単位	2年 秋学期・必修 1単位・演習
担 当 者	伊藤 桂子、小川 久恵、朝地 信介、深浦 尚子、田村 めぐみ

■講義の目的および概要

学科行事『わくわくフェスティバル』でのミュージカル公演の準備と発表を通して、多様な表現形態や表現方法を実践し、協同して物事を進めるための方法を学ぶ。また、取り組みの中で発見した課題や、立てた計画・目標について振り返る。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

学生が個人・グループで主体的に活動する演習形式で担当部署の作業や練習を行い、取り組みの成果発表として学科行事『わくわくフェスティバル』でのミュージカル公演を実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

各自の計画・目標、授業での取り組み、成果物、課題などについて記録にまとめる。作成した記録は記録集として発行し、各自の取り組みの課題を振り返るとともに、学生同士での課題の共有を図る。

■授業計画

- ①全体活動（脚本（最終）配布、稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
- ②全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
- ③全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
- ④全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
- ⑤全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動
- ⑥全体活動（稽古、練習など）、作業役割分担班ごとの活動、仕込み（舞台設営など）
- ⑦通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）
- ⑧通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）
- ⑨通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）
- ⑩通し稽古（音楽・音響・照明、衣装・メイク、舞台美術・転換）
- ⑪ゲネプロ
- ⑫わくわくフェスティバル1日目
- ⑬わくわくフェスティバル2日目
- ⑭後片付け
- ⑮授業内レポート（個人の課題・計画・目標設定の振り返り、作業分担ごとの成果物）、アンケート、履修カルテ記入

※各班リーダーはわくわくフェスティバル終了まで、リーダー会議、授業の進行などを担当する（主に舞台監督など）。

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ①保育者となる学生としての視点を持って表現活動に取り組み、表現を通して子どもや人と関わるができる。
- ②個人同士やグループ、わくわくフェスティバル全体の中での役割や関わり方を考えながら取り組むことができる。
- ③自らの取り組みについて省察することができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
- (DP2)コミュニケーション能力
- (DP3)課題を発見し、解決する力
- (DP4)多様性の理解と協働する力

■成績評価基準と方法

- ・取り組み（毎時間の授業記録提出）：50%
- ・レポート①・②：50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

【参考文献】

必要に応じてその都度提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・取り組み、成果物などの記録やワークシートを作成する。
- ・表現に関わる様々な内容や方法、わくわくフェスティバルのイベントとして必要な事について情報を集める。
- ・制作や練習などの準備は個人、グループでも進める。

【必要な時間】

予習・復習の時間はそれぞれ1時間ずつ、合計2時間を目安とする。

■その他

- ・制作や練習に関わる費用は、授業予算を充てる。
- ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用する。
- ・スマートフォン（もしくはタブレット・パソコン）を使用するので持参する。

科 目 名	子ども・家族と社会
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	山内 太郎

■講義の目的および概要

本講義は、現代社会における子ども・家族にかかわる諸問題について取り上げて、その全体像を把握するとともに、それぞれのトピックに関する現時点での最新の論争点について考えることを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

視聴覚資料を用いながらテーマを設定し、4～5名程度のグループで学習する形式が多くなる。

【課題に対するフィードバックの方法】

例年履修者が少数であるため、講義中に必要に応じて質疑応答がなされる。

■授業計画

1. オリエンテーションーこの授業の進め方
2. 人工妊娠中絶の是非をめぐる
3. 血縁関係を考える～特別養子縁組における真実告知
4. 障がいを持って生まれた子どもの家族について考えよう
5. 障がい児のきょうだいへのケア
6. 家族のあり方を考える～LGBTのことを知ろう
7. 家族のあり方を考える～性同一性障害を生きるとは
8. 非行少年の更正について
9. 犯罪を犯した家族と向き合うということ
10. しつけと虐待の境界はどこにあるのか
11. 顕在化しにくい性的虐待の現状
12. 虐待が子どもに与える影響とは
13. 貧困問題と児童虐待についてのグループワーク1
14. 貧困問題と児童虐待についてのグループワーク2
15. グループワークをまとめた発表会および履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

家族のあり様は非常に多様であることを理解すること、支援の必要な家庭に対してどのようなかわりができるかを考えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP5)能動的に学び続ける力

(DP6)社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

提出物及びレポート 60%

グループワーク発表会の内容 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

なし。必要に応じて資料を配布します。

【参考文献】

講義中に適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前に関連する内容について書籍や新聞、インターネット等で調べ学習をしておくこと。また、講義終了後、配布された資料等を見直して、振り返りのポイントや重要事項を復習すること。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ2時間ずつが目安となる。

■その他

グループワークが多くなるため、各自積極的な姿勢で参加することが求められます。

2022 (令和4) 年4月1日

科 目 名	子どもの健康と安全[幼教]
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	古郡 美智子

■講義の目的および概要

子どもの心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考える。
 子どもの疾病とその予防及び適切な対応について学ぶ。
 救急時の対応や事故防止、安全管理について学ぶ。
 個別的な配慮を必要とする子ども、障害のある子どもへの適切な対応を学ぶ。
 保育における保健活動の計画及び評価について学ぶ。
 家庭、専門機関、地域との連携にについて学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】
 保育士や幼稚園教諭に必要な基礎知識を各テーマにて講義形式で行う。
 本講義は、幼稚園教諭、保育士、医療保育専門士の実務経験のある現保育園施設長が現場の映像を用い、内容によってはデモンストレーション等も取り入れ展開していく。教えられることだけにとどまらず、“自らより良い保育の手段が湧いてくるような保育者”に近づけるようなきっかけ、土台作りを演習課題（学生達が自ら考え、話し合いの機会を作るグループワーク等）を設け取り組んでいく。

【課題に対するフィードバックの方法】
 口頭発表には、その場で助言。講義や演習のワークシート、講義内容の復習、確認を兼ねた振り返り用紙の作成や課題については授業内でも解説しながら進めていく。

■授業計画

- ①子どもの健康と保育環境
- ②子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康および安全の管理
- ③衛生管理・事故防止及び安全対策
- ④安全対策・危機管理と災害の備え
- ⑤体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置
- ⑥体調不良や傷害が発生した場合の対応と応急処置②
- ⑦子どもの誤飲～窒息事故の防止を考える～
- ⑧救急処置：エピペンの使い方について
- ⑨救急処置②および心肺蘇生について
- ⑩心肺蘇生法②～AEDの使い方について
- ⑪保育における保健的対応の基本的考え方
- ⑫個別的な配慮を要する子どもへの対応
- ⑬感染症の集団発生と予防・対応
- ⑭障害をもつ子どもへの対応・3歳未満児への対応
- ⑮保育における保健活動の計画および評価・職員間の連携・協働と関係機関との連携

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

- 【到達目標】
1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。
 2. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。
 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。
 4. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について具体的に理解する。
 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。
 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。
 7. 乳幼児の健康や安全に関する知識を習得し、疾病や事故の予防を考えた保育ができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
 (DP1)専門知識・技能を活用する力
 (DP5)能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

小テスト（理解力）1回 35%
 定期テスト×1回 35%
 課題（振り返りも含む）の提出30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

オリジナルの資料を含め、適宜プリントを配布する。

【参考文献】

- ・『子どもの健康と安全』監修：公益財団法人 児童育成協会 中央法規
- ・『保育所における感染症対策ガイドライン』厚生労働省
- ・『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』厚生労働省
- ・『保育の安全と管理』著：相川徳孝他 同文書院

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習として、幼稚園、保育園実習に行ってみて健康と安全について困ったこと、疑問に思ったこと、学びを深めてみたいと思うことをまとめておく。

前回の授業内容を振り返り、ポイントや重要事項をまとめておく。また、わからないことや、復習して気が付いたこと、質問事項などピックアップしておき授業内で更なる学びへ繋げていく。

事後学習として、就職に向け実際に保育を進められるよう準備を進めること、頭の中でシュミレーションしながら自分なりの事故対応マニュアルを描き、自身の資質を高めていく。

【必要な時間】

常日頃からニュース・新聞などで最近の社会(特に保育に関係のある事項)の動き・情報を意識して保育に繋げていけるように心がける。

■その他

授業中のグループワーク、ディスカッションの他にも発言も求めますので、受動的ではなく能動的な参加を求める。

科 目 名	子ども家庭支援の心理学[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担 当 者	深浦 尚子

■講義の目的および概要

子どもとその家庭を、発達の視点でとらえ、現代の子育て家庭の社会状況と課題について理解することを目的とする。
家族・家庭の機能、子育て家庭の現状、課題について学ぶ。また、子どもの精神保健とその課題についても学ぶ。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

講義形式で行うが、グループワークなどを取り入れ、ワークシートの作成など能動的な学修を目指します。

【課題に対するフィードバックの方法】
課題については、授業内で解説を行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション、乳児期の発達
- ②幼児期の発達
- ③学童期の発達
- ④青年期の発達
- ⑤成人期・中年期の発達
- ⑥高齢期の発達
- ⑦家族・家庭の意義と機能
- ⑧家族関係・親子関係の理解
- ⑨子育て経験と親としての育ち
- ⑩子育てを取り巻く社会状況
- ⑪ライフコースと仕事・子育て
- ⑫多様な家庭とその理解、授業内テスト
- ⑬特別な配慮を要する過程
- ⑭子どもの生活・生育環境とその影響
- ⑮子どものこころの健康にかかわる問題

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

生涯発達を踏まえ、親子関係、家族を発達的な視点で理解する。また、子育て家庭をめぐる社会的状況と課題の理解、子どもの精神保健とその課題を理解する。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】
(DP1) 専門知識・技能を活用する力
(DP3) 課題を発見し、解決する力
(DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

コミュニケーションシート20%
レポート30%
定期試験50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「子ども家庭支援の心理学」新基本シリーズ9 編 白川佳子、福丸由佳 中央法規

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】
教科書や配布資料を熟読するなどの予習復習が必要です。

【必要な時間】
予習・復習の時間は、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

科 目 名	子ども家庭支援論[幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 2単位・講義
担 当 者	品川 ひろみ、田村 めぐみ

■講義の目的および概要

本講義では、子ども家庭支援の意義や役割をはじめとして、子どもとその家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容、具体的に実践するための技術や方法について学修します。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義形式ですすめるが、内容によってグループワークなどを取り入れて行う。また2人で授業を担当するため、授業計画が前後することがあるが、テキストだけに頼らず、北海道や札幌市の具体的な事例も取り入れながら学修をすすめます。本講義は自治体において子育て支援を実践していた教員と、子育て支援施策に携わっていた実務経験のある教員が担当し、分かりやすく実践的な講義を行います。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の授業において記入するリアクションシートはLMSを通じて提出してもらいます。質問に対する回答は次回の授業の冒頭で行います。

■授業計画

- ①子ども家庭支援とは
- ②子ども家庭支援の意義と必要性
- ③子ども家庭支援の目的と機能
- ④子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
- ⑤保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義
- ⑥子どもの育ちの喜びの共有
- ⑦保護者および地域が有する子育て支援を自ら実践する力の向上に資する支援と保育士の態度
- ⑧子ども家庭支援の必要な理論のまとめ（小テスト）
- ⑨家庭の状況に応じた支援
- ⑩地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
- ⑪保育所を利用する子どもの家庭への支援
- ⑫子ども家庭支援の内容と対象
- ⑬地域の子育て家庭への支援
- ⑭要保護児童及びその家庭に対する支援
- ⑮子育て支援に関する課題と展望／履修カルテの記載

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

子ども家庭支援の意義や役割を説明することができ、それを実践するための具体的な方法や技術を使うことができることを目的とします。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP6) 社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

成績は授業内の試験および小レポート、リアクションシートを総合して評価します。
中間試験30%、授業内リアクションシート20% 定期試験50%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

松原康夫・村田典子・南野奈津子編集『子ども家庭支援論』2019 中央法規

【参考文献】

参考文献は必要に応じて周知します。各自治体のHP（子育てに関するページ）

■授業外学習

【具体的な内容】

毎回の授業の単元について読んでくること。またホームページなどで居住地の子育て支援の状況について調べておくこと。授業後にはノートに内容を整理すること。

【必要な時間】

毎回の授業の事前・事後の学習時間として、それぞれ2時間を目安とします。

■その他

本科目は2年生秋学期に開講される「子育て支援」の理論編となるものです。積極的な姿勢で臨み保育士としてのスキルを身につけてください。
保育士資格取得における必修科目です。

科 目 名	子育て支援
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	品川 ひろみ

■講義の目的および概要

この科目では、春学期の「子ども家庭支援論」の学びを基礎として、子育て支援についてより深く学び、保護者からの相談に対応することができるようなスキルを獲得することを目的とします。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

授業は講義を中心として理論を学修するが、実際に事例についてどのように理解して、支援を行うのがよいのかを実践形式で学習する。
グループワークを行い、自分自身の考えばかりでなく、他者の考え方を知ることで、支援の在り方について幅広い観点を持てるようにする。

【課題に対するフィードバックの方法】

提出したワークシートはLMSを通じてコメントします。
また共通する疑問については、翌週の授業のはじめに解説します。

■授業計画

- ①子育て支援とは何か
- ②保育者の行う子育て支援の特性
- ③子育て支援の展開
- ④支援のための連携と協働
- ⑤保育者に求められる子育て支援の基本
- ⑥保育所等における子育て支援
- ⑦地域の子育て家庭に対する支援
- ⑧乳児をもつ保護者の支援
- ⑨保護者の自己肯定感を下げない具体的支援
- ⑩気になる子どもや発達障がいのある子どもと家庭に対する支援
- ⑪特別な配慮を要する子どもおよび家庭に対する支援
- ⑫児童虐待の予防と対応の実際
- ⑬要保護児童等の家庭に対する支援
- ⑭多様な保育ニーズを抱える子育て家庭の理解とその支援
- ⑮子育て支援をめぐる今後の課題 最終試験

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

保護者支援のために必要な知識と技術を獲得し、実践的な支援ができるようになること。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)「専門知識・技能を活用する力」
(DP2)「コミュニケーション能力」
(DP4)「多様性の理解と協働する力」

■成績評価基準と方法

毎回提出するワークシート 42%
最終試験 58%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

太田光洋編著『子育て支援』2022年,同文書院. 2200円(+税)

【参考文献】

■授業外学習

【具体的な内容】

授業前に学習範囲を読んでおくこと。

【必要な時間】

事前・事後ともにそれぞれ2時間程度を目安とする。

■その他

テキストは資料としても用いるため必ず購入すること。
本科目は保育士資格の必修科目である。

科 目 名	社会的養護Ⅱ [幼教]
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	山内 太郎

■講義の目的および概要

本講義では保育士としての倫理や責務をあらためて確認し、社会的養護の特性を踏まえた具体的ななかかわり技法について学ぶことを目的とする。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

テキストを中心に進めつつ、各回の講義において個人あるいはグループに分かれた演習を行う予定である。主体的な受講姿勢が求められる。

【課題に対するフィードバックの方法】

講義の時間の中に適宜質疑応答の時間を設ける。

■授業計画

1. オリエンテーション
2. 児童の権利擁護
3. 保育士の倫理及び責務
4. 児童養護の体系と児童福祉施設の概要
5. 日常生活支援と諸施設の暮らし①ー児童養護施設
6. 日常生活支援と諸施設の暮らし②ー乳児院、母子生活支援施設
7. 日常生活支援と諸施設の暮らし③ー医療型障害児入所施設
8. 日常生活支援と諸施設の暮らし④ー児童自立支援施設・児童心理治療施設
9. 日常生活支援と諸施設の暮らし⑤ー福祉型障害児入所施設
10. 里親制度とその実際
11. 心の傷をいやし、心をはぐくむための援助・親子関係の調整
12. ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用
13. 施設の小規模化と地域連携
14. 地域住民と施設
15. まとめと履修カルテ記入

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

事例検討を通して、社会的養護を必要とする子どもたちの現状を理解すること。様々な家庭のかたちがあり、保護者支援も保育士の重要な業務であると理解すること。以上の二点が到達目標となる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

(DP1)専門知識・技能を活用する力

(DP2)コミュニケーション能力

■成績評価基準と方法

期末試験 50%

演習へのとりくみ 20%

各回における小レポート 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

『児童の福祉を支える 演習 社会的養護Ⅱ』吉田真理編著 萌文書林

【参考文献】

必要に応じて適宜提示する。

■授業外学習

【具体的な内容】

事前学習としてテキストの該当する箇所を読み込んでおくこと。事後学習として配布された資料や演習内容について復習をしておくこと。

【必要な時間】

予習・復習の時間は、それぞれ1時間程度が目安である。

■その他

科 目 名	特別支援教育・保育(応用)
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	中島 そのみ

■講義の目的および概要

障害病理や発達特徴などの基礎的知識を確認するとともに、特別な支援を要する子どもの困難について背景を含めて理解を深める。共に育ちあう視座に立った保育における留意点・援助のあり方を、具体的場面を想定しながら検討する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

対面授業を基本とし、状況に応じて遠隔授業を実施する。
いずれにおいても、講義資料を配布し、視聴覚教材を用いながら具体的な場面をイメージできるよう実施する。

【課題に対するフィードバックの方法】

提示した課題については、次の講義の中でフィードバックを行う。

■授業計画

- ①オリエンテーション・「障がい」とは
- ②障がい児保育の意義
- ③特別な支援を要する子どもとの出会い
- ④知的障がい（ダウン症含む）の理解と支援 1
- ⑤知的障がい（ダウン症含む）の理解と支援 2
- ⑥肢体不自由児（脳性麻痺）の理解と支援
- ⑦肢体不自由児（筋ジストロフィー）の理解と支援
- ⑧肢体不自由児（二分脊椎）の理解と支援方法
- ⑨自閉症スペクトラムの理解と支援 1
- ⑩自閉症スペクトラムの理解と支援 2
- ⑪注意欠如・多動症の理解と支援
- ⑫限局性学習症・ほかの理解と支援
- ⑬病弱・虚弱児の理解と支援
- ⑭視覚障がい・聴覚障がいの理解と支援
- ⑮まとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

1. 障害児支援の枠組みや歴史的変遷について確認し障害児及びその保育について理解を深める。
2. 個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解を深める。
3. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について具体的方法を理解する。
4. 障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解し多様な観点から特別支援保育・教育をイメージできるようになる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1)専門知識・技能を活用する力
- (DP2)コミュニケーション能力
- (DP3)課題を発見し、解決する力
- (DP4)多様性の理解と協働する力
- (DP5)能動的に学び続ける力
- (DP6)社会に貢献する姿勢

■成績評価基準と方法

定期試験 50%
確認テスト 20%
提出物 30%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

特になし

【参考文献】

適宜配布する。

■授業外学習

【具体的な内容】

- 必要な資料を、授業で配布します。資料を綴じるファイルとノートを用意して下さい。
- 特別支援教育・保育（基礎）の復習をする。

【必要な時間】

事前・事後1時間以上の予習・復習を要する。

■その他

科 目 名	保育の計画と評価
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・講義
担 当 者	田村 めぐみ

■講義の目的および概要

保育を実践する上で重要となる保育の計画と方法について理解を深めるとともに、子ども理解に基づいた保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、全体の構造を捉え、理解する。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

基本的に講義形式で行う。子ども理解に基づいた保育の計画・実践ができるよう、指導案作成・模擬保育・観察・記録を基にグループディスカッション等を交えながら講義を展開する。

【課題に対するフィードバックの方法】

毎回の講義の感想や質問等には、次回講義で回答をする。
また指導案・記録・評価について、全体で適宜共有する。

■授業計画

- ①オリエンテーション／保育における計画の意義
- ②カリキュラムの基礎理論
- ③子ども理解に基づく保育の循環
- ④保育所における保育の計画と評価
- ⑤幼稚園における教育課程・指導計画
- ⑥認定こども園における教育課程の特徴
- ⑦保育の計画と評価の基本
- ⑧0歳児の指導計画
- ⑨1歳以上3歳未満児の指導計画
- ⑩3歳児・4歳児の指導計画
- ⑪5歳児・配慮を要する子どもの指導計画
- ⑫指導計画の作成
- ⑬指導計画の実践①
- ⑭指導計画の実践②・実践を通した振り返り
- ⑮小学校との接続・指導要録の作成／履修カルテの記載

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

・各指針・要領の性格・位置づけ・保育の計画の目的を理解している。
・子ども理解に基づいた保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体のを捉えることの重要性を理解している。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP3) 課題を発見し、解決する力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

定期試験 50%
授業内提出物 30%
指導計画と実践・記録と評価に関する取り組み 20%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜プリントや参考資料を提示します。

【参考文献】

「教育・保育カリキュラム論」千葉武夫・那須信樹編著 中央法規
「保育の計画と評価を学ぶ 保育の基盤の理解と実習への活用」加藤敏子・岡田耕一編著 萌文書林
「保育所保育指針解説書」厚生労働省編 フレーベル館
「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編 フレーベル館
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」内閣府・文部科学省・厚生労働省編 フレーベル館

■授業外学習

【具体的な内容】

各講義内容と各指針・要領等を参照し、3法令に対応した理解を進める。
図書館等を利用し、広い範囲から情報を収集し、活かして指導計画の作成にあたってほしい。

【必要な時間】

予習・復習時間はそれぞれ2時間程度を目安とする。

■その他

講義に際し、1年次の「教育と保育の方法」で学んだことを復習して臨むこと。
これまでに経験した各実習の日誌や実践した指導案等を振り返り、講義に活かせるようにしておくこと。

科 目 名	保育英語Ⅲ
開講期・単位	2年 春学期・選択 1単位・演習
担 当 者	ケビン マギー、神林 裕子

■講義の目的および概要

近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語Ⅱを踏まえ、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための英語表現を身に付ける。また、実践者からの講義を通して、外国とのつながりのある保護者や子どもたちへの対応、ゲーム等の英語学習における留意点を学び、教材作成もしながらマイクロティーチングに取り組む。マイクロティーチングを通して、積極的に保育活動に英語を取り入れて、英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる指導力を身に付ける。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。
- ・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動活動に取り組むなどの演習をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②児童英語のキーワード、英語の歌の指導、幼保英検等について
- ③児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 1)
- ④児童英語のキーワード、英語の歌の指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 2)
- ⑤児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 3)
- ⑥児童英語のキーワード、英語のゲームの指導、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 4)
- ⑦フィールドワーク(予定)
- ⑧確認テスト、フィールドワークの振り返り
- ⑨保育における英語について(実践者より)、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 5)
- ⑩児童英語のキーワード、英語の絵本作り等、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 6)
- ⑪児童英語のキーワード、英語の絵本作り等、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 7)
- ⑫児童英語のキーワード、英語の絵本作り等、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 8)
- ⑬児童英語のキーワード、マイクロティーチング
- ⑭児童英語のキーワード、マイクロティーチング
- ⑮確認テスト、これまでのまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。
- ・保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP1) 専門知識・技能を活用する力
- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎回の課題等及び授業への参加状況 (30%)
- ②確認テスト (各2回 20%、合計40%)
- ③マイクロティーチング (30%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】
「実践家からの児童英語教育法 -実践編 AB」 中本幹子（著）

【参考図書】
『幼保英検3級テキスト』ブックフォレ
『幼保英検2級テキスト』ブックフォレ

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

- ・Be helpful.
- ・Be friendly.
- ・Be active.
- ・Be creative.
- ・Be ambitious.

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

※幼保英検などの検定試験に積極的に取り組みましょう。

科 目 名	保育英語Ⅳ
開講期・単位	2年 秋学期・選択 1単位・演習
担 当 者	神林 裕子

■講義の目的および概要

近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語Ⅲを踏まえ、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための英語表現を身に付ける。また、実践者からの講義を通して、外国とのつながりのある保護者や子どもたちへの対応、ゲーム等の英語学習における留意点を学び、フィリピン講師との英会話に取り組む。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

- ・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。
- ・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌やゲーム等の活動活動に取り組むなどの演習をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをプリントにまとめて提供する。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 9)
- ③保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 9)、 Zoomにおける実践
- ④児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 10)
- ⑤保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 10)、 Zoomにおける実践
- ⑥児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 11)
- ⑦保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 11)、 Zoomにおける実践
- ⑧確認テスト、これまでのまとめ
- ⑨保育における英語について (実践者より)
- ⑩児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 12)
- ⑪保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 12)、 Zoomにおける実践
- ⑫児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 13)
- ⑬保護者や子どもとの会話の関連表現等 (Topic 13)、 Zoomにおける実践
- ⑭児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等のまとめ
- ⑮確認テスト、これまでのまとめ

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

- ・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。
- ・保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ①毎回の課題等 (30%)
- ②授業への参加状況 (30%)
- ③確認テスト (各2回 20%、合計40%)

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、授業で配布する。

【参考図書】

- 『幼保英検3級テキスト』ブックフォレ
- 『幼保英検2級テキスト』ブックフォレ

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。
- ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。
- ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ1時間を目安とします。

■その他

- ・Be helpful.
- ・Be friendly.
- ・Be active.
- ・Be creative.
- ・Be ambitious.

※必要に応じて辞書や電子辞書を持参しましょう。

※幼保英検などの検定試験に積極的に取り組みましょう。

科 目 名	海外研修(事前・事後指導を含む)
開講期・単位	2年 秋学期・選択 2単位・演習
担 当 者	神林 裕子

■講義の目的および概要

国際的視野をもつ保育者を育成するために、海外研修をオーストラリアのサザンクロス大学 (Southern Cross University) において行う (予定)。この研修の目的は、グローバルな視点で保育に係る様々な事象を捉えて思考すること、サザンクロス大学の英語教師等との交流を通して英語でのコミュニケーションの幅を広げること、ホームステイで異文化コミュニケーション能力と自立心を養うことなどである。

■講義方法/課題に対するフィードバックの方法

【講義方法】

海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習を通して、自分自身の研究課題を設定し、研修後には研究課題の発表をする。

【課題に対するフィードバックの方法】

課題については授業内で解説するとともに、研究課題については研究発表の際にフィードバックをする。

■授業計画

- ①オリエンテーション
- ②海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習
- ③海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習、研究課題の設定
- ④海外での大学での講義、ホームステイに向けた基礎知識の習得や日常会話等の演習、研究課題の設定
- ⑤海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑥海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑦海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑧海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑨海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑩海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑪海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑫海外での大学での講義、ホームステイ
- ⑬研究課題のまとめ
- ⑭研究課題のまとめ
- ⑮研究課題の発表

■到達目標/卒業認定・学位授与の方針との関連

【到達目標】

サザンクロス大学の英語教師等、ホームステイ先のホストファミリーとの交流を通して、自分自分を見つめ直すとともに、他者理解を深めながら、英語でコミュニケーションを図ることができる。

【卒業認定・学位授与の方針との関連】

- (DP2) コミュニケーション能力
- (DP4) 多様性の理解と協働する力
- (DP5) 能動的に学び続ける力

■成績評価基準と方法

- ・海外での大学における取組 60%
- ・帰国前後の研究課題への取組 40%

■テキスト・参考文献

【テキスト】

適宜、配付する。

【参考文献】

『改訂版 英語で日本紹介ハンドブック』松本 美江 (著)、アルク

■授業外学習

【具体的な内容】

- ・海外での大学での講義、ホームステイ先での場面や状況を想定し、円滑なコミュニケーションを図ることができるよう英語表現を習得しましょう。
- ・日本、北海道、札幌、自分自身等について、英語で紹介できるようまとめておきましょう。

【必要な時間】

- ・予習・復習の時間はそれぞれ2時間を目安とします。

■その他

- ・海外研修の実施の最終判断は8月末となります。新型コロナウイルス感染症対策によって、研修先の変更等もあります。変更がある際は授業内及びmanabaにおいてお知らせしますので、連絡には充分注意をしてください。